

調査結果

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果 (市全域)

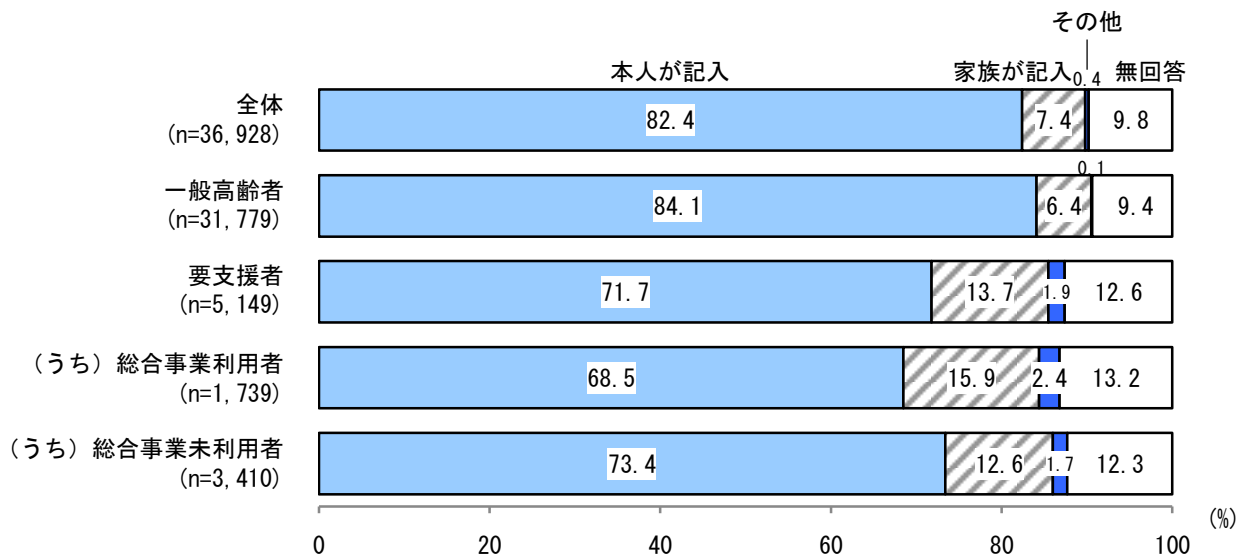
1 対象者の属性

(1) 記入者

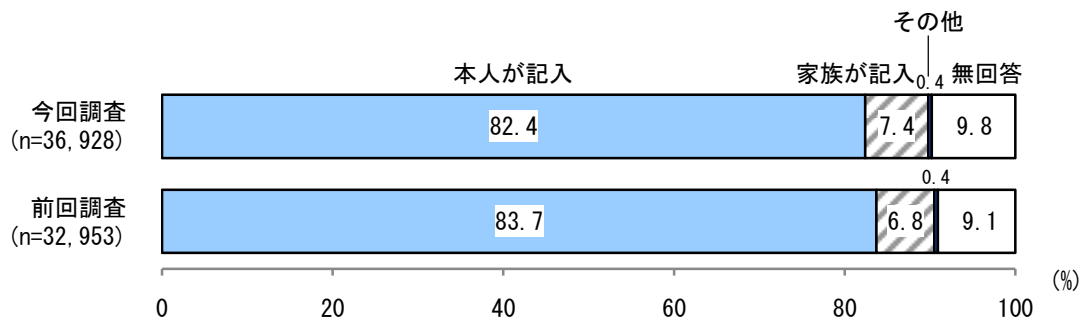
問 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

記入者は、「本人」が82.4%、「家族」が7.4%となっている。(図1-1)

【図1-1 記入者】



【参考 記入者 (経年比較)】

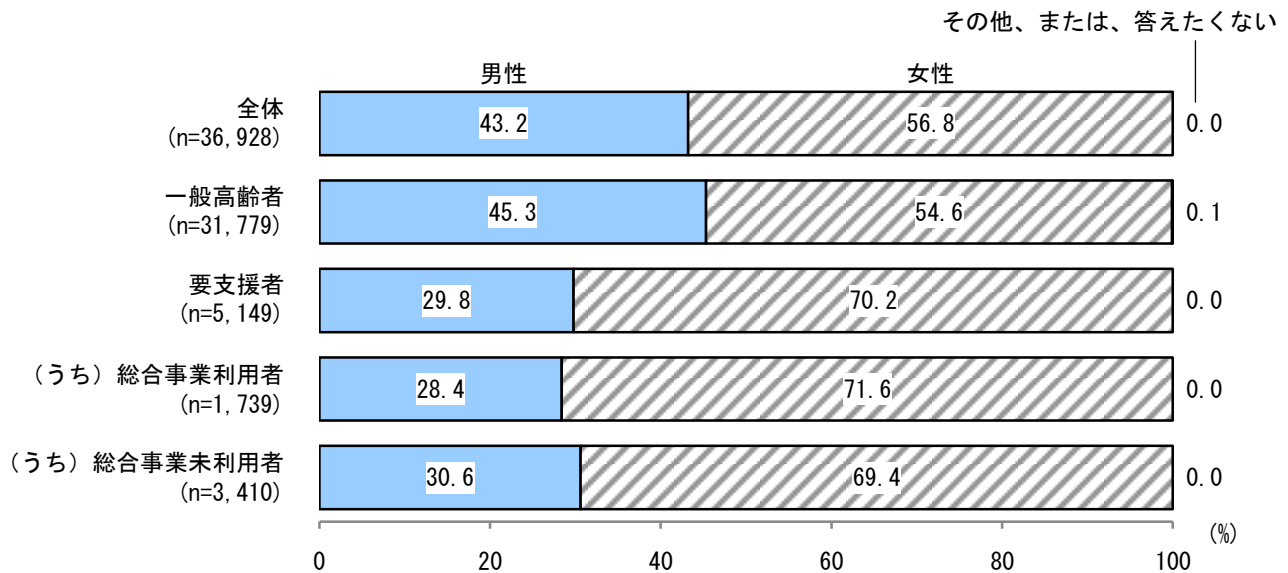


(2) 性別

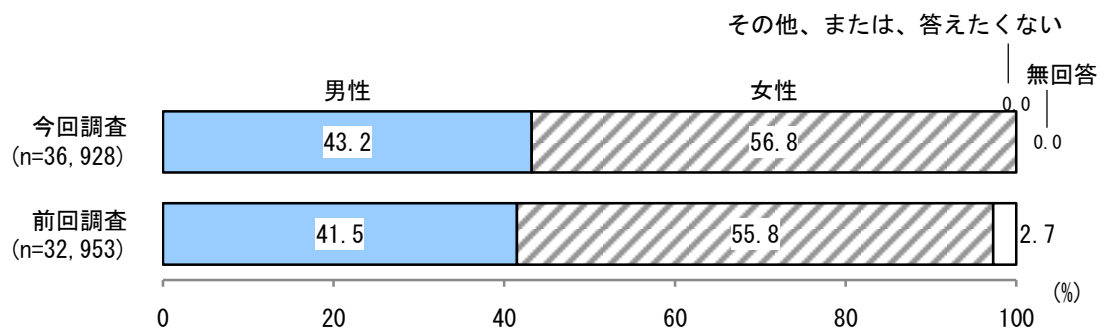
問 あなたの性別をお答えください。(○はひとつ)

性別は、「男性」が43.2%、「女性」が56.8%となっている。(図1-2)

【図1-2 性別】



【参考 性別 (経年比較)】



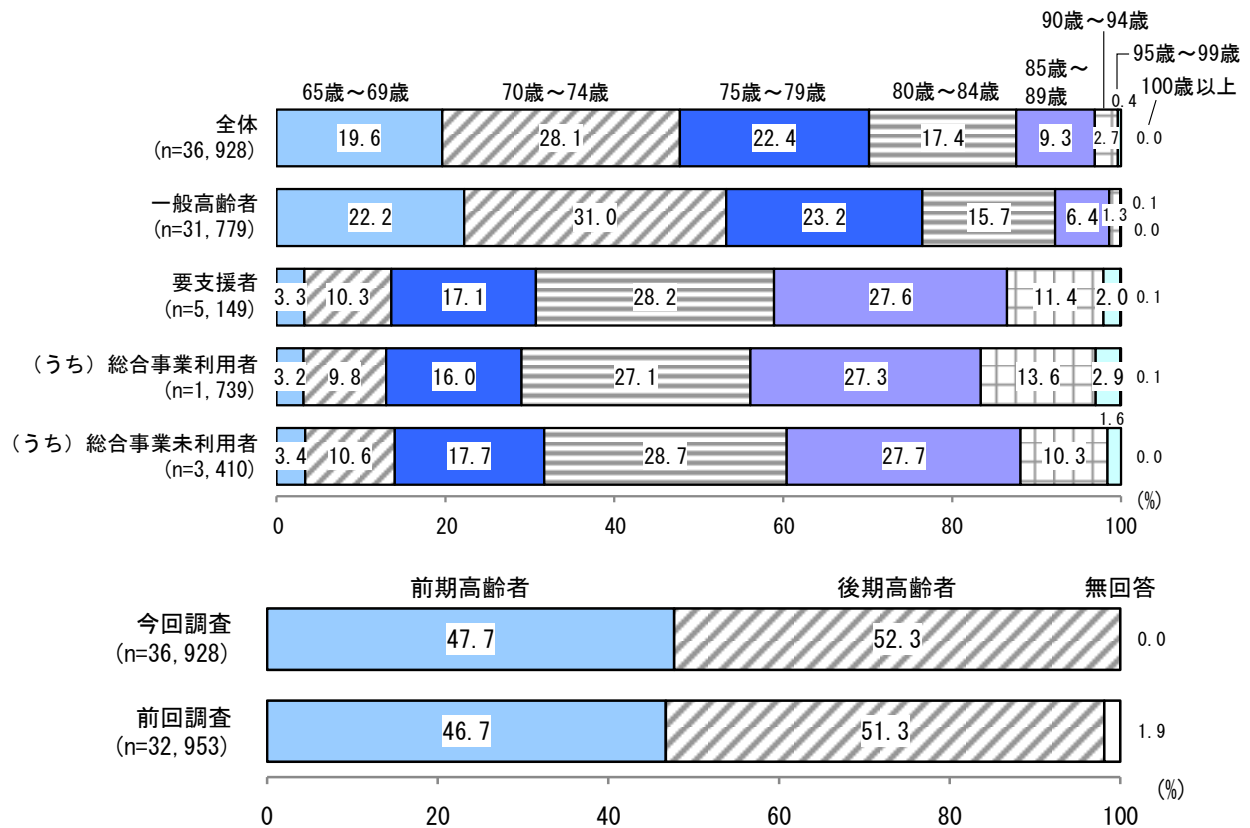
※「その他、または、答えたくない」は、今回調査の新規項目である。

(3) 年齢

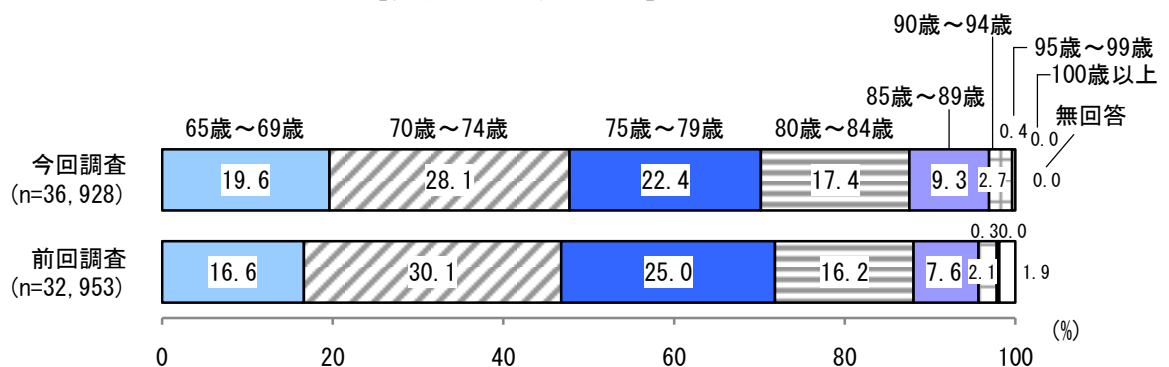
問 あなたの年齢をお答えください。(〇はひとつ)

年齢は、「70歳～74歳」が28.1%で最も多く、次いで「75歳～79歳」が22.4%、「65歳～69歳」が19.6%となっている。(図1-3)

【図1-3 年齢】



【参考 年齢（経年比較）】

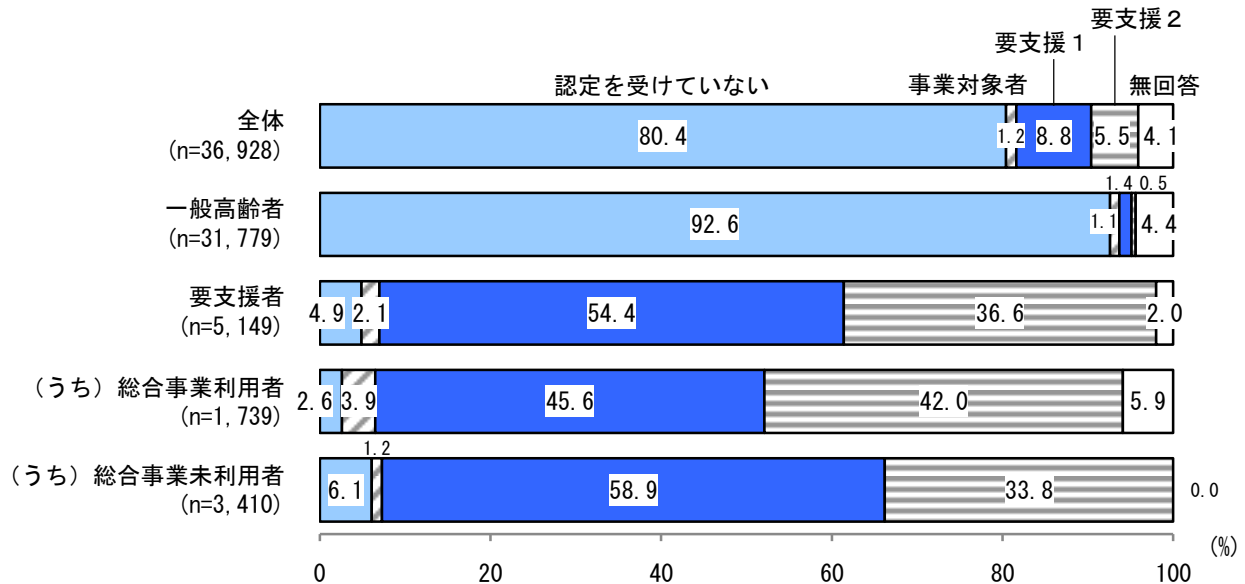


(4) 介護保険の認定状況

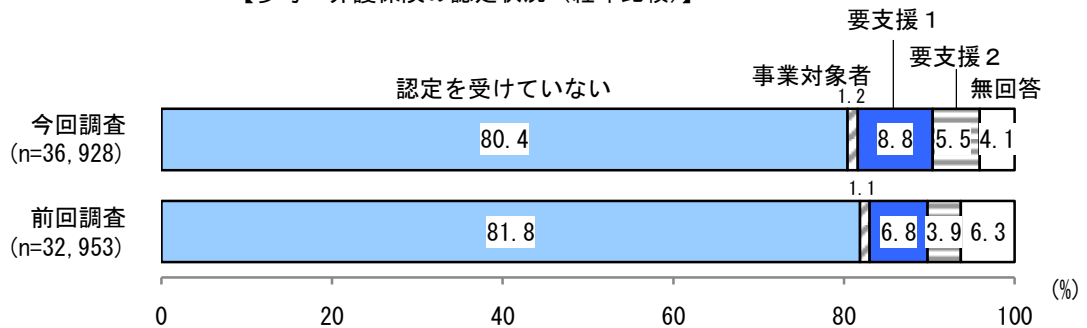
問 あなたの介護保険の認定状況について（○はひとつ）

介護保険の認定状況については、「認定を受けていない」が80.4%で最も多く、次いで「要支援1」が8.8%、「要支援2」が5.5%、「事業対象者」が1.2%となっている。（図1-4）

【図1-4 介護保険の認定状況】

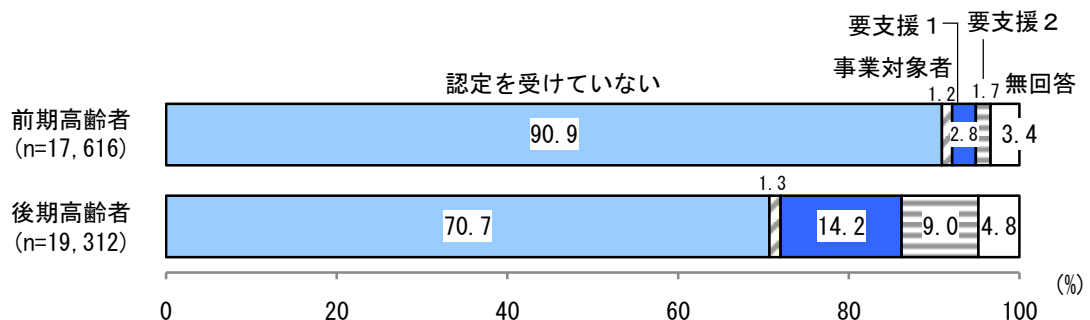


【参考 介護保険の認定状況（経年比較）】



年齢別でみると、後期高齢者では「要支援1」が14.2%、「要支援2」が9.0%と、前期高齢者より割合が高くなっている。（図1-4-1）

【図1-4-1 年齢別 介護保険の認定状況】

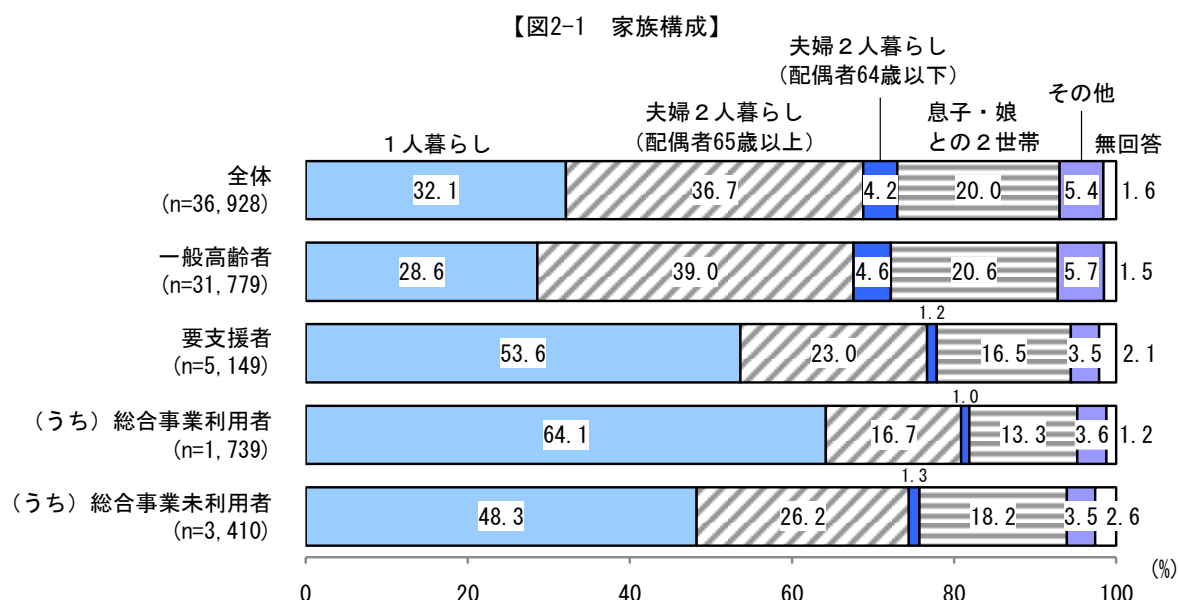


2 家族や生活状況について

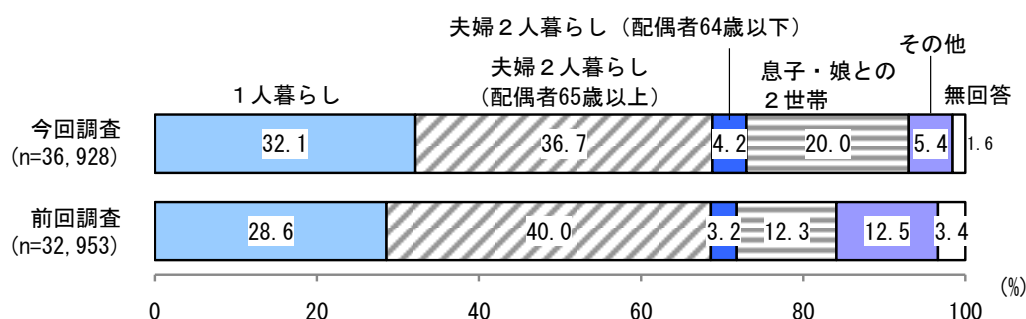
(1) 家族構成

問 家族構成をお教えてください。(〇はひとつ)

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が36.7%と最も多く、「1人暮らし」は32.1%、「息子・娘との2世帯」が20.0%となっている。(図2-1)

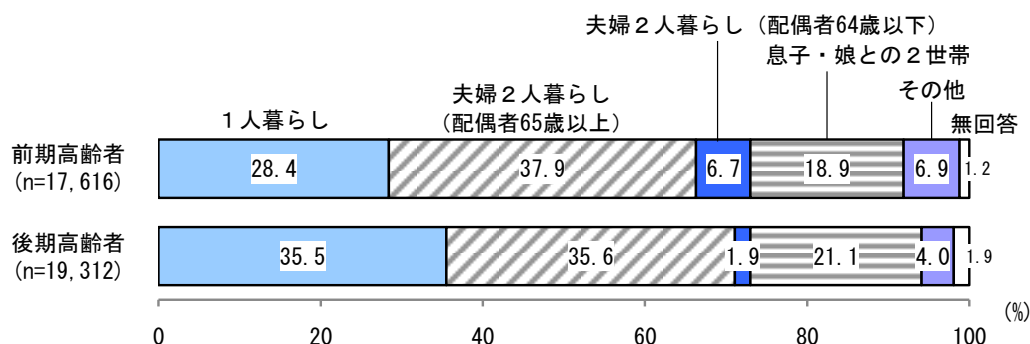


【参考 家族構成（経年比較）】



年齢別にみると、後期高齢者では「1人暮らし」(35.5%)の割合が前期高齢者(28.4%)より7.1ポイント高くなっている。(図2-1-1)

【図2-1-1 年齢別 家族構成】



(2) 介護・介助の状況

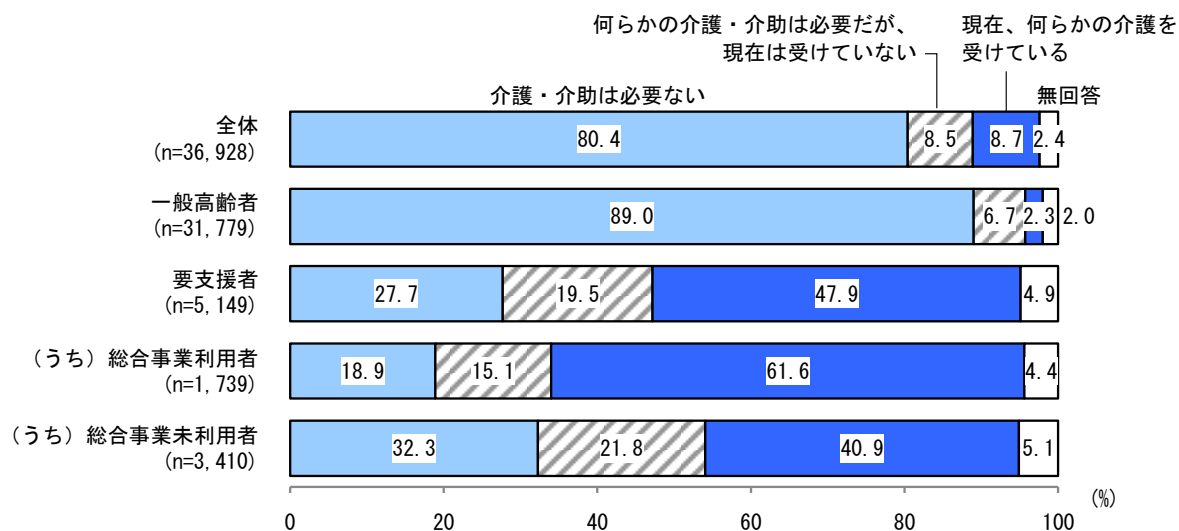
① 介護・介助の必要性

問 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(〇はひとつ)

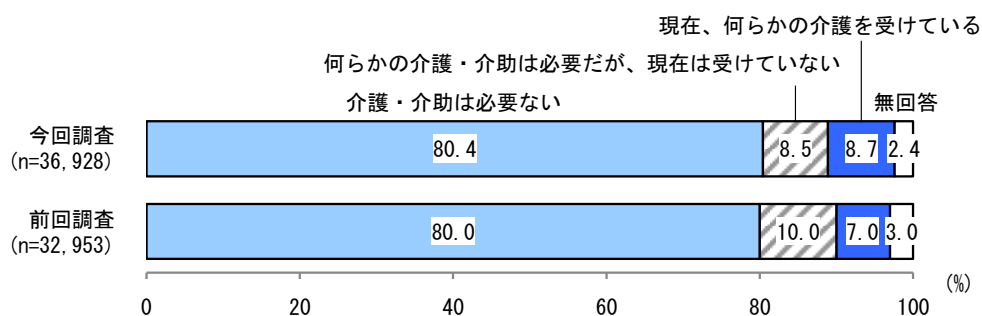
介護・介助の必要性としては、「現在、何らかの介護を受けている」が8.7%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.5%となっており、何らかの介護・介助が必要な人は合計2割弱(17.2%)となっている。

認定状況別にみると、一般高齢者(認定を受けていない)では9.0%、要支援者では67.4%となっている。(図2-2-1)

【図2-2-1 介護・介助の必要性】

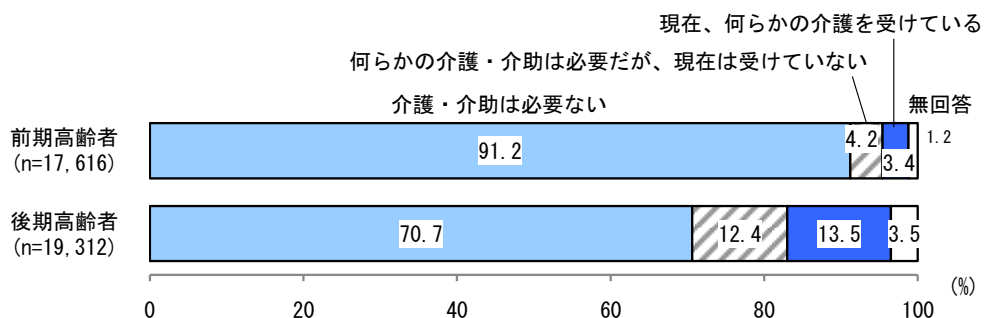


【参考 介護・介助の必要性(経年比較)】



年齢別にみると、何らかの介護・介助が必要な人は、前期高齢者では7.6%、後期高齢者では25.9%となっている。(図2-2-1-1)

【図2-2-1-1 年齢別 介護・介助の必要性】



② 介護・介助が必要になった原因

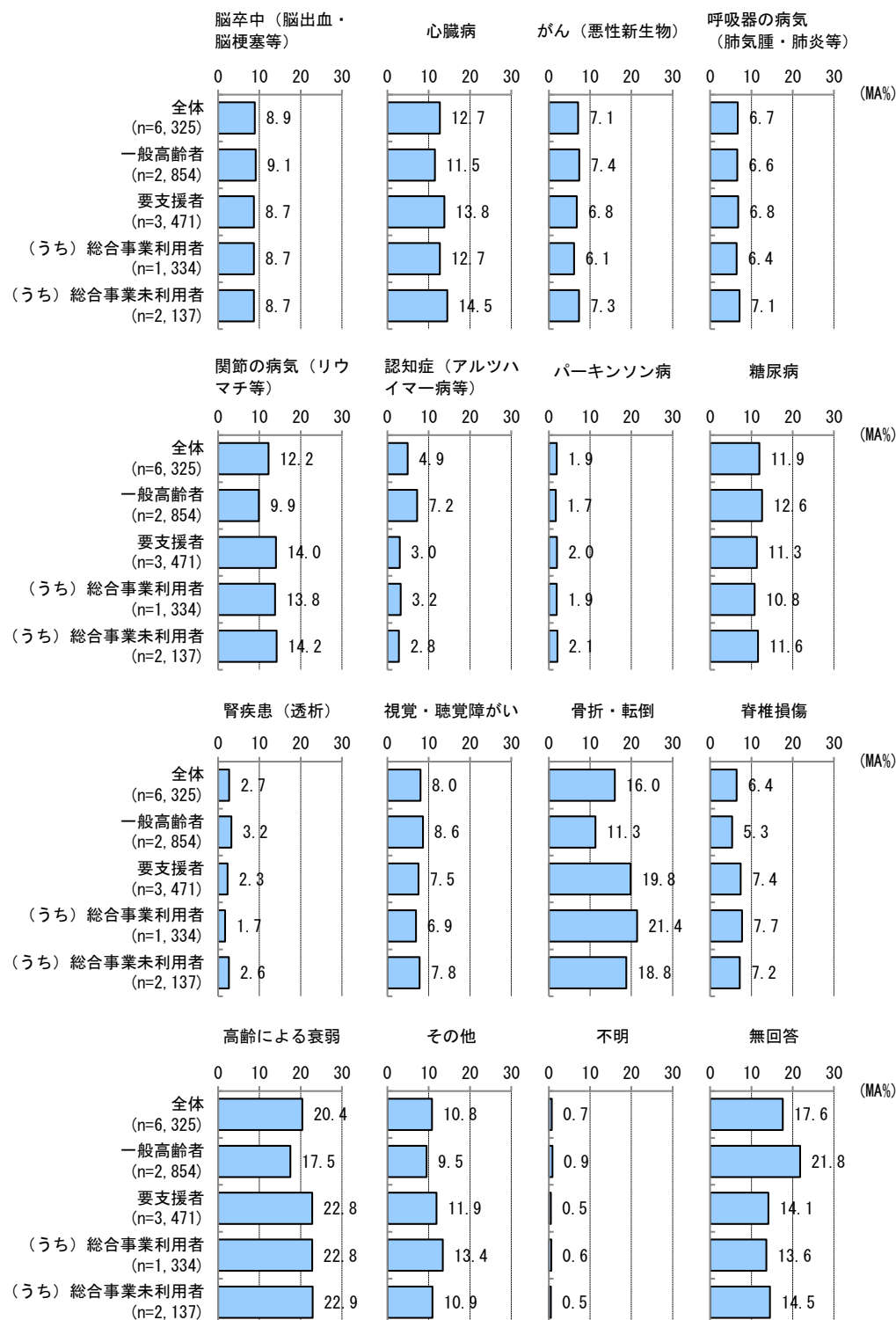
【「1 介護・介助は必要ない」以外を回答された方におうかがいします】

問 ①介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(〇はいくつでも)

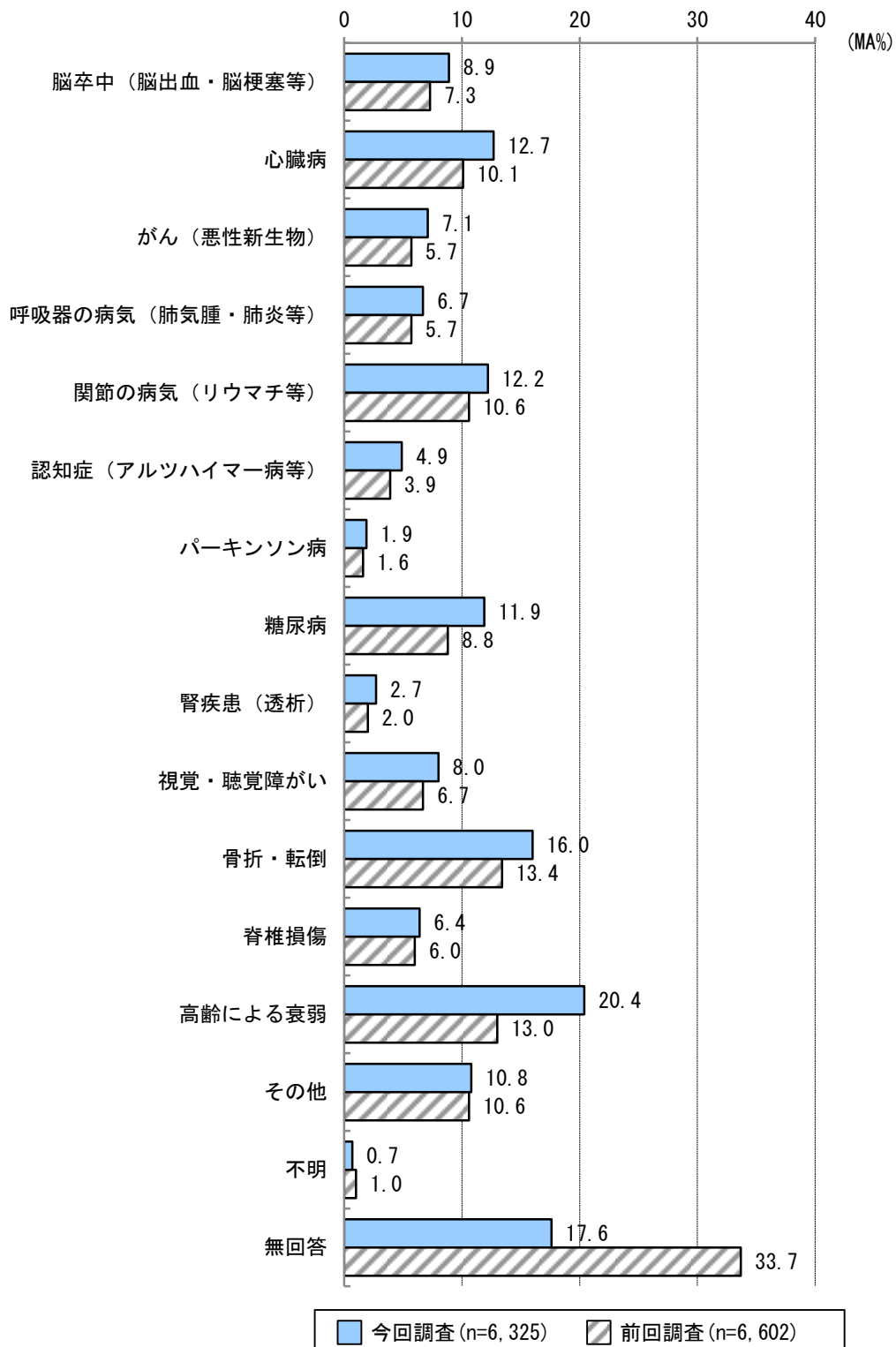
介護・介助が必要になった原因は、「高齢による衰弱」が20.4%で最も多く、次いで「骨折・転倒」が16.0%、「心臓病」が12.7%となっている。

認定状況別でみると、要支援者では「骨折・転倒」が特に多くなっている。(図2-2-2)

【図2-2-2 介護・介助が必要になった原因】

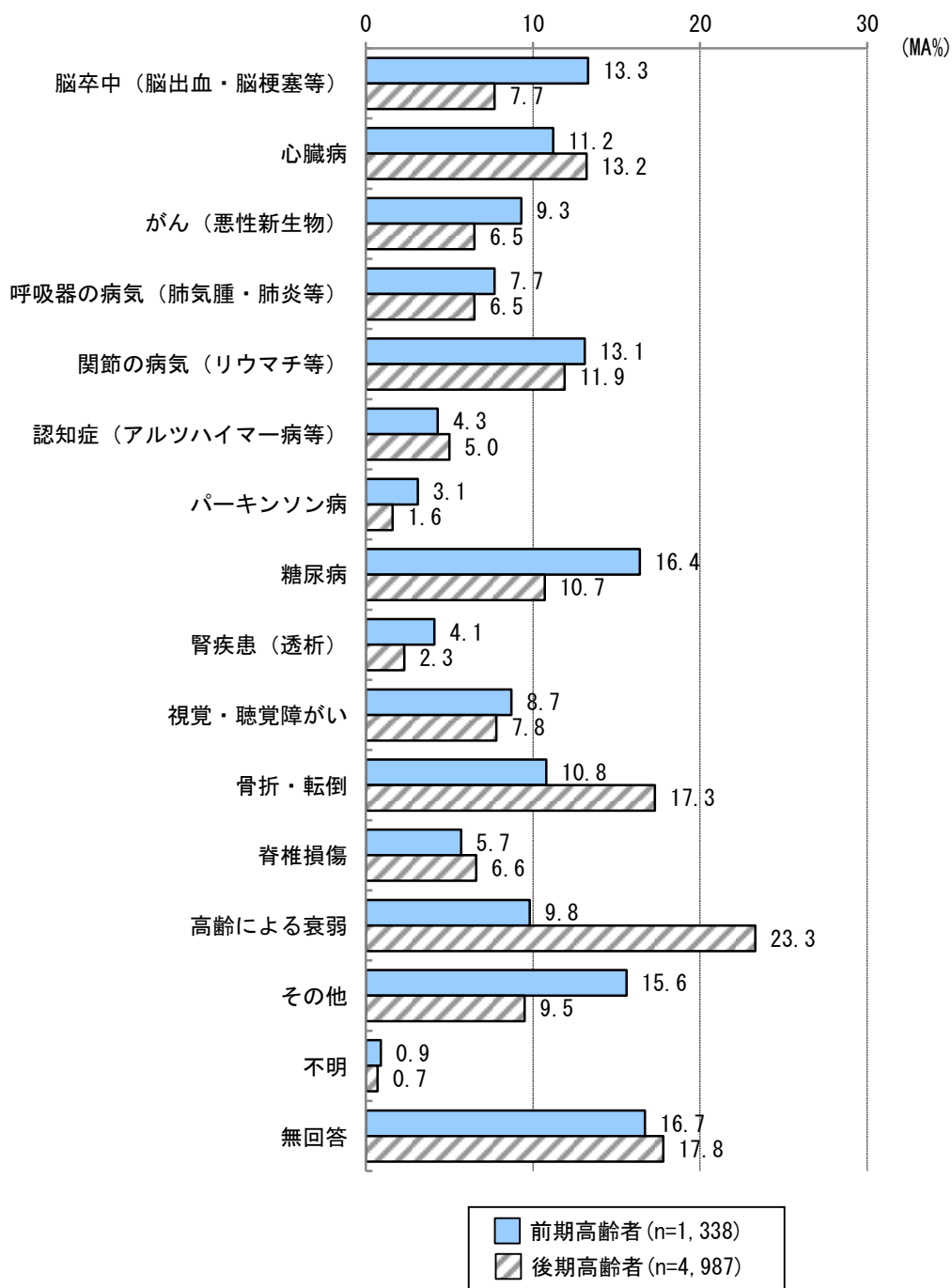


【参考 介護・介助が必要になった原因（経年比較）】



年齢別にみると、前期高齢者では「糖尿病」(16.4%)、後期高齢者では「高齢による衰弱」(23.3%) が最も多くなっている。(図2-2-2-1)

【図2-2-2-1 年齢別 介護・介助が必要になった原因】



③ 介護・介助者

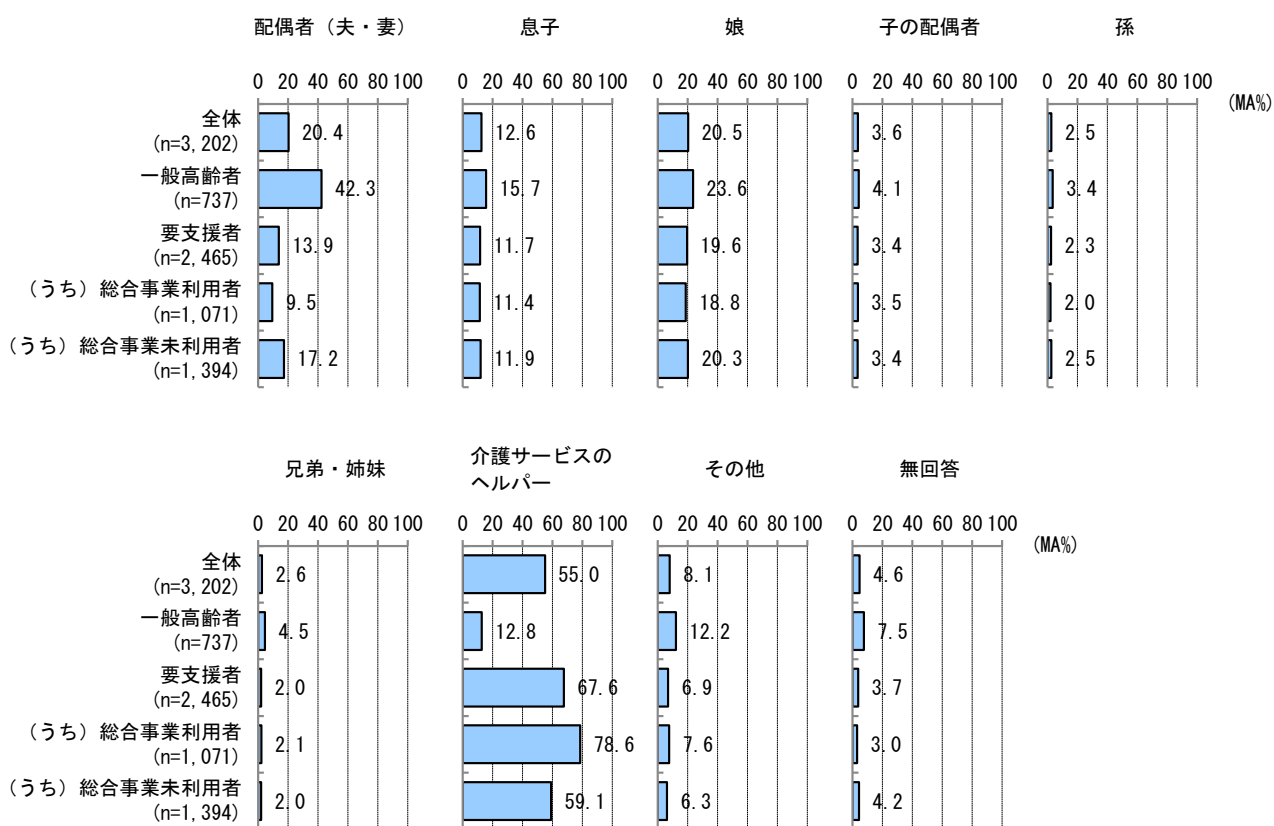
【「3 現在、何らかの介護を受けている」と回答された方におうかがいします】

問 ②主にどなたの介護、介助を受けていますか。(〇はいくつでも)

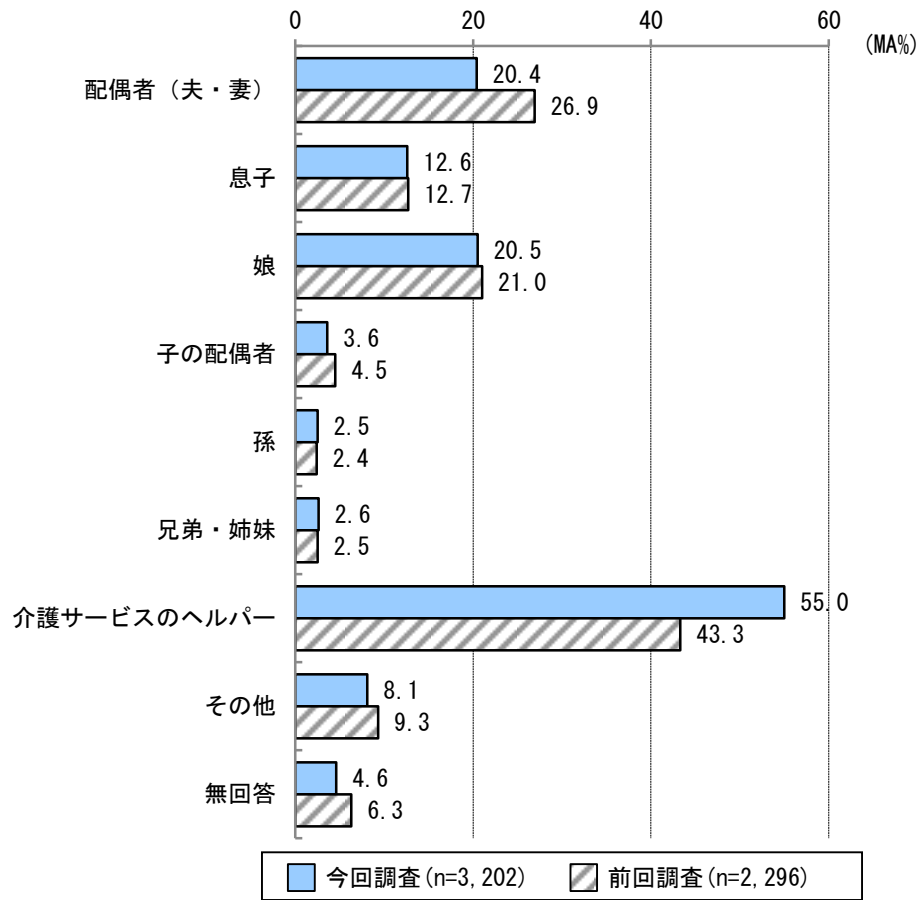
介護・介助者は、「介護サービスのヘルパー」が55.0%で最も多く、次いで「娘」が20.5%、「配偶者（夫・妻）」が20.4%となっている。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者（夫・妻）」が42.3%で最も多く、要支援者は「介護サービスのヘルパー」が67.6%で最も多くなっている。(図2-2-3)

【図2-2-3 介護・介助者】

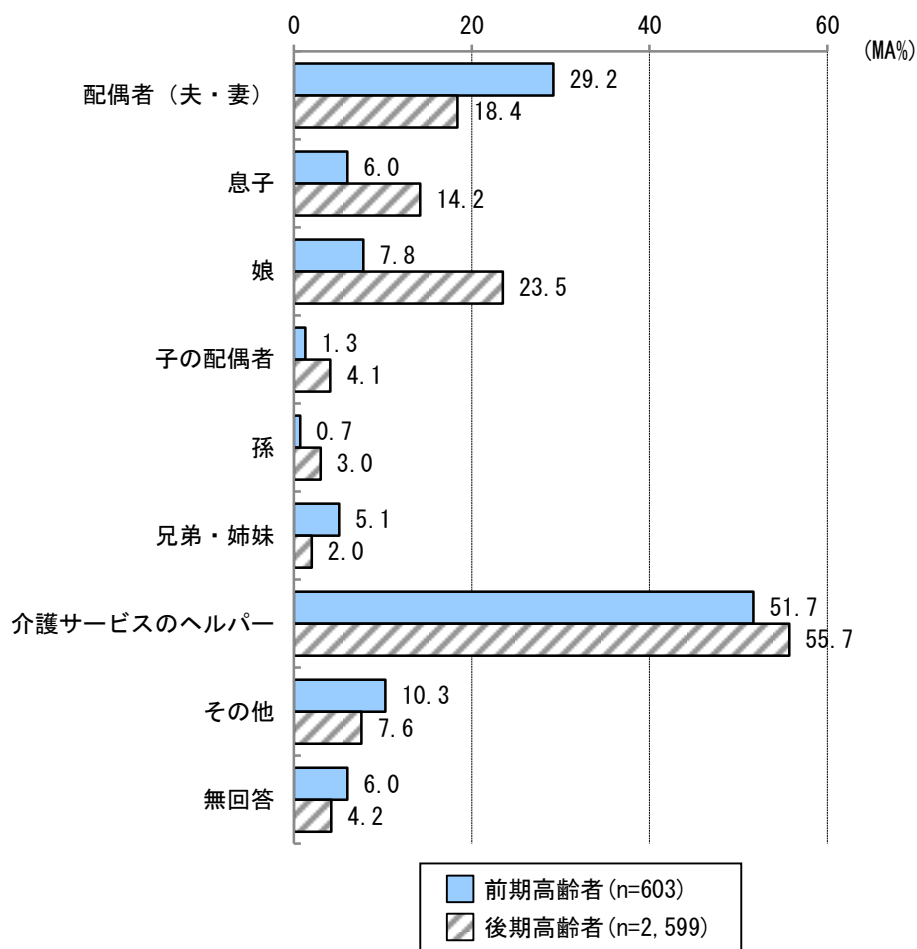


【参考 介護・介助者（経年比較）】



年齢別にみると、前期・後期高齢者とも「介護サービスのヘルパー」（前期51.7%、後期55.7%）となっており、次いで前期高齢者は「配偶者（夫・妻）」（29.2%）、後期高齢者は「娘」（23.5%）が続いている。（図2-2-3-1）

【図2-2-3-1 介護・介助者】

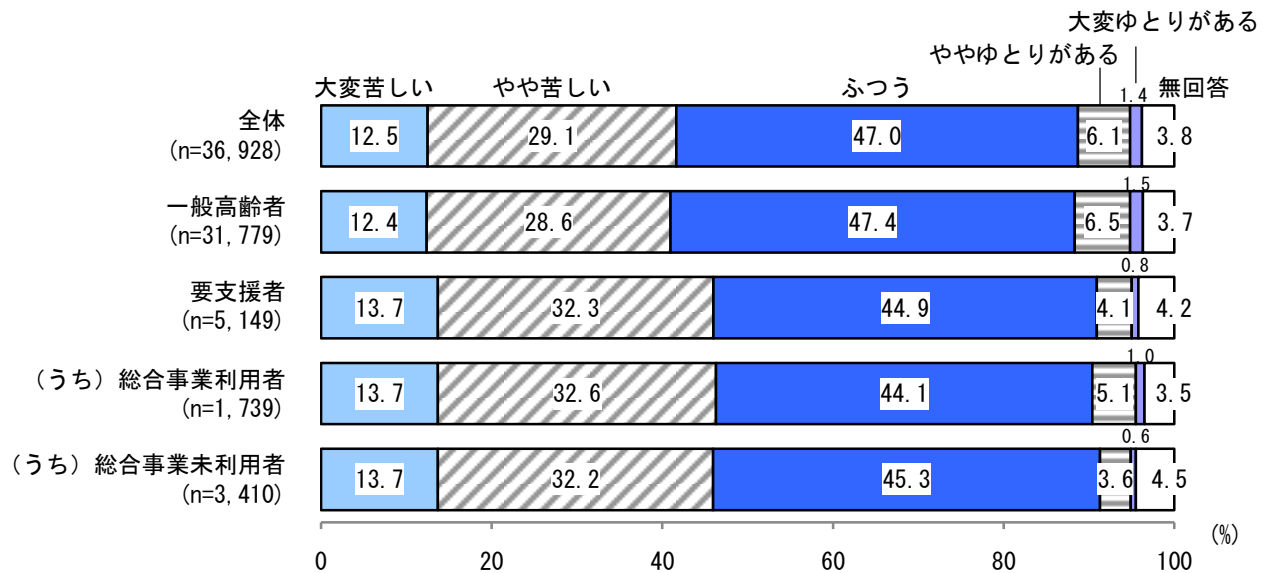


（３）暮らしの状況

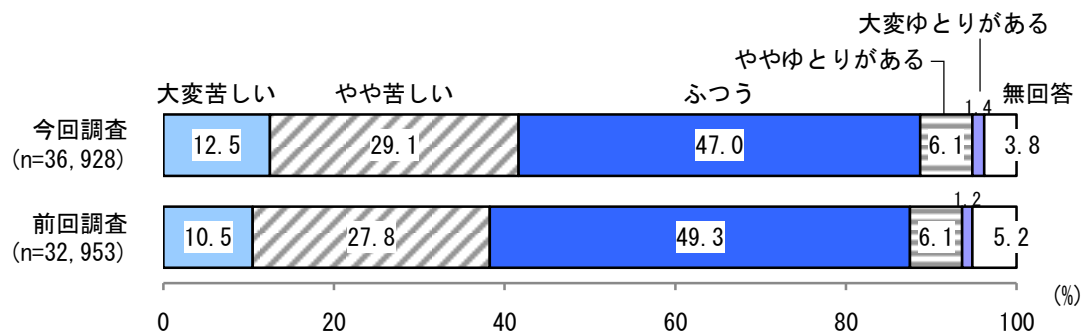
問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（○はひとつ）

現在の暮らしの状況については、「ふつう」が47.0%で最も多く、次いで「やや苦しい」が29.1%となっており、経済的に『苦しい』と感じている人（「大変苦しい」と「やや苦しい」をあわせた割合）は41.6%となっている。（図2-3）

【図2-3 暮らしの状況】

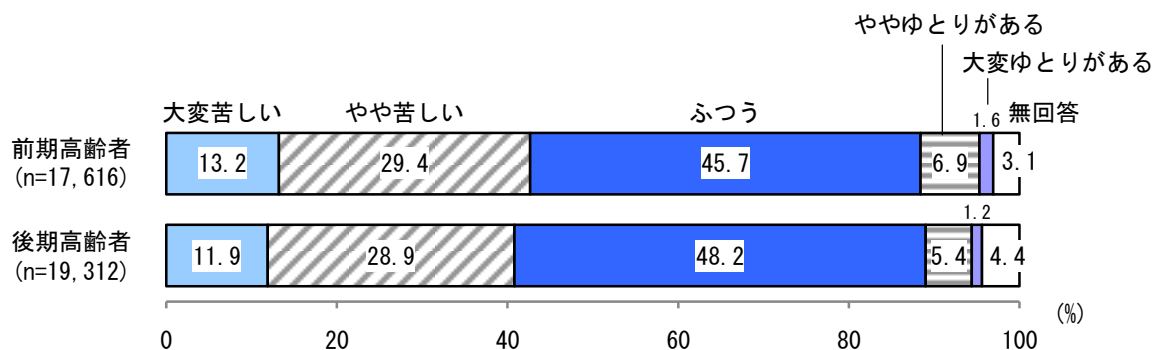


【参考 暮らしの状況（経年比較）】



年齢別でみると、『苦しい』と感じている人は、後期高齢者（40.8%）より前期高齢者（42.6%）のほうがやや高くなっている。（図2-3-1）

【図2-3-1 年齢別 暮らしの状況】

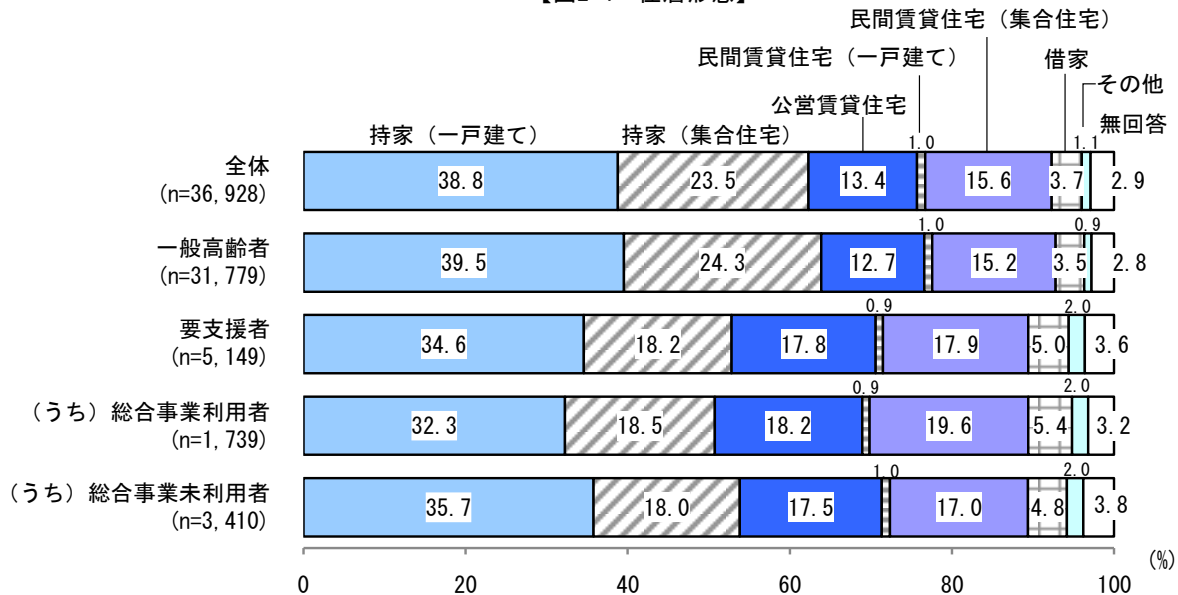


(4) 住居形態

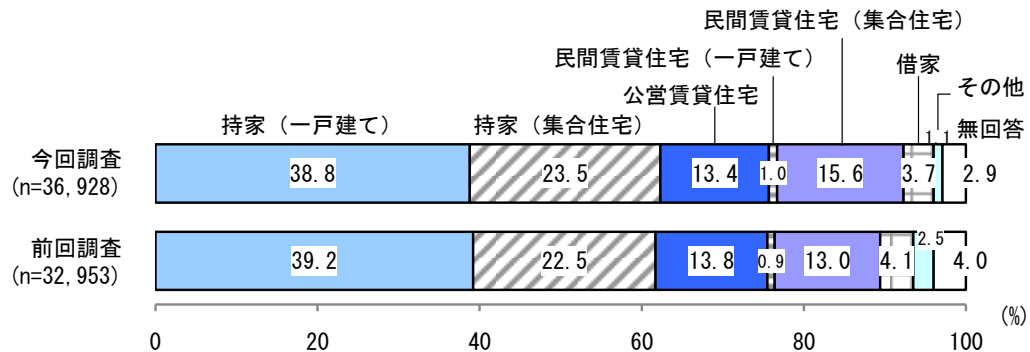
問 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(〇はひとつ)

住居形態については、「持家（一戸建て）」が38.8%で最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が23.5%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が15.6%となっている。(図2-4)

【図2-4 住居形態】

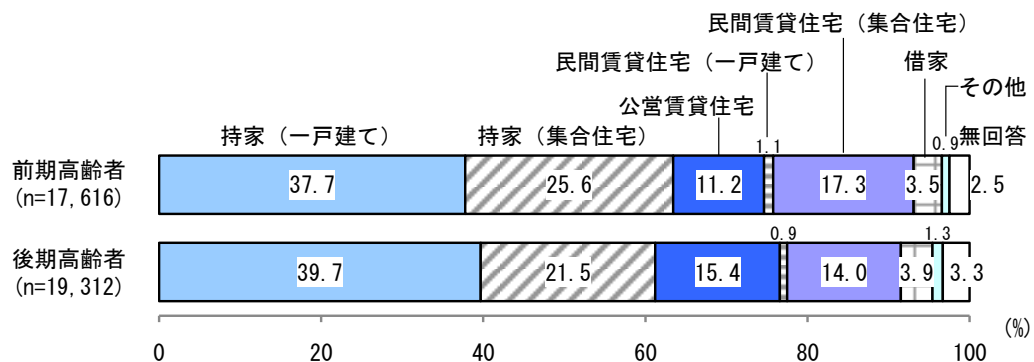


【参考 住居形態（経年比較）】



年齢別でみると、「公営賃貸住宅」の割合は前期高齢者（11.2%）より後期高齢者（15.4%）のほうが4.2ポイント高くなっている。(図2-4-1)

【図2-4-1 年齢別 住居形態】



3 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

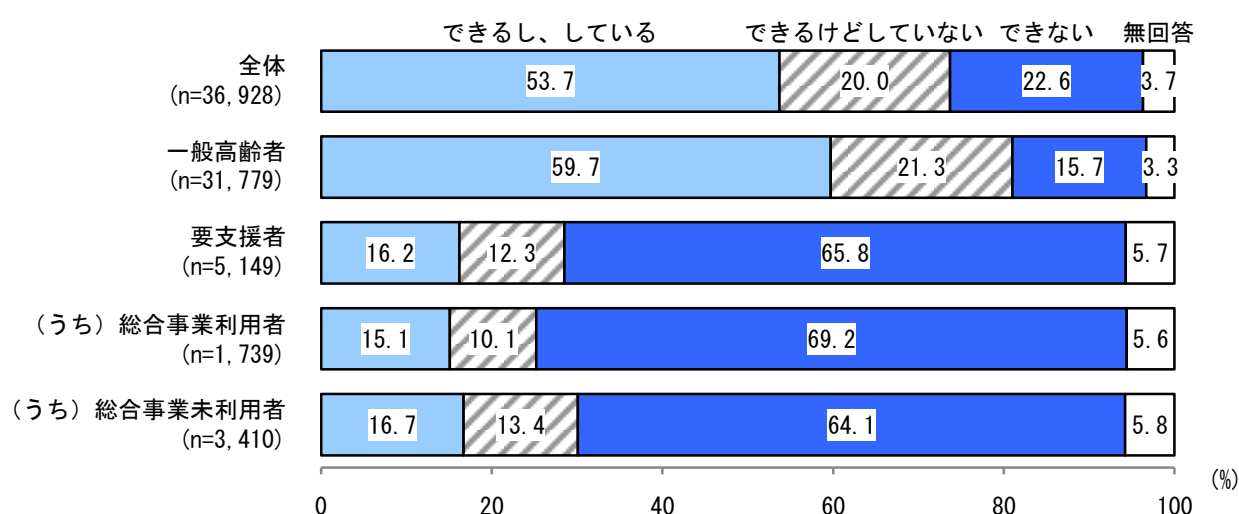
① 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること

問 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○はひとつ)

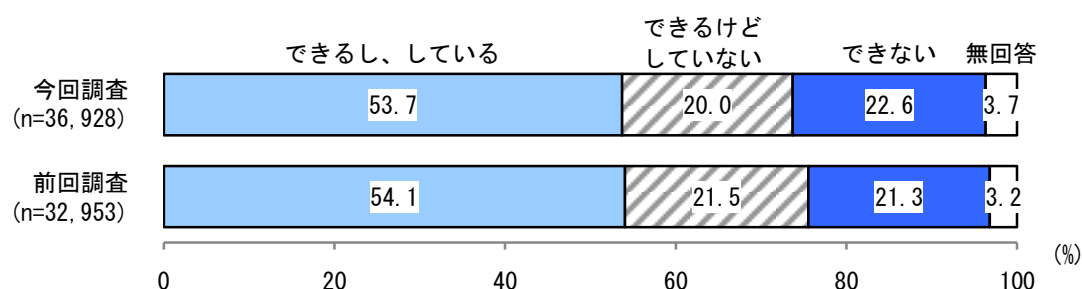
階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が53.7%で最も多く、次いで「できない」が22.6%、「できるけどしていない」が20.0%となっている。

認定状況別でみると、要支援者は「できない」が65.8%と過半数を占めている。(図3-1-1)

【図3-1-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること】

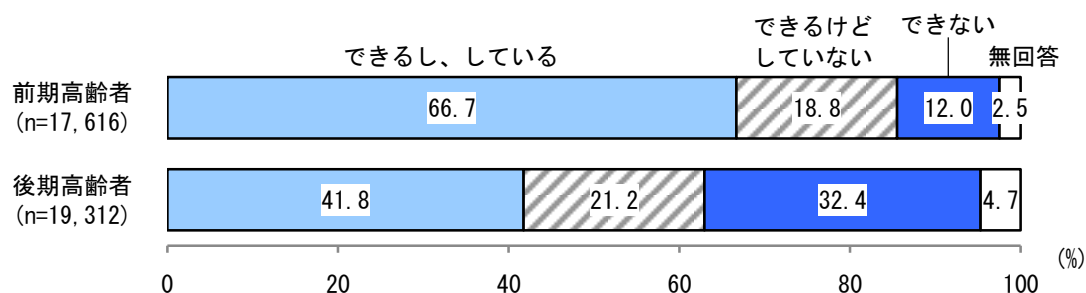


【参考 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること (経年比較)】



年齢別にみると、「できない」は前期高齢者では1割強(12.0%)、後期高齢者では3割(32.4%)となっている。(図3-1-1-1)

【図3-1-1-1 年齢別 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること】



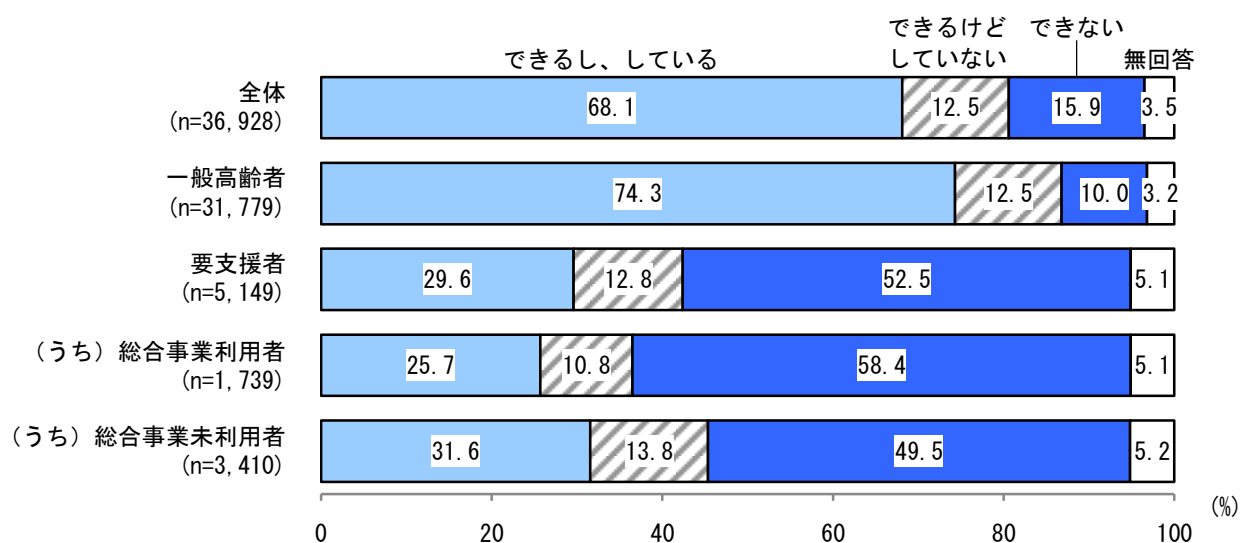
② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること

問 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○はひとつ)

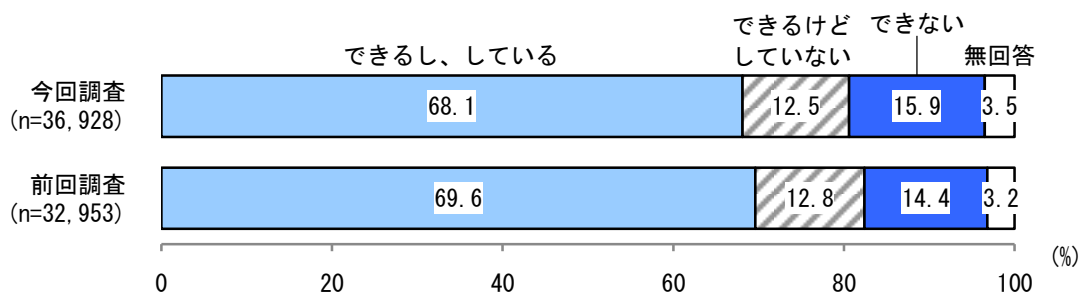
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が68.1%で最も多く、次いで「できない」が15.9%となっている。

認定状況別でみると、要支援者は「できない」が52.5%と過半数を占めている。(図3-1-2)

【図3-1-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること】

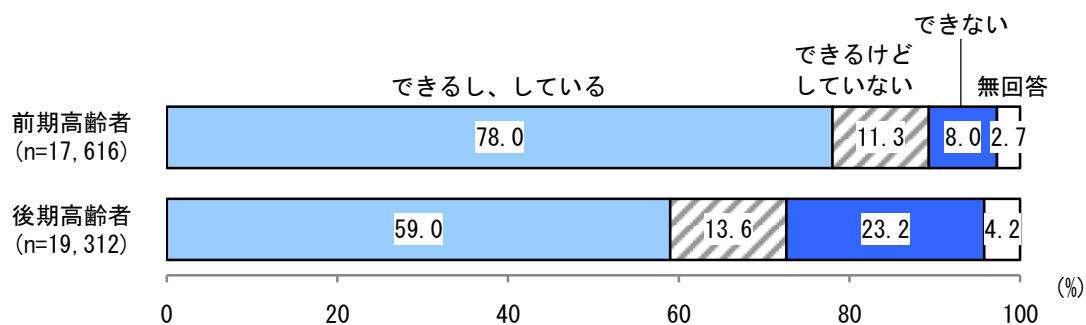


【参考 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること (経年比較)】



年齢別でみると、「できない」は前期高齢者では1割弱(8.0%)、後期高齢者では2割強(23.2%)となっている。(図3-1-2-1)

【図3-1-2-1 年齢別 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること】



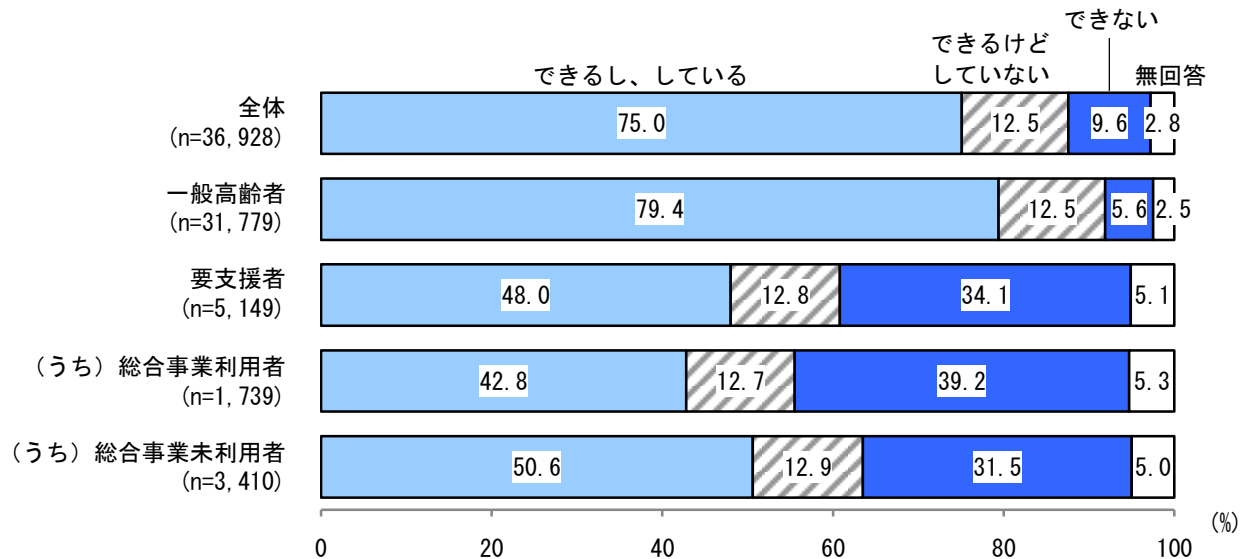
③ 15分位続けて歩くこと

問 15分位続けて歩いていますか。(○はひとつ)

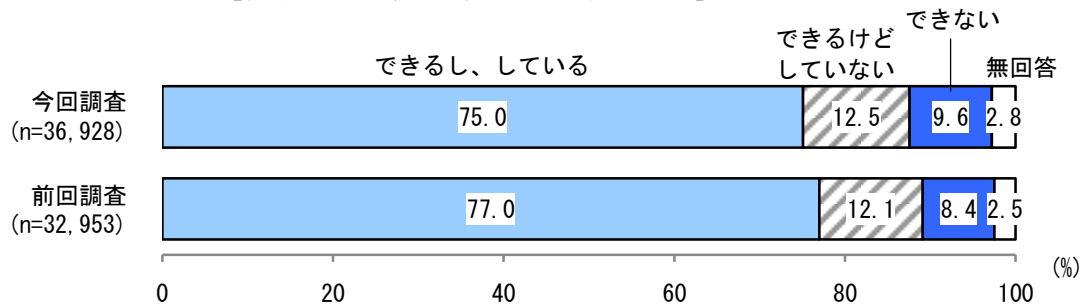
15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が75.0%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が12.5%、「できない」が9.6%となっている。

認定状況別でみると、要支援者は「できない」が34.1%と3割強を占めている。(図3-1-3)

【図3-1-3 15分位続けて歩くこと】

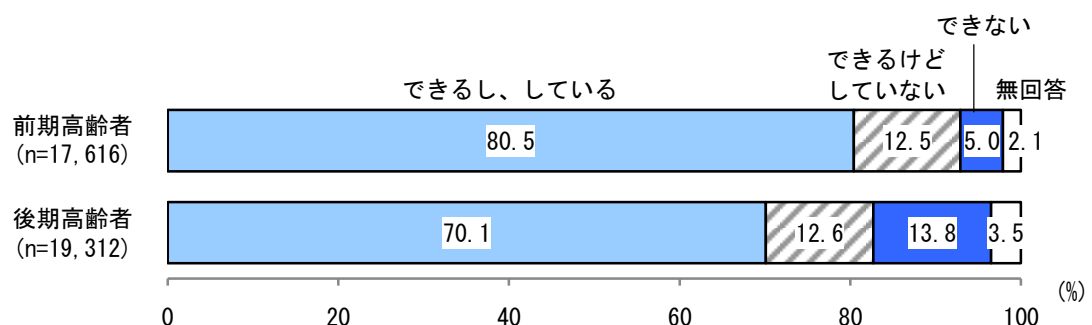


【参考 15分位続けて歩くこと (経年比較)】



年齢別でみると、「できない」は前期高齢者では1割弱 (5.0%)、後期高齢者では1割強 (13.8%) となっている。(図3-1-3-1)

【図3-1-3-1 年齢別 15分位続けて歩くこと】



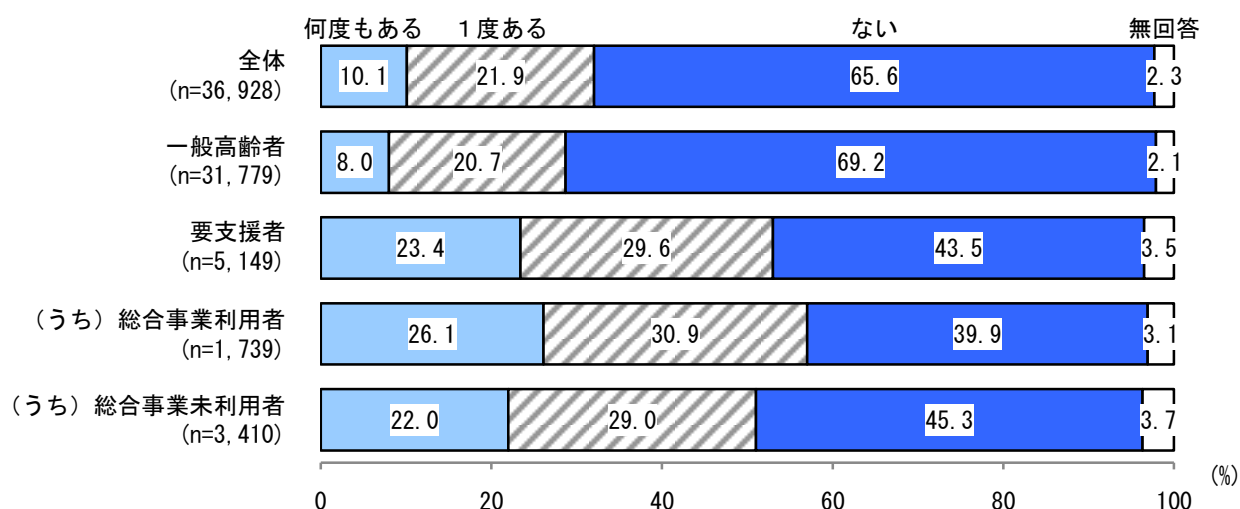
④ 過去 1 年間に転んだ経験

問 過去 1 年間に転んだ経験がありますか。(○はひとつ)

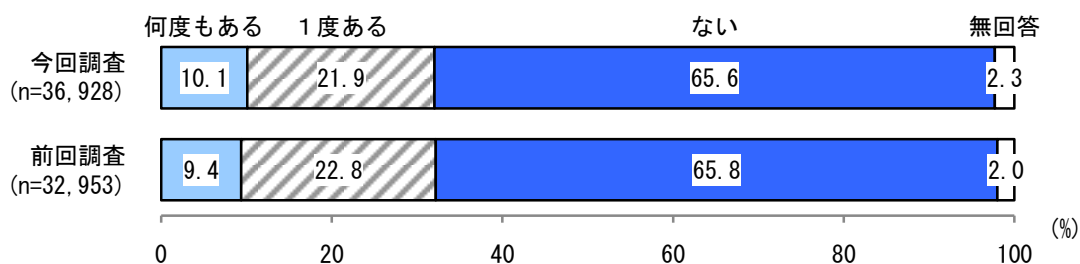
過去 1 年間に転んだ経験については、「ない」が65.6%で最も多く、次いで「1度ある」が21.9%、「何度もある」が10.1%となっている。

認定状況別でみると、要支援者では「何度もある」が23.4%、「1度ある」が29.6%となっており、両者をあわせた『転んだ経験がある』人（53.0%）は過半数を占めている。（図3-1-4）

【図3-1-4 過去 1 年間に転んだ経験】

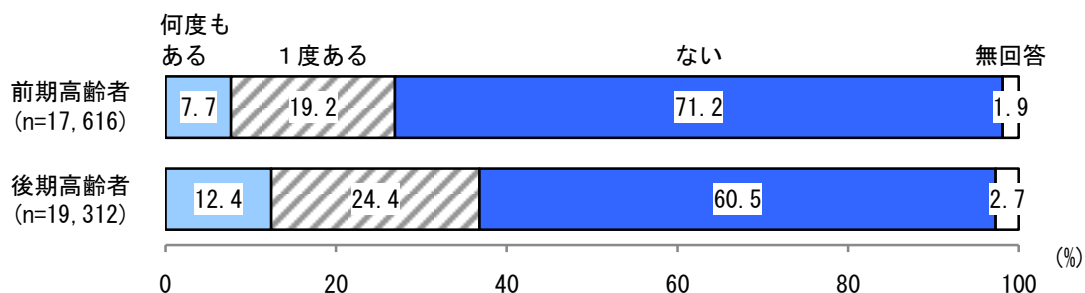


【参考 過去 1 年間に転んだ経験（経年比較）】



年齢別でみると、『転んだ経験がある』人は前期高齢者では3割弱（26.9%）、後期高齢者では3割強（36.8%）となっている。（図3-1-4-1）

【図3-1-4-1 年齢別 過去 1 年間に転んだ経験】



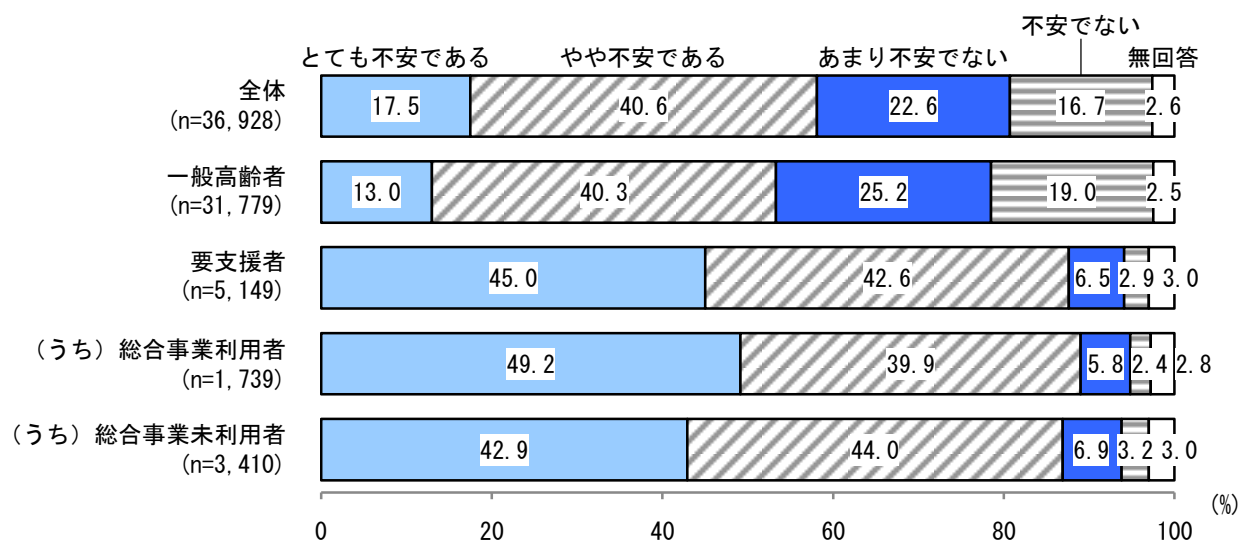
⑤ 転倒に対する不安の大きさ

問 転倒に対する不安は大きいですか。(○はひとつ)

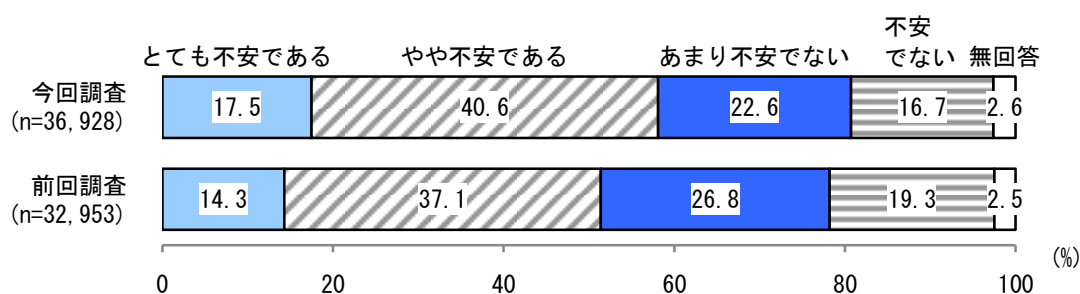
転倒に対する不安が大きいかについては、「やや不安である」が40.6%で最も多く、次いで「あまり不安でない」が22.6%、「とても不安である」が17.5%となっており、「とても不安である」と「やや不安である」をあわせた『不安である』人の割合は58.1%となっている。

認定状況別でみると、要支援者では『不安である』人の割合が87.6%と約9割を占めている。(図3-1-5)

【図3-1-5 転倒に対する不安の大きさ】

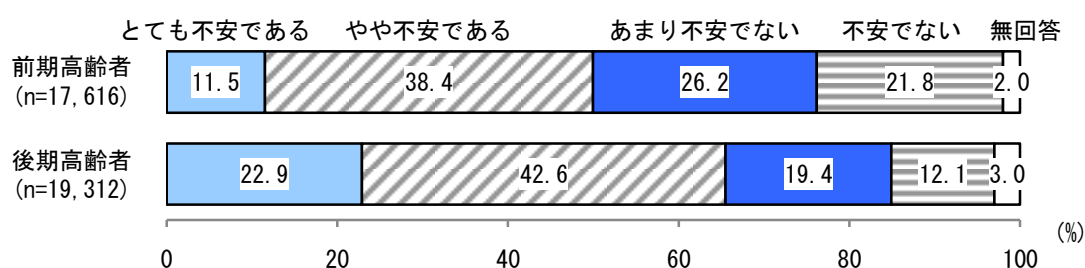


【参考 転倒に対する不安の大きさ (経年比較)】



年齢別でみると、『不安である』人の割合は前期高齢者では約半数 (49.9%)、後期高齢者では6割強 (65.5%) となっている。(図3-1-5-1)

【図3-1-5-1 年齢別 転倒に対する不安の大きさ】



(2) 外出の頻度

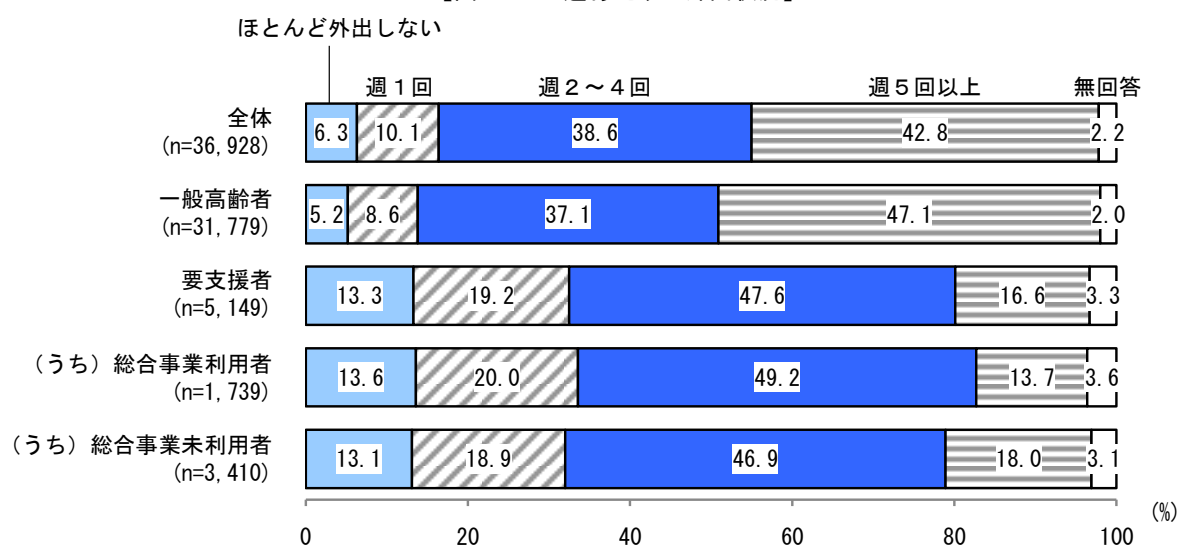
① 週あたりの外出状況

問 週に1回以上は外出していますか。(○はひとつ)

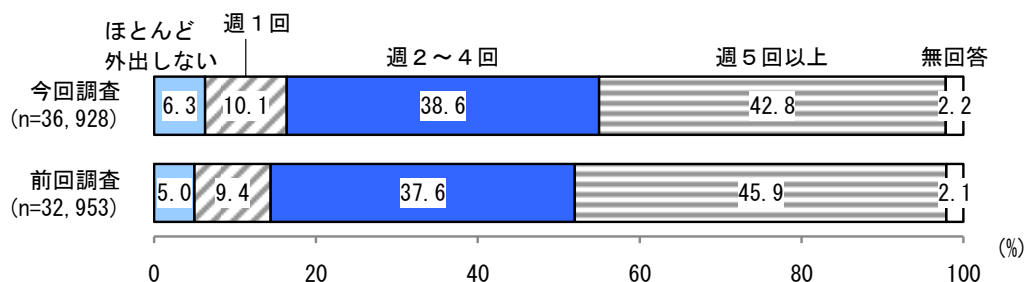
週に1回以上外出しているかについては、「週5回以上」が42.8%で最も多く、次いで「週2～4回」が38.6%、「週1回」が10.1%、「ほとんど外出しない」が6.3%となっている。認定状況別でみると、「ほとんど外出しない」は要支援者で13.3%となっている。(図3-2-1)

前回調査と比較すると、「週5回以上」の割合が3.1ポイント低くなっている。(参考 週あたりの外出状況(経年比較))

【図3-2-1 週あたりの外出状況】

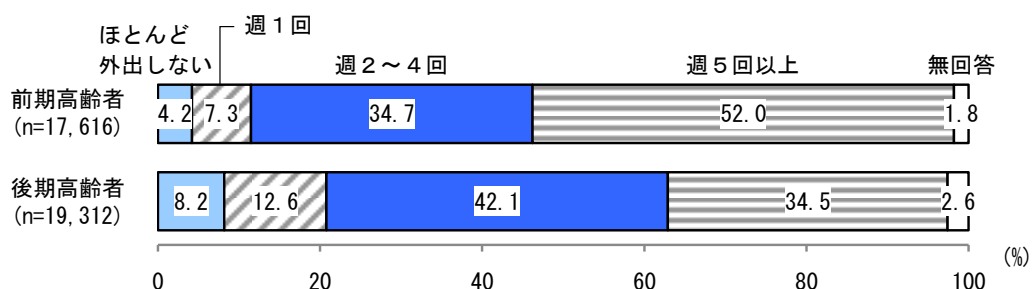


【参考 週あたりの外出状況(経年比較)】



年齢別でみると、「ほとんど外出しない」の割合は前期高齢者では4.2%、後期高齢者では8.2%と、いずれも1割を下回っている。(図3-2-1-1)

【図3-2-1-1 年齢別 週あたりの外出状況】



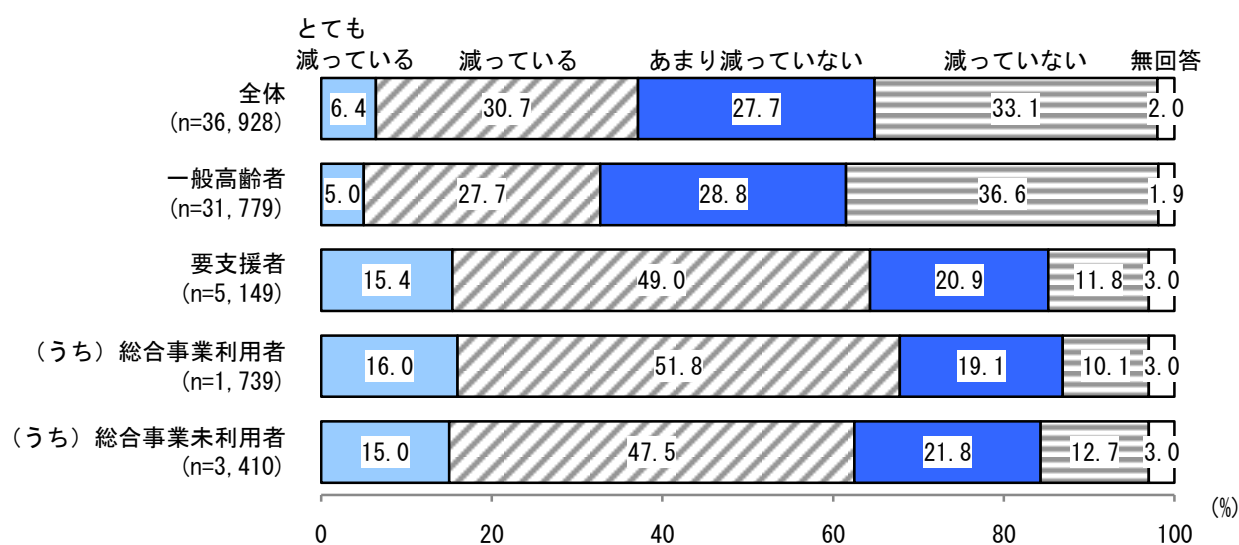
② 昨年と比べた外出回数の状況

問 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(〇はひとつ)

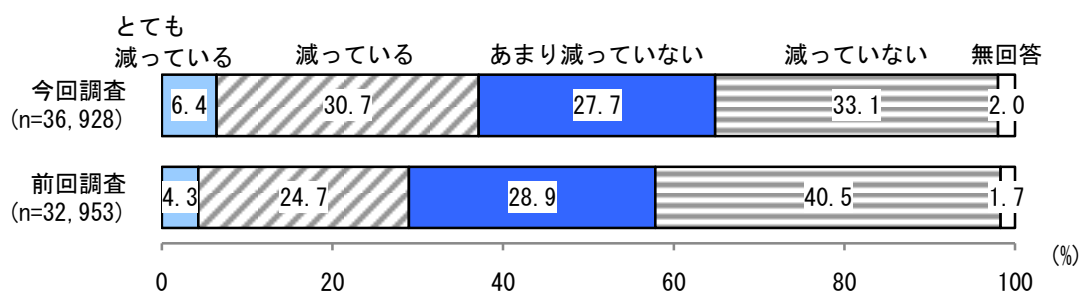
昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っていない」が33.1%で最も多く、次いで「減っている」が30.7%で、「とても減っている」(6.4%)と「減っている」をあわせた『外出の回数が減っている』人は37.1%となっている。

認定状況別でみると、『外出の回数が減っている』人は要支援者が64.4%と過半数を占めている。(図3-2-2)

【図3-2-2 昨年と比べた外出回数の状況】

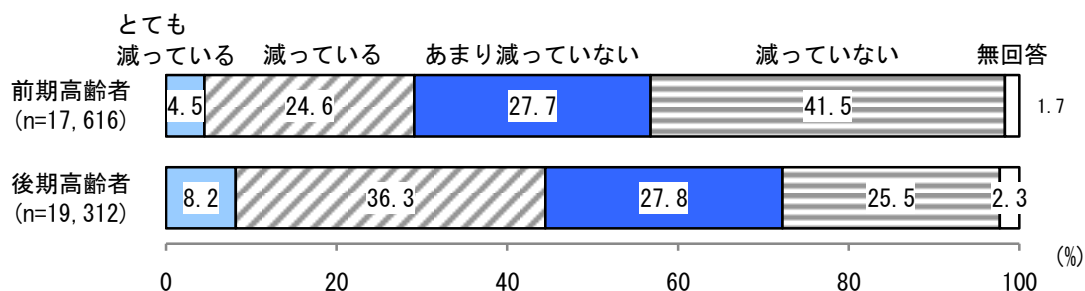


【参考 昨年と比べた外出回数の状況 (経年比較)】



年齢別でみると、『外出の回数が減っている』人の割合は前期高齢者では29.1%、後期高齢者では44.5%となっている。(図3-2-2-1)

【図3-2-2-1 年齢別 昨年と比べた外出回数の状況】



(3) 外出控えの状況

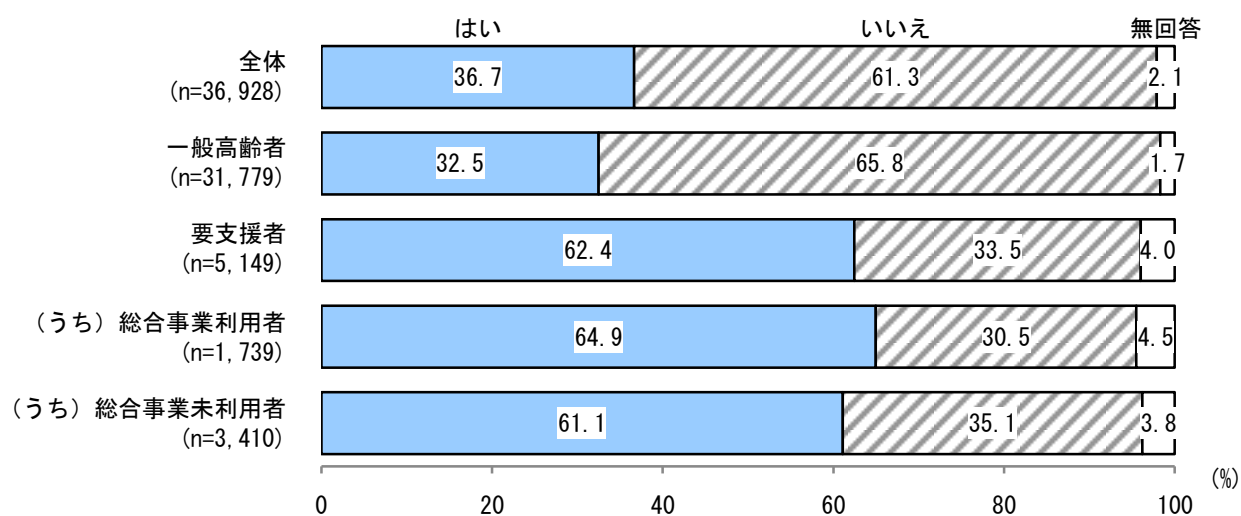
① 外出を控えていること

問 外出を控えていますか。(○はひとつ)

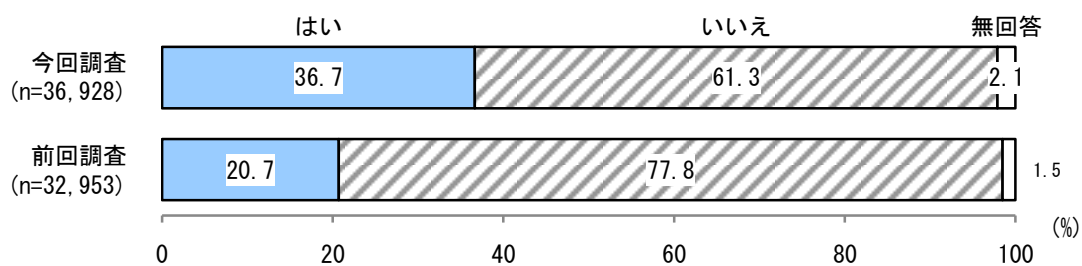
外出を控えている(「はい」と回答している)人は、全体で約4割(36.7%)となっている。

認定状況別でみると、外出を控えている人の割合は要支援者で6割強(62.4%)を占めている。(図3-3-1)

【図3-3-1 外出を控えていること】

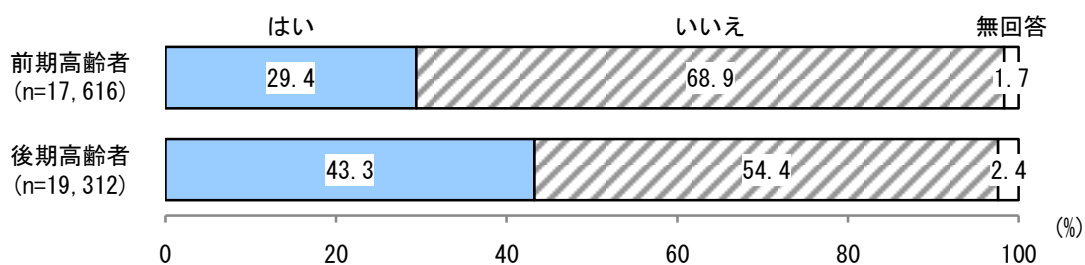


【参考 外出を控えていること(経年比較)】



年齢別でみると、外出を控えている人の割合は前期高齢者では29.4%、後期高齢者では43.3%となっている。(図3-3-1-1)

【図3-3-1-1 年齢別 外出を控えていること】



② 外出を控えている理由

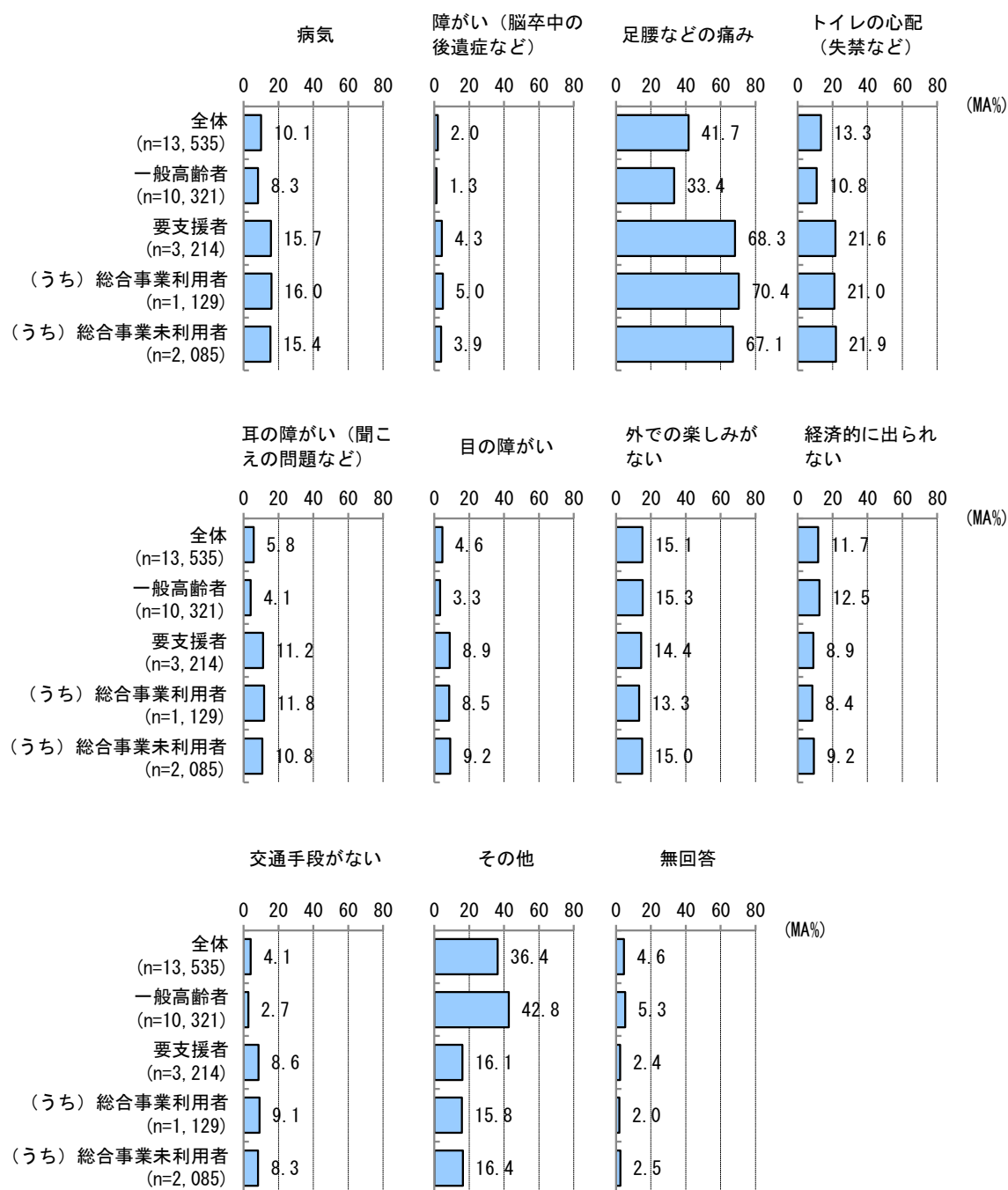
【「1 はい」(外出を控えている)と回答された方におうかがいします】

問 ①外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

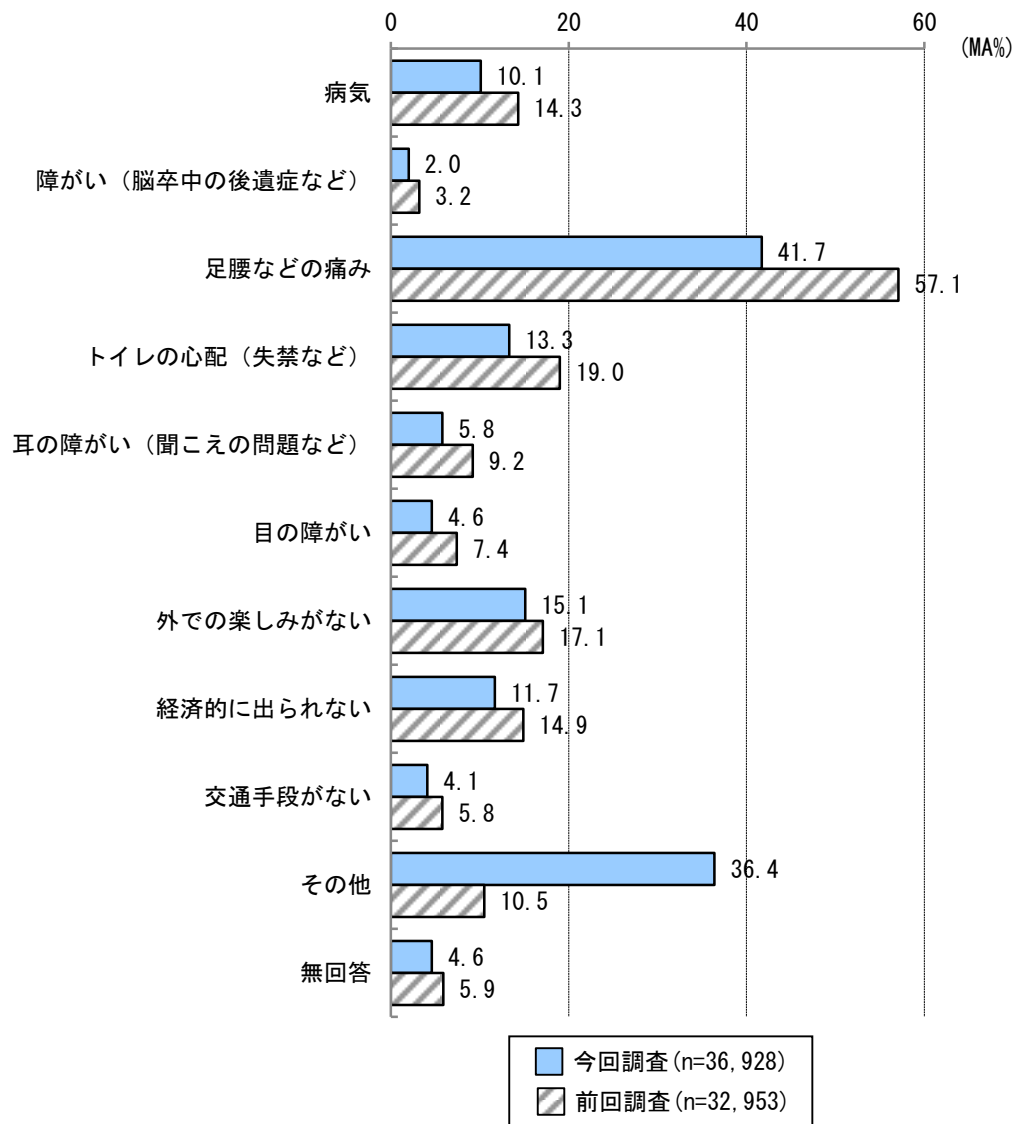
外出を控えていると回答した人に、その理由をたずねると、「足腰などの痛み」が41.7%で最も多く、次いで「外での楽しみがない」が15.1%、「トイレの心配(失禁など)」が13.3%となっている。また、「その他」(36.4%)では、新型コロナウイルス感染症に関する意見が多く、“感染対策のため”や“感染が怖いから”などが挙がっている。

認定状況別でみると、要支援者では「足腰などの痛み」が68.3%と高くなっている。(図3-3-2)

【図3-3-2 外出を控えている理由】

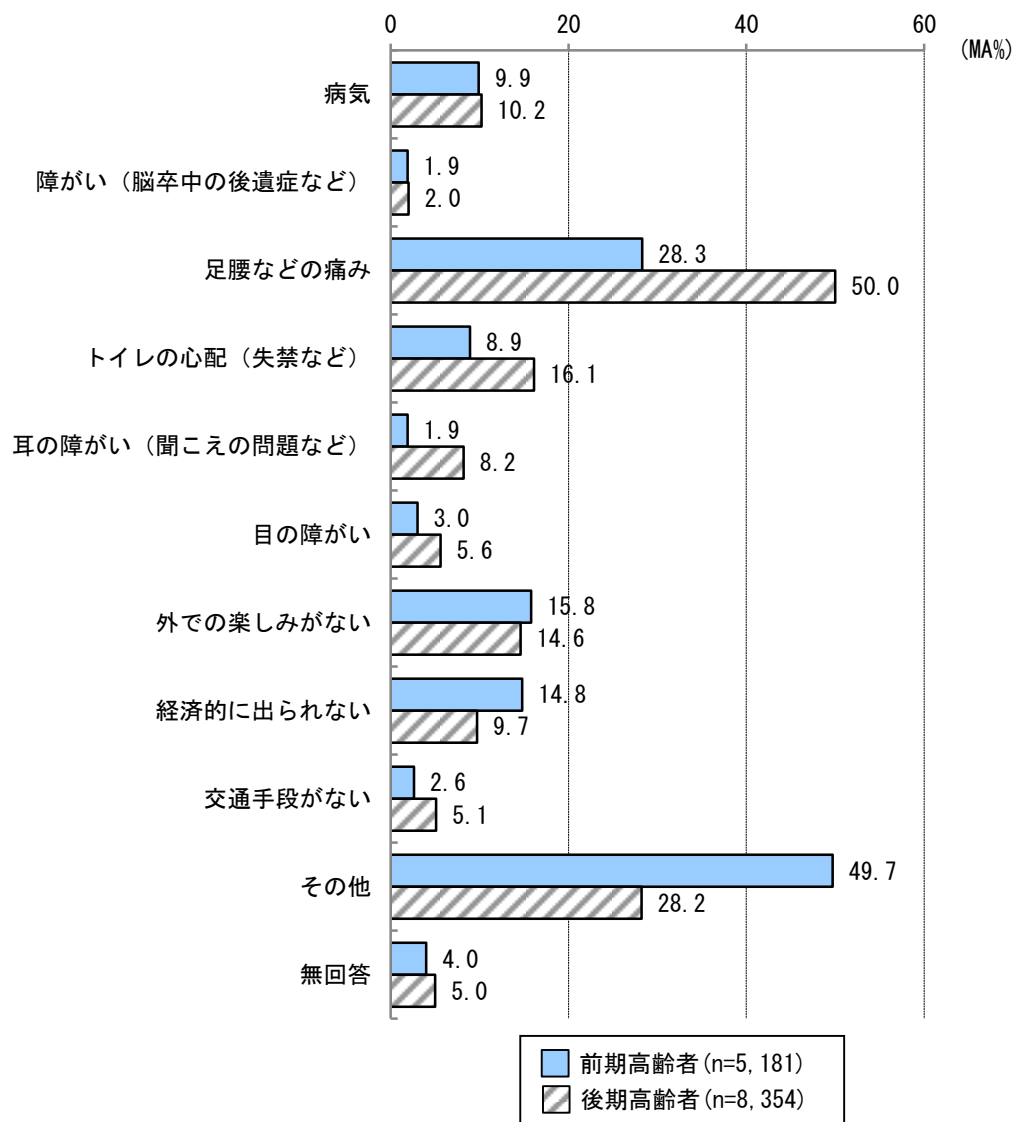


【参考 外出を控えている理由（経年比較）】



年齢別でみると、「足腰などの痛み」の割合は前期高齢者では28.3%、後期高齢者では50.0%となっている。次いで前期高齢者は「外での楽しみがない」(15.8%)、後期高齢者では「トイレの心配(失禁など)」(16.1%)が続いている。(図3-3-2-1)

【図3-3-2-1 年齢別 外出を控えている理由】



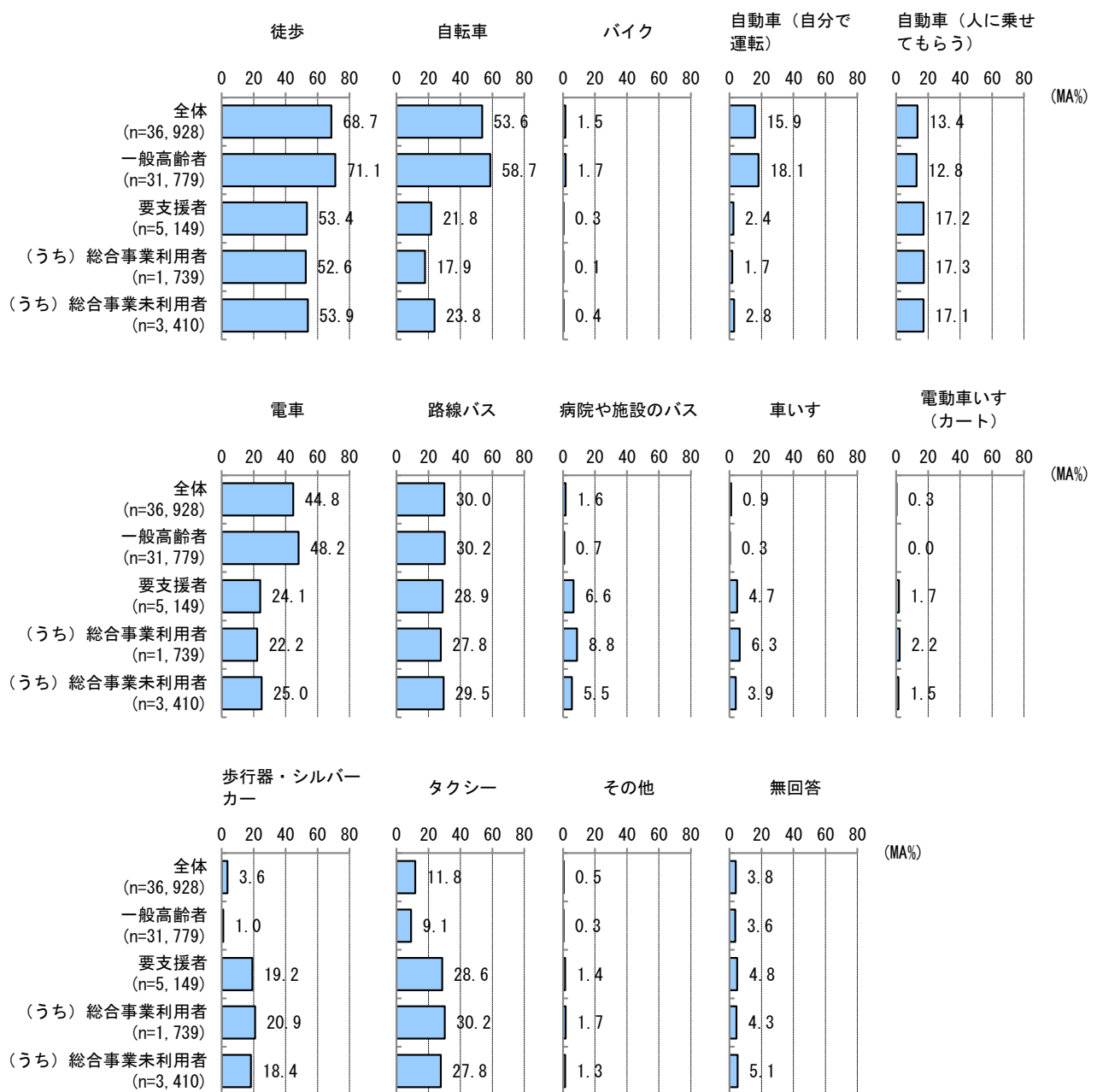
(4) 移動手段

問 外出する際の移動手段は何ですか。(〇はいくつでも)

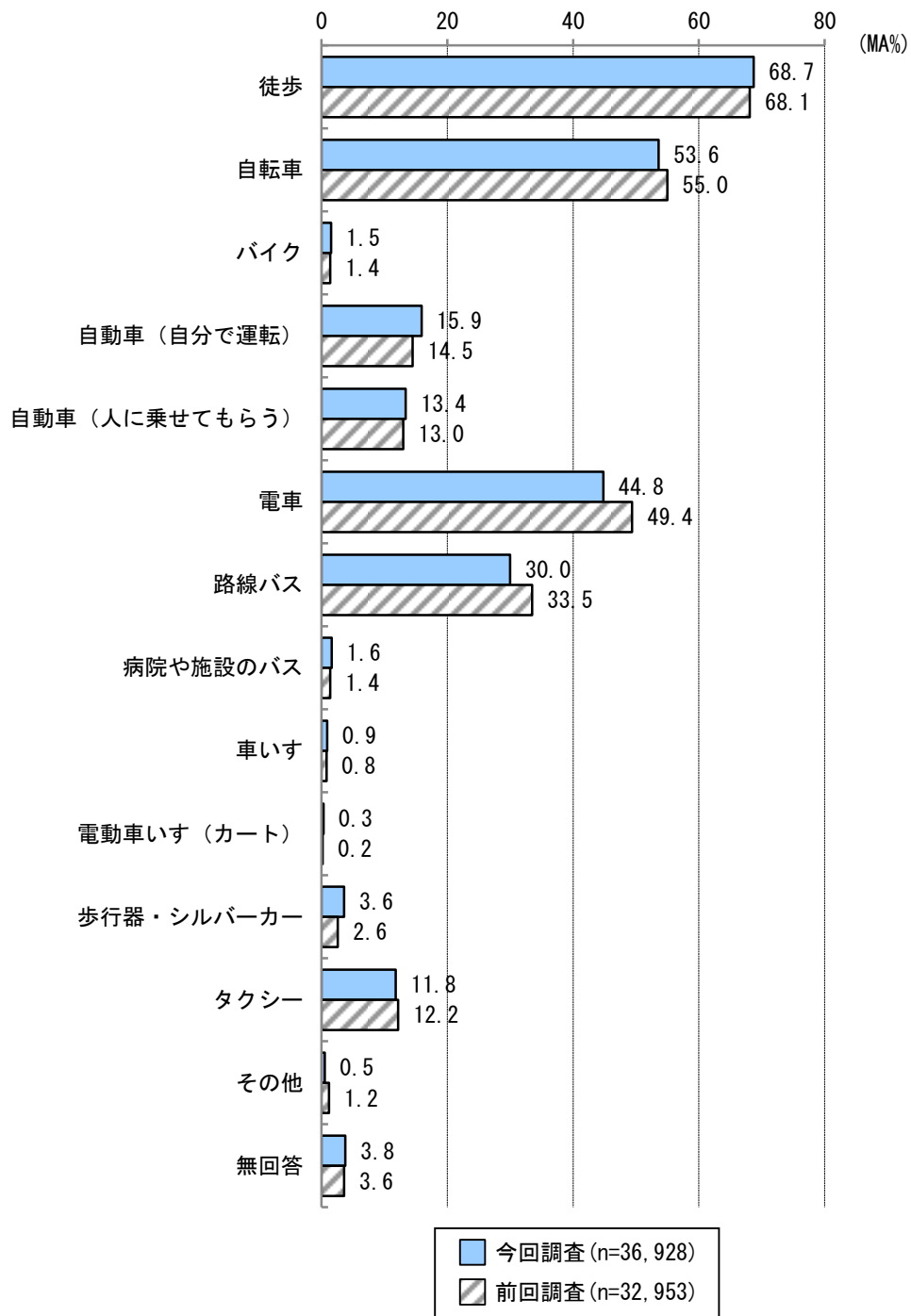
外出する際の移動手段については、「徒歩」が68.7%で最も多く、次いで「自転車」が53.6%、「電車」が44.8%となっている。

認定状況別でみると、一般高齢者、要支援者とも「徒歩」が最も多いが、一般高齢者では71.1%と約7割を占めて高い。(図3-4)

【図3-4 移動手段】

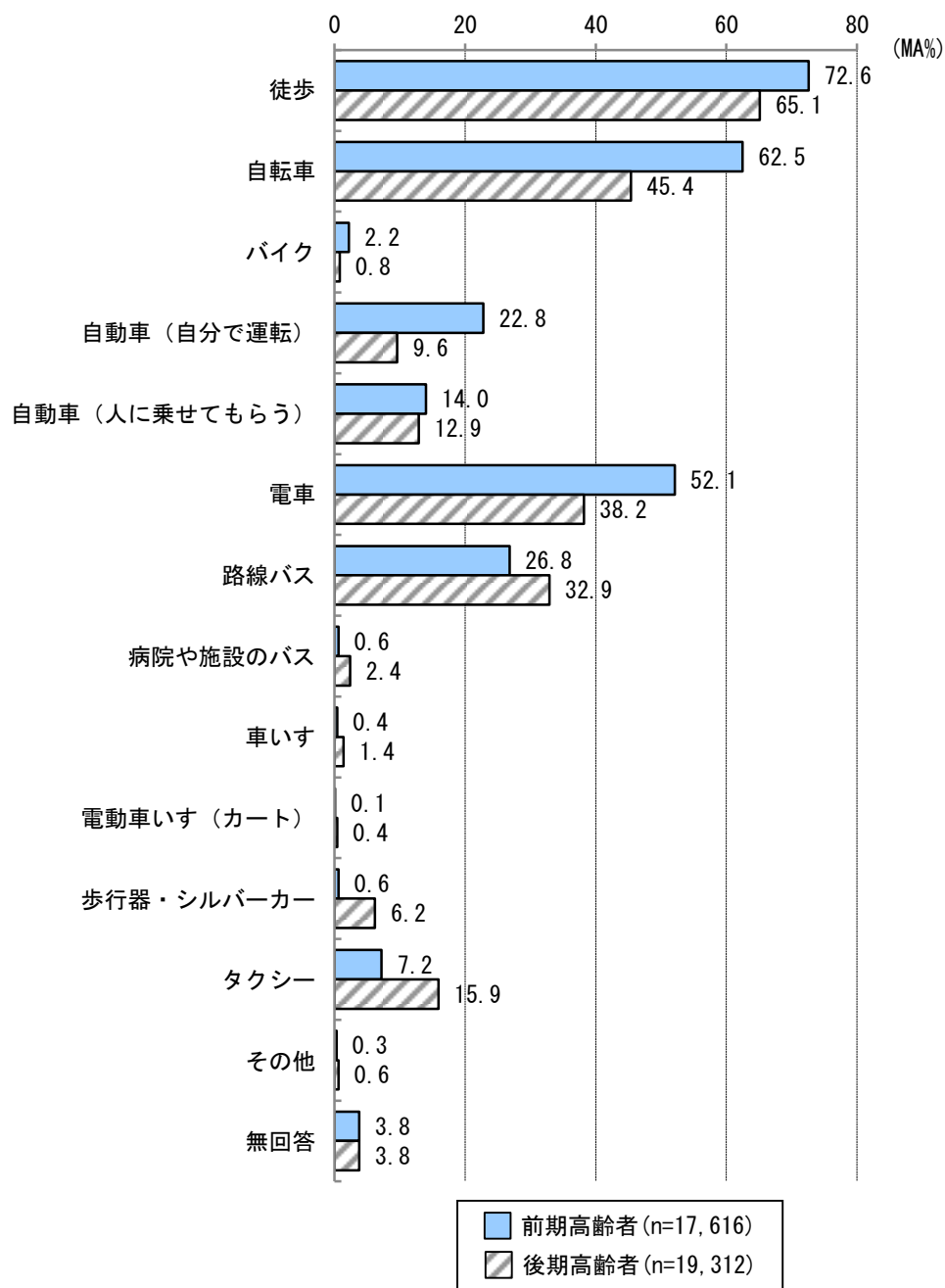


【参考 移動手段（経年比較）】



年齢別でみると、前期、後期高齢者とも「徒歩」が最も多く、前期高齢者は72.6%、後期高齢者は65.1%となっている。また、「路線バス」の割合は後期高齢者で3割強（32.9%）を占め、前期高齢者（26.8%）より高くなっている。（図3-4-1）

【図3-4-1 年齢別 移動手段】



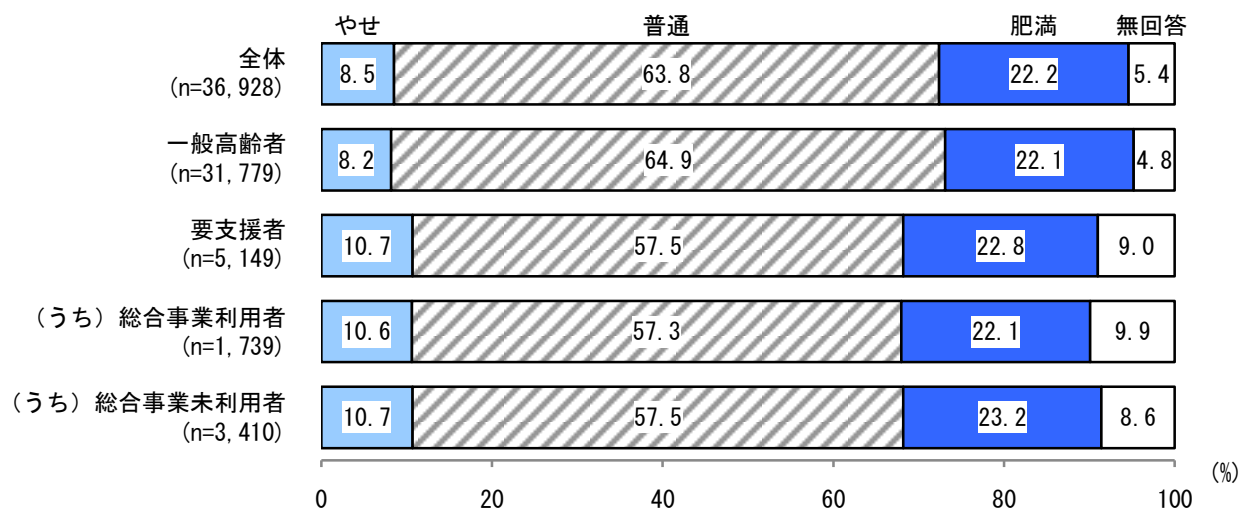
4 食べることについて

(1) BMI

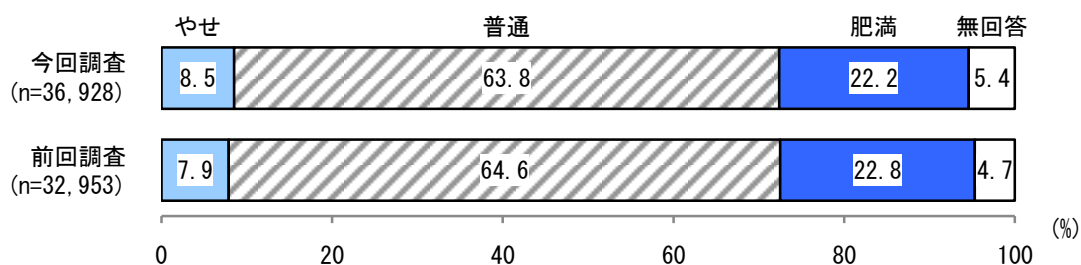
問 身長・体重

身長・体重から算出したBMI値をみると、「肥満 (BMI $\geq$ 25)」が22.2%、「やせ (低体重) (BMI<18.5)」が8.5%となっている。(図4-1)

【図4-1 BMI】

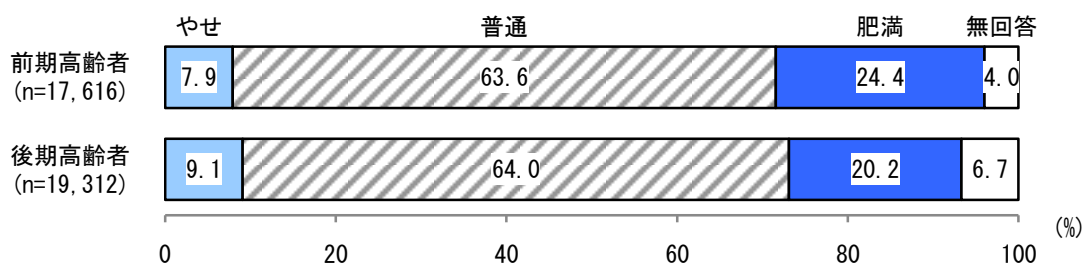


【参考 BMI (経年比較)】



年齢別でみると、「肥満」の割合は前期高齢者 (24.4%) のほうが4.2ポイント高くなっている。(図4-1-1)

【図4-1-1 年齢別 移動手段】



(2) 口腔機能の状況

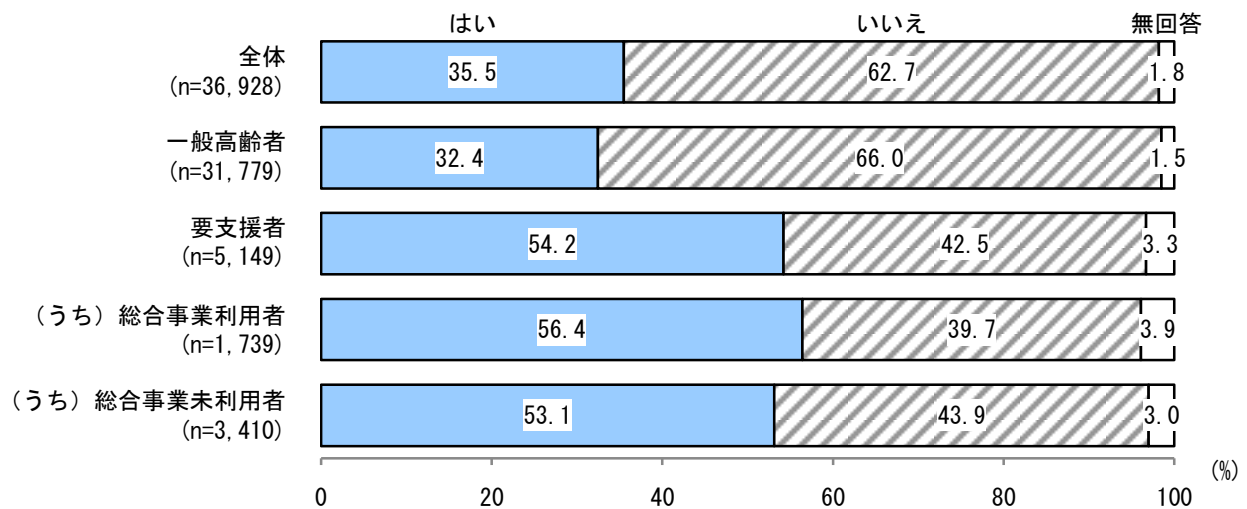
① 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと

問 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○はひとつ)

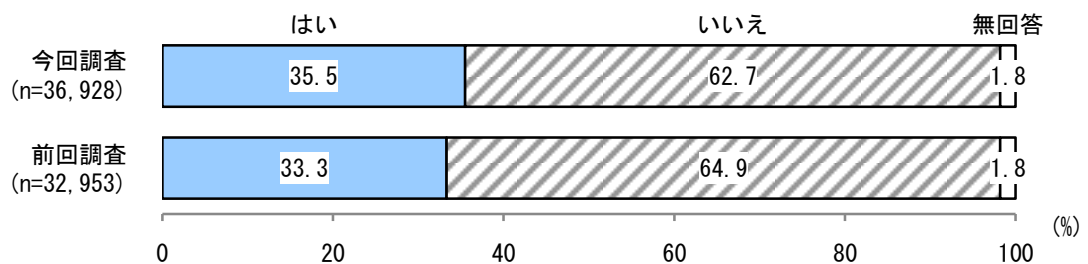
半年前に比べて固いものが食べにくくなった(「はい」と回答している)人は、3割強(35.5%)となっている。

認定状況別でみると、半年前に比べて固いものが食べにくくなった人の割合は要支援者で約5割(54.2%)と高くなっている。(図4-2-1)

【図4-2-1 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと】

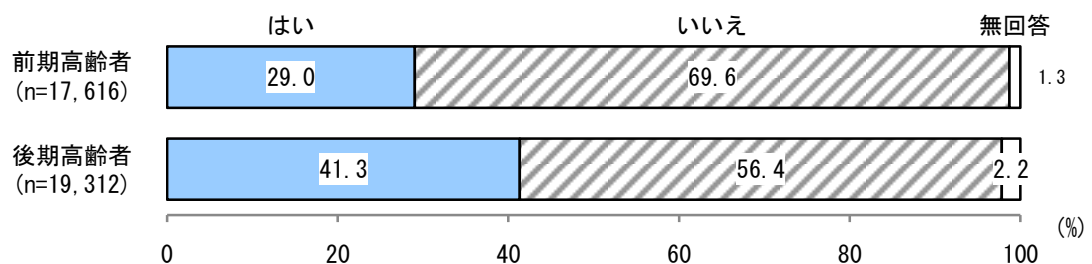


【参考 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと(経年比較)】



年齢別でみると、半年前に比べて固いものが食べにくくなった人の割合は前期高齢者が29.0%、後期高齢者が41.3%となっている。(図4-2-1-1)

【図4-2-1-1 年齢別 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと】



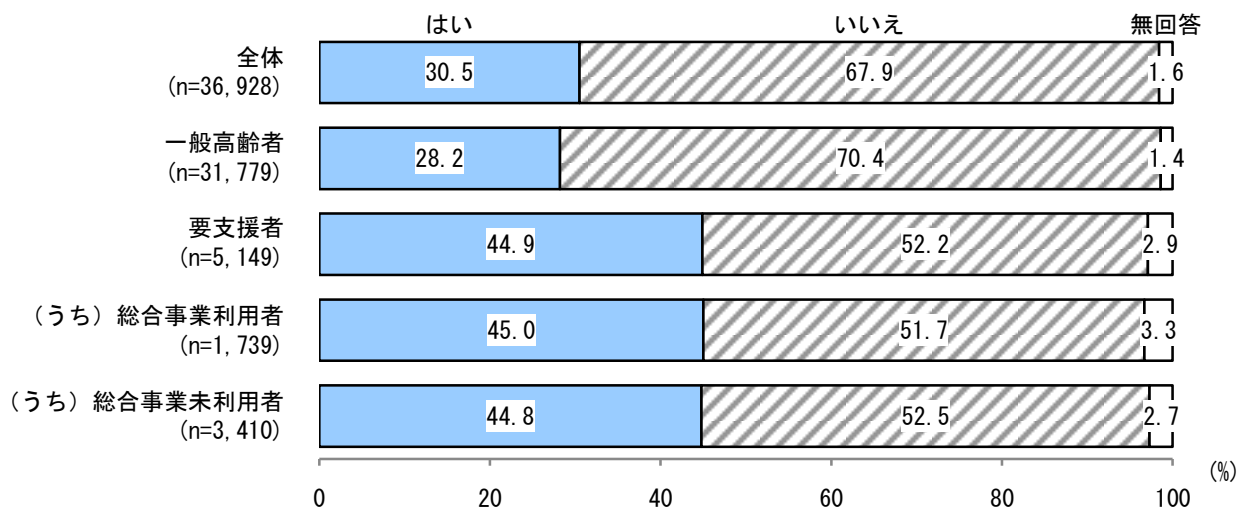
② お茶や汁物等でむせること

問 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○はひとつ)

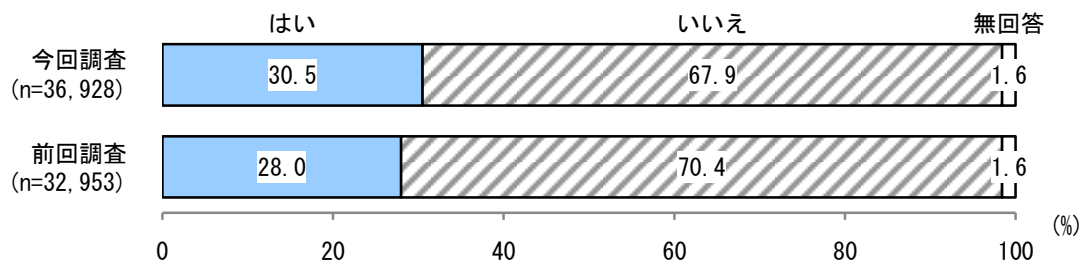
お茶や汁物等でむせることがある(「はい」と回答している)人は、3割強(30.5%)となっている。

認定状況別でみると、お茶や汁物等でむせることがある人の割合は要支援者で約4割(44.9%)となっている。(図4-2-2)

【図4-2-2 お茶や汁物等でむせること】

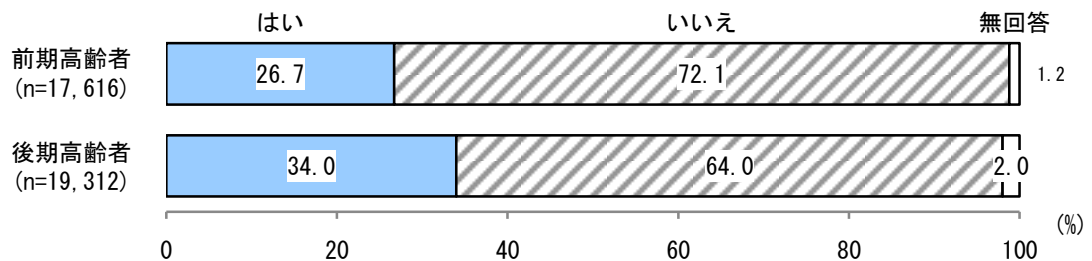


【参考 お茶や汁物等でむせること (経年比較)】



年齢別でみると、お茶や汁物等でむせることがある人の割合は前期高齢者が26.7%、後期高齢者が34.0%となっている。(図4-2-2-1)

【図4-2-2-1 年齢別 お茶や汁物等でむせること】

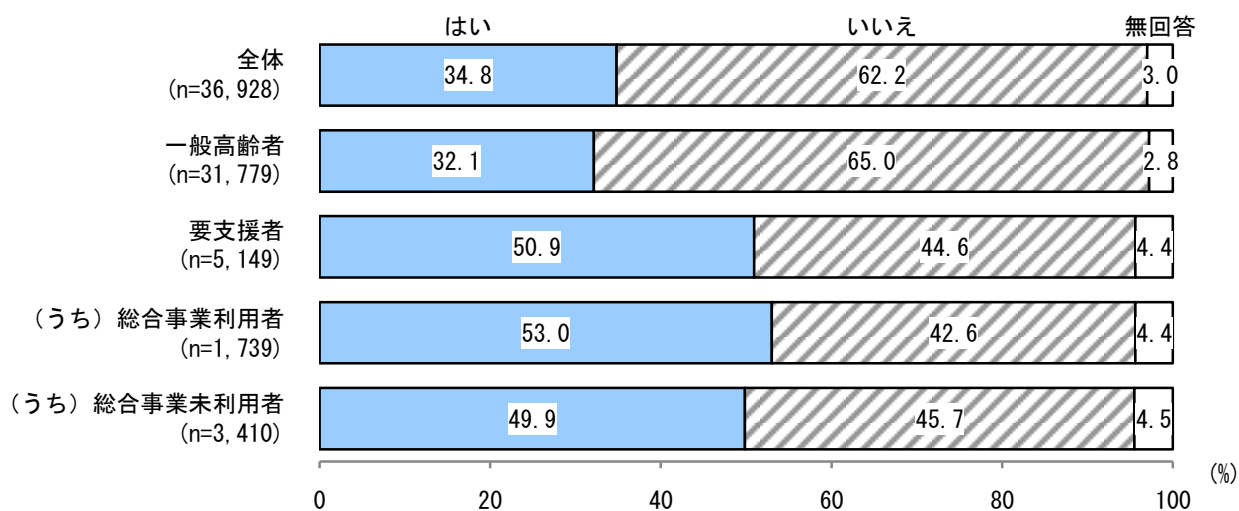


③ 口の渇きが気になること

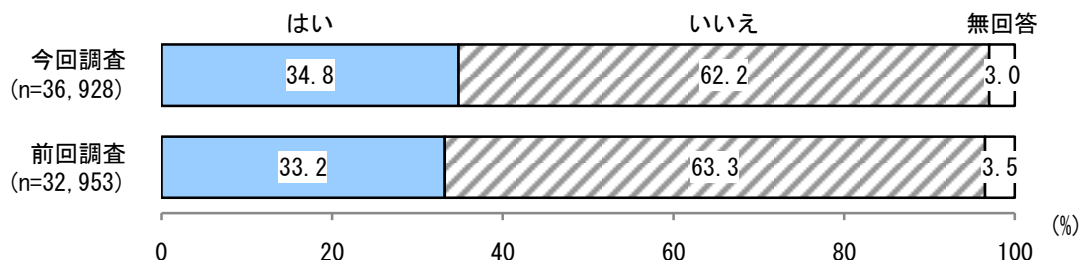
問 口の渇きが気になりますか。(○はひとつ)

口の渇きが気になる(「はい」と回答している)人は、3割強(34.8%)となっている。
認定状況別でみると、口の渇きが気になる人の割合は要支援者で約5割(50.9%)となっ
ている。(図4-2-3)

【図4-2-3 口の渇きが気になること】

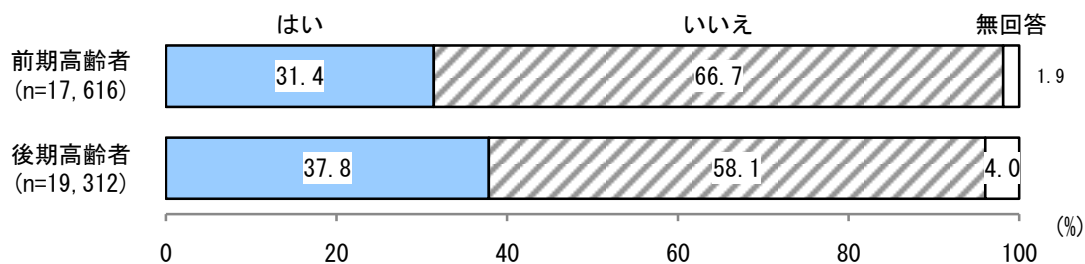


【参考 口の渇きが気になること(経年比較)】



年齢別でみると、口の渇きが気になる人の割合は前期高齢者が31.4%、後期高齢者が37.8%となっている。(図4-2-3-1)

【図4-2-3-1 年齢別 口の渇きが気になること】



(3) 口腔ケアの状況

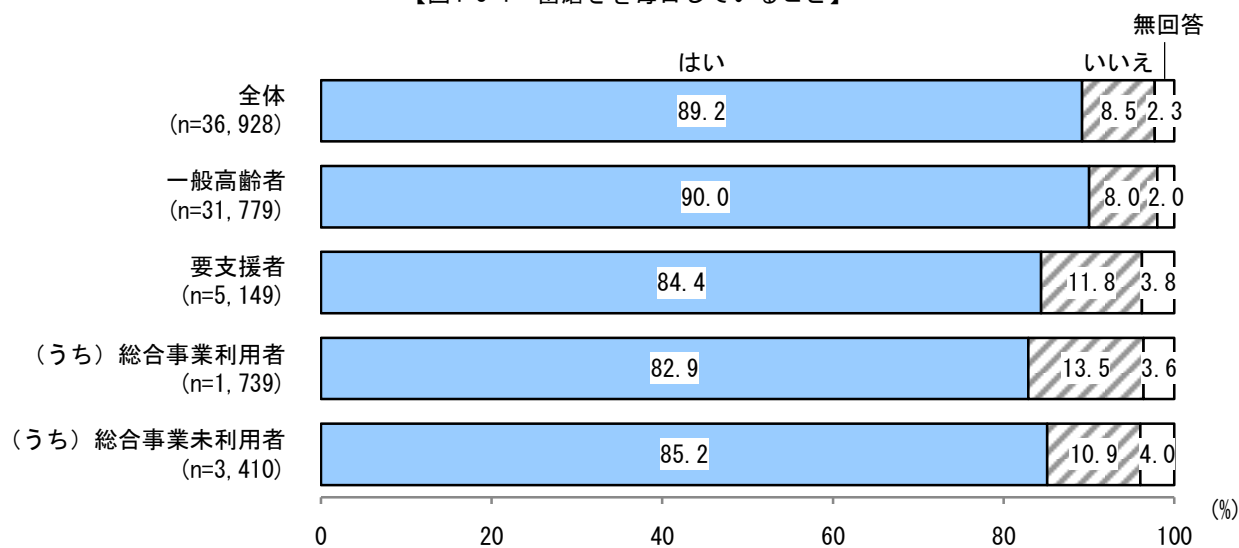
① 歯磨きを毎日していること

問 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（○はひとつ）

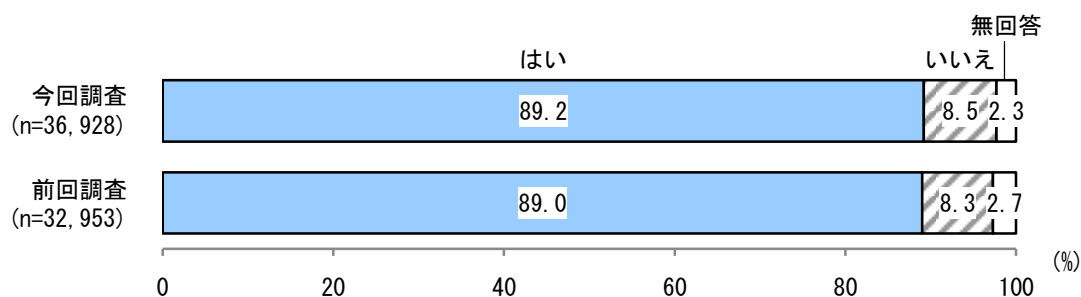
歯磨きを毎日している（「はい」と回答している）人は、約9割（89.2%）となっている。

認定状況別でみると、歯磨きを毎日している人の割合は要支援者（84.4%）でやや低くなっている。（図4-3-1）

【図4-3-1 歯磨きを毎日していること】

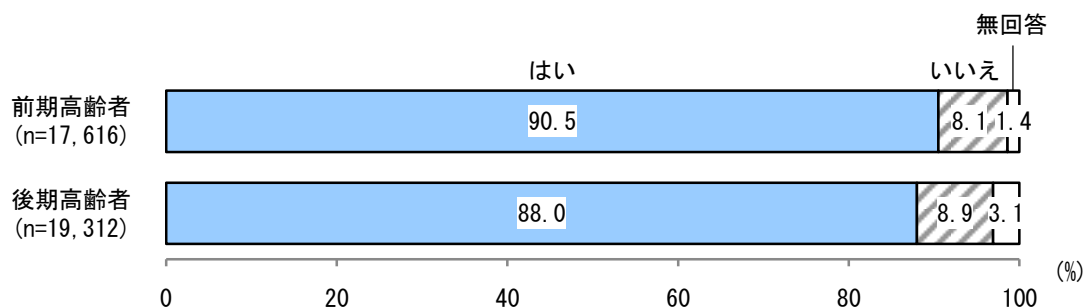


【参考 歯磨きを毎日していること（経年比較）】



年齢別でみると、歯磨きを毎日している人の割合は前期高齢者が90.5%、後期高齢者が88.0%となっている。（図4-3-1-1）

【図4-3-1-1 年齢別 歯磨きを毎日していること】



② 歯の数と入れ歯の利用状況

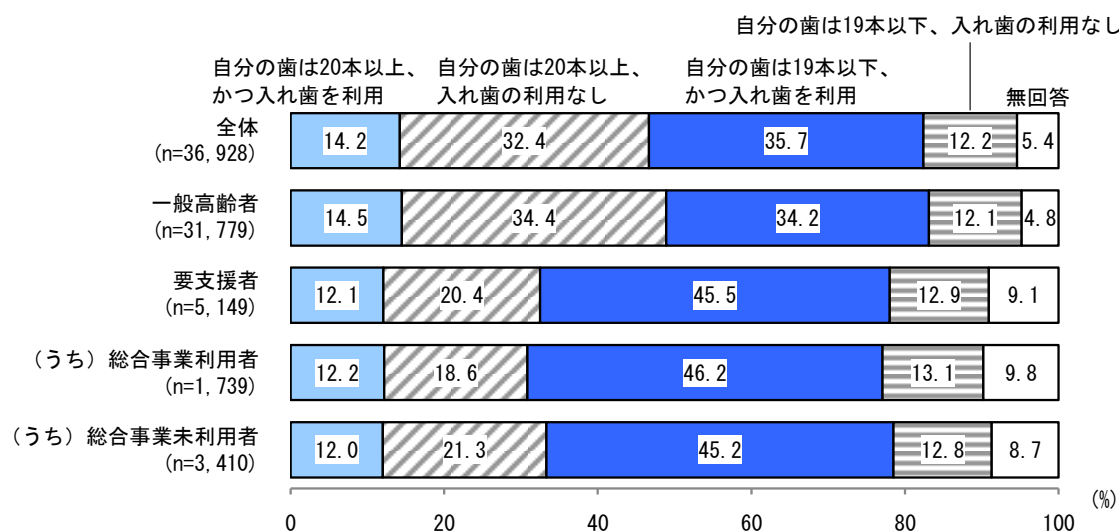
問 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)(○はひとつ)

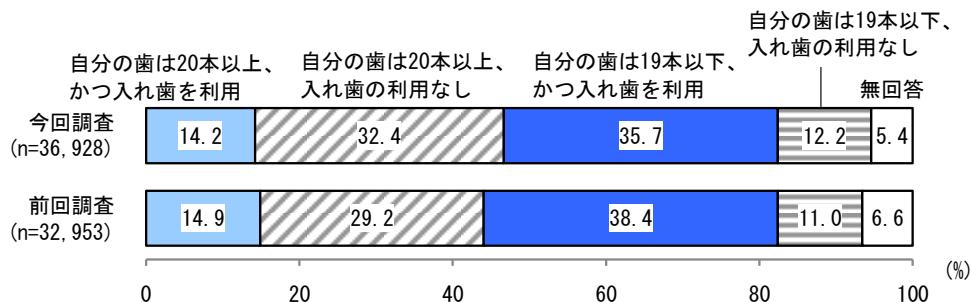
歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が35.7%で最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が32.4%となっている。

認定状況別でみると、要支援者は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が5割弱(45.5%)を占めている。(図4-3-2)

【図4-3-2 歯の数と入れ歯の利用状況】

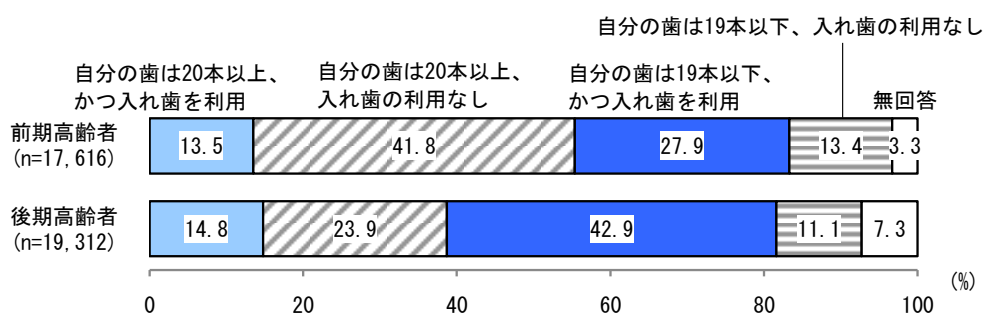


【参考 歯の数と入れ歯の利用状況(経年比較)】



年齢別でみると、前期高齢者は「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が41.8%で最も多く、後期高齢者は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が42.9%で最も多くなっている。(図4-3-2-1)

【図4-3-2-1 年齢別 歯の数と入れ歯の利用状況】

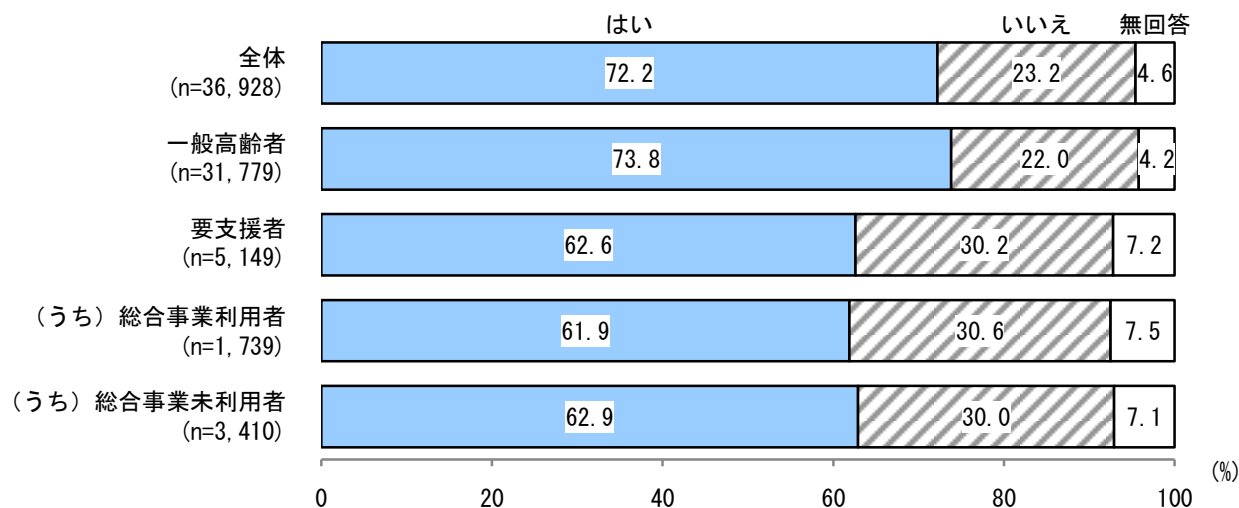


③ 噛み合わせが良いこと

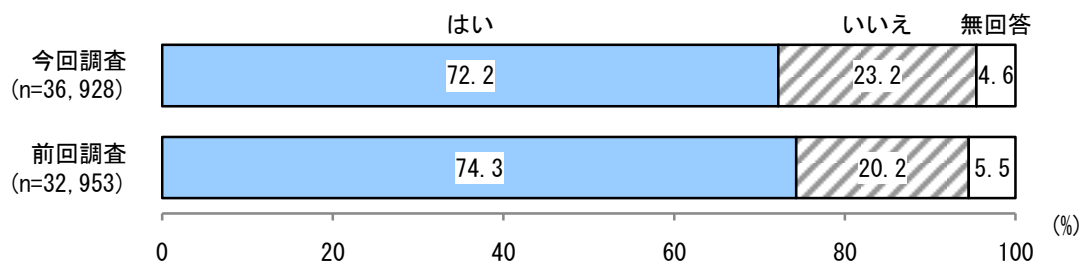
問 ① 噛み合わせは良いですか。(○はひとつ)

噛み合わせは良い(「はい」と回答している)人は、約7割(72.2%)となっている。
認定状況別でみると、要支援者で噛み合わせは良い人は約6割(62.6%)となっている。
(図4-3-3)

【図4-3-3 噛み合わせが良いこと】

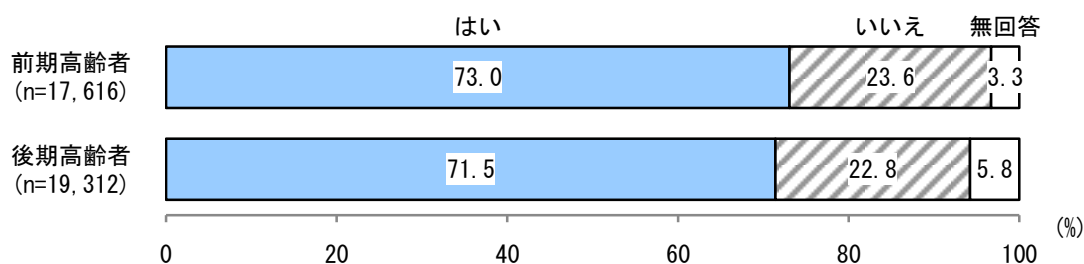


【参考 噛み合わせが良いこと (経年比較)】



年齢別でみると、噛み合わせの良い人は、前期高齢者では73.0%、後期高齢者では71.5%となっている。(図4-3-3-1)

【図4-3-3-1 年齢別 噛み合わせが良いこと】



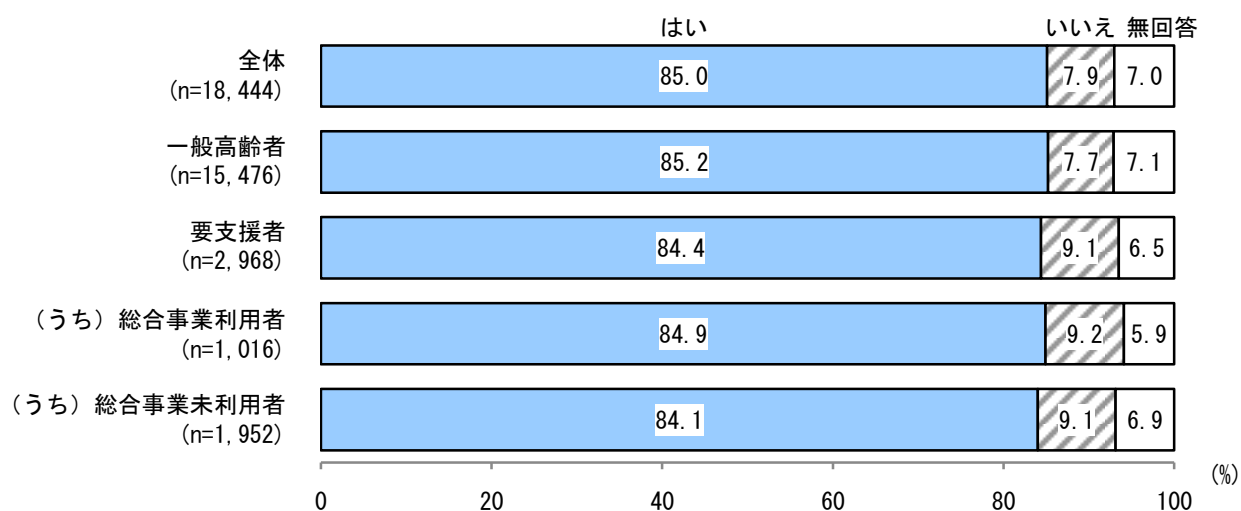
④ 毎日入れ歯の手入れをしていること

【「1 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答された方におうかがいします】

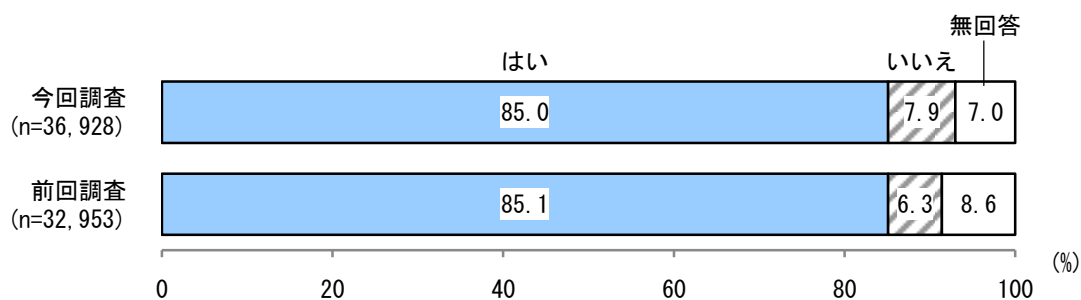
問 ②毎日入れ歯の手入れをしていますか。(○はひとつ)

入れ歯を利用していると回答した人に、毎日入れ歯の手入れをしているかをたずねると、毎日入れ歯の手入れをしている(「はい」と回答している)人は85.0%となっている。(図4-3-4)

【図4-3-4 毎日入れ歯の手入れをしていること】

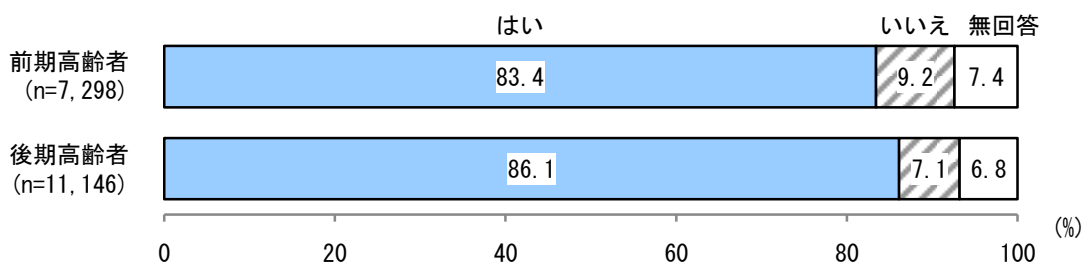


【参考 毎日入れ歯の手入れをしていること (経年比較)】



年齢別でみると、毎日入れ歯の手入れをしている人は、前期高齢者では83.4%、後期高齢者では86.1%となっている。(図4-3-4-1)

【図4-3-4-1 年齢別 毎日入れ歯の手入れをしていること】

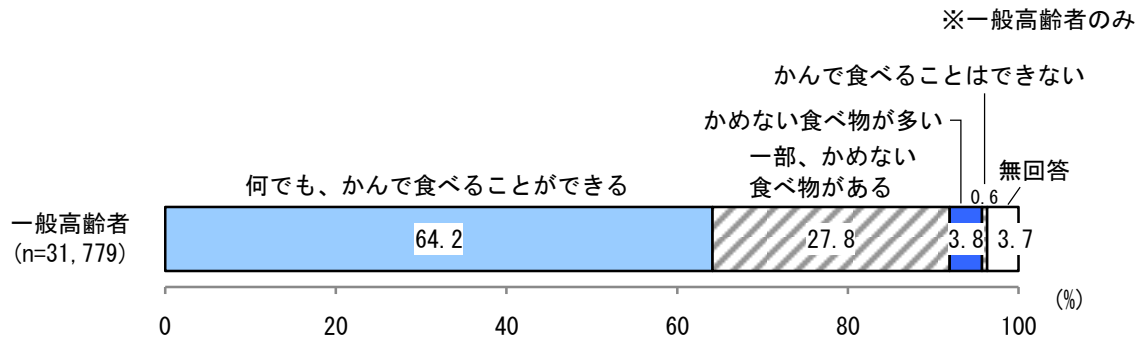


(4) かんで食べる時の状態

問 あなたはかんで食べる時の状態は、次のどれに当てはまりますか。(○はひとつ)

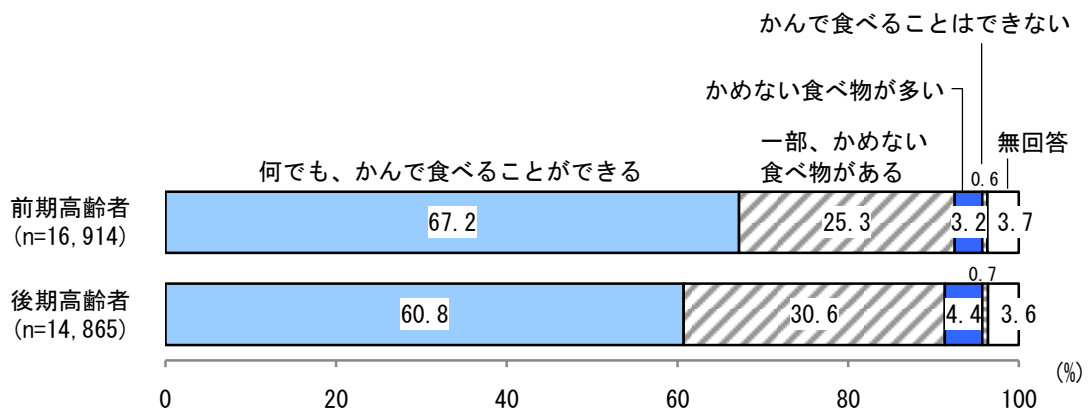
かんで食べる時の状態については、「何でも、かんで食べることができる」が64.2%で最も多く、次いで「一部、かめない食べ物がある」が27.8%となっている。(図4-4)

【図4-4 かんで食べる時の状態】



年齢別でみると、「何でも、かんで食べることができる」の割合は、前期高齢者では67.2%、後期高齢者では60.8%となっている。(図4-4-1)

【図4-4-1 年齢別 かんで食べる時の状態】



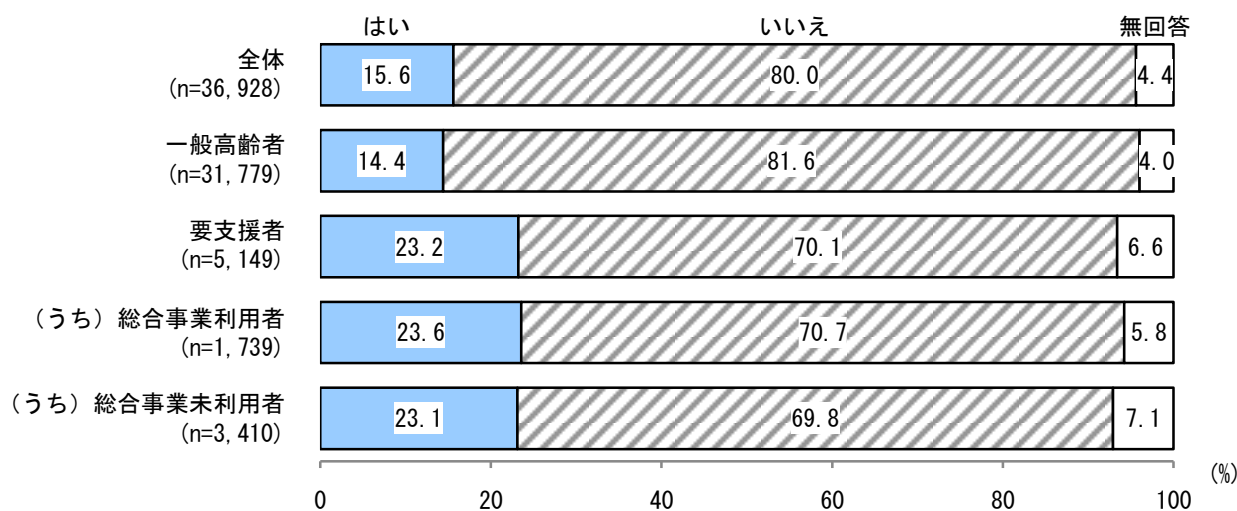
(5) 体重減少の有無

問 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○はひとつ)

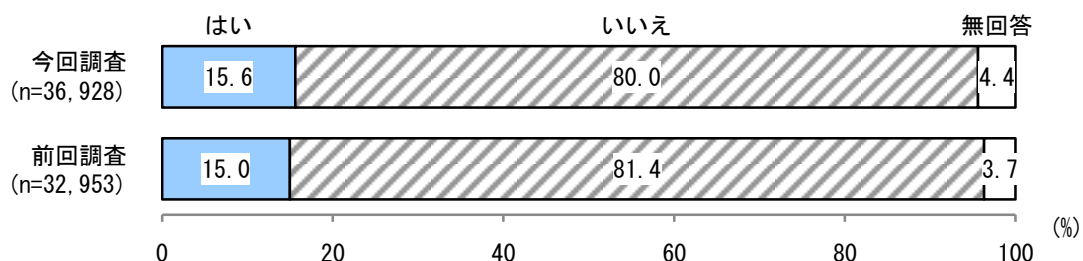
6か月間で2～3kg以上の体重減少があった(「はい」と回答している)人は1割強(15.6%)となっている。

認定状況別でみると、体重減少があった人は要支援で2割強(23.2%)となっている。(図4-5)

【図4-5 体重減少の有無】

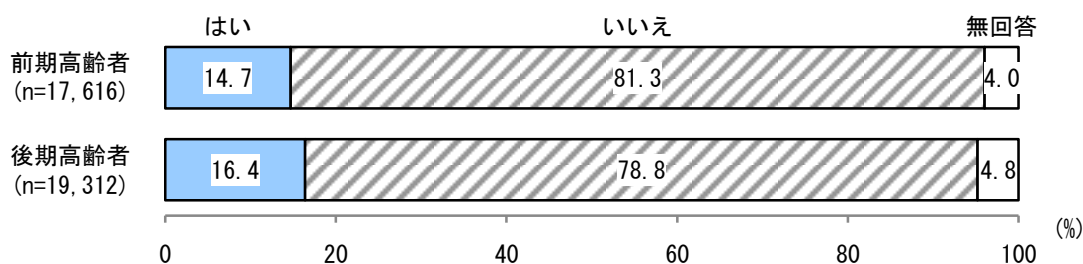


【参考 体重減少の有無(経年比較)】



年齢別でみると、体重減少があった人は、前期高齢者では14.7%、後期高齢者では16.4%となっている。(図4-5-1)

【図4-5-1 年齢別 体重減少の有無】



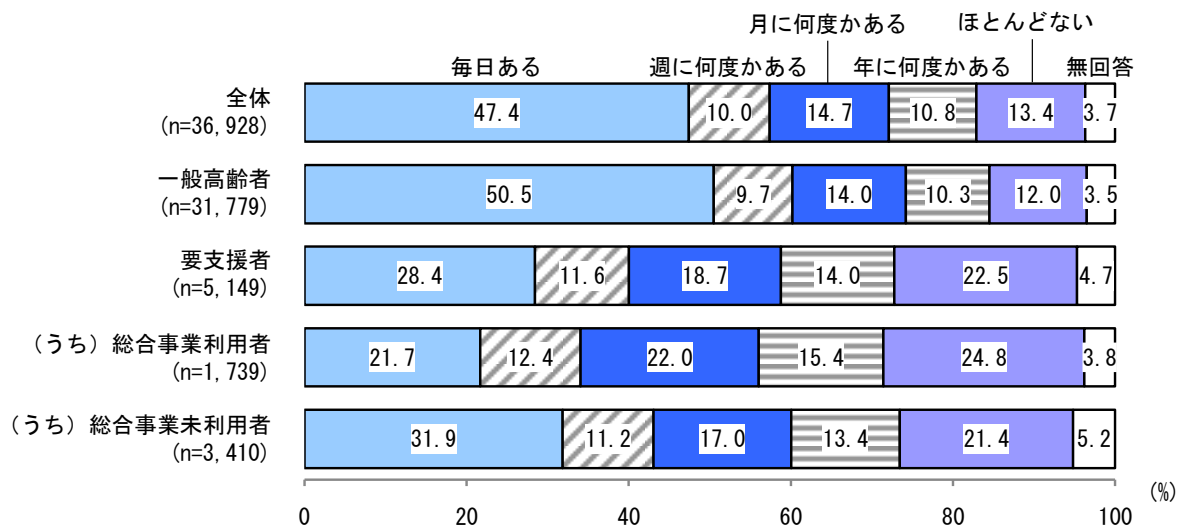
(6) 共食の状況

問 なたかと食事をとにもする機会有りますか。(○はひとつ)

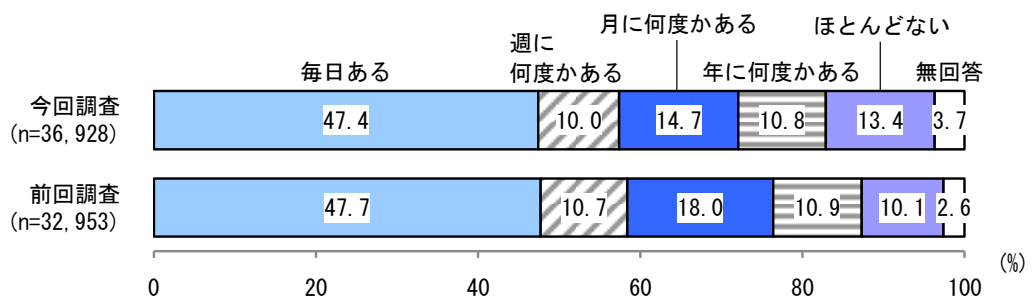
誰かと食事をとにもする機会については、「毎日ある」は47.4%で最も多く、『月に数回以下』（「月に何度がある」「年に何度がある」「ほとんどない」の合計）は約4割（38.9%）となっている。

認定状況別でみると、「毎日ある」の割合は要支援者で3割弱（28.4%）と低くなっている。（図4-6）

【図4-6 共食の状況】

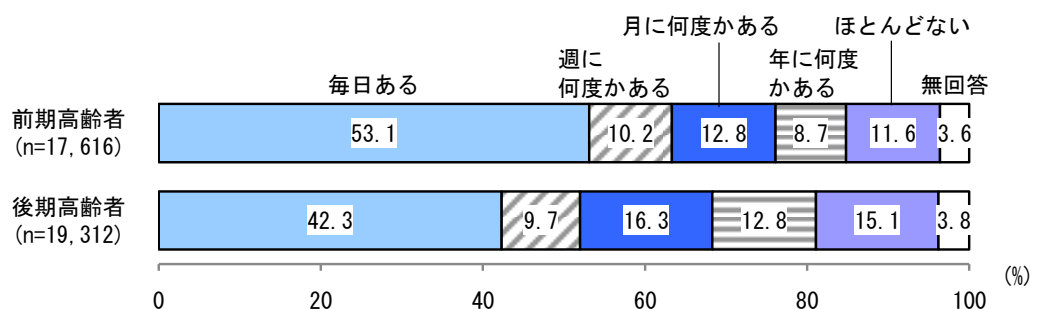


【参考 共食の状況（経年比較）】



年齢別でみると、『月に数回以下』の人は、前期高齢者では33.1%、後期高齢者では44.2%となっている。（図4-6-1）

【図4-6-1 年齢別 共食の状況】



5 毎日の生活について

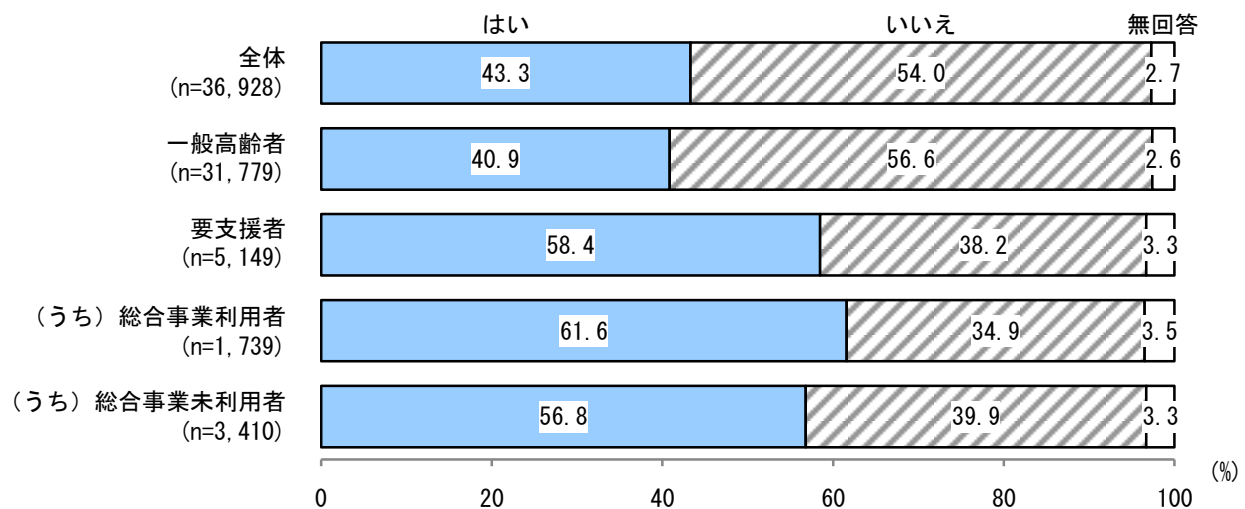
(1) 認知機能の状況

① 物忘れが多いと感じること

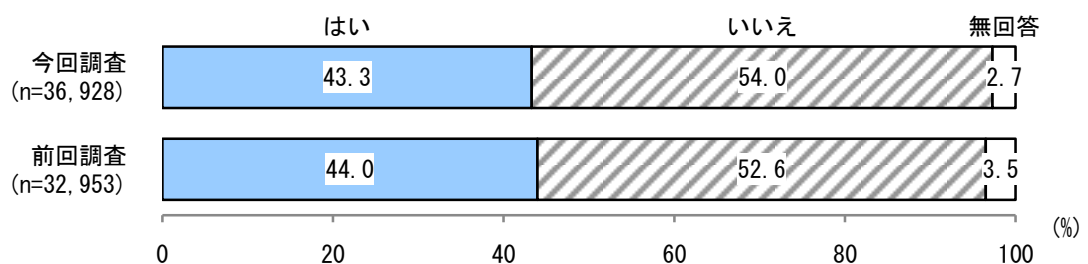
問 物忘れが多いと感じますか。(○はひとつ)

物忘れが多いと感じる(「はい」と回答している)人は4割台(43.3%)となっている。
認定状況別でみると、物忘れが多いと感じる人は要支援者で6割弱(58.4%)となっている。
(図5-1-1)

【図5-1-1 物忘れが多いと感じること】

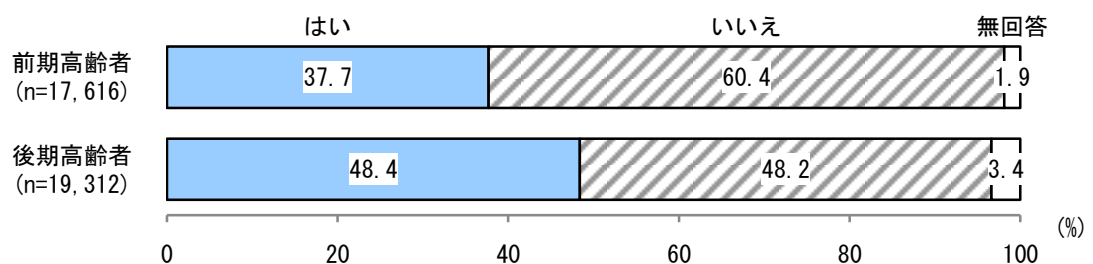


【参考 物忘れが多いと感じること (経年比較)】



年齢別でみると、物忘れが多いと感じる人は、前期高齢者では37.7%、後期高齢者では48.4%となっている。(図5-1-1-1)

【図5-1-1-1 年齢別 物忘れが多いと感じること】



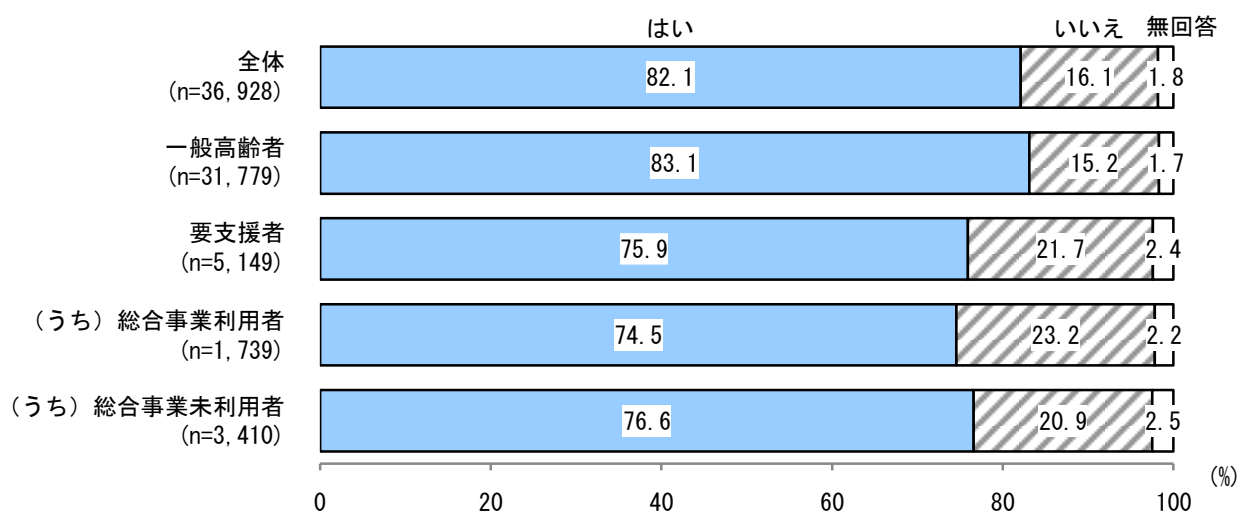
② 自分で電話番号を調べて、電話をかけること

問 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(〇はひとつ)

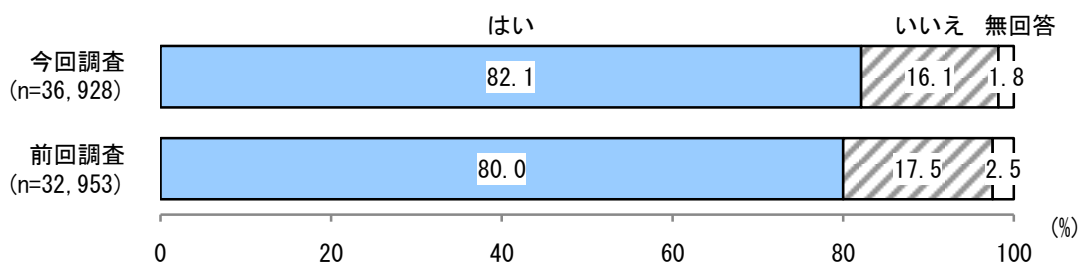
自分で電話番号を調べて、電話をかける(「はい」と回答している)人は8割強(82.1%)となっている。

認定状況別でみると、自分で電話番号を調べて、電話をかける人は要支援者で8割弱(75.9%)となっている。(図5-1-2)

【図5-1-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけること】

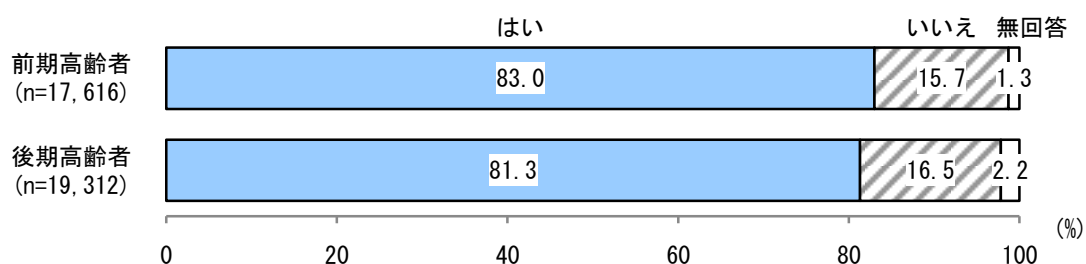


【参考 自分で電話番号を調べて、電話をかけること (経年比較)】



年齢別でみると、自分で電話番号を調べて、電話をかける人は、前期高齢者では83.0%、後期高齢者では81.3%となっている。(図5-1-2-1)

【図5-1-2-1 年齢別 自分で電話番号を調べて、電話をかけること】



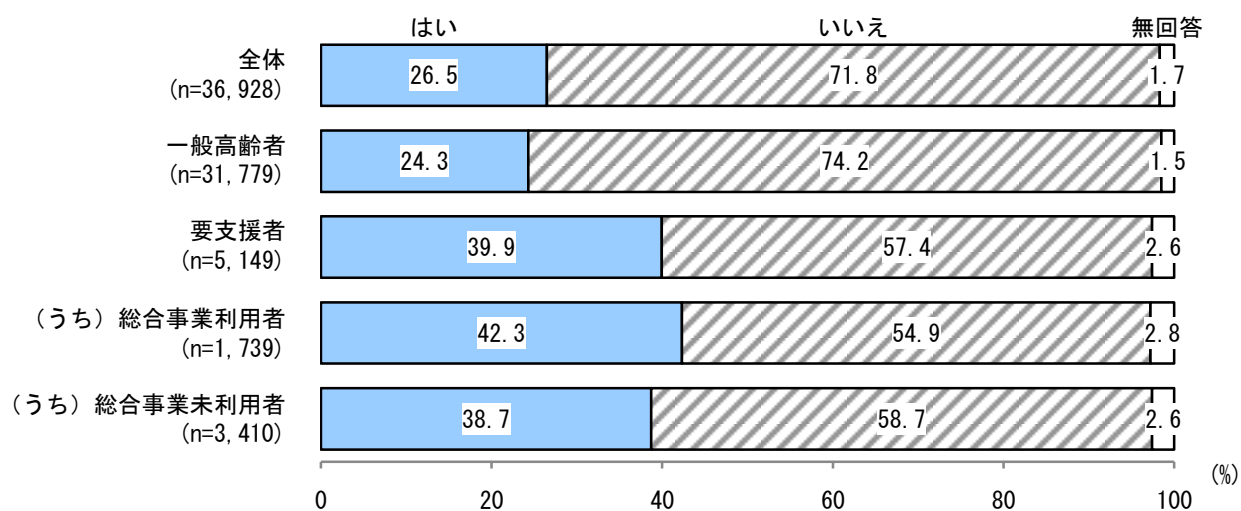
③ 今日が何月何日かわからない時があること

問 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○はひとつ)

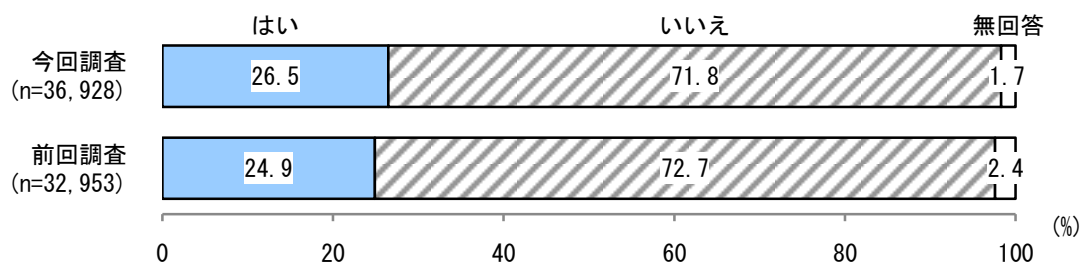
今日が何月何日かわからない時がある(「はい」と回答している)人は3割弱(26.5%)となっている。

認定状況別でみると、今日が何月何日かわからない時がある人は要支援者で4割弱(39.9%)となっている。(図5-1-3)

【図5-1-3 今日が何月何日かわからない時があること】

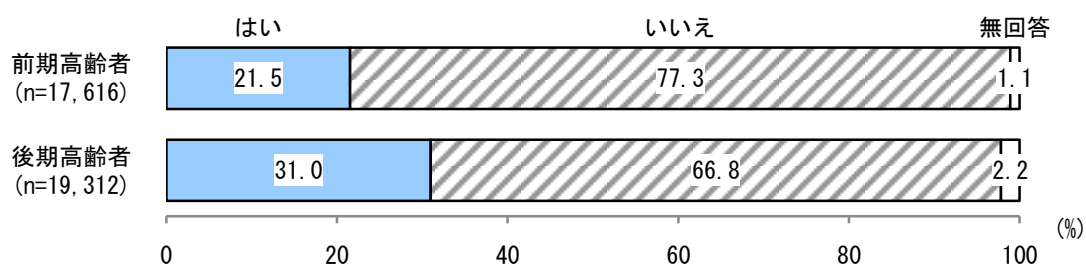


【参考 今日が何月何日かわからない時があること(経年比較)】



年齢別でみると、今日が何月何日かわからない時がある人は、前期高齢者では21.5%、後期高齢者では31.0%となっている。(図5-1-3-1)

【図5-1-3-1 年齢別 今日が何月何日かわからない時があること】



(2) 手段的日常生活動作の状況

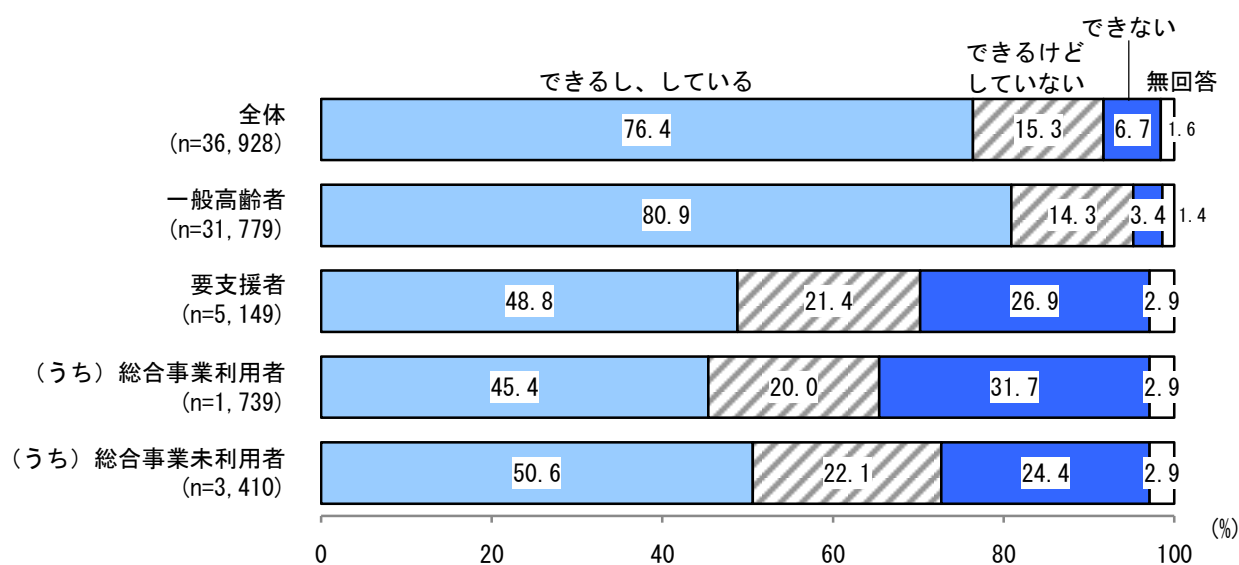
① バスや電車を使って1人で外出すること

問 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)(○はひとつ)

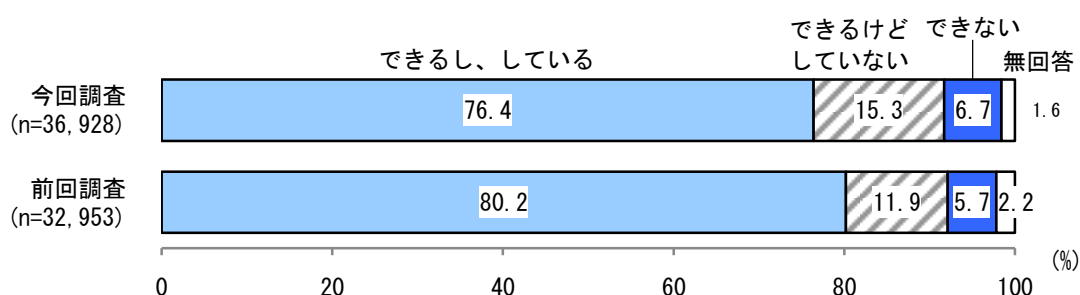
1人での外出が「できない」は6.7%、「できるけどしていない」は15.3%で、両者をあわせた1人で外出していない人は合計22.0%となっている。

認定状況別でみると、1人で外出していない人は要支援者で約半数(48.3%)を占めている。(図5-2-1)

【図5-2-1 バスや電車を使って1人で外出すること】

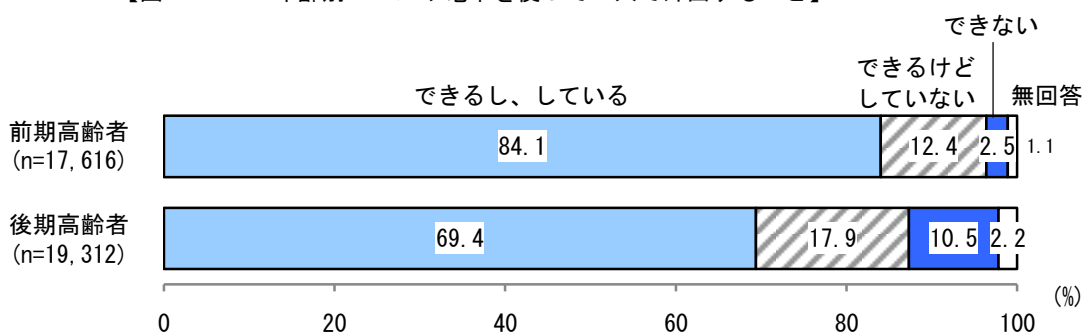


【参考 バスや電車を使って1人で外出すること(経年比較)】



年齢別でみると、1人で外出していない人は、前期高齢者では14.9%、後期高齢者では28.4%となっている。(図5-2-1-1)

【図5-2-1-1 年齢別 バスや電車を使って1人で外出すること】



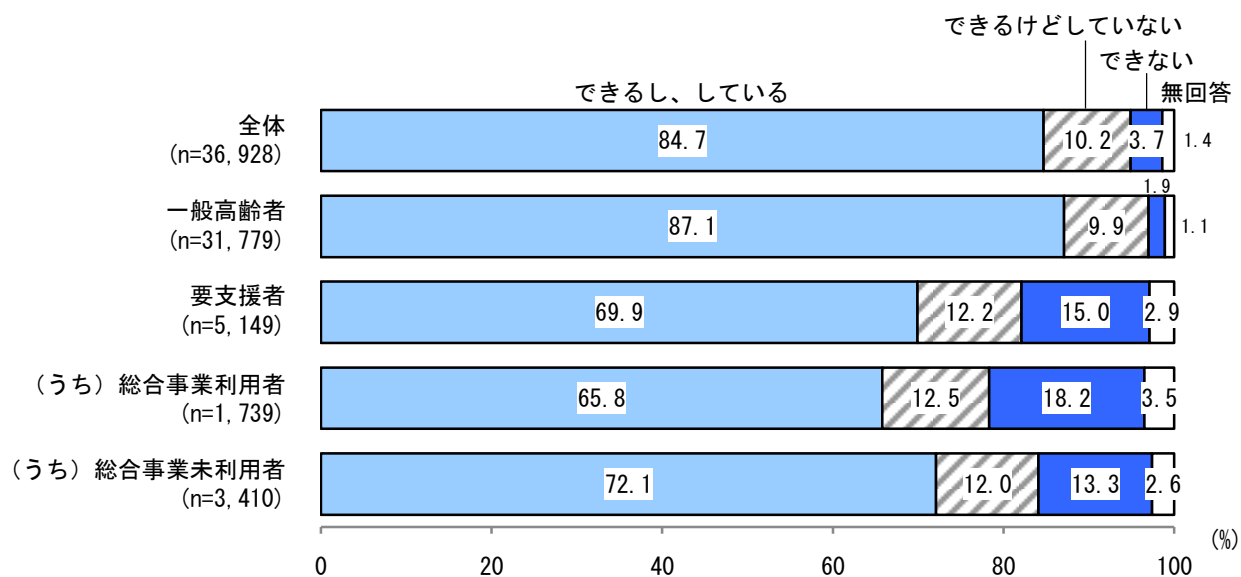
② 自分で食品・日用品の買物をする事

問 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○はひとつ)

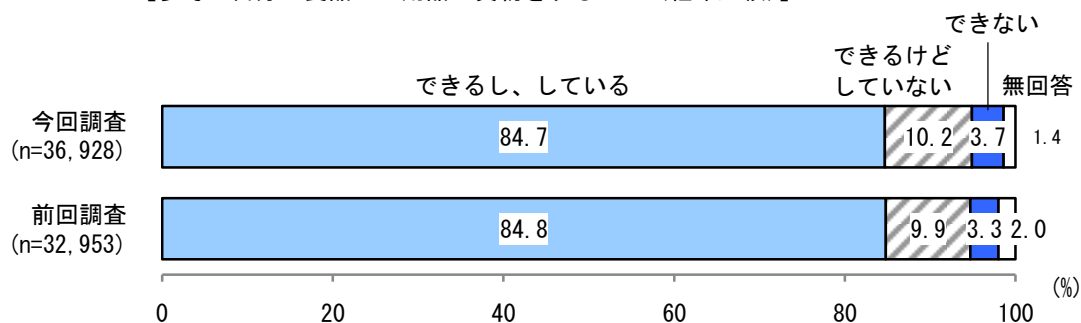
自分で食品・日用品の買物が「できない」は3.7%、「できるけどしていない」は10.2%で、両者をあわせた自分で食品・日用品の買物をしていない人は合計13.9%となっている。

認定状況別でみると、自分で食品・日用品の買物をしていない人は要支援者で3割弱(27.2%)となっている。(図5-2-2)

【図5-2-2 自分で食品・日用品の買物をする事】

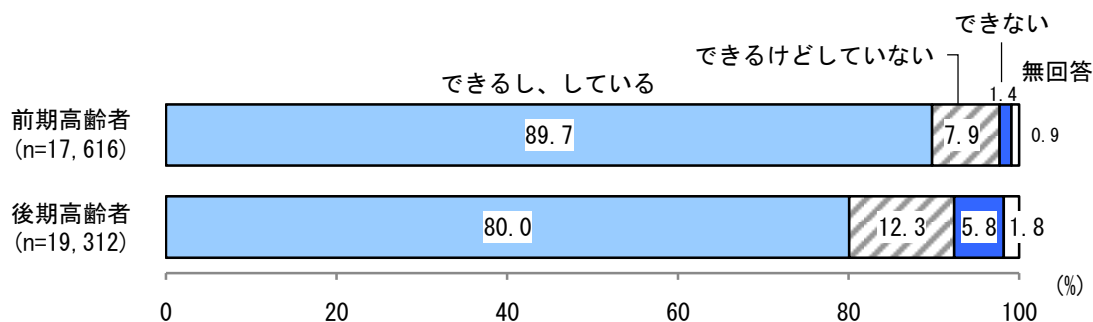


【参考 自分で食品・日用品の買物をする事 (経年比較)】



年齢別でみると、自分で食品・日用品の買物をしていない人は、前期高齢者では9.3%、後期高齢者では18.1%となっている。(図5-2-2-1)

【図5-2-2-1 年齢別 自分で食品・日用品の買物をする事】



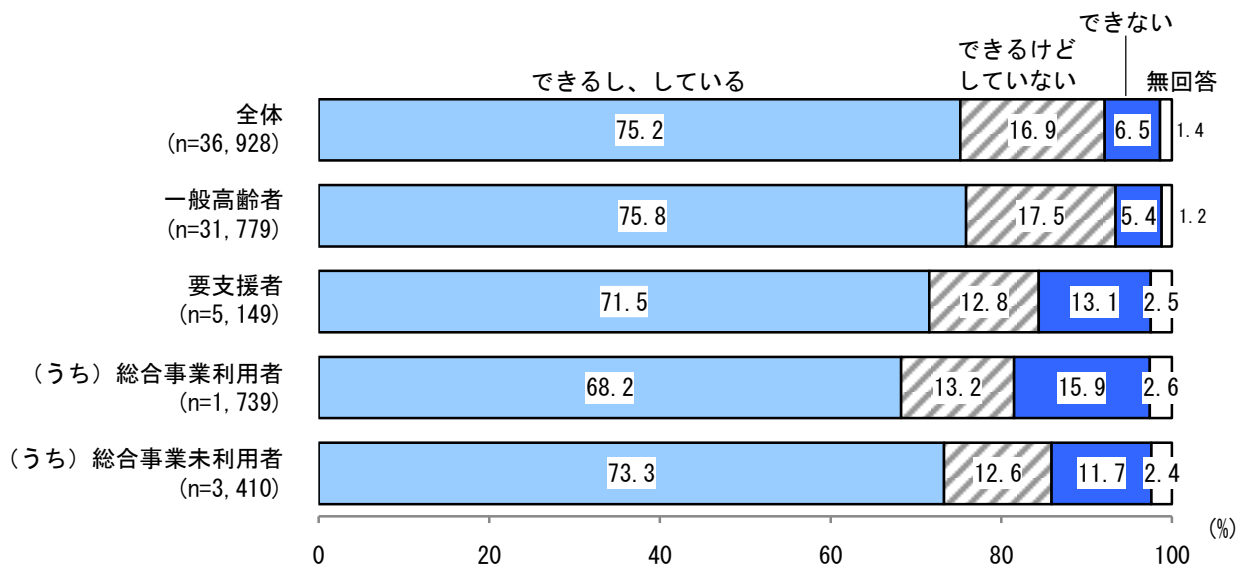
③ 自分で食事の用意をすること

問 自分で食事の用意をしていますか。(○はひとつ)

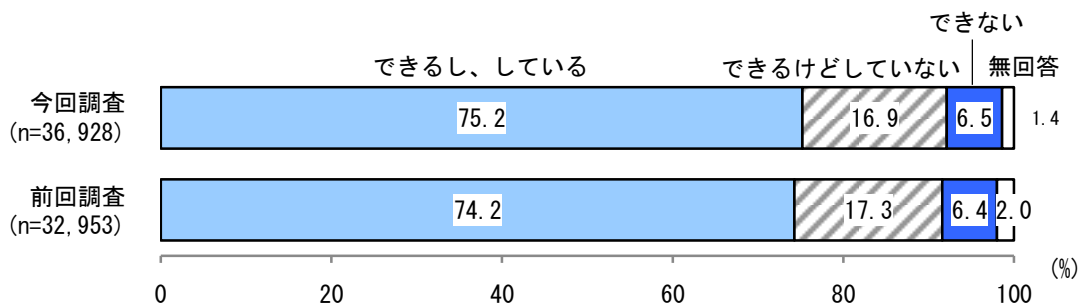
自分で食事の用意が「できない」は6.5%、「できるけどしていない」は16.9%で、両者をあわせた自分で食事の用意をしていない人は合計23.4%となっている。

認定状況別でみると、自分で食事の用意をしていない人は要支援者で2割台（25.9%）となっている。（図5-2-3）

【図5-2-3 自分で食事の用意をすること】

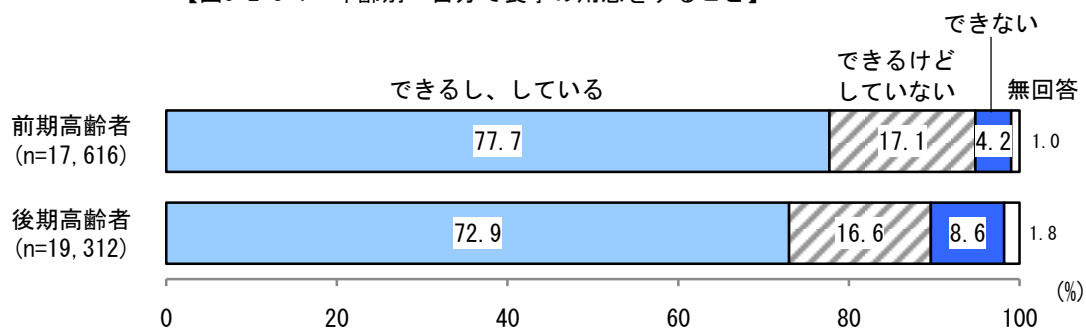


【参考 自分で食事の用意をすること (経年比較)】



年齢別でみると、自分で食事の用意をしていない人は、前期高齢者では21.3%、後期高齢者では25.2%となっている。（図5-2-3-1）

【図5-2-3-1 年齢別 自分で食事の用意をすること】



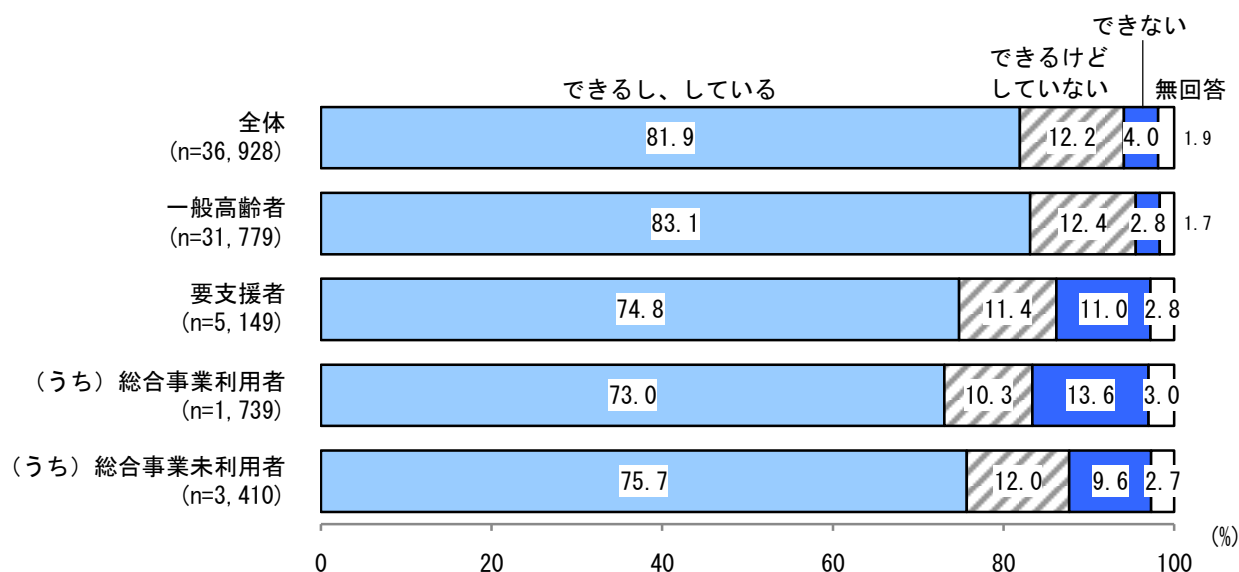
④ 自分で請求書の支払いをすること

問 自分で請求書の支払いをしていますか。(○はひとつ)

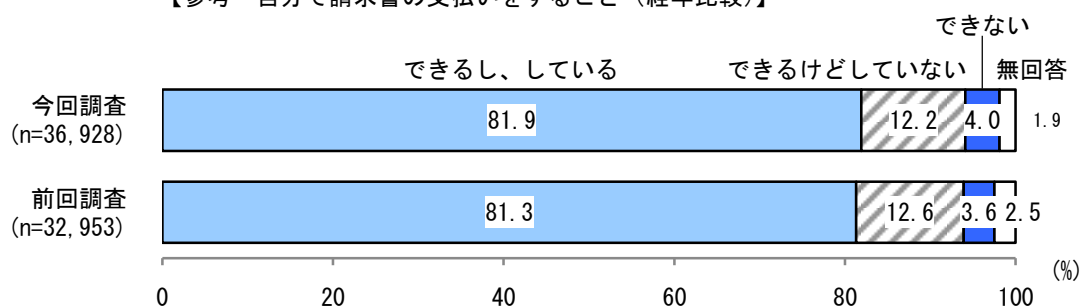
自分で請求書の支払いが「できない」は4.0%、「できるけどしていない」は12.2%で、両者をあわせた自分で請求書の支払いをしていない人は合計16.2%となっている。

認定状況別でみると、自分で請求書の支払いをしていない人は要支援者で2割強(22.4%)となっている。(図5-2-4)

【図5-2-4 自分で請求書の支払いをすること】

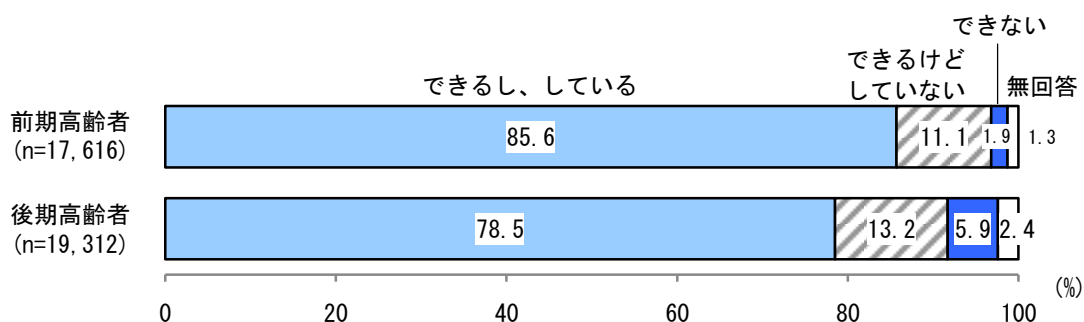


【参考 自分で請求書の支払いをすること (経年比較)】



年齢別でみると、自分で請求書の支払いをしていない人は、前期高齢者では13.0%、後期高齢者では19.1%となっている。(図5-2-4-1)

【図5-2-4-1 年齢別 自分で請求書の支払いをすること】



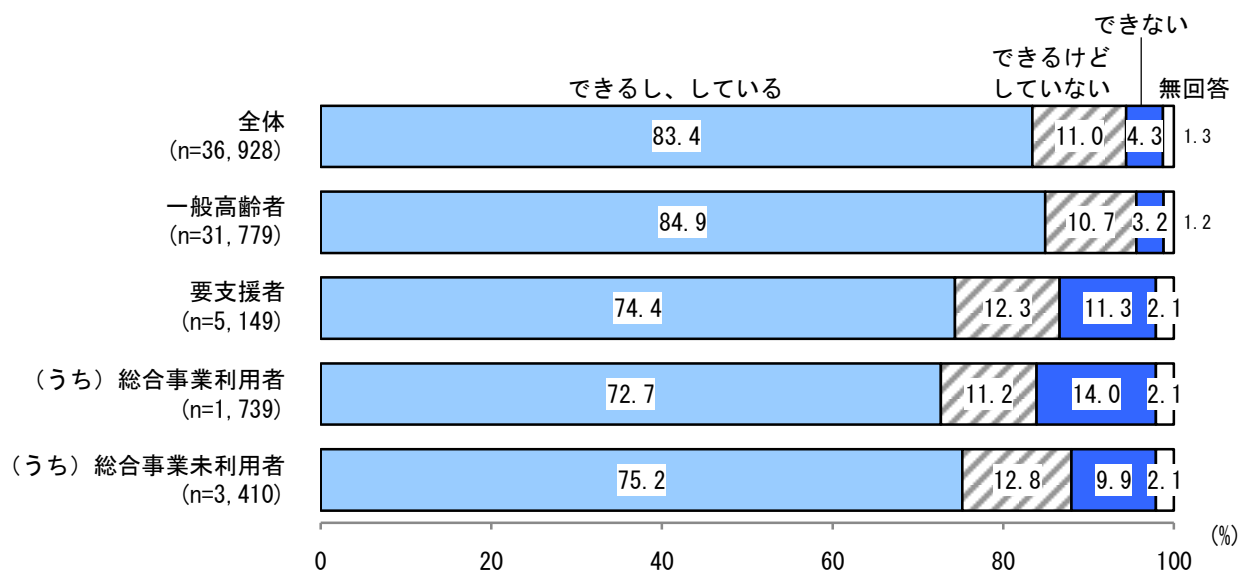
⑤ 自分で預貯金の出し入れをすること

問 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○はひとつ)

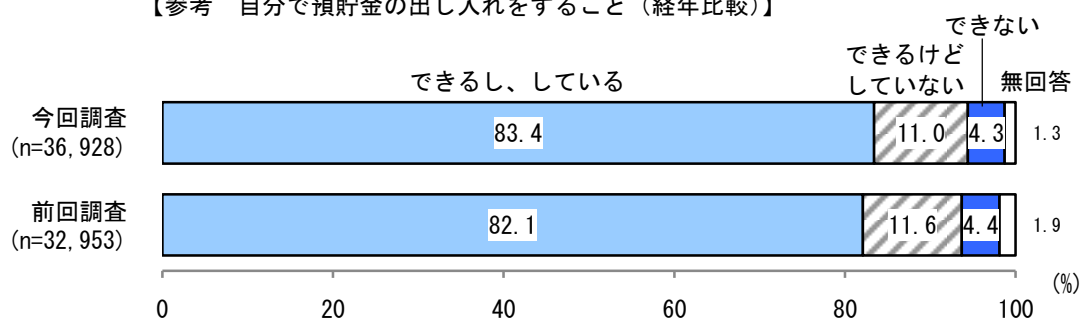
自分で預貯金の出し入れが「できない」は4.3%、「できるけどしていない」は11.0%で、両者をあわせた自分で預貯金の出し入れをしていない人は合計15.3%となっている。

認定状況別でみると、自分で預貯金の出し入れをしていない人は要支援者で2割強(23.6%)となっている。(図5-2-5)

【図5-2-5 自分で預貯金の出し入れをすること】

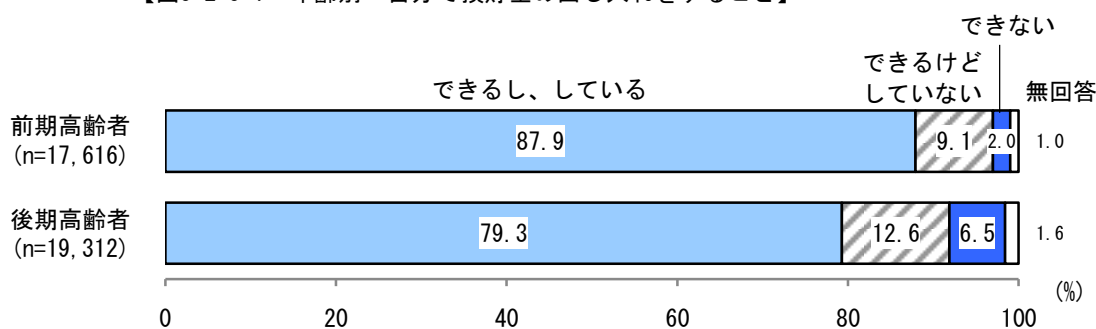


【参考 自分で預貯金の出し入れをすること (経年比較)】



年齢別でみると、自分で預貯金の出し入れをしていない人は、前期高齢者では11.1%、後期高齢者では19.1%となっている。(図5-2-5-1)

【図5-2-5-1 年齢別 自分で預貯金の出し入れをすること】



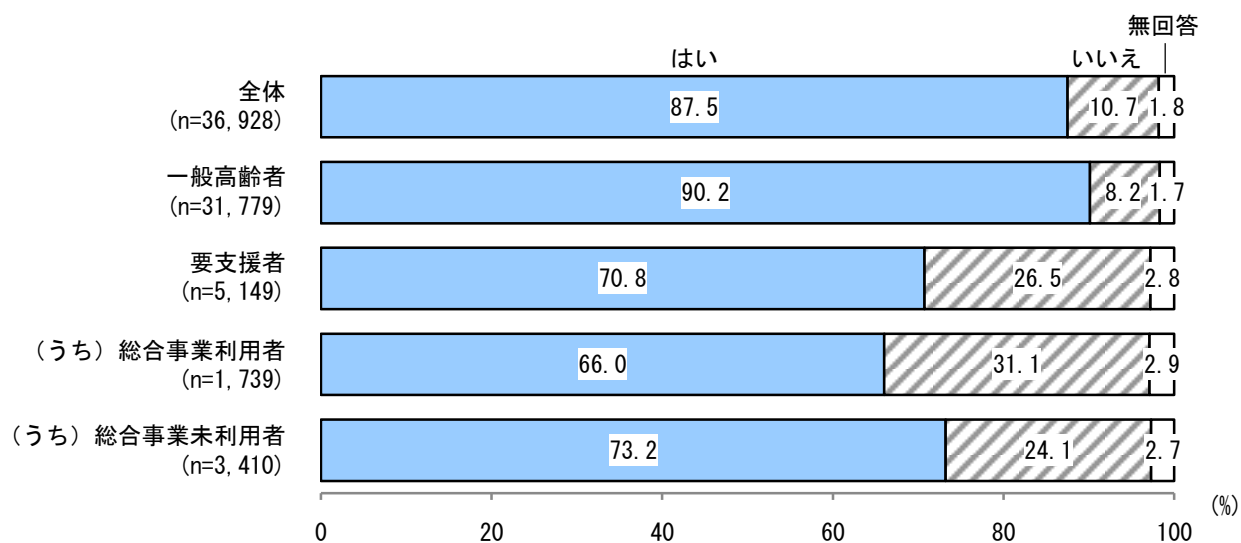
(3) 知的能動性の状況

① 年金などの書類が書けること

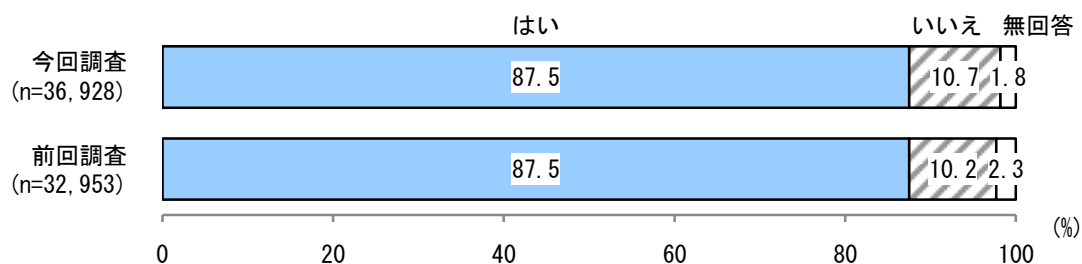
問 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。（○はひとつ）

年金などの書類が書ける（「はい」と回答している）人は9割弱（87.5%）となっている。
認定状況別でみると、年金などの書類が書ける人は要支援者で約7割（70.8%）となっている。（図5-3-1）

【図5-3-1 年金などの書類が書けること】

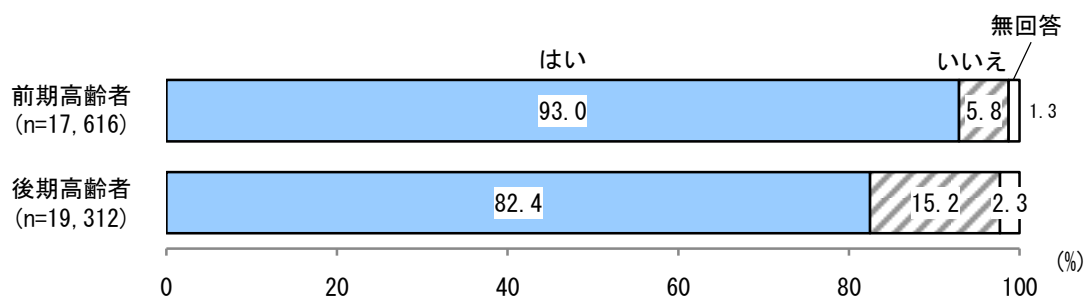


【参考 年金などの書類が書けること（経年比較）】



年齢別でみると、年金などの書類が書ける人は、前期高齢者では93.0%、後期高齢者では82.4%となっている。（図5-3-1-1）

【図5-3-1-1 年齢別 年金などの書類が書けること】

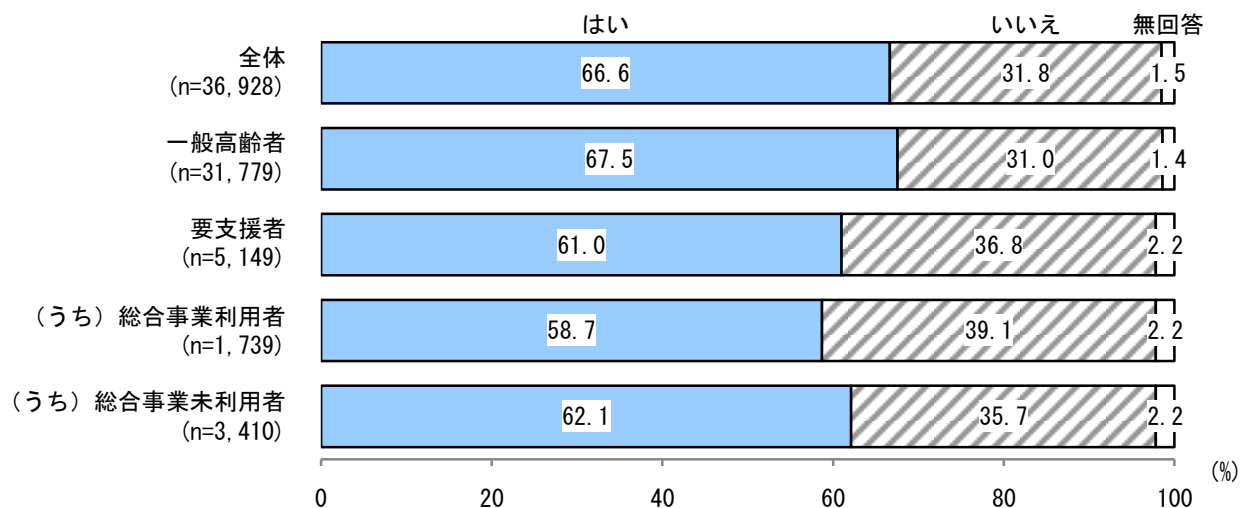


② 新聞を読んでいること

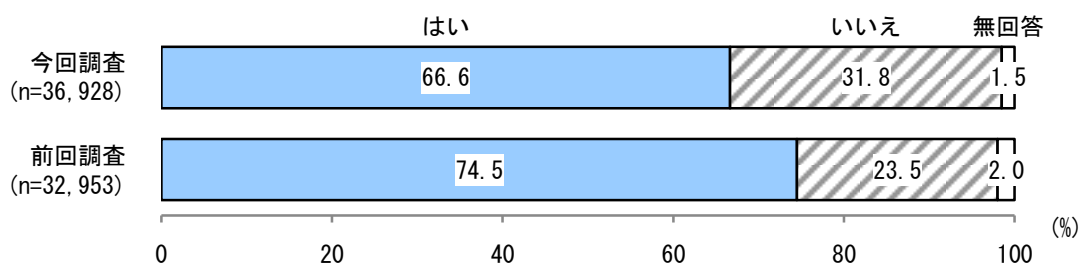
問 新聞を読んでいますか。(○はひとつ)

新聞を読んでいる(「はい」と回答している)人は6割台(66.6%)となっている。
認定状況別でみると、新聞を読んでいる人は要支援者で6割台(61.0%)となっている。
(図5-3-2)

【図5-3-2 新聞を読んでいること】

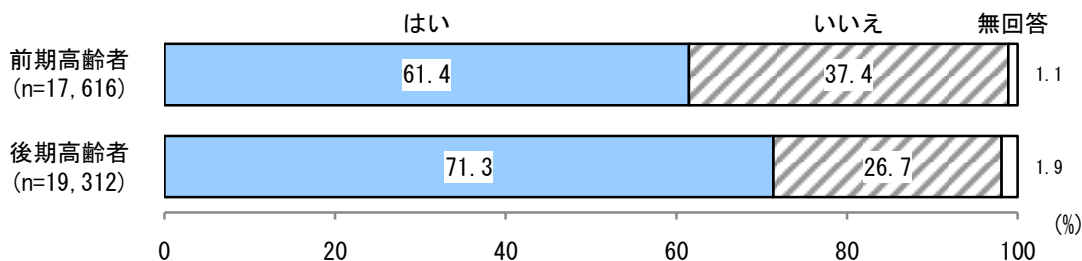


【参考 新聞を読んでいること (経年比較)】



年齢別でみると、新聞を読んでいる人は、前期高齢者では61.4%、後期高齢者では71.3%となっている。(図5-3-2-1)

【図5-3-2-1 年齢別 新聞を読んでいること】

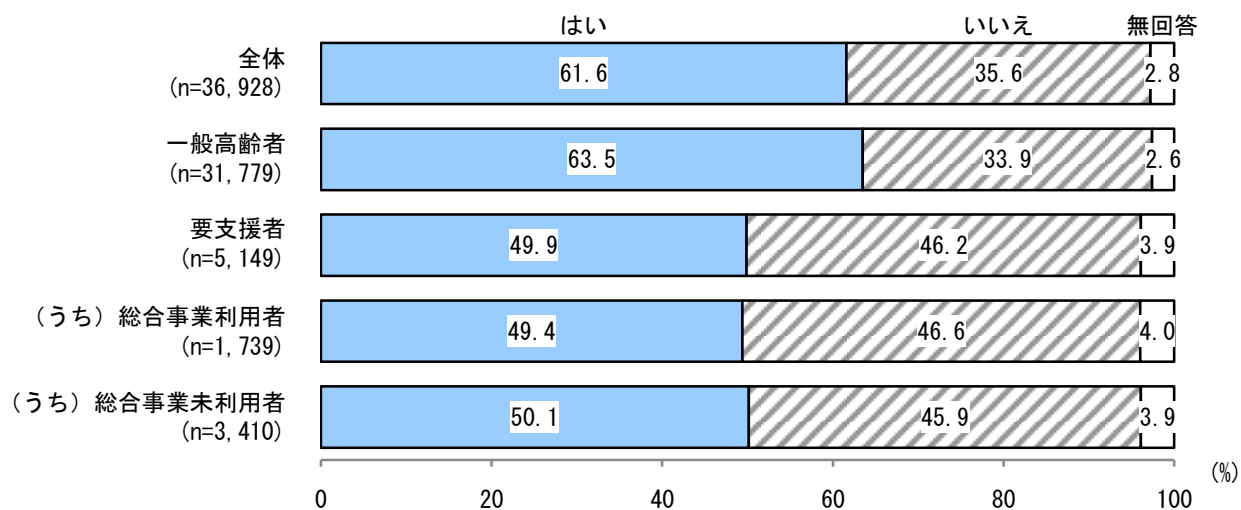


③ 本や雑誌を読んでいること

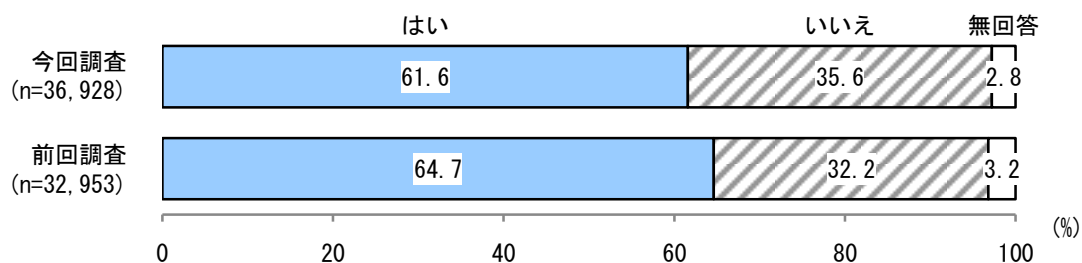
問 本や雑誌を読んでいますか。(〇はひとつ)

本や雑誌を読んでいる(「はい」と回答している)人は約6割(61.6%)となっている。
認定状況別でみると、本や雑誌を読んでいる人は要支援者で5割弱(49.9%)となっている。
(図5-3-3)

【図5-3-3 本や雑誌を読んでいること】

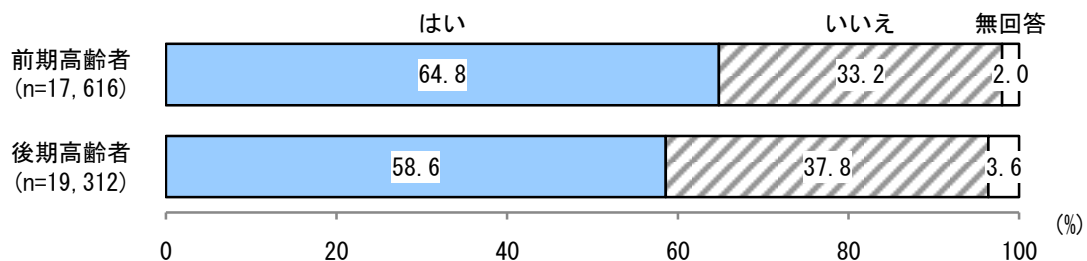


【参考 本や雑誌を読んでいること (経年比較)】



年齢別でみると、本や雑誌を読んでいる人は、前期高齢者では64.8%、後期高齢者では58.6%となっている。(図5-3-3-1)

【図5-3-3-1 年齢別 本や雑誌を読んでいること】



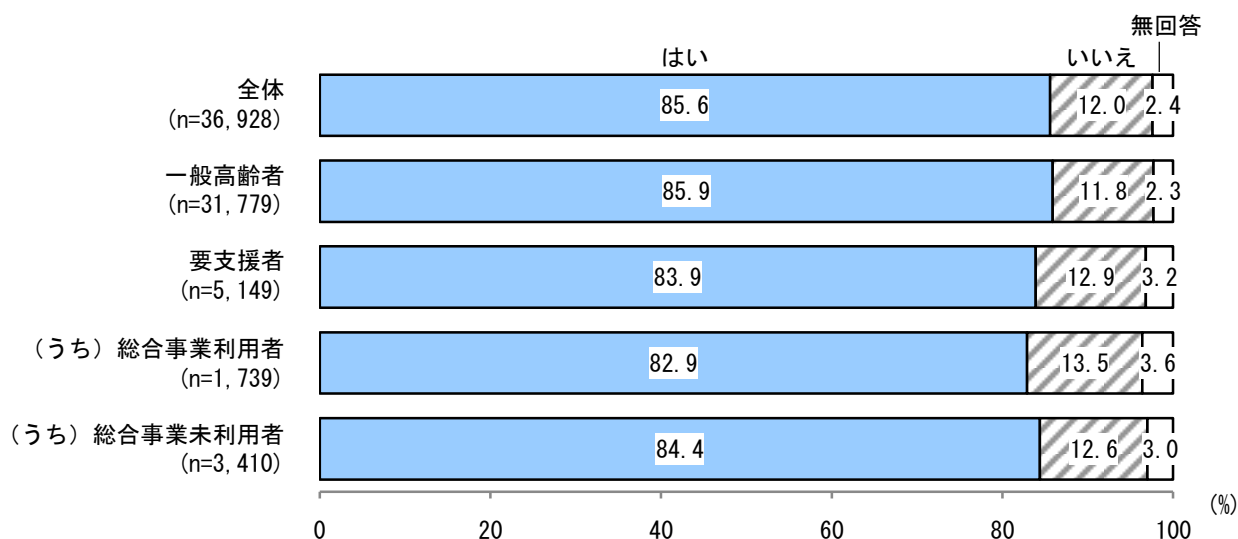
④ 健康についての記事や番組に関心があること

問 健康についての記事や番組に関心がありますか。(○はひとつ)

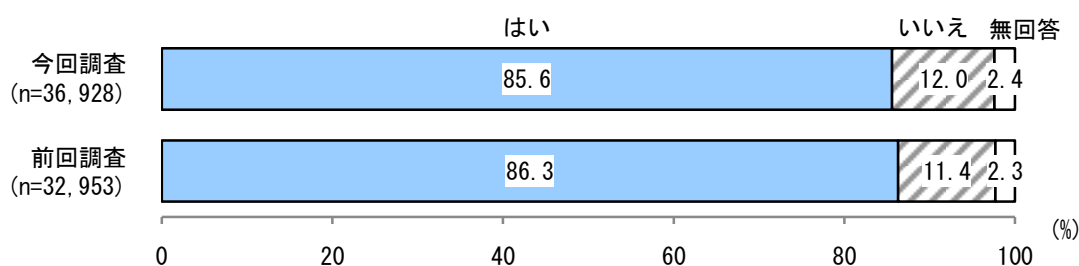
健康についての記事や番組に関心がある(「はい」と回答している)人は9割弱(85.6%)となっている。

認定状況別でも、大きな差はみられない。(図5-3-4)

【図5-3-4 健康についての記事や番組に関心があること】

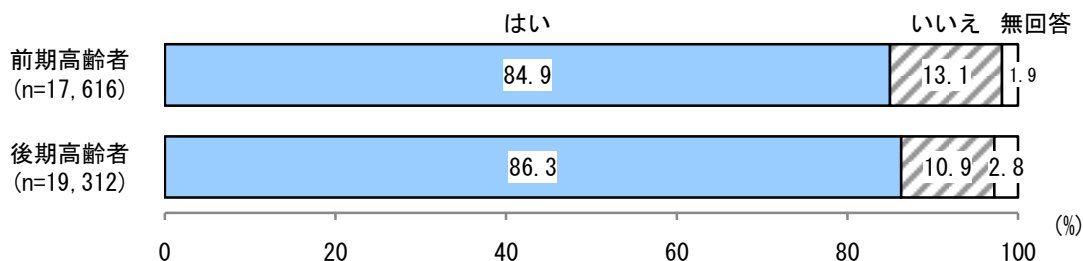


【参考 健康についての記事や番組に関心があること (経年比較)】



年齢別でみると、健康についての記事や番組に関心がある人は、前期高齢者では84.9%、後期高齢者では86.3%となっている。(図5-3-4-1)

【図5-3-4-1 年齢別 健康についての記事や番組に関心があること】



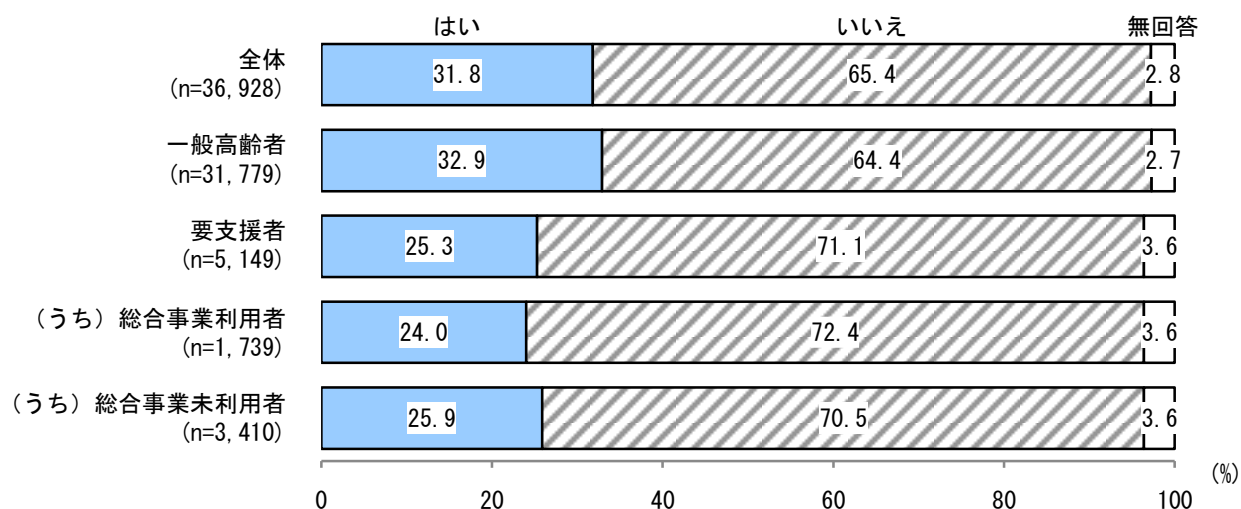
(4) 他者との関わりの状況

① 友人の家を訪ねていること

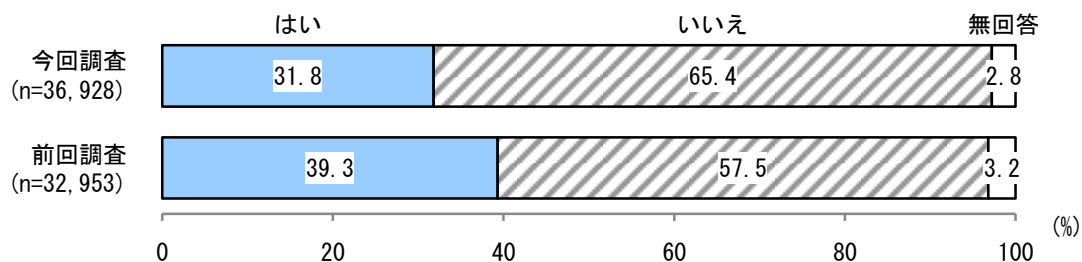
問 友人の家を訪ねていますか。(〇はひとつ)

友人の家を訪ねている(「はい」と回答している)人は3割強(31.8%)となっている。
認定状況別でみると、友人の家を訪ねている人は要支援者で2割台(25.3%)となっている。(図5-4-1)

【図5-4-1 友人の家を訪ねていること】

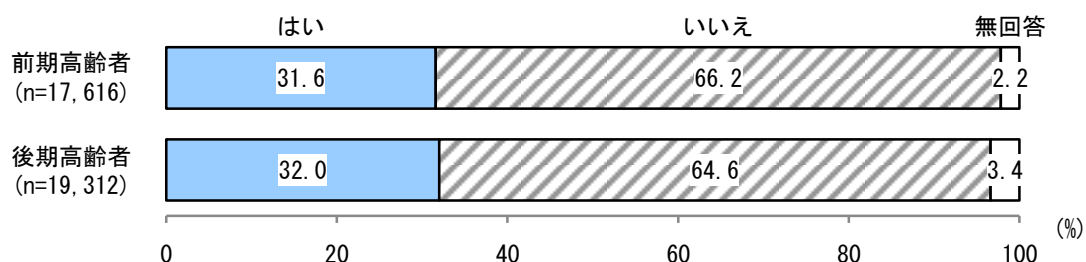


【参考 友人の家を訪ねていること (経年比較)】



年齢別でみると、友人の家を訪ねている人は、前期高齢者では31.6%、後期高齢者では32.0%となっている。(図5-4-1-1)

【図5-4-1-1 年齢別 友人の家を訪ねていること】



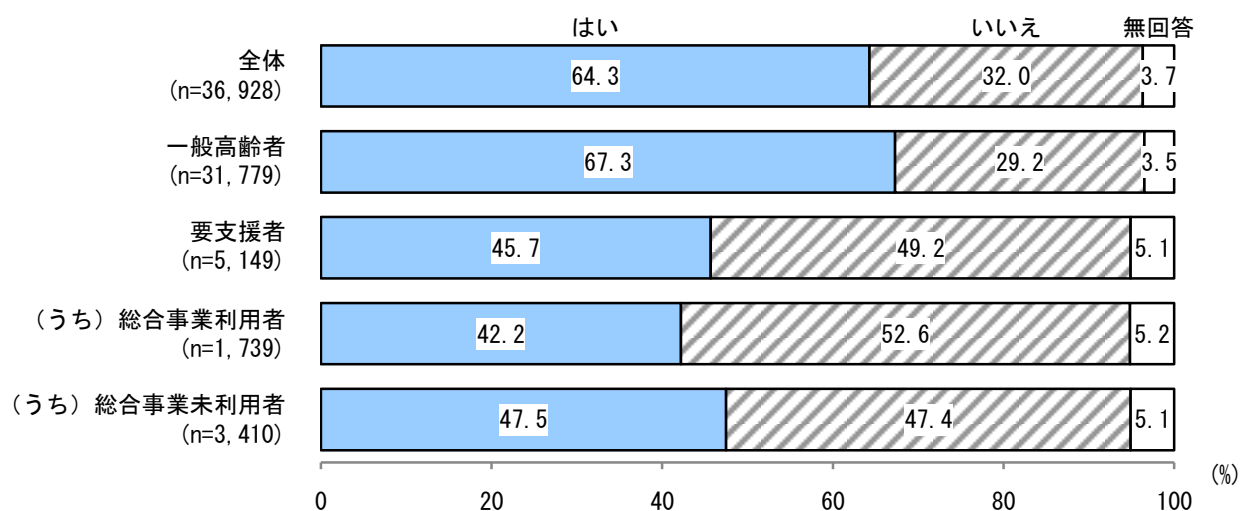
② 家族や友人の相談にのっていること

問 家族や友人の相談にのっていますか。(○はひとつ)

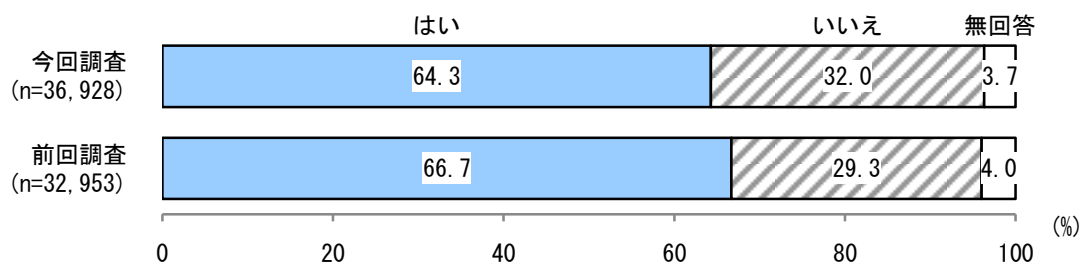
家族や友人の相談にのっている(「はい」と回答している)人は6割台(64.3%)となっている。

認定状況別でみると、家族や友人の相談にのっている人は要支援者で4割台(45.7%)となっている。(図5-4-2)

【図5-4-2 家族や友人の相談にのっていること】

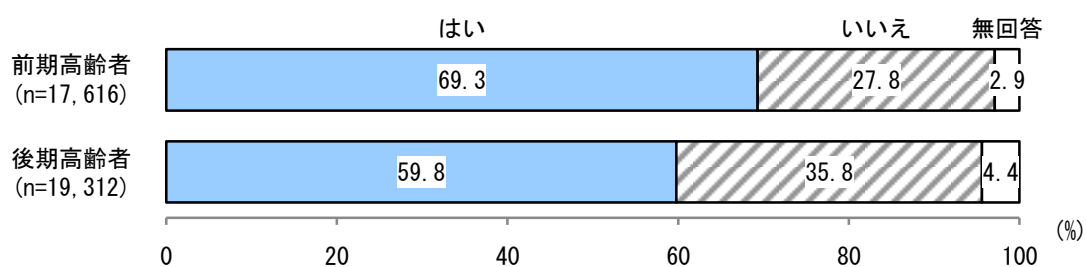


【参考 家族や友人の相談にのっていること (経年比較)】



年齢別でみると、家族や友人の相談にのっている人は、前期高齢者では69.3%、後期高齢者では59.8%となっている。(図5-4-2-1)

【図5-4-2-1 年齢別 家族や友人の相談にのっていること】



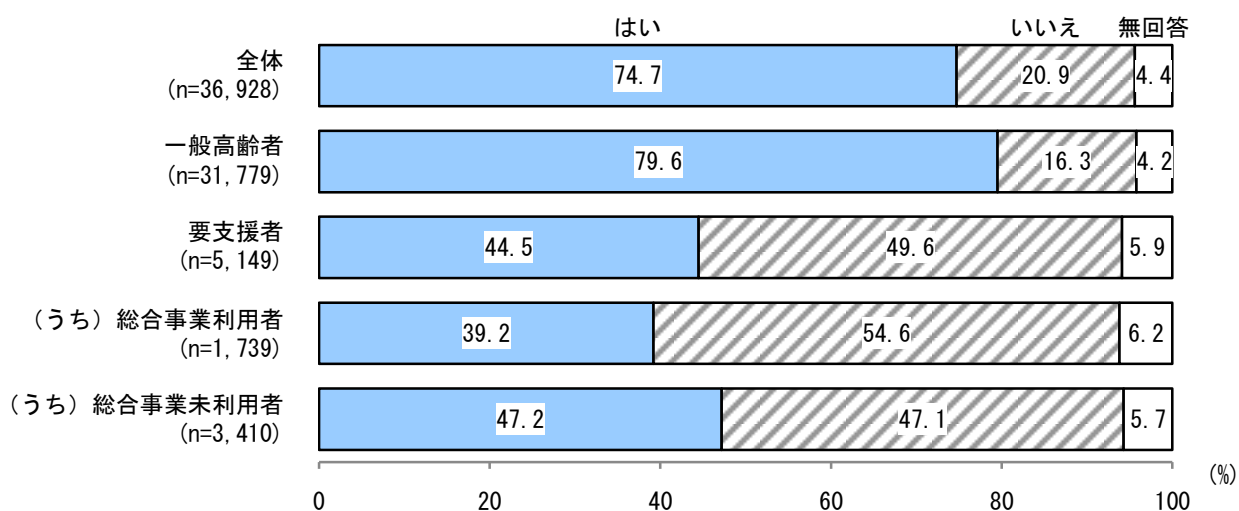
③ 病人を見舞うことができること

問 病人を見舞うことができますか。(○はひとつ)

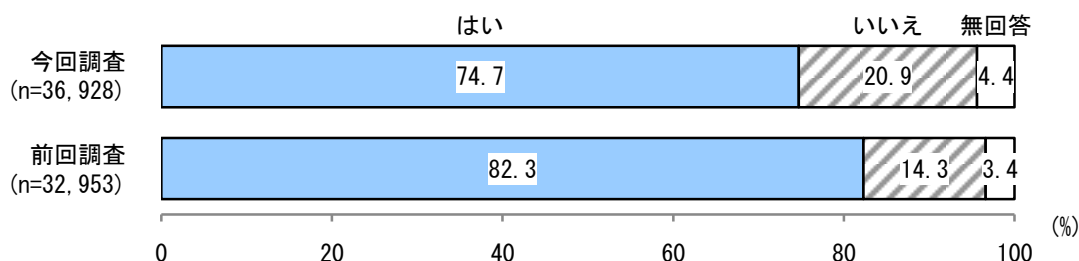
病人を見舞うことができる(「はい」と回答している)人は7割台(74.7%)となっている。

認定状況別でみると、病人を見舞うことができる人は要支援者で4割台(44.5%)となっている。(図5-4-3)

【図5-4-3 病人を見舞うことができること】

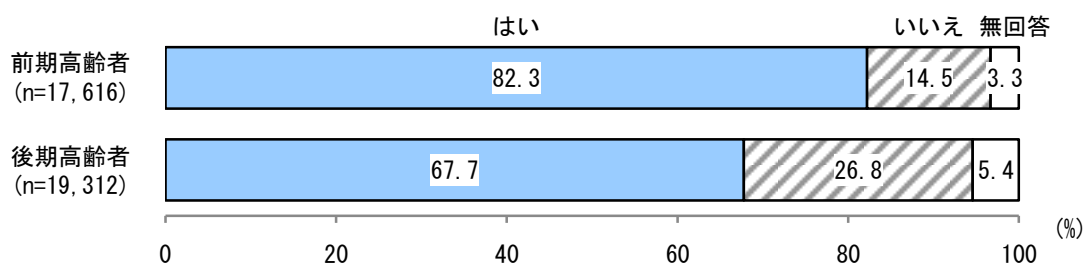


【参考 病人を見舞うことができること (経年比較)】



年齢別でみると、病人を見舞うことができる人は、前期高齢者では82.3%、後期高齢者では67.7%となっている。(図5-4-3-1)

【図5-4-3-1 年齢別 病人を見舞うことができること】



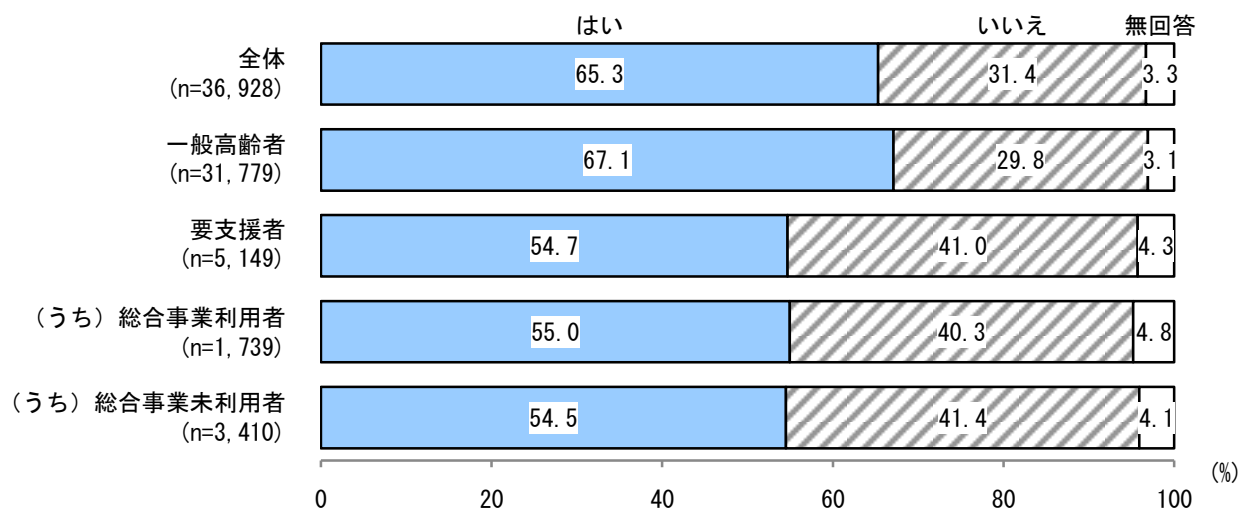
④ 若い人に自分から話しかけること

問 若い人に自分から話しかけることがありますか。(○はひとつ)

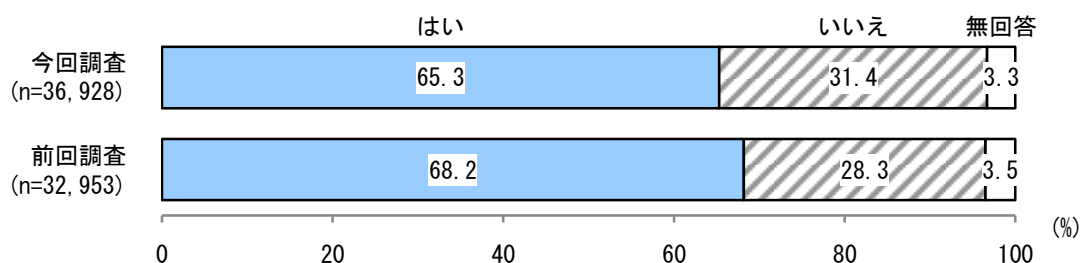
若い人に自分から話しかけることがある(「はい」と回答している)人は6割台(65.3%)となっている。

認定状況別でみると、若い人に自分から話しかけることがある人は要支援者で5割台(54.7%)となっている。(図5-4-4)

【図5-4-4 若い人に自分から話しかけること】

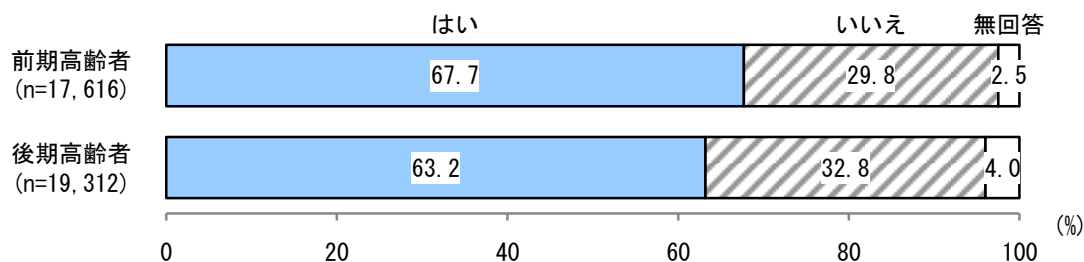


【参考 若い人に自分から話しかけること (経年比較)】



年齢別でみると、若い人に自分から話しかけることがある人は、前期高齢者では67.7%、後期高齢者では63.2%となっている。(図5-4-4-1)

【図5-4-4-1 年齢別 若い人に自分から話しかけること】



(5) 趣味や生きがいの有無

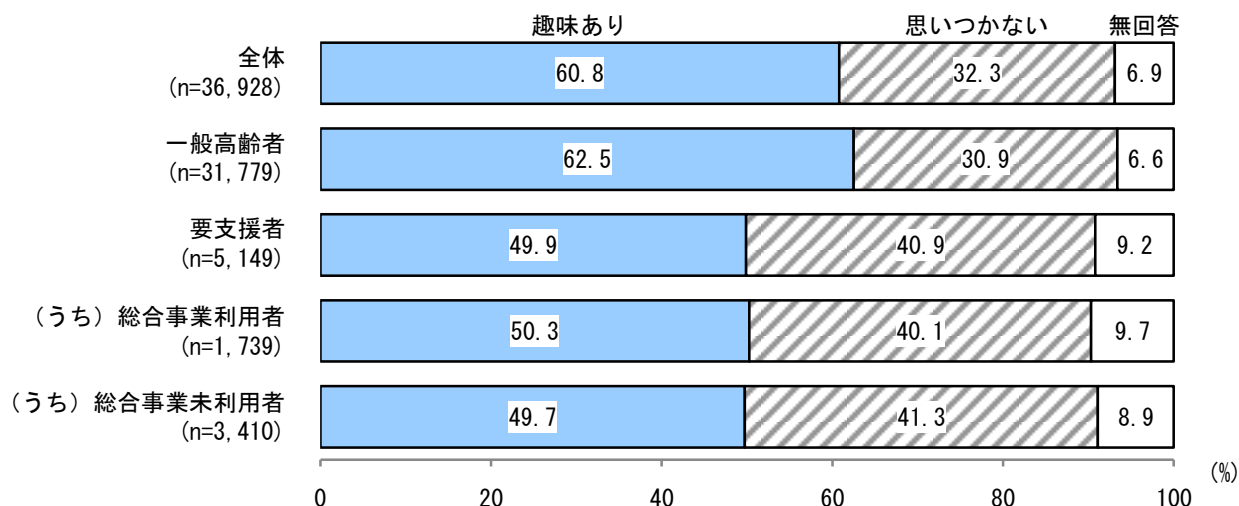
① 趣味の有無

問 趣味はありますか。(〇はひとつ)

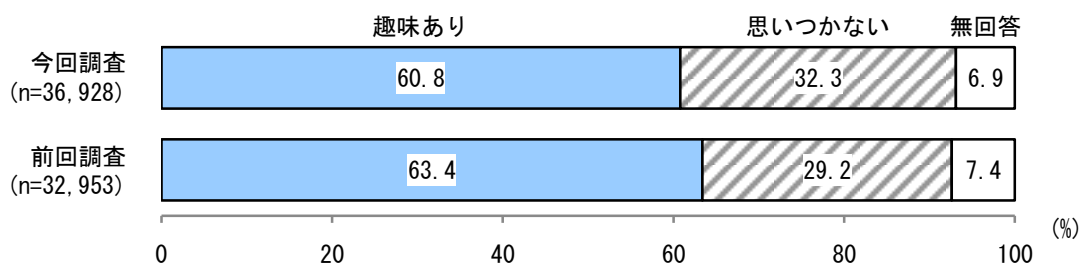
趣味がある人は約6割(60.8%)となっている。

認定状況別でみると、要支援者は5割弱(49.9%)となっている。(図5-5-1)

【図5-5-1 趣味の有無】

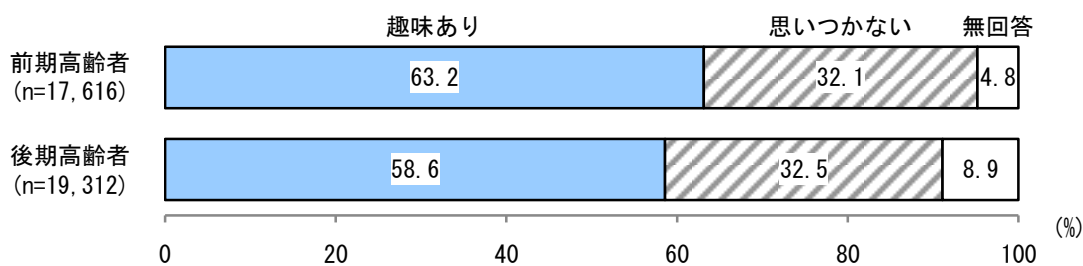


【参考 趣味の有無(経年比較)】



年齢別でみると、趣味がある人は、前期高齢者では63.2%、後期高齢者では58.6%となっている。(図5-5-1-1)

【図5-5-1-1 年齢別 趣味の有無】



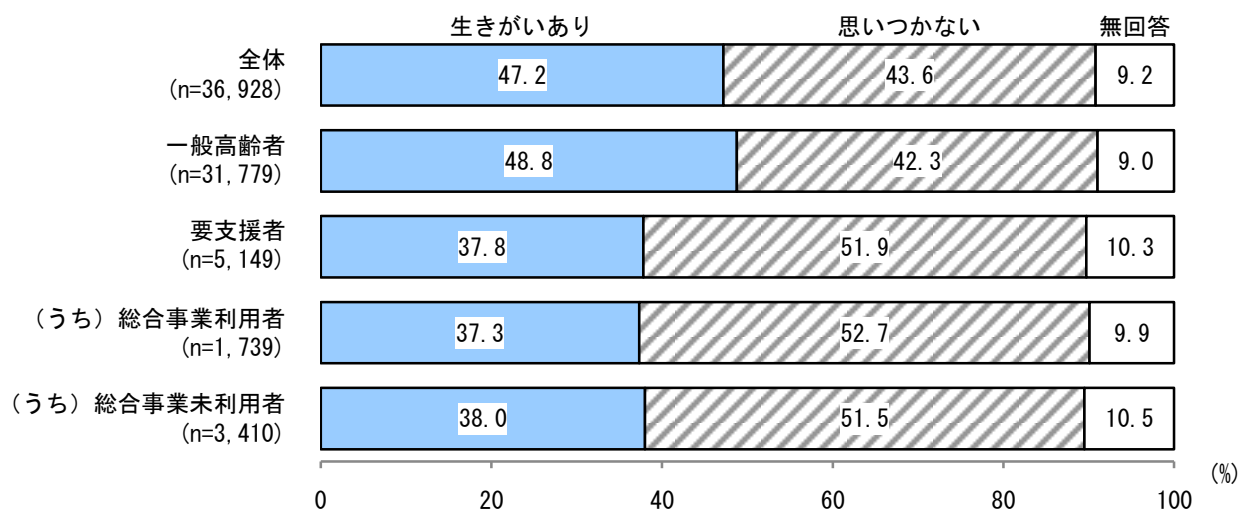
② 生きがいの有無

問 生きがいがありますか。(○はひとつ)

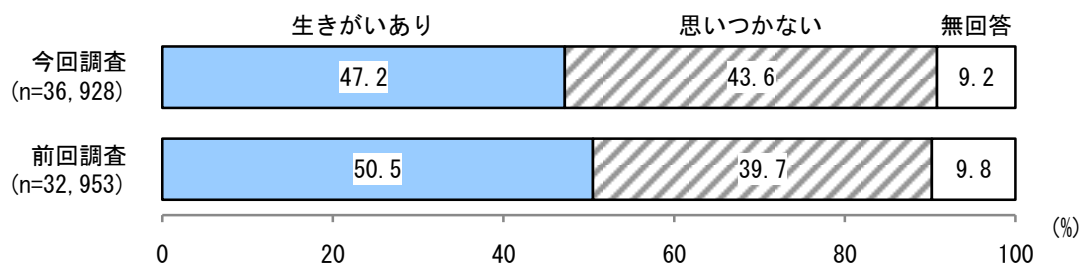
生きがいがある人は約5割(47.2%)となっている。

認定状況別でみると、要支援者は4割弱(37.8%)となっている。(図5-5-2)

【図5-5-2 生きがいの有無】

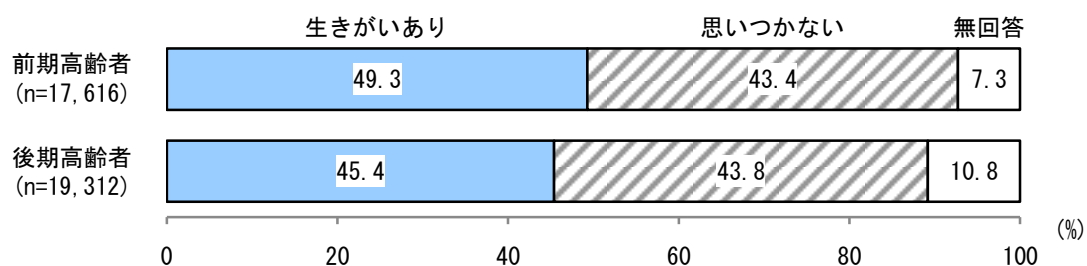


【参考 生きがいの有無(経年比較)】



年齢別でみると、生きがいがある人は、前期高齢者では49.3%、後期高齢者では45.4%となっている。(図5-5-2-1)

【図5-5-2-1 年齢別 生きがいの有無】



6 地域での活動について

(1) 地域の会・グループ等への参加状況

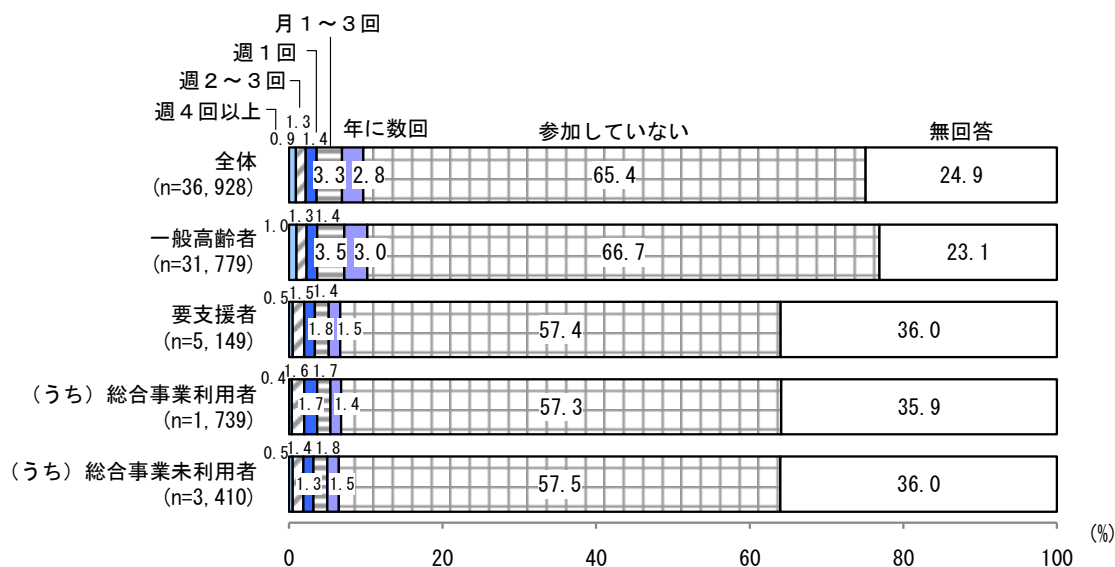
問 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

※① - ⑧それぞれに回答してください。(それぞれ〇はひとつ)

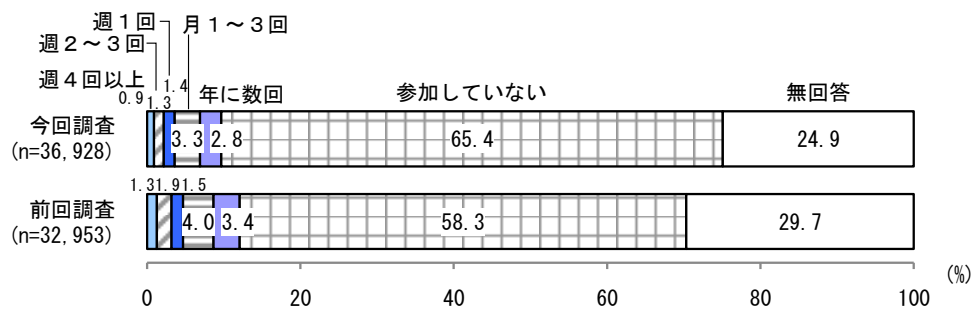
① ボランティアのグループ

地域の会・グループ等への参加状況をたずねたところ、ボランティアのグループに『参加している』(「年に数回」以上の頻度の計)割合は、9.7%となっている。(図6-1-1)

【図6-1-1 地域の会・グループ等への参加状況 ①ボランティアのグループ】

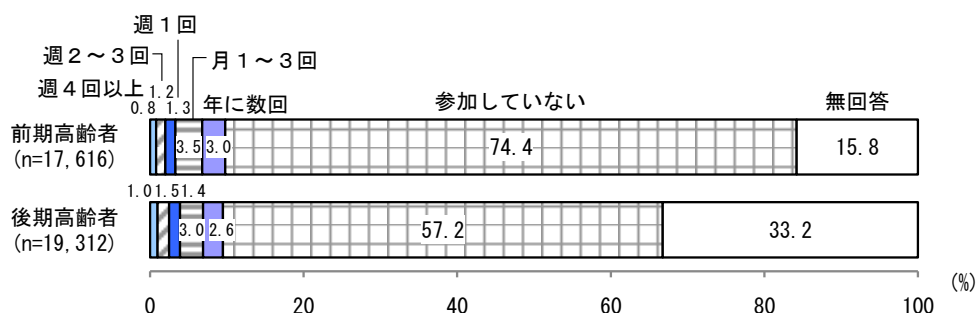


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ①ボランティアのグループ (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』割合は前期高齢者では9.8%、後期高齢者では9.5%となっている。(図6-1-1-1)

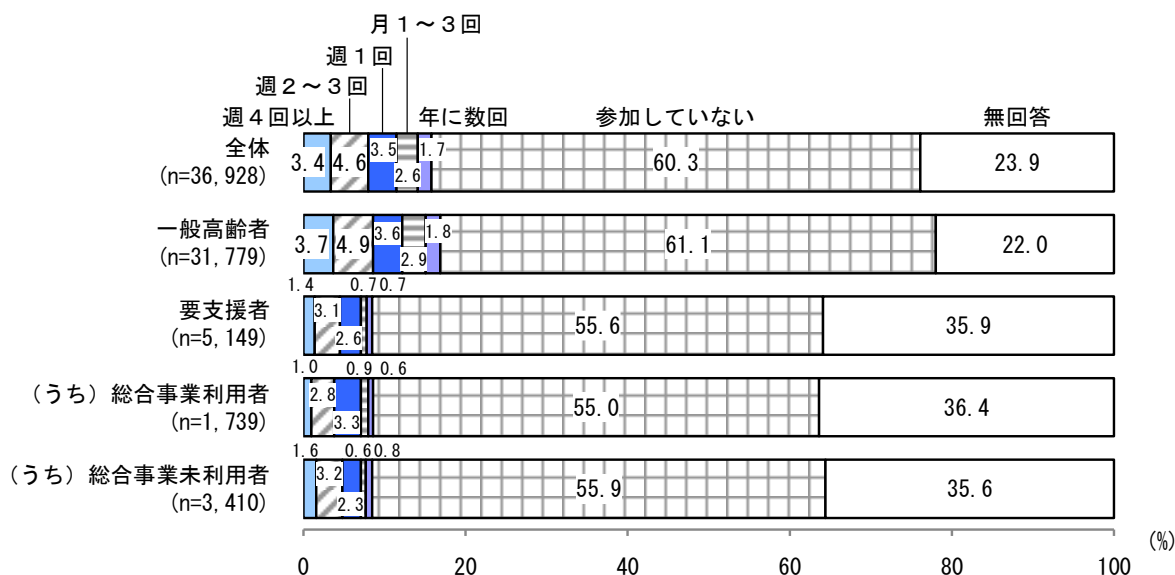
【図6-1-1-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ①ボランティアのグループ】



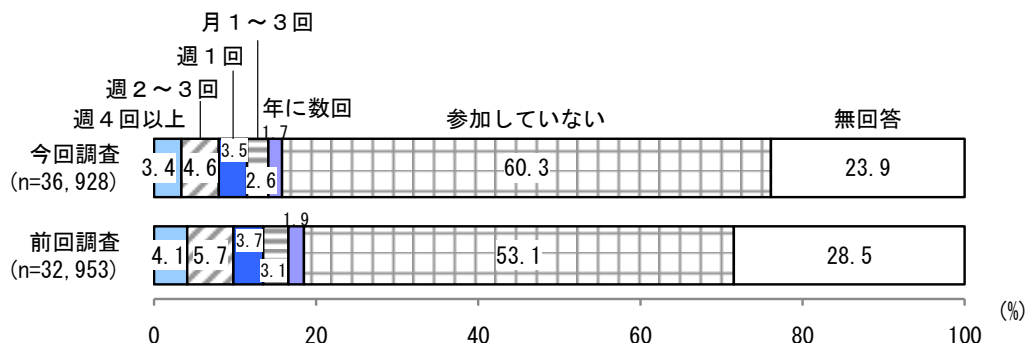
② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブに『参加している』割合は、15.8%となっている。(図6-1-2)

【図6-1-2 地域の会・グループ等への参加状況 ②スポーツ関係のグループやクラブ】

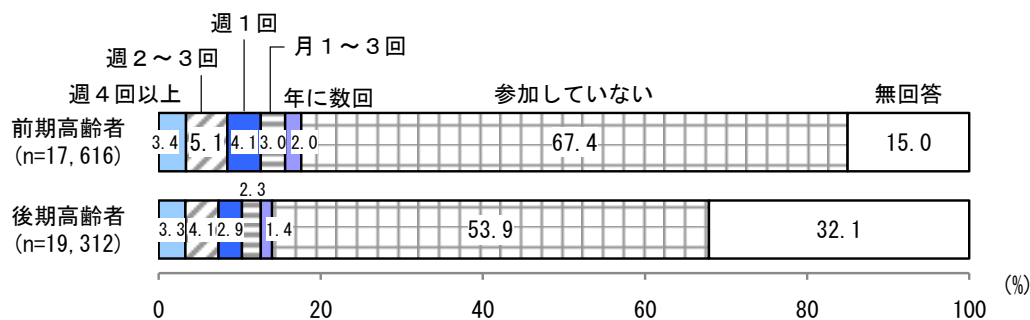


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ②スポーツ関係のグループやクラブ (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』割合は前期高齢者では17.6%、後期高齢者では14.0%となっている。(図6-1-2-1)

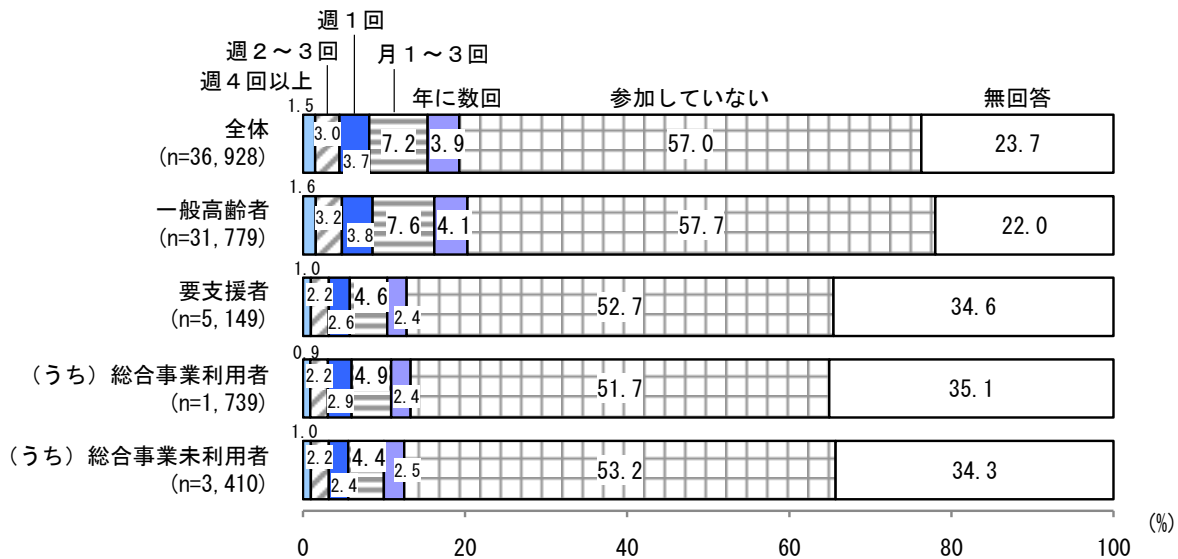
【図6-1-2-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ②スポーツ関係のグループやクラブ】



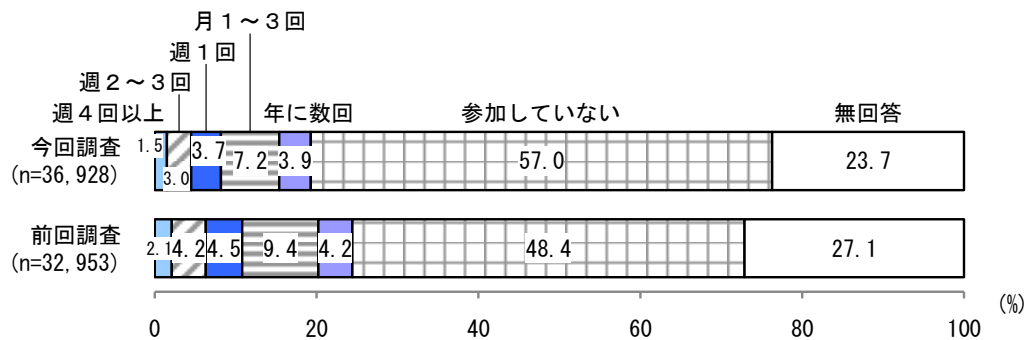
③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループに『参加している』割合は、19.3%となっている。(図6-1-3)

【図6-1-3 地域の会・グループ等への参加状況 ③趣味関係のグループ】

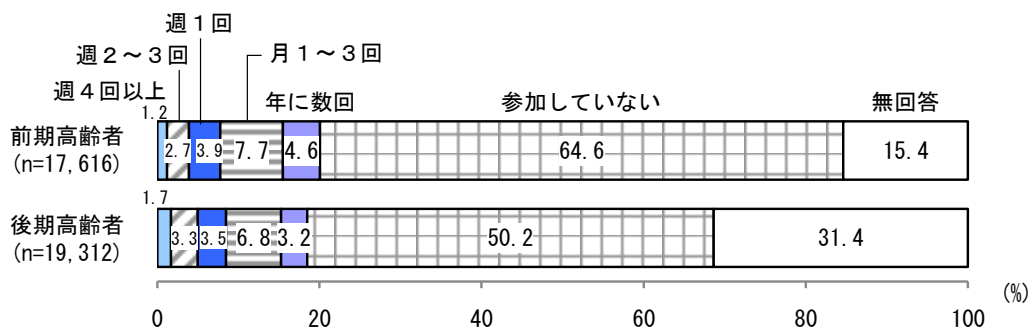


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ③趣味関係のグループ (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』割合は前期高齢者では20.1%、後期高齢者では18.5%となっている。(図6-1-3-1)

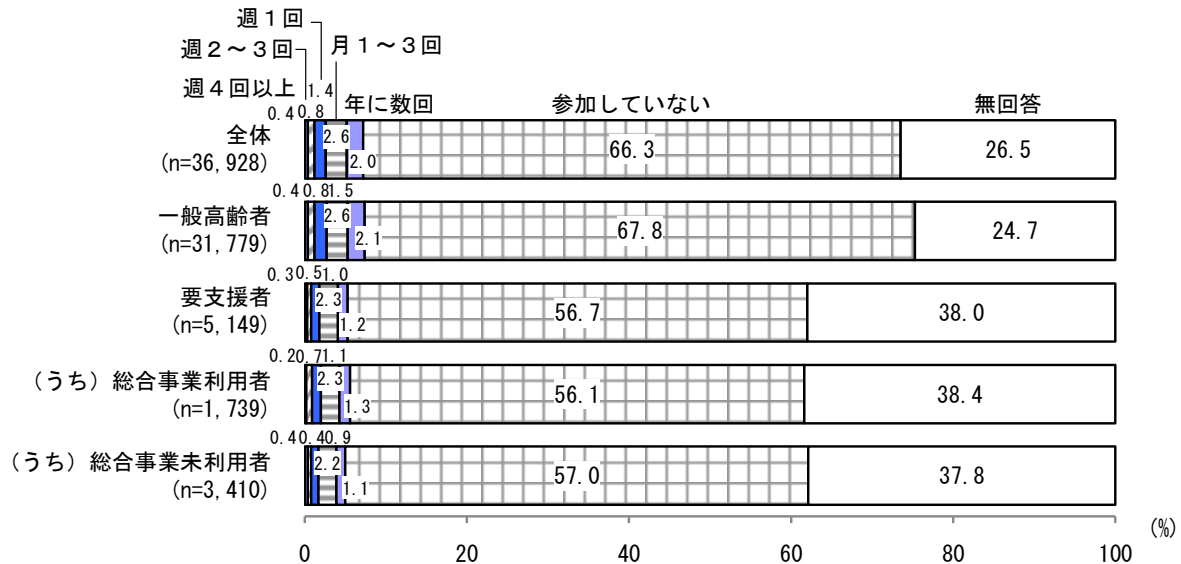
【図6-1-3-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ③趣味関係のグループ】



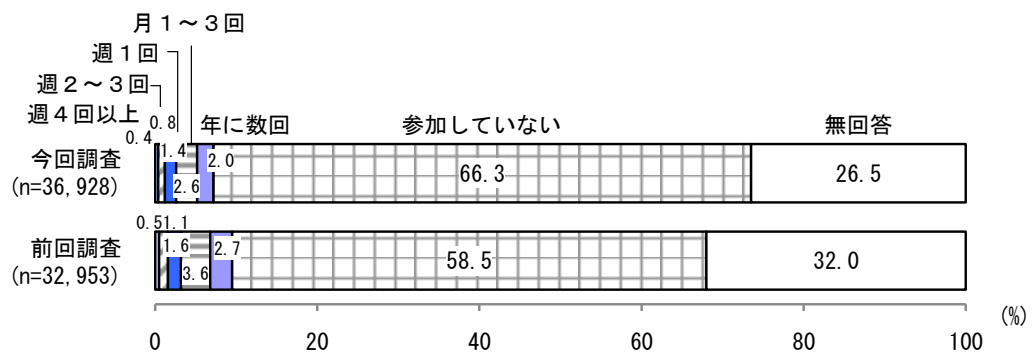
④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルに『参加している』割合は、7.2%となっている。(図6-1-4)

【図6-1-4 地域の会・グループ等への参加状況 ④学習・教養サークル】

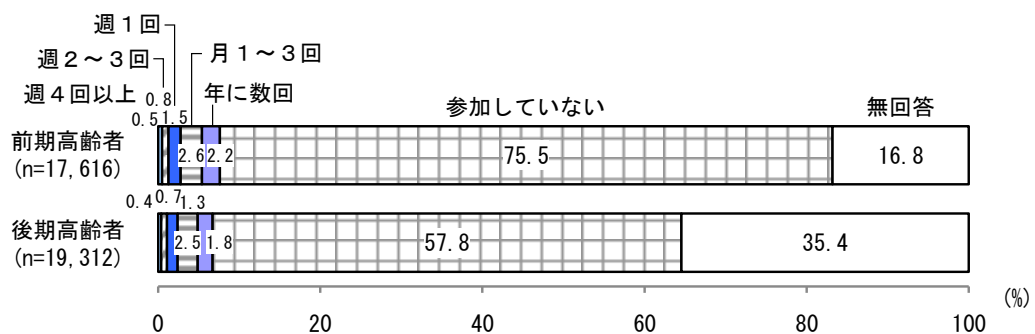


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ④学習・教養サークル (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者では7.6%、後期高齢者では6.7%となっている。(図6-1-4-1)

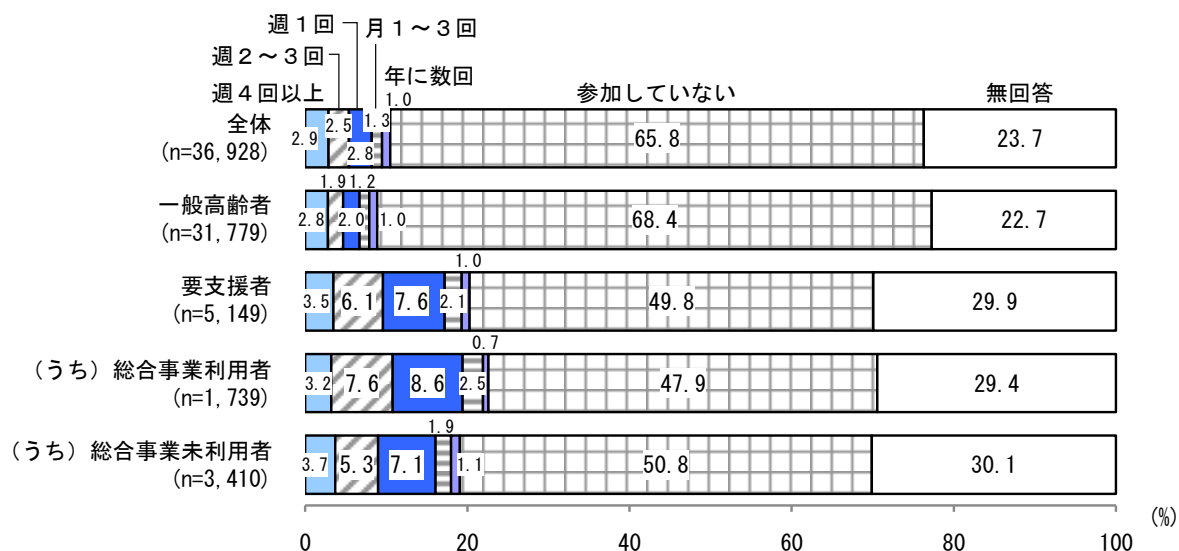
【図6-1-4-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ④学習・教養サークル】



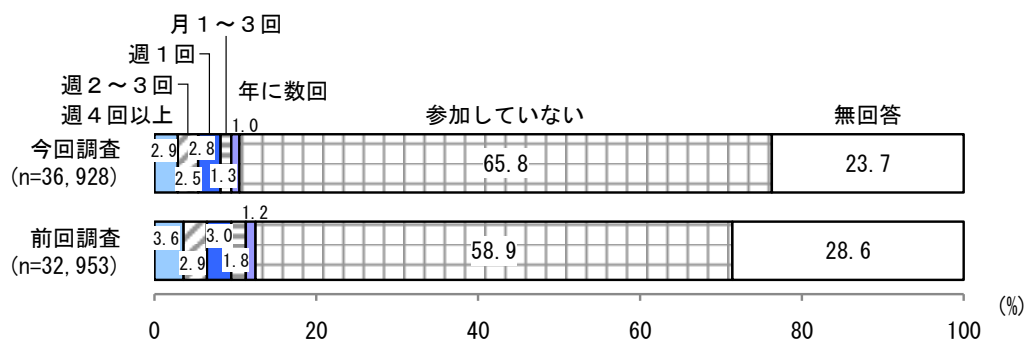
⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場

百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場に『参加している』割合は、10.5%となっている。(図6-1-5-1)

【図6-1-5-1 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場】

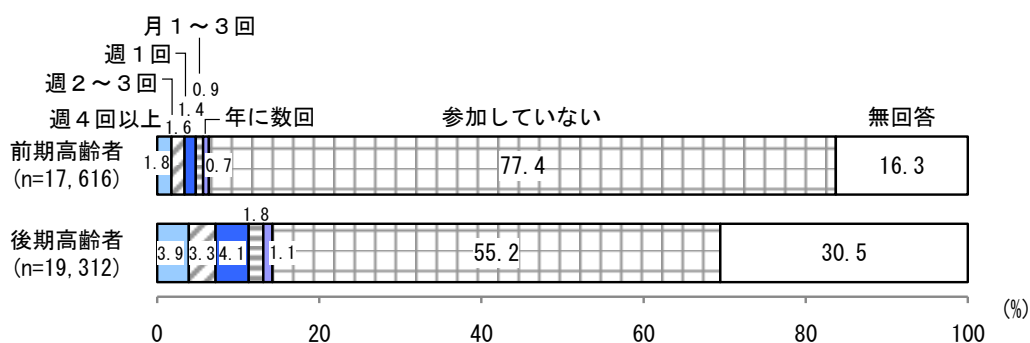


【参考 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場 (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者では6.4%、後期高齢者では14.2%となっている。(図6-1-5-1-1)

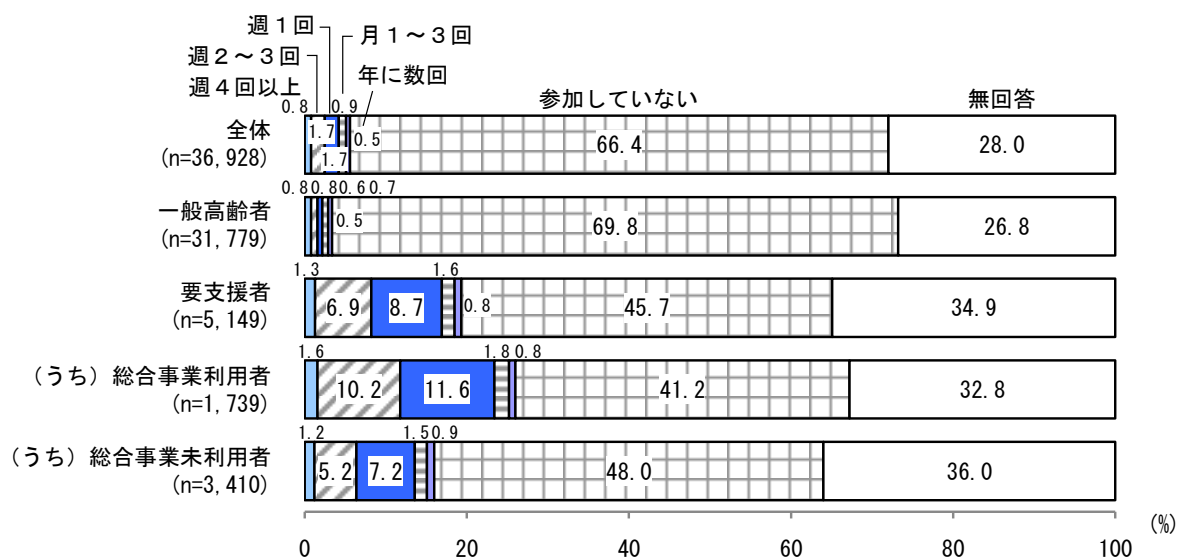
【図6-1-5-1-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場】



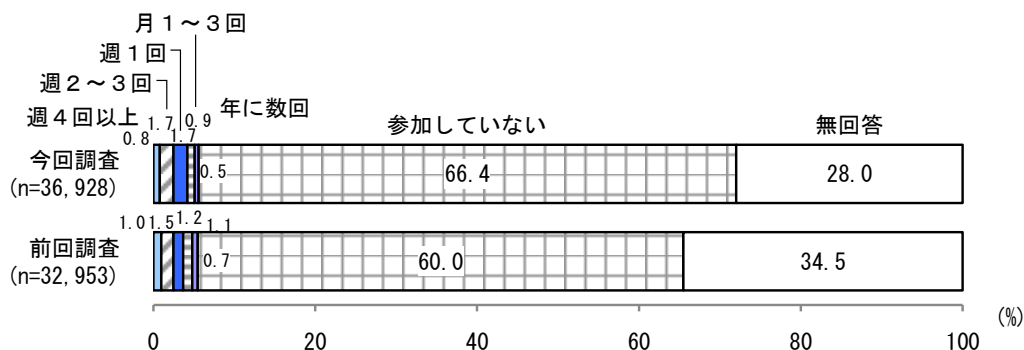
⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場

⑤-1以外の介護予防のための通いの場に『参加している』割合は、5.6%となっている。
(図6-1-5-2)

【図6-1-5-2 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場】

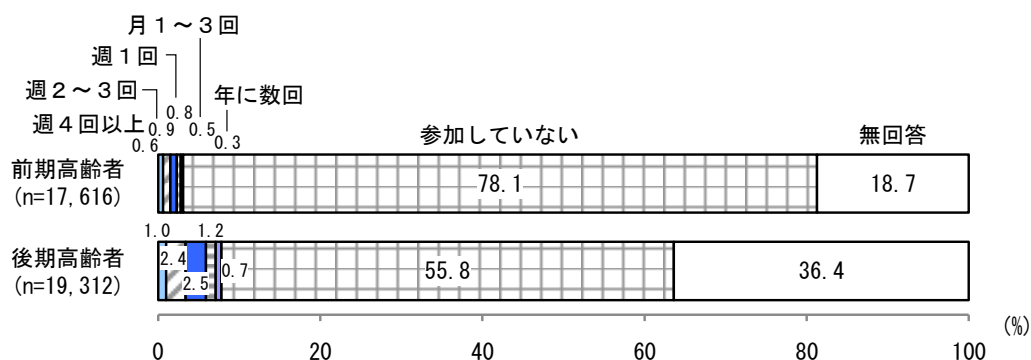


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場 (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者では3.1%、後期高齢者では7.8%となっている。(図6-1-5-2-1)

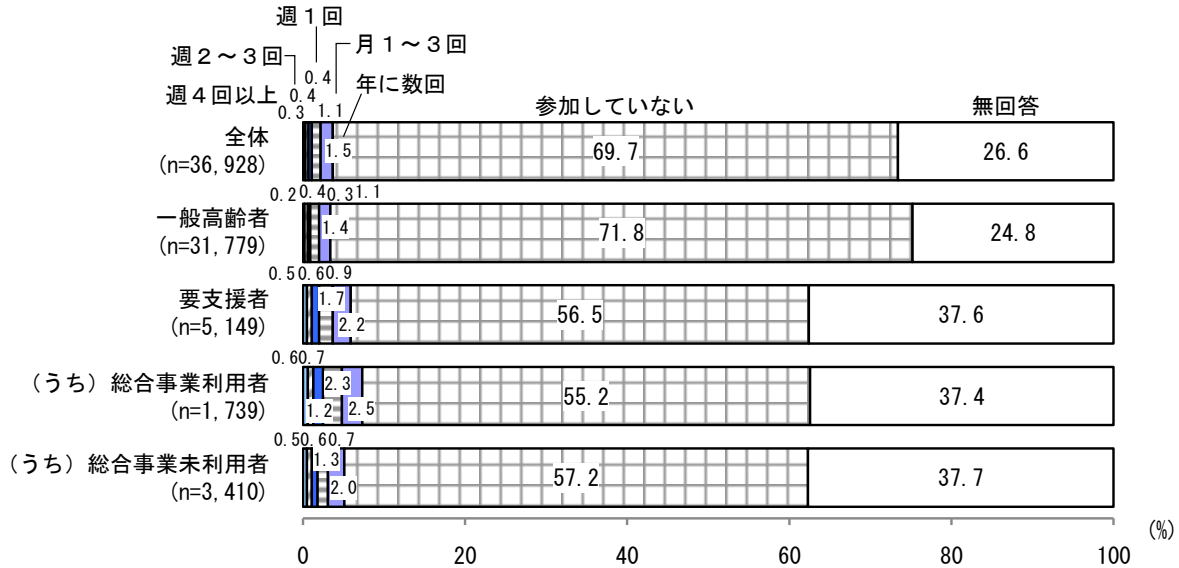
【図6-1-5-2-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場】



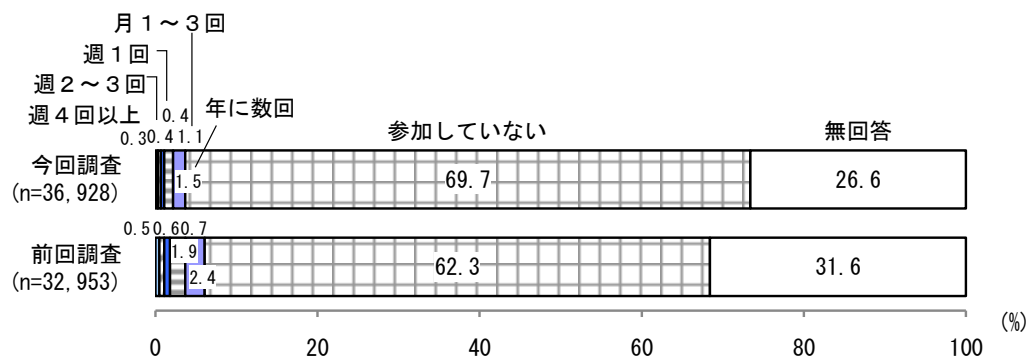
⑥ 老人クラブ

老人クラブに『参加している』割合は、3.7%となっている。(図6-1-6)

【図6-1-6 地域の会・グループ等への参加状況 ⑥老人クラブ】

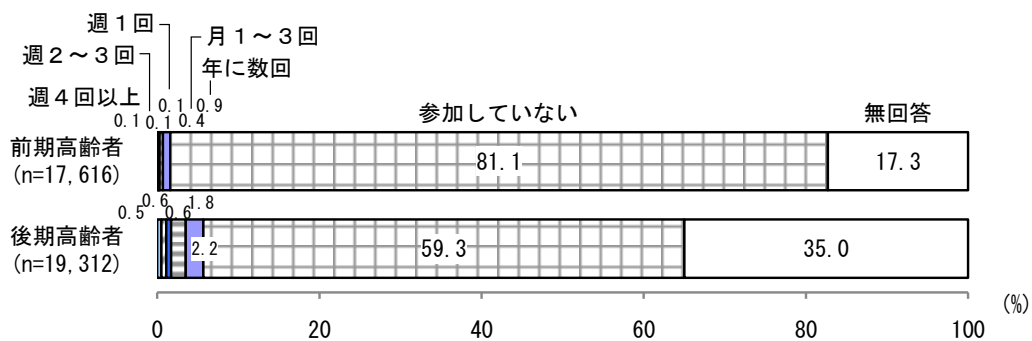


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑥老人クラブ (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者では1.6%、後期高齢者では5.7%となっている。(図6-1-6-1)

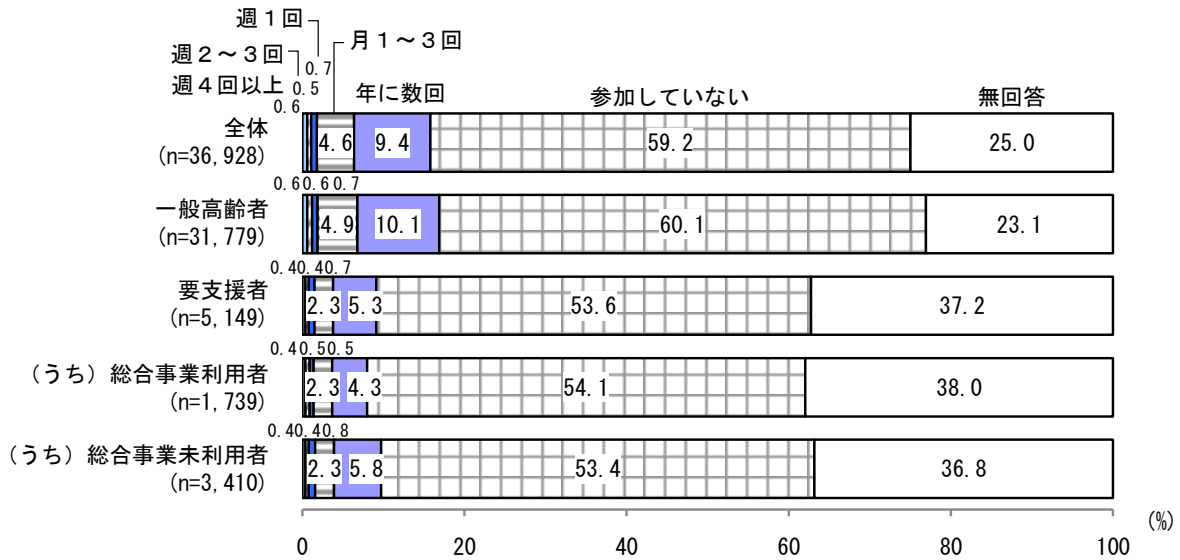
【図6-1-6-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑥老人クラブ】



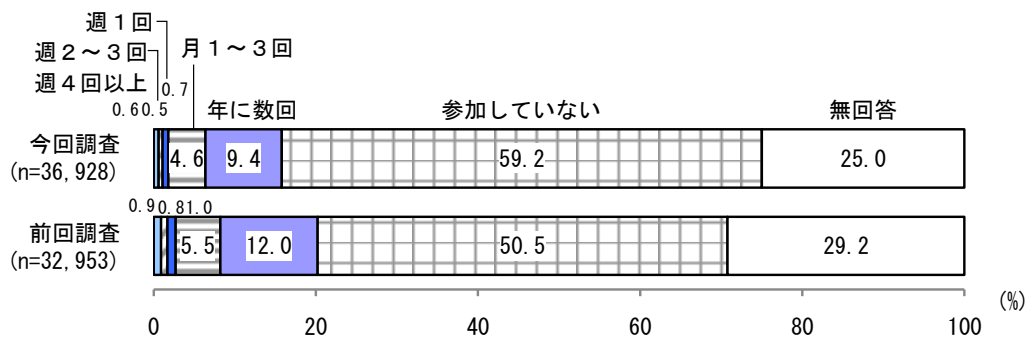
⑦ 町内会・自治会

町内会・自治会に『参加している』割合は、15.8%となっている。(図6-1-7)

【図6-1-7 地域の会・グループ等への参加状況 ⑦町内会・自治会】

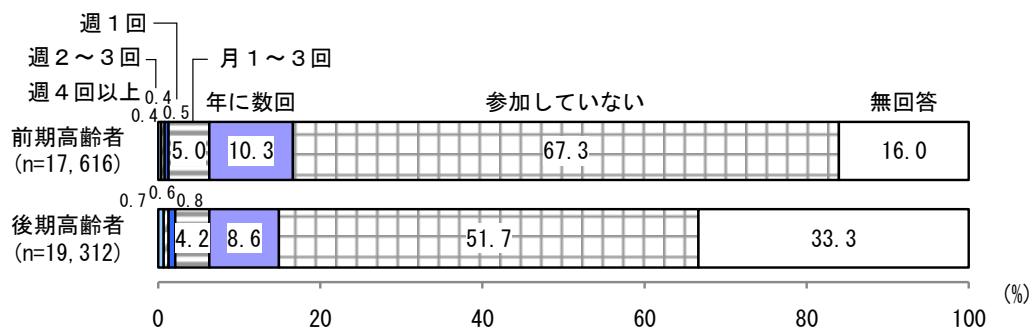


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑦町内会・自治会 (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者では16.6%、後期高齢者では14.9%となっている。(図6-1-7-1)

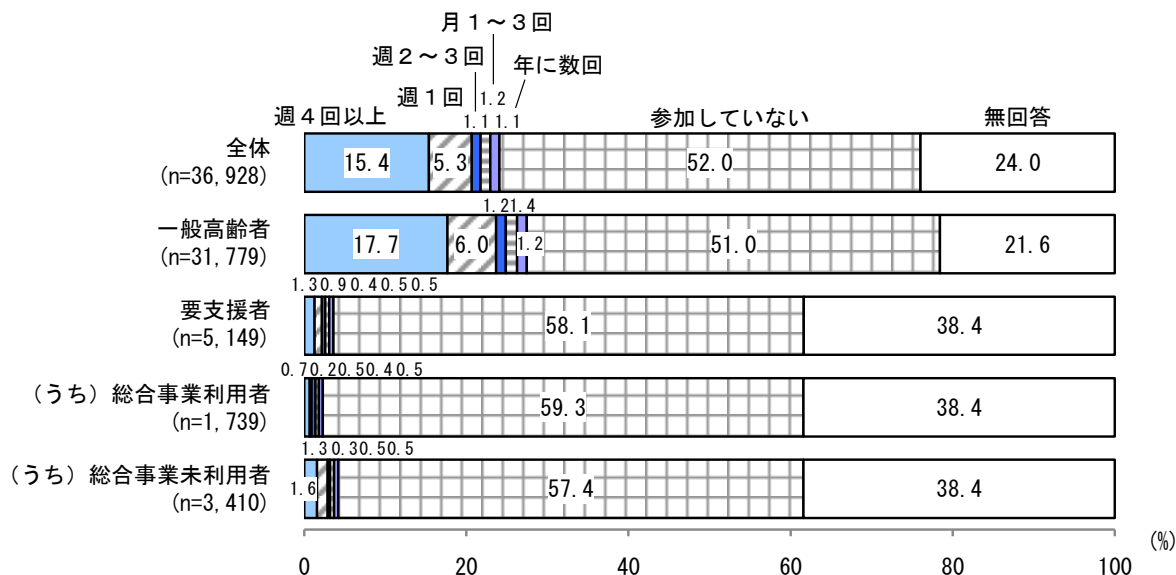
【図6-1-7-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑦町内会・自治会】



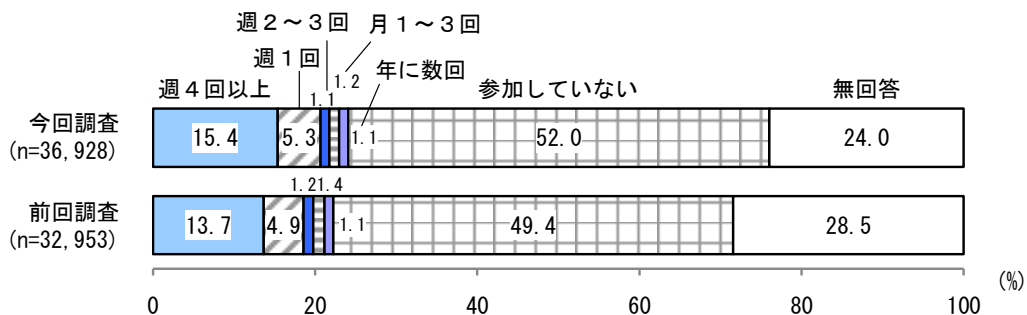
⑧ 収入のある仕事

収入のある仕事に『参加している』割合は、24.1%となっており、地域の会・グループ等で最も高い参加率となっている。(図6-1-8)

【図6-1-8 地域の会・グループ等への参加状況 ⑧収入のある仕事】

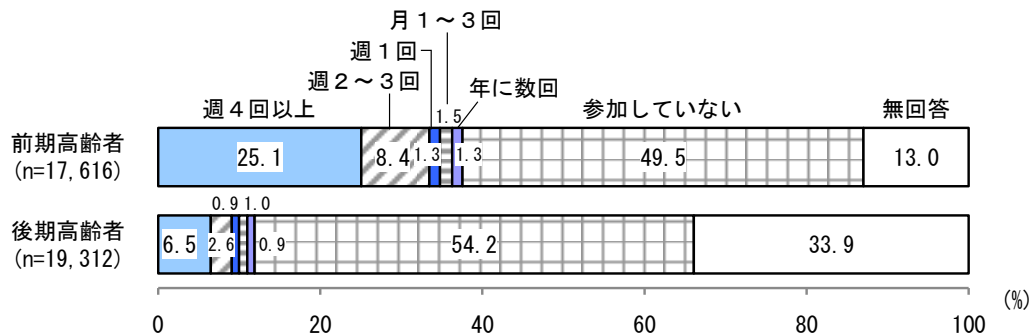


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑧収入のある仕事 (経年比較)】



年齢別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者では37.6%、後期高齢者では11.9%となっている。(図6-1-8-1)

【図6-1-8-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑧収入のある仕事】



(2) 地域の会・グループ等への参加意向

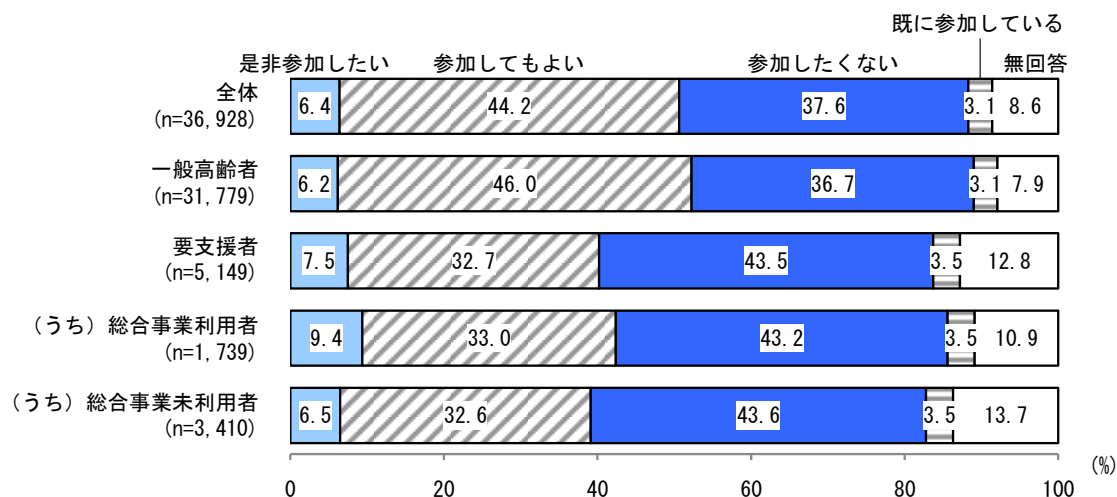
① 参加者としての参加

問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇はひとつ)

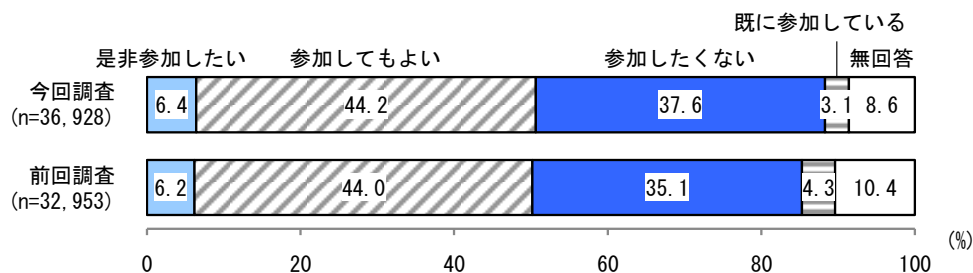
地域の会・グループ等への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が44.2%で最も多く、「既に参加している」(3.1%)、「是非参加したい」(6.4%)とあわせると、参加意向がある人は5割台(53.7%)となっている。

認定状況別でみると、参加意向がある人は要支援者で4割台(43.7%)となっている。(図6-2-1)

【図6-2-1 地域の会・グループ等への参加意向 ①参加者としての参加】

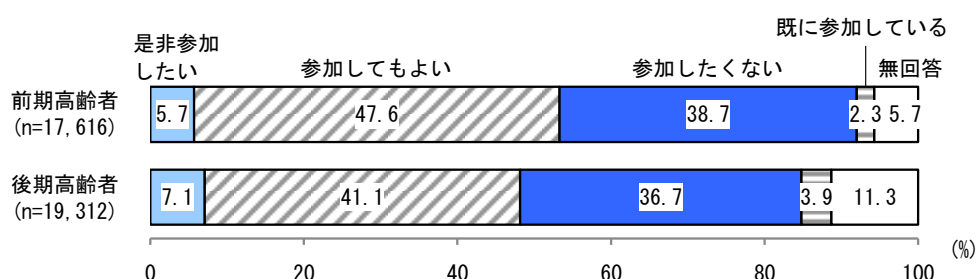


【参考 地域の会・グループ等への参加意向 ①参加者としての参加 (経年比較)】



年齢別でみると、参加意向がある人は、前期高齢者では55.6%、後期高齢者では52.1%となっている。(図6-2-1-1)

【図6-2-1-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加意向 ①参加者としての参加】



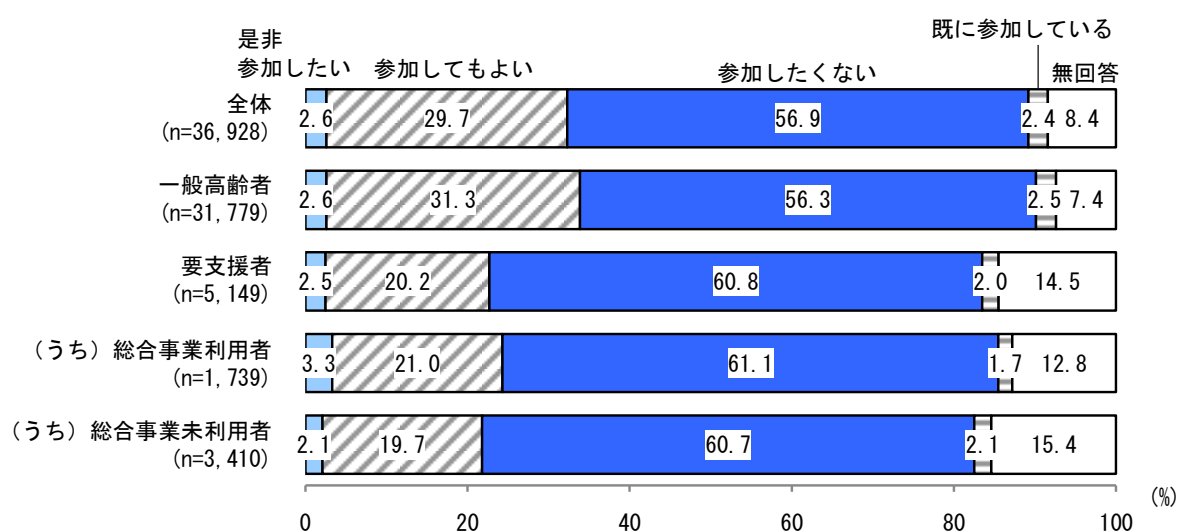
② 企画・運営としての参加

問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（○はひとつ）

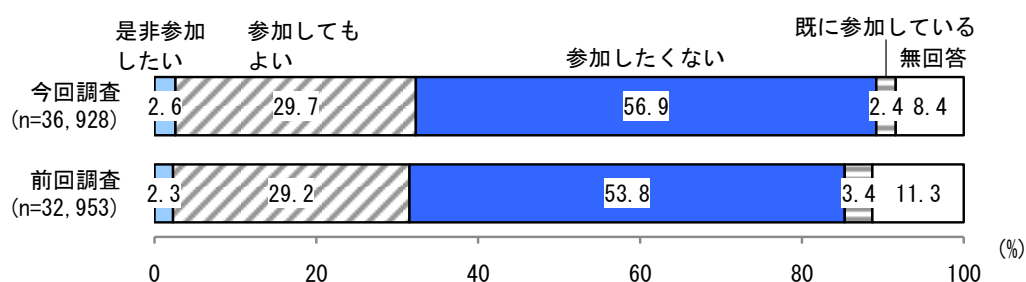
地域の会・グループ等への企画・運営としての参加意向は、「参加したくない」が56.9%で最も多い。「既に参加している」（2.4%）、「是非参加したい」（2.6%）、「参加してもよい」（29.7%）をあわせた参加意向がある人は3割台（34.7%）となっている。

認定状況別でみると、参加意向がある人は要支援者で2割台（24.7%）と低くなっている。（図6-2-2）

【図6-2-2 地域の会・グループ等への参加意向 ②企画・運営としての参加】

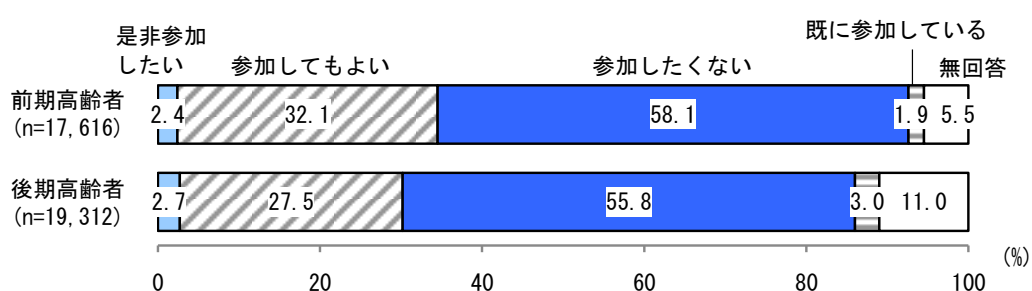


【参考 地域の会・グループ等への参加意向 ②企画・運営としての参加（経年比較）】



年齢別でみると、参加意向がある人は、前期高齢者では36.4%、後期高齢者では33.2%となっている。（図6-2-2-1）

【図6-2-2-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加意向 ②企画・運営としての参加】



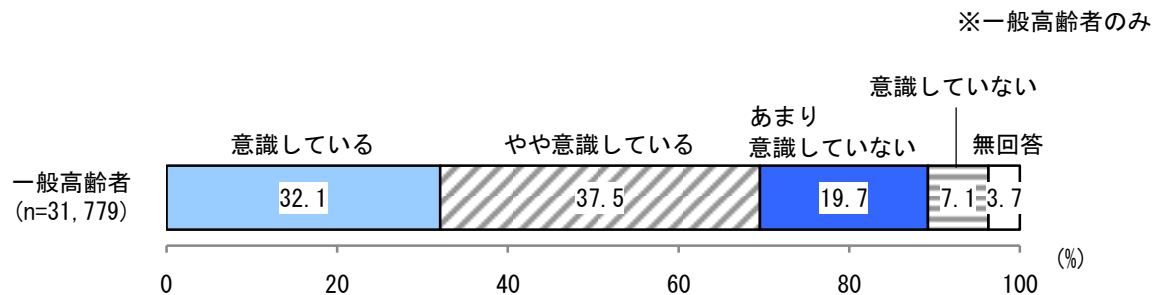
7 介護予防について

(1) 介護予防についての意識

問 あなたは、介護予防についてどれほど意識していますか。

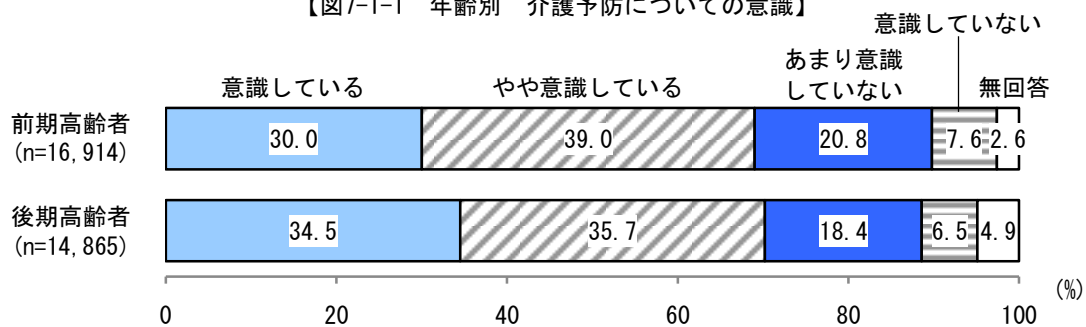
介護予防についてどれほど意識しているかについては、「やや意識している」が37.5%で最も多く、次いで「意識している」が32.1%となっており、両者をあわせた『意識している』人の割合は69.6%となっている。(図7-1)

【図7-1 介護予防についての意識】



年齢別でみると、『意識している』人の割合は、前期高齢者では69.0%、後期高齢者では70.2%となっている。(図7-1-1)

【図7-1-1 年齢別 介護予防についての意識】



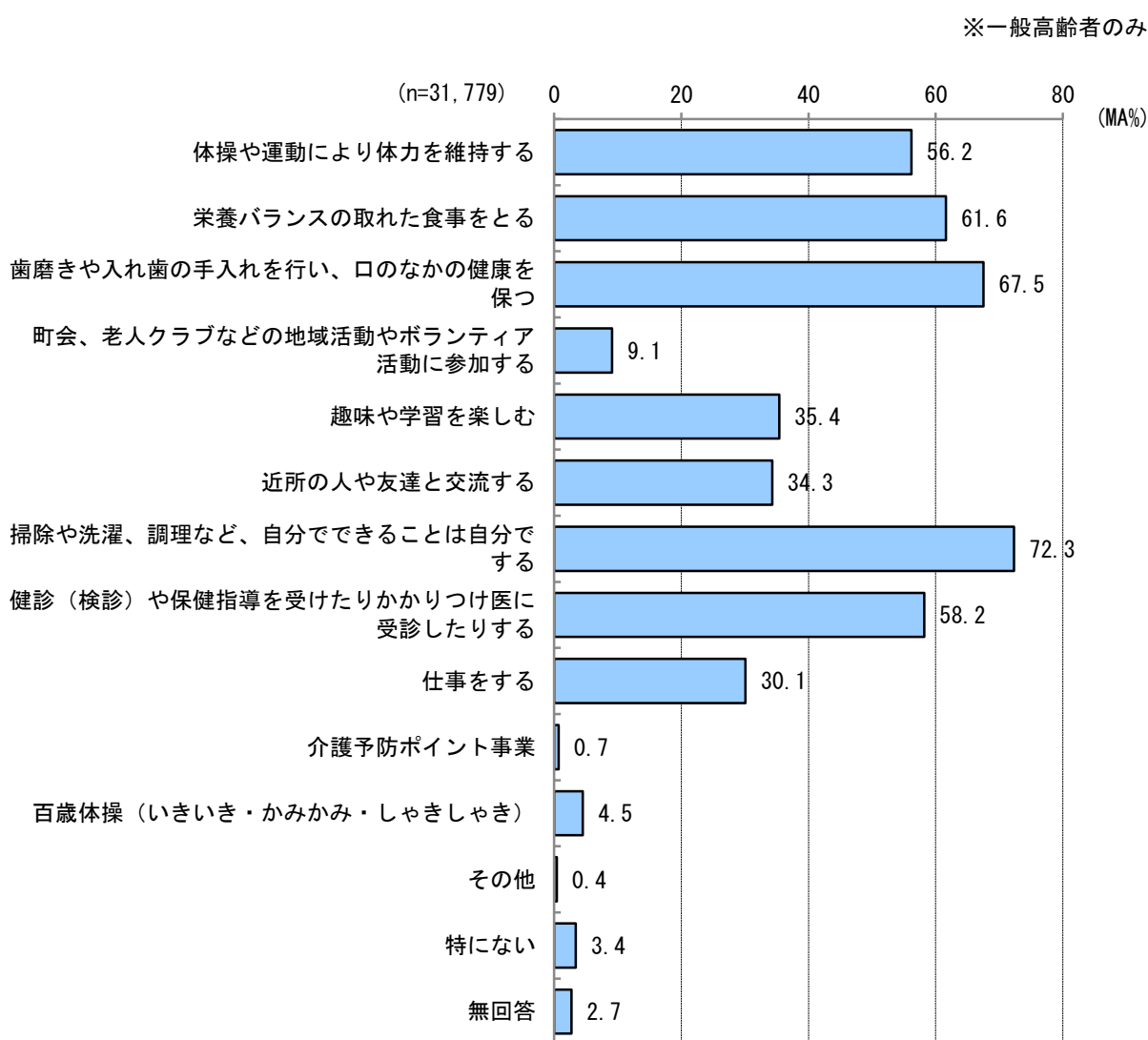
(2) 介護予防としての取り組み

① 介護予防として今取り組んでいること

問 あなたが、介護予防として、今取り組んでいること、今後取り組んでみたいことに○をつけてください。

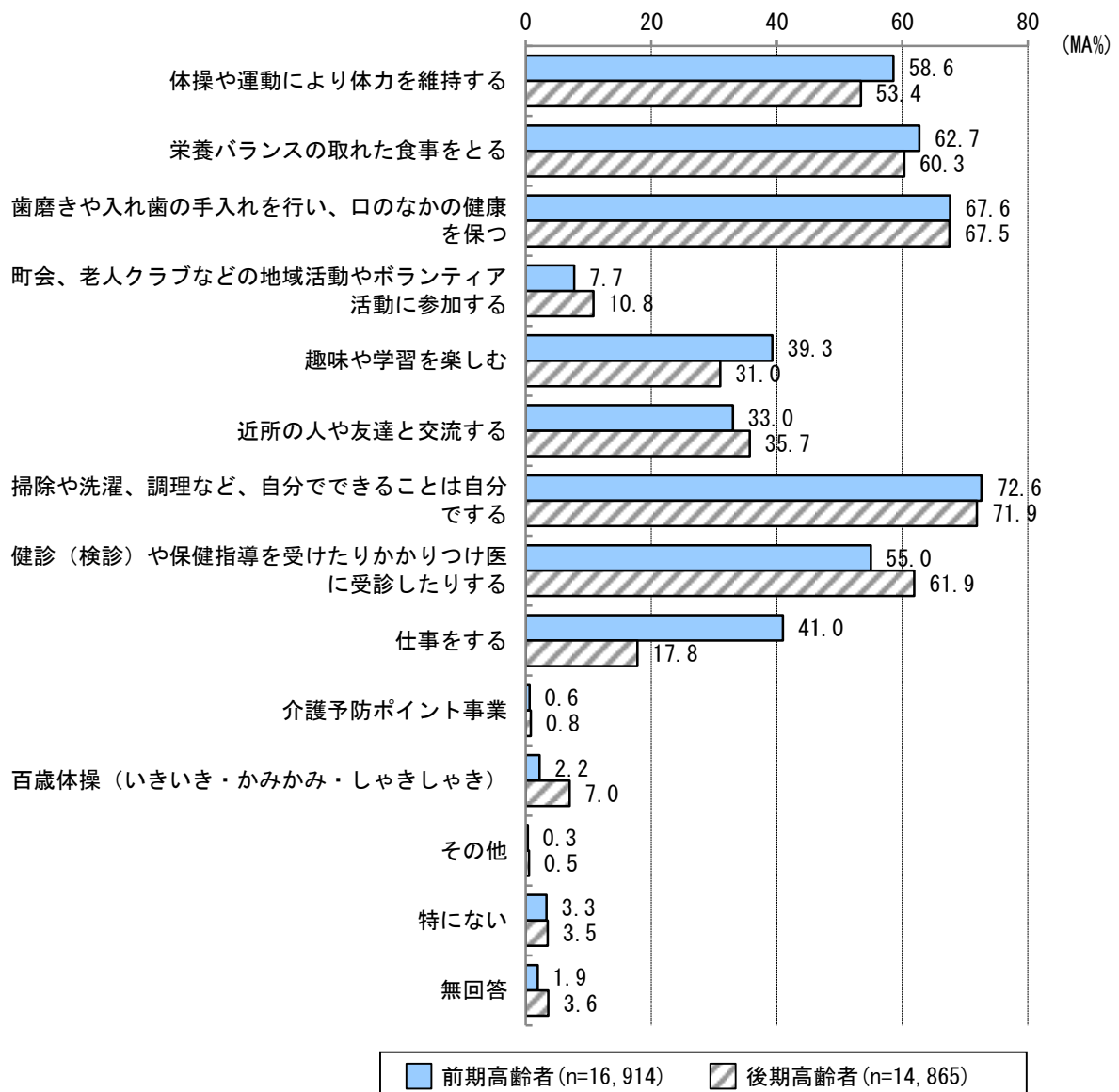
介護予防として今取り組んでいる高齢者は93.9%（100%から「特にない」3.4%と「無回答」2.7%を差し引いた割合）を占め、具体的な取り組みは、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が72.3%で最も多く、次いで「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口のなかの健康を保つ」が67.5%、「栄養バランスの取れた食事をとる」が61.6%となっている。（図7-2-1）

【図7-2-1 介護予防として今取り組んでいること】



年齢別でみると、介護予防として今取り組んでいる割合は、前期高齢者が94.8%、後期高齢者が92.9%となっており、「仕事をする」の割合は、後期高齢者（17.8%）より前期高齢者（41.0%）のほうが23.2ポイント高くなっている。（図7-2-1-1）

【図7-2-1-1 年齢別 介護予防として今取り組んでいること】

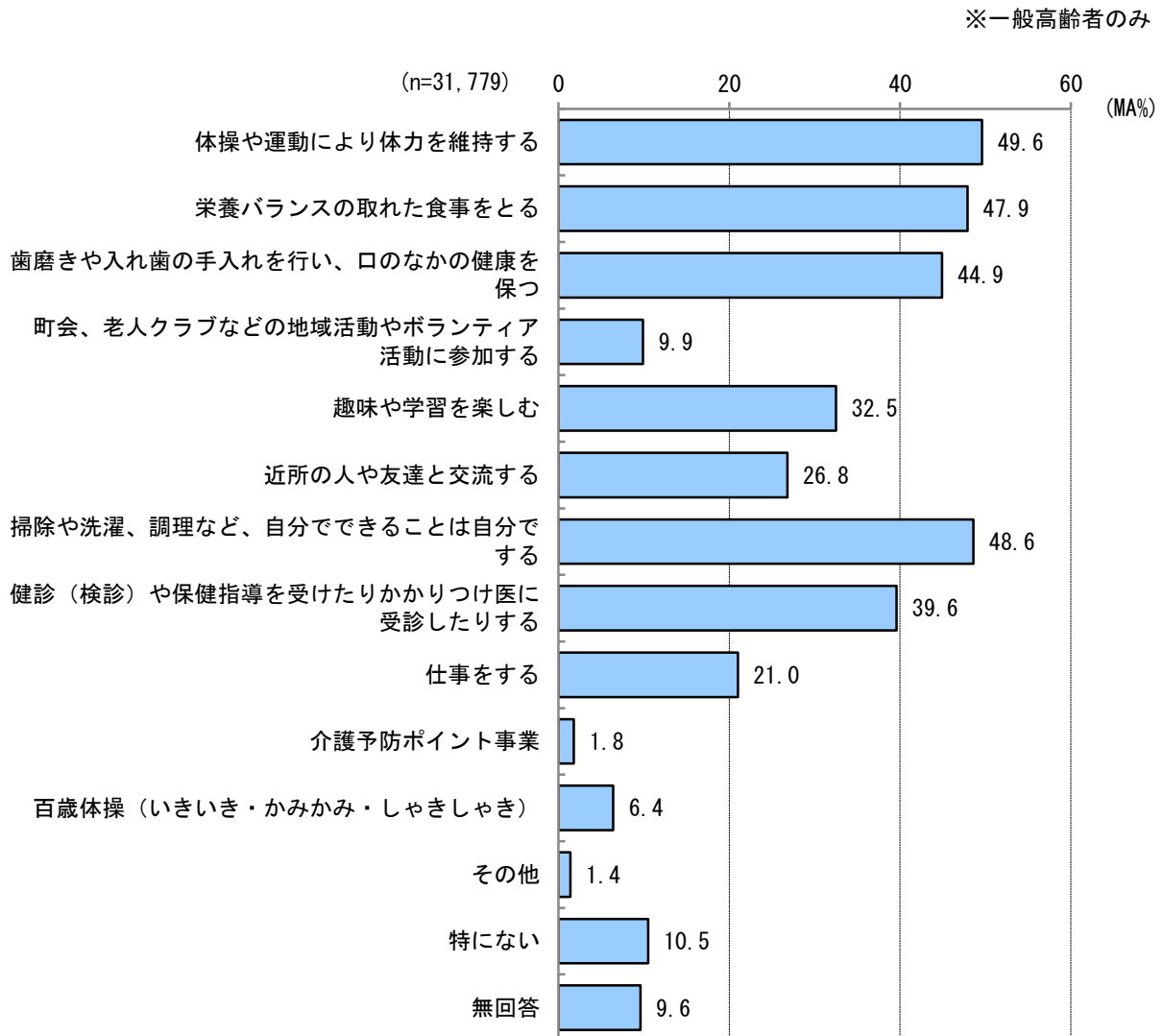


② 介護予防として今後取り組んでみたいこと

問 あなたが、介護予防として、今取り組んでいること、今後取り組んでみたいことに○をつけてください。

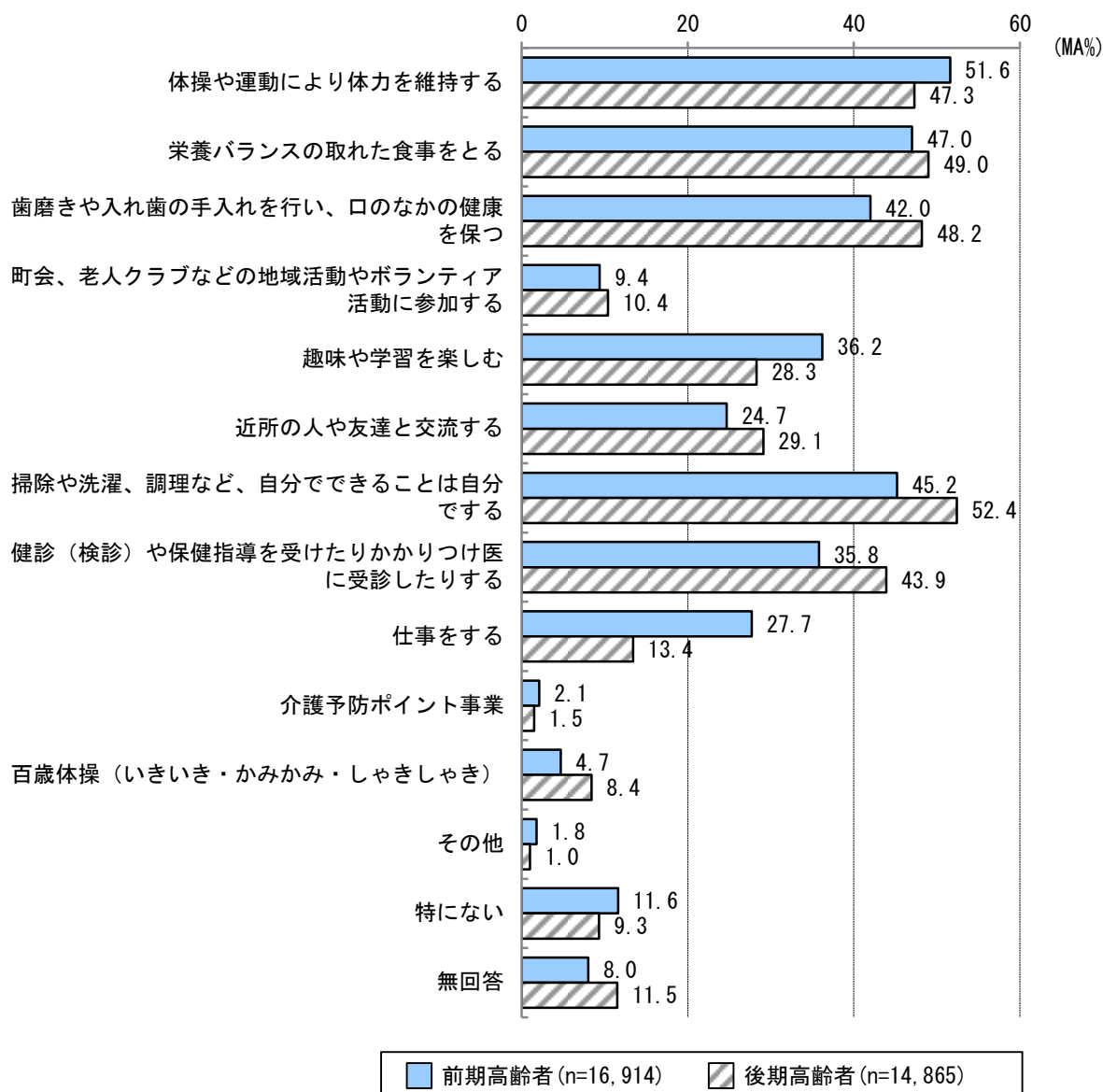
介護予防として今後取り組んでみたいことについては、「体操や運動により体力を維持する」が49.6%で最も多く、次いで「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が48.6%、「栄養バランスの取れた食事をとる」が47.9%となっている。（図7-2-2）

【図7-2-2 介護予防として今後取り組んでみたいこと】



介護予防として今後取り組んでみたいことについては、前期高齢者では「体操や運動により体力を維持する」が51.6%で最も多く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」(47.0%)となっている。後期高齢者では「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が52.4%で最も多く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」(49.0%)となっている。(図7-2-2-1)

【図7-2-2-1 年齢別 介護予防として今後取り組んでみたいこと】



(3) 介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由

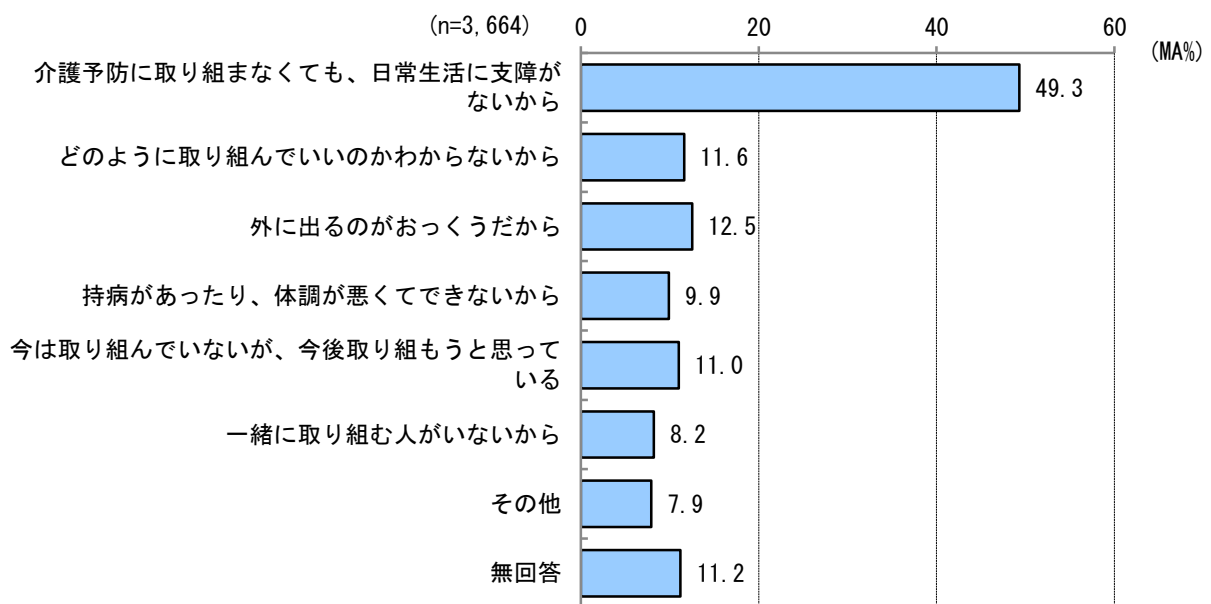
【①または②で「13 特になし」と回答された方におうかがいします】

問 あなたが、介護予防について、取り組んでいない、または、取り組んでみたいと思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わないと回答した人に、その理由をたずねると、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」が49.3%で最も多く、次いで「外に出るのがおっくうだから」が12.5%、「どのように取り組んでいいのかわからないから」が11.6%となっている。(図7-3)

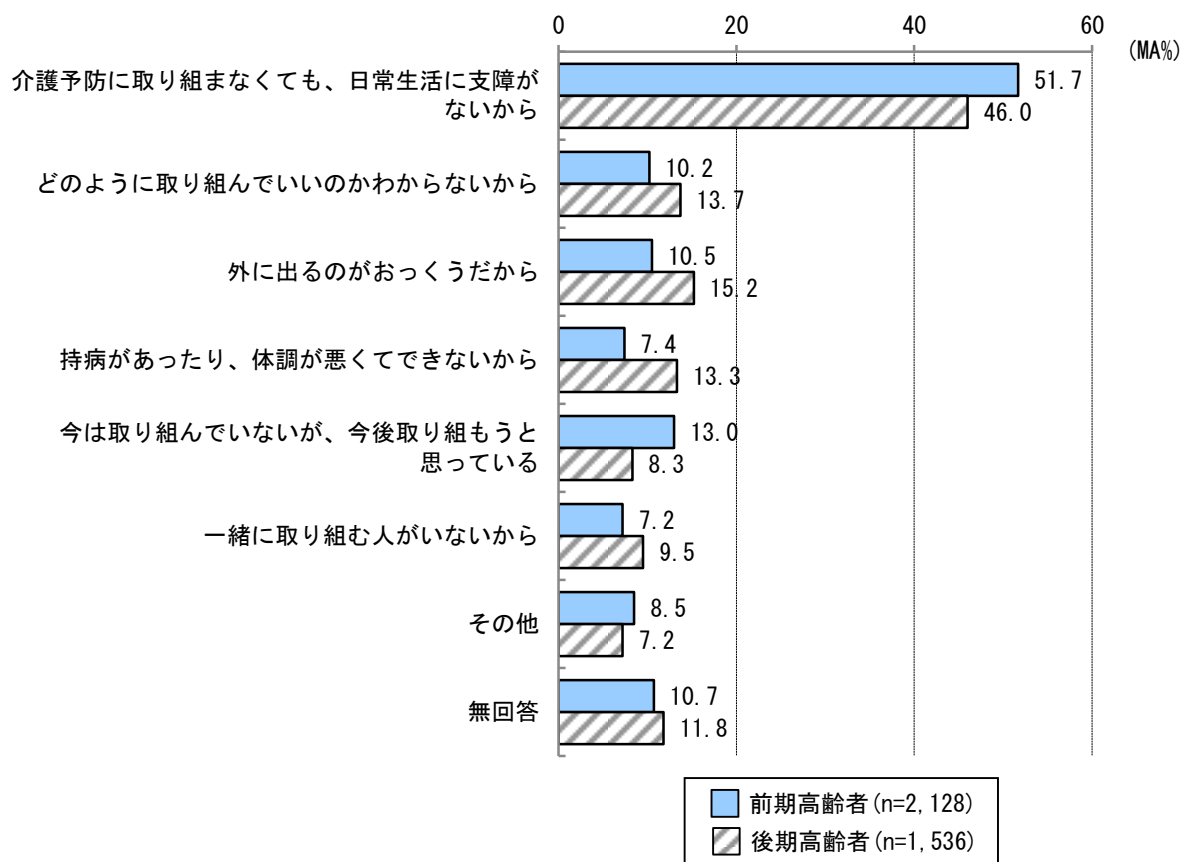
【図7-3 介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由】

※一般高齢者のみ



年齢別でみると、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」は前期高齢者が51.7%、後期高齢者が46.0%となっている。（図7-3-1）

【図7-3-1 年齢別 介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由】



8 たすけあいについて

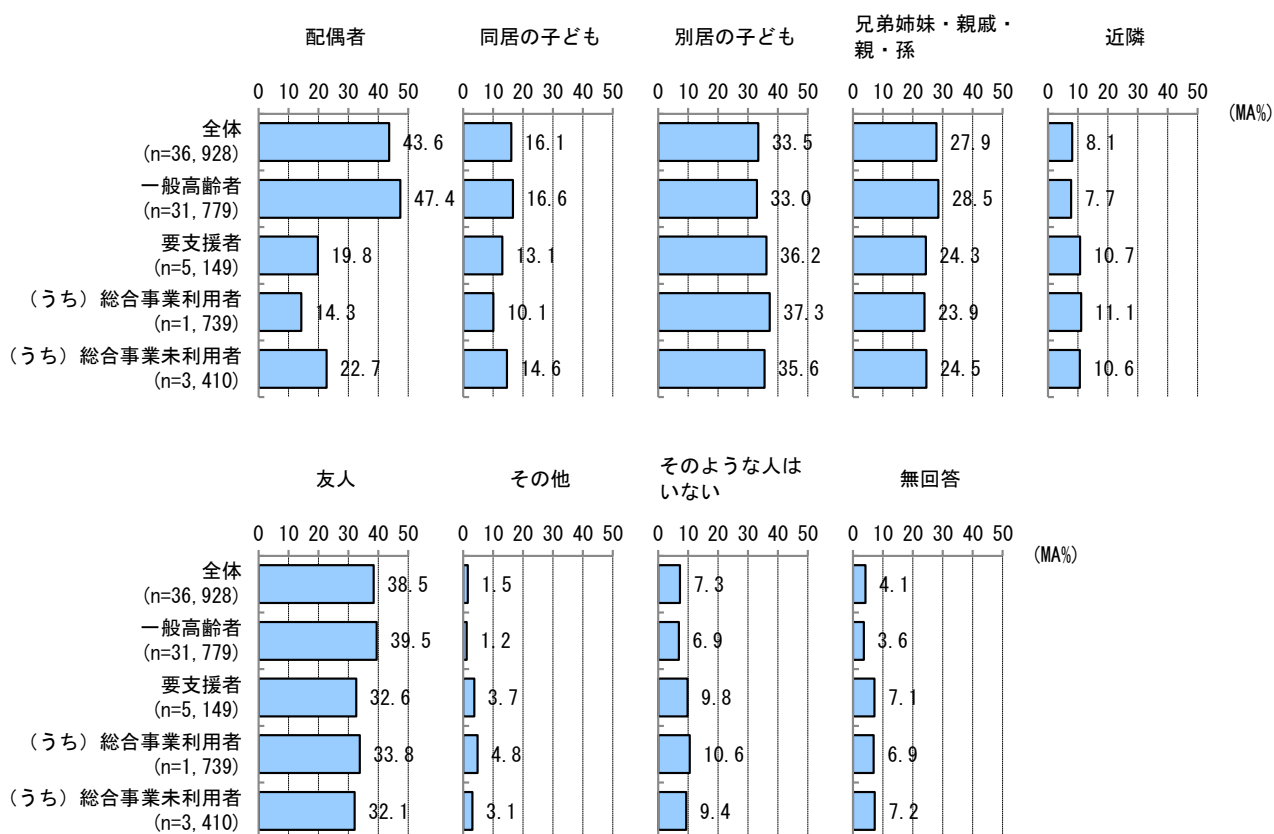
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人 (〇はいくつでも)

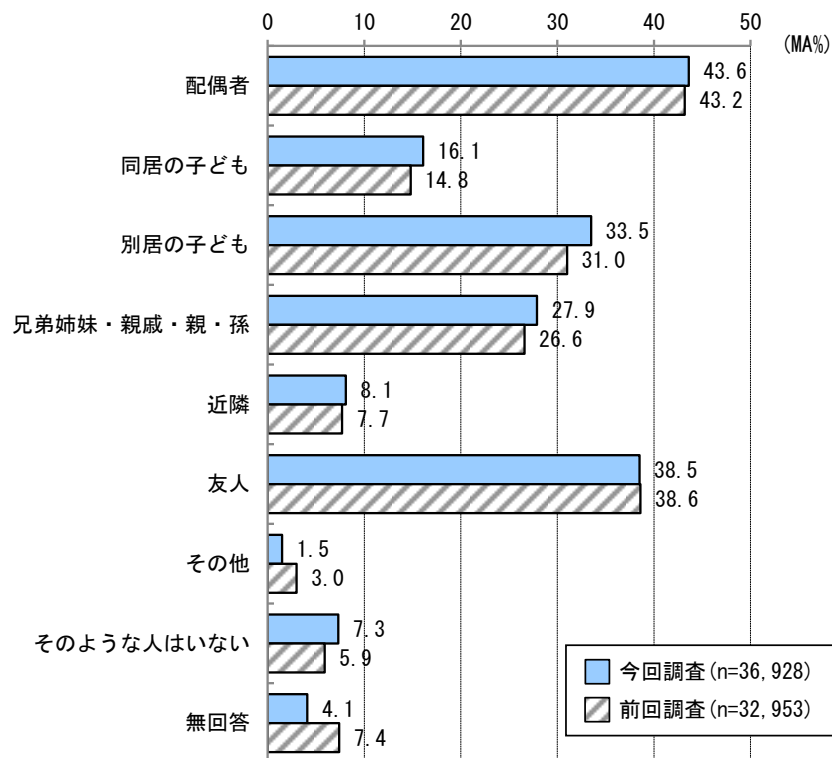
心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が43.6%で最も多く、次いで「友人」が38.5%、「別居の子ども」が33.5%となっている。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が47.4%で最も多く、要支援者では「別居の子ども」が36.2%で最も多くなっている。(図8-1)

【図8-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人】

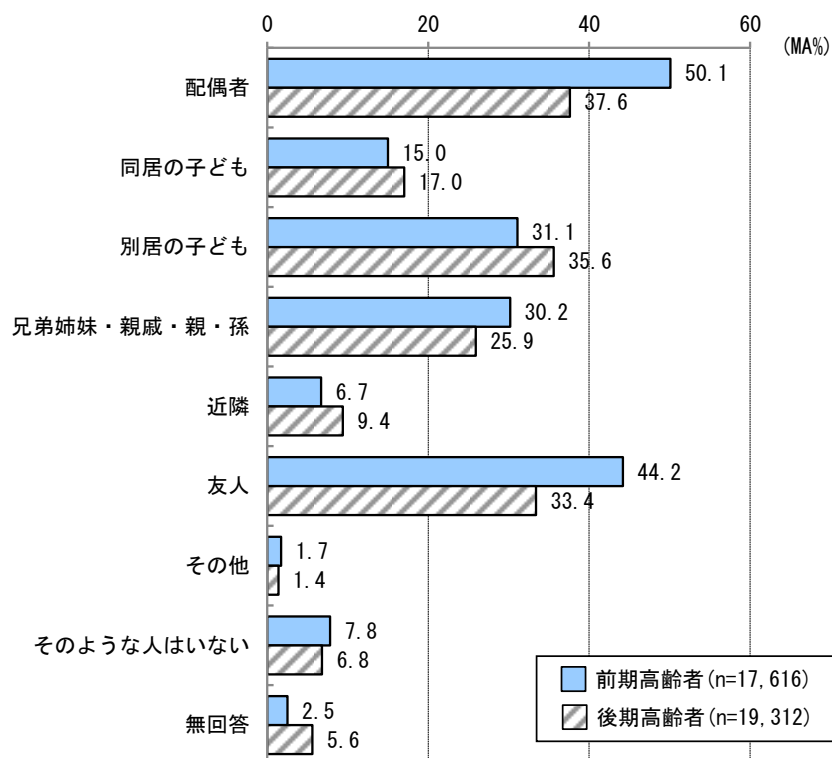


【参考 心配事や愚痴を聞いてくれる人（経年比較）】



年齢別でみると、「配偶者」は前期高齢者が50.1%、後期高齢者が37.6%となっている。
(図8-1-1)

【図8-1-1 年齢別 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



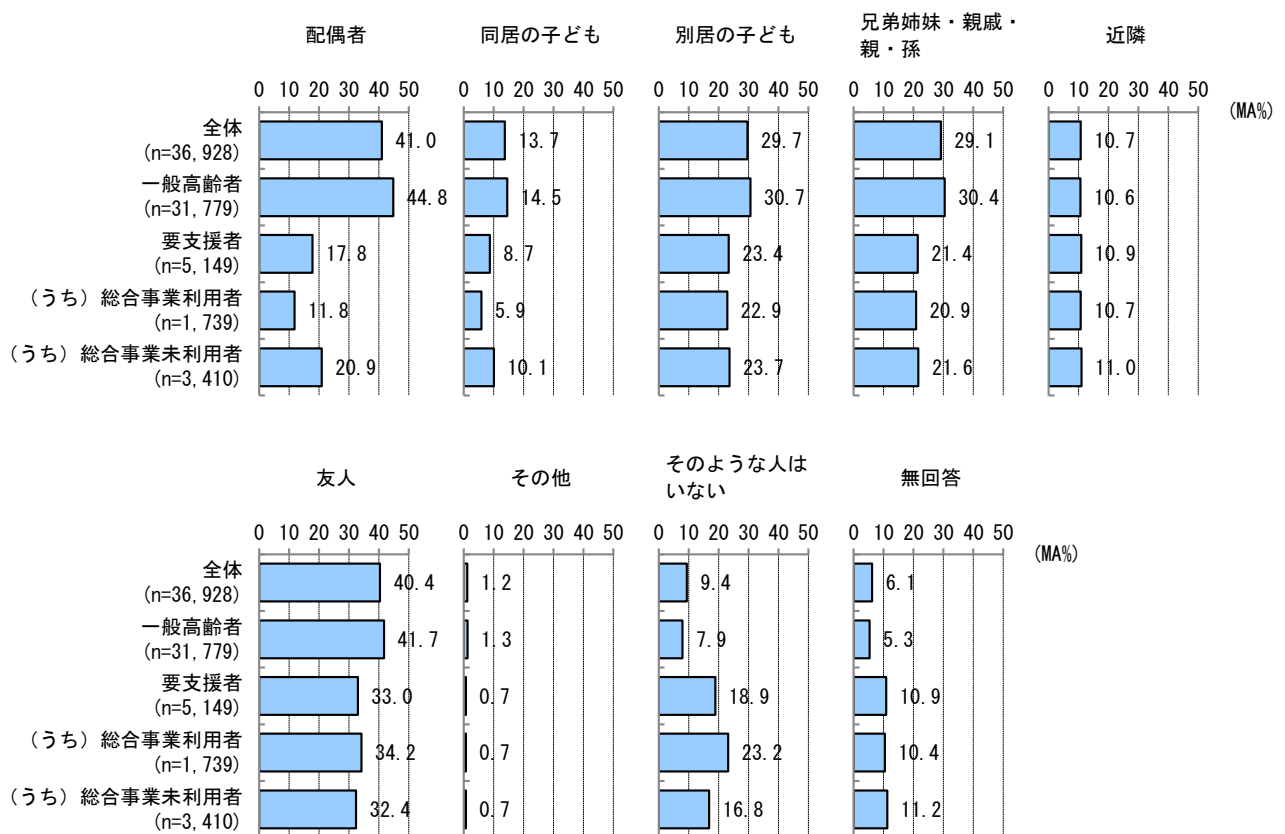
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人（○はいくつでも）

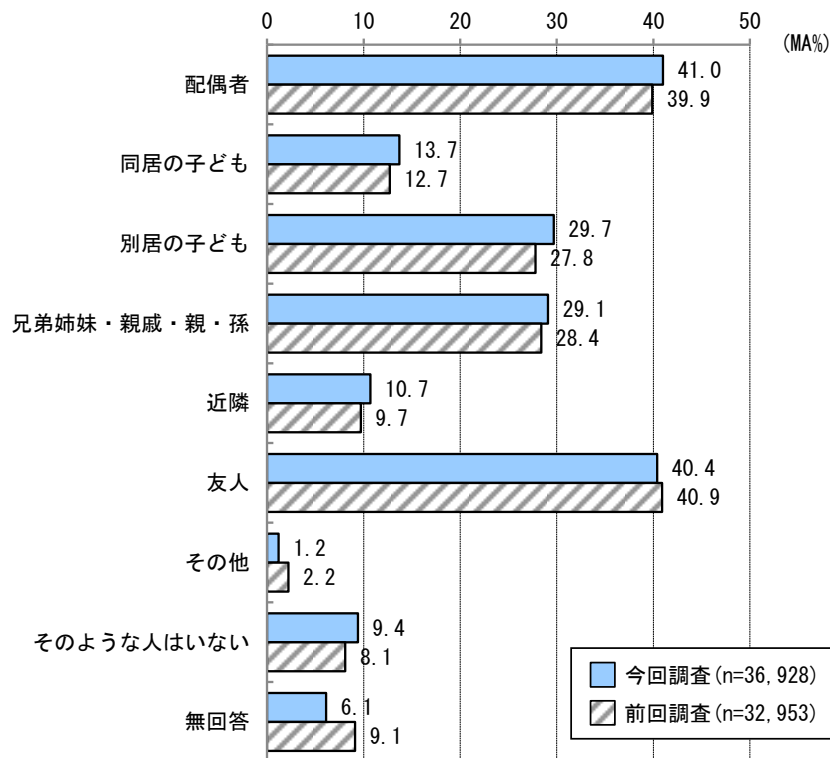
心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が41.0%で最も多く、次いで「友人」が40.4%、「別居の子ども」が29.7%となっている。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が44.8%で最も多く、要支援者では「友人」が33.0%で最も多くなっている。（図8-2）

【図8-2 心配事や愚痴を聞いてあげる人】

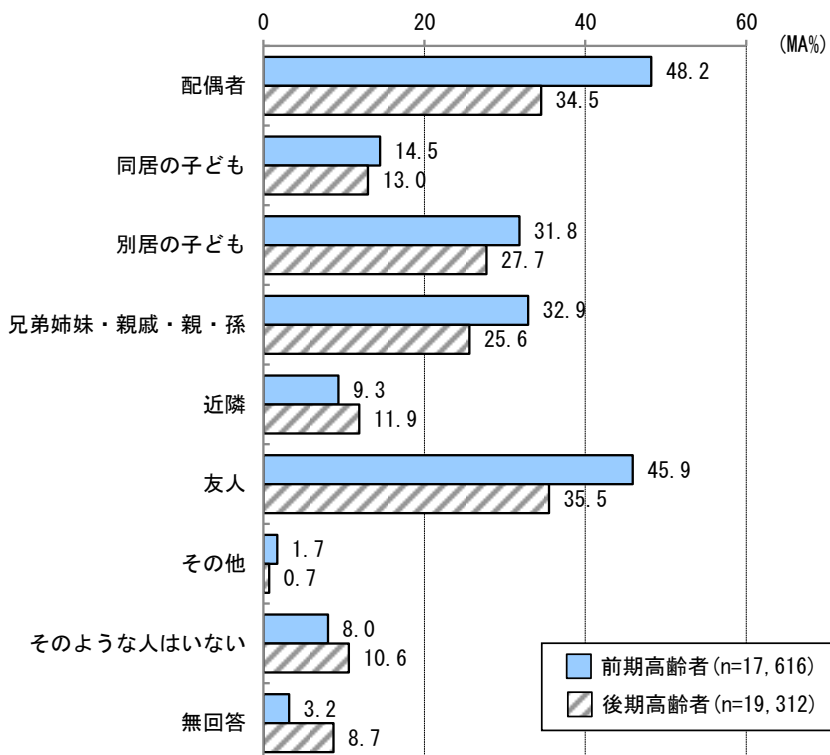


【参考 心配事や愚痴を聞いてあげる人（経年比較）】



年齢別でみると、前期高齢者では「配偶者」（48.2％）が最も多く、後期高齢者では「友人」（35.5％）が最も多くなっている。（図8-2-1）

【図8-2-1 年齢別 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



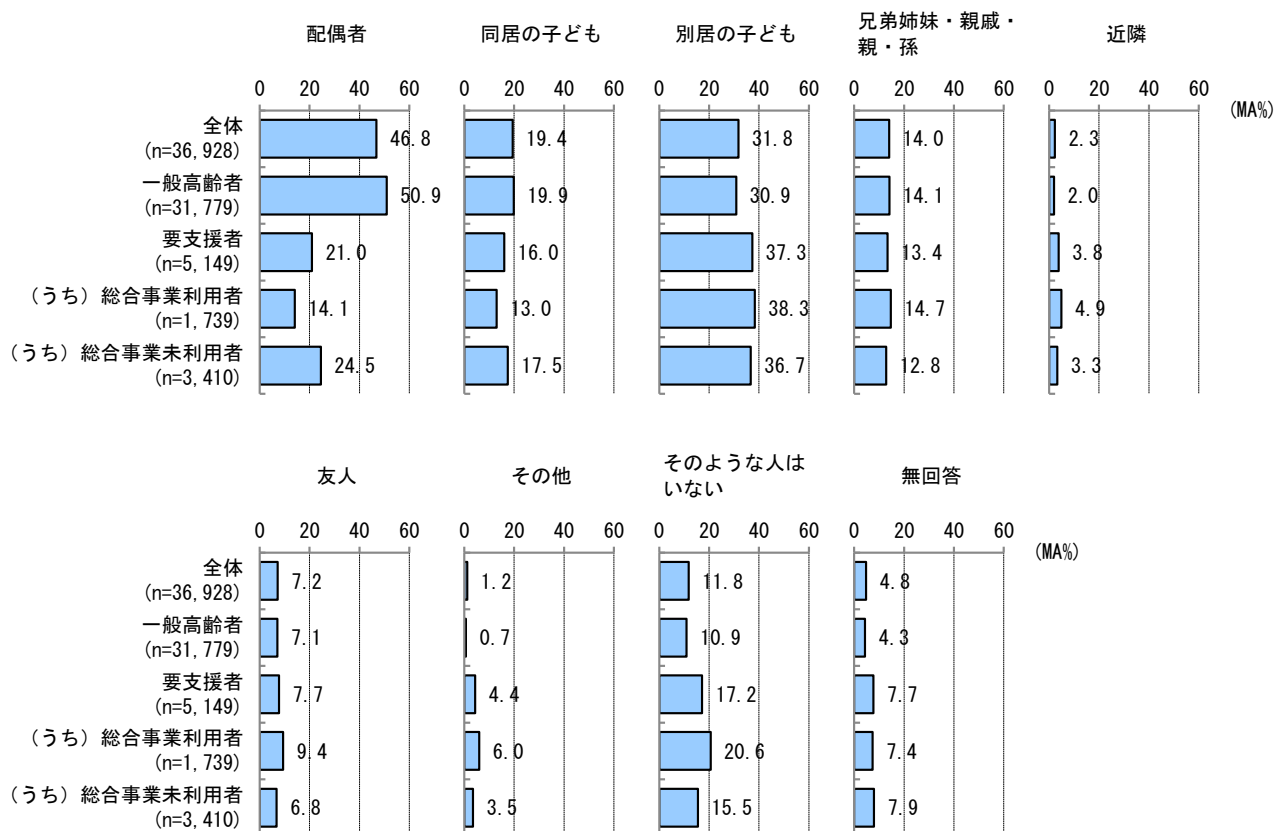
(3) 看病や世話をしてくれる人

問 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（○はいくつでも）

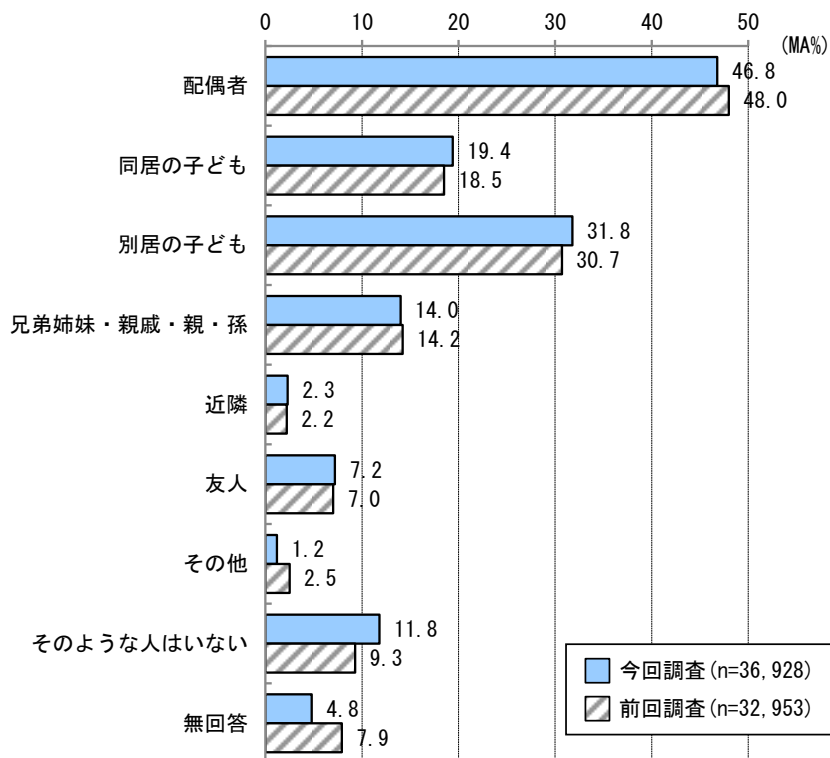
看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が46.8%で最も多く、次いで「別居の子ども」が31.8%、「同居の子ども」が19.4%となっている。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が50.9%で最も多く、要支援者では「別居の子ども」が37.3%で最も多くなっている。（図8-3）

【図8-3 看病や世話をしてくれる人】

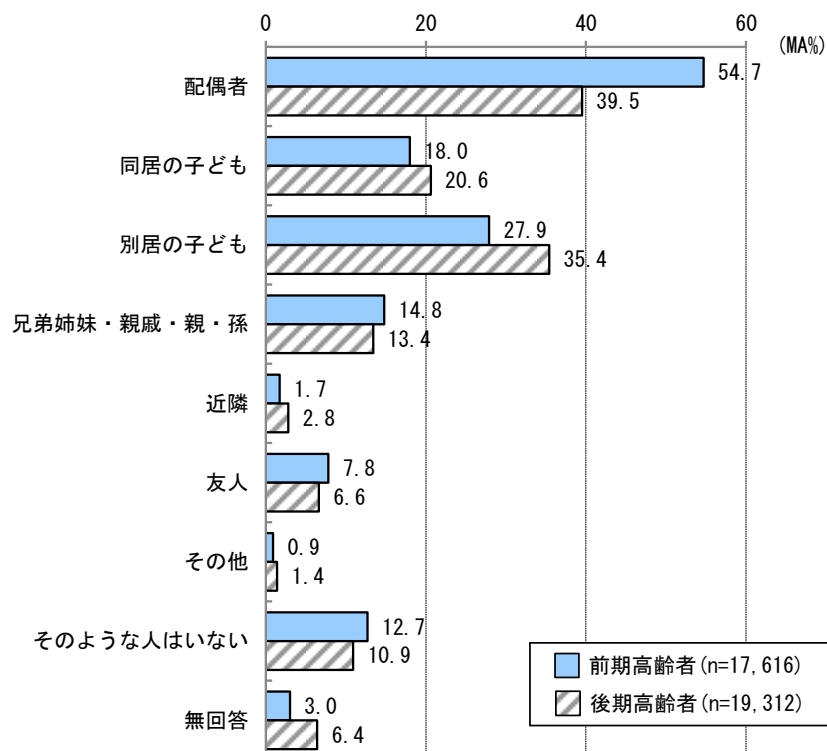


【参考 看病や世話をしてくれる人（経年比較）】



年齢別でみると、「配偶者」は、前期高齢者では54.7%、後期高齢者では39.5%となっている。（図8-3-1）

【図8-3-1 年齢別 看病や世話をしてくれる人】



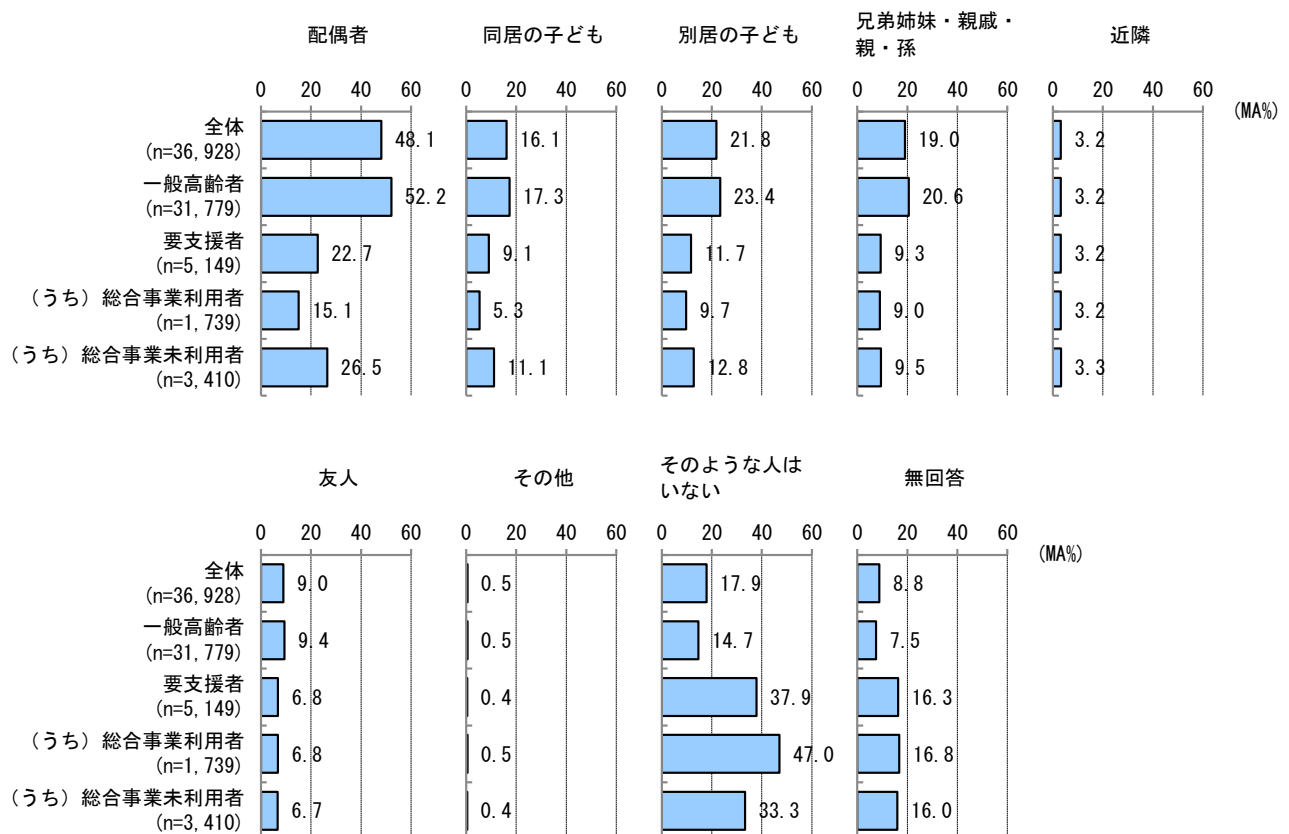
(4) 看病や世話をしあける人

問 反対に、看病や世話をしあける人（○はいくつでも）

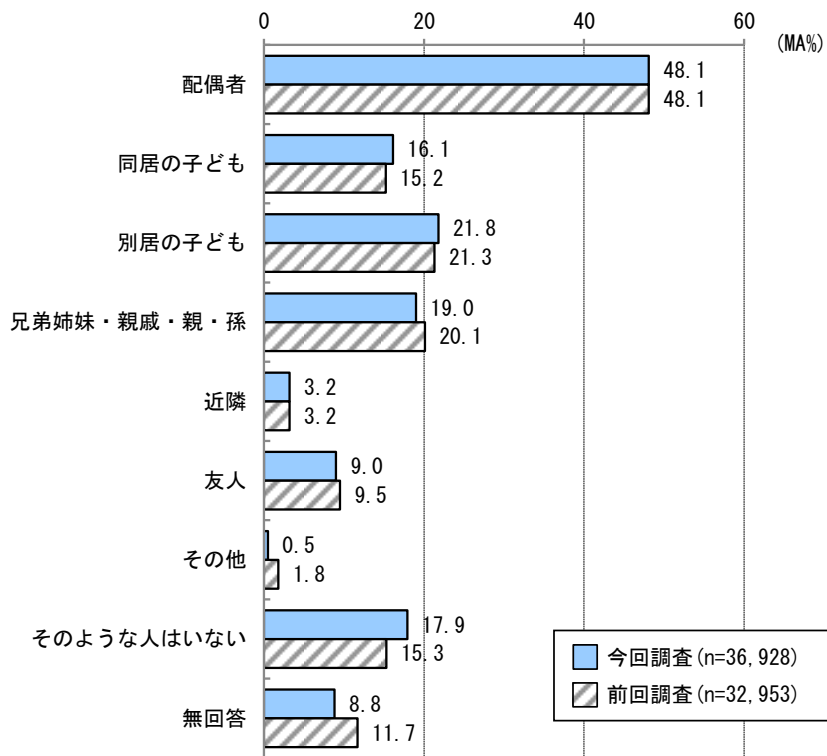
看病や世話をしあける人については、「配偶者」が48.1%で最も多く、次いで「別居の子ども」が21.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が19.0%となっている。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が52.2%で最も多く、要支援者では「そのような人はいない」が37.9%で最も多くなっている。（図8-4）

【図8-4 看病や世話をしあける人】

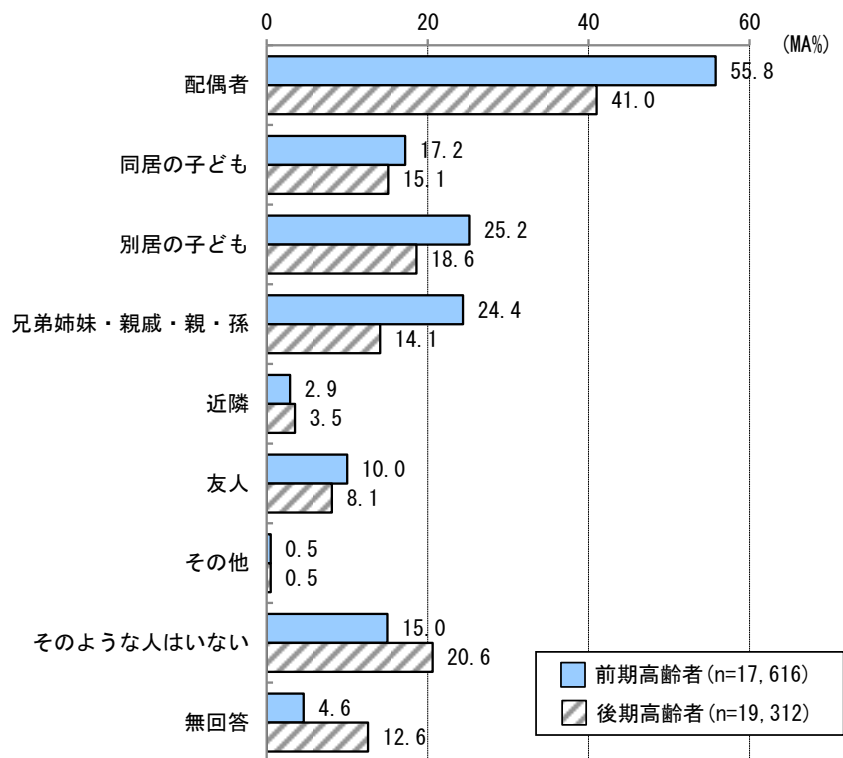


【参考 看病や世話をしあける人（経年比較）】



年齢別でみると、「配偶者」は、前期高齢者では55.8%、後期高齢者では41.0%となっている。（図8-4-1）

【図8-4-1 年齢別 看病や世話をしあける人】

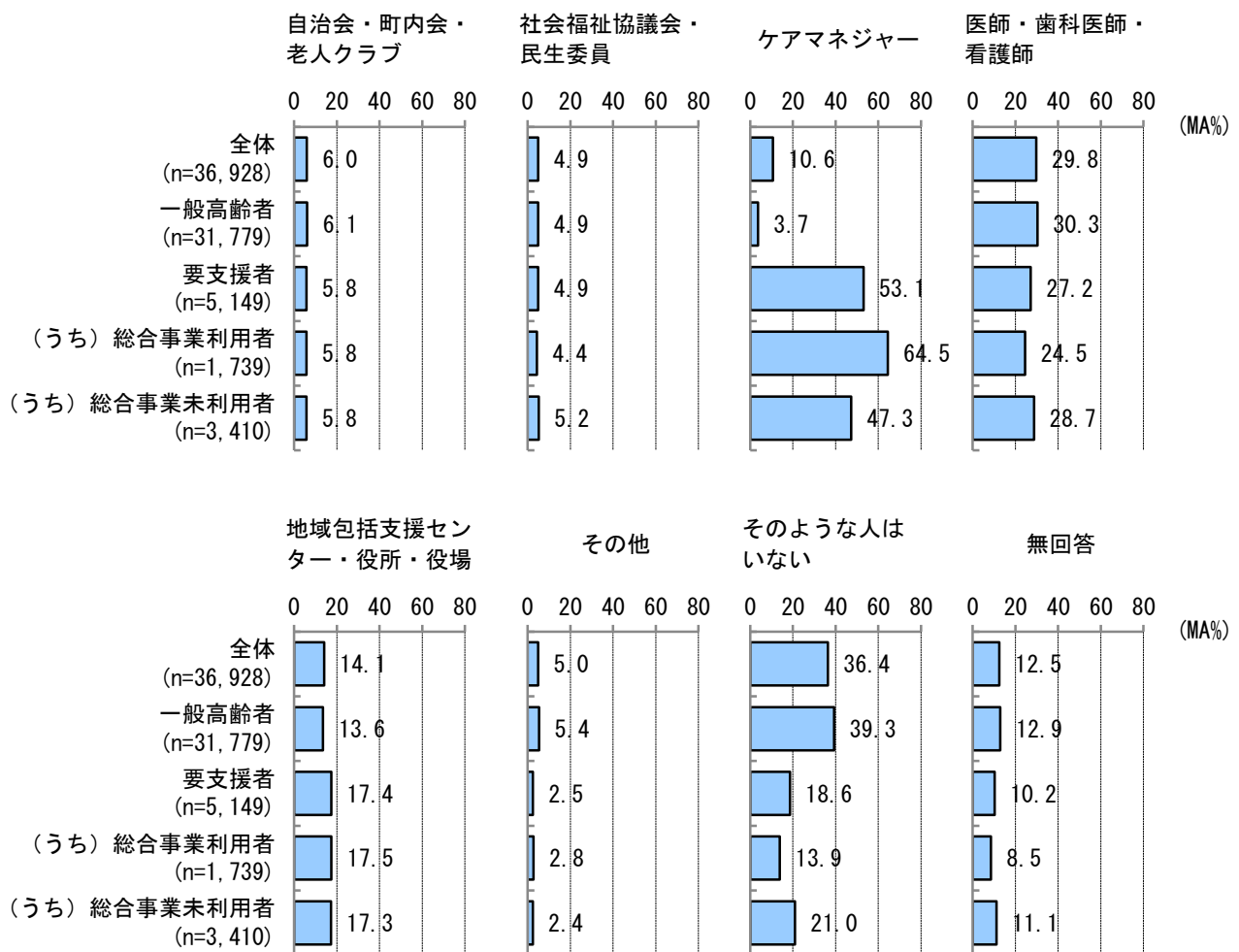


(5) 相談相手

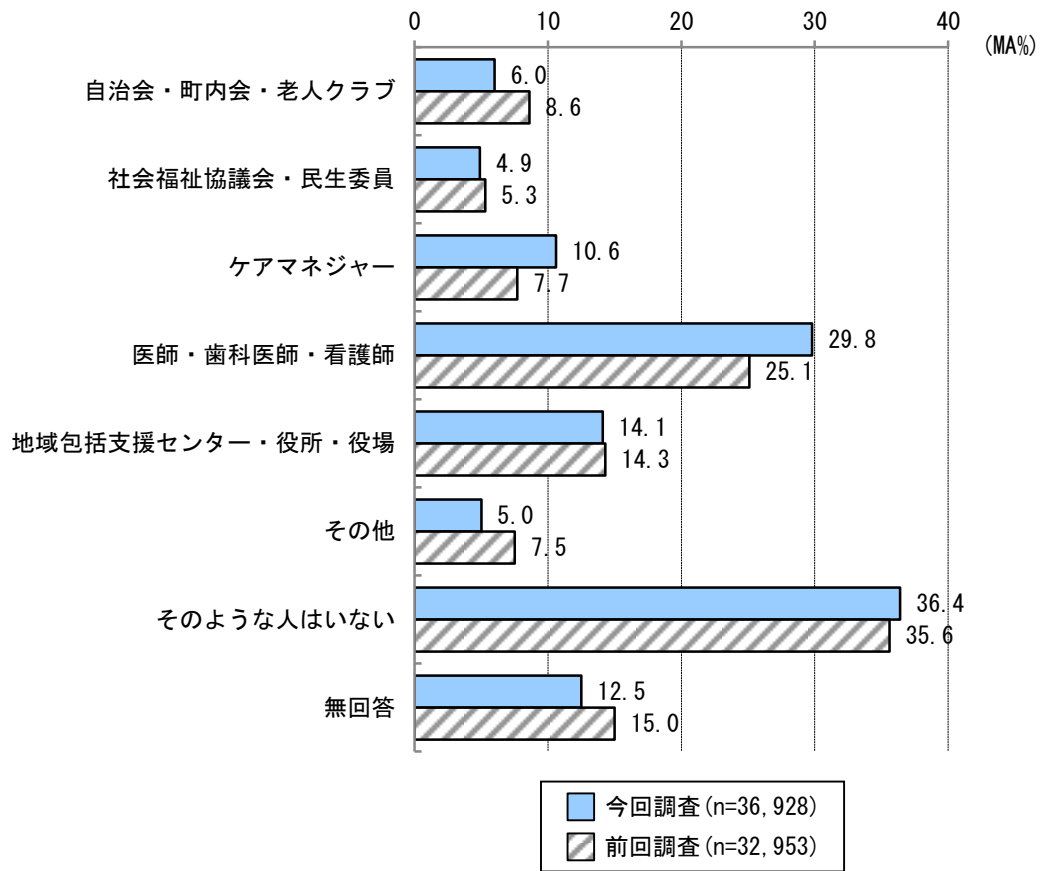
問 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(〇はいくつでも)

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」が29.8%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」が14.1%、「ケアマネジャー」が10.6%となっている。一方で、「そのような人はいない」は3割台（36.4%）となっている。（図8-5）

【図8-5 相談相手】



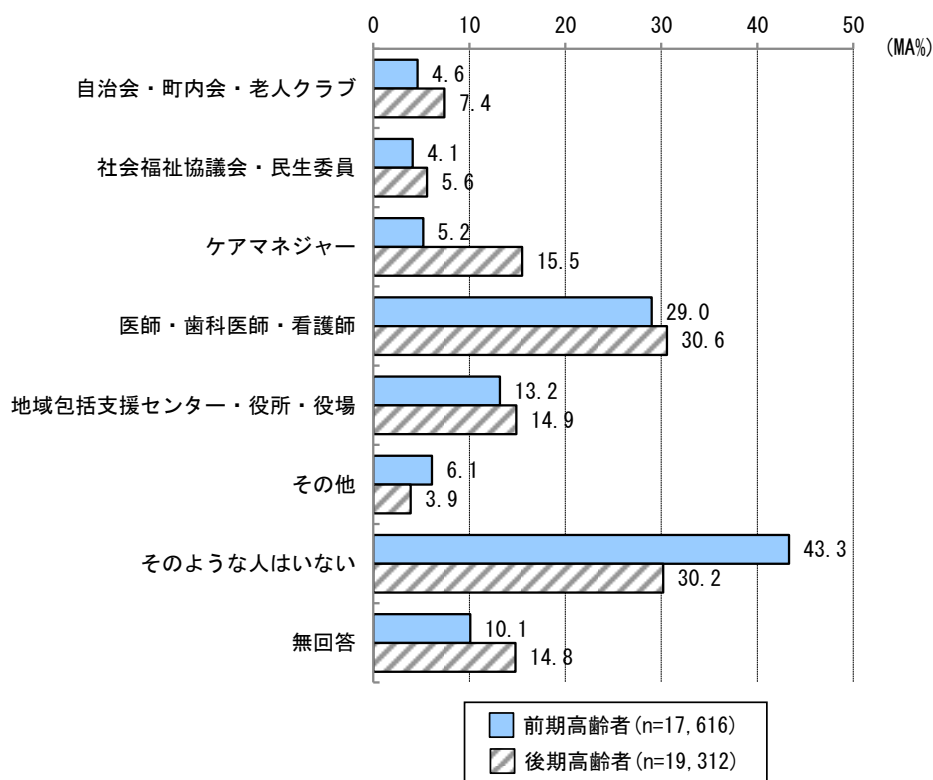
【参考 相談相手（経年比較）】



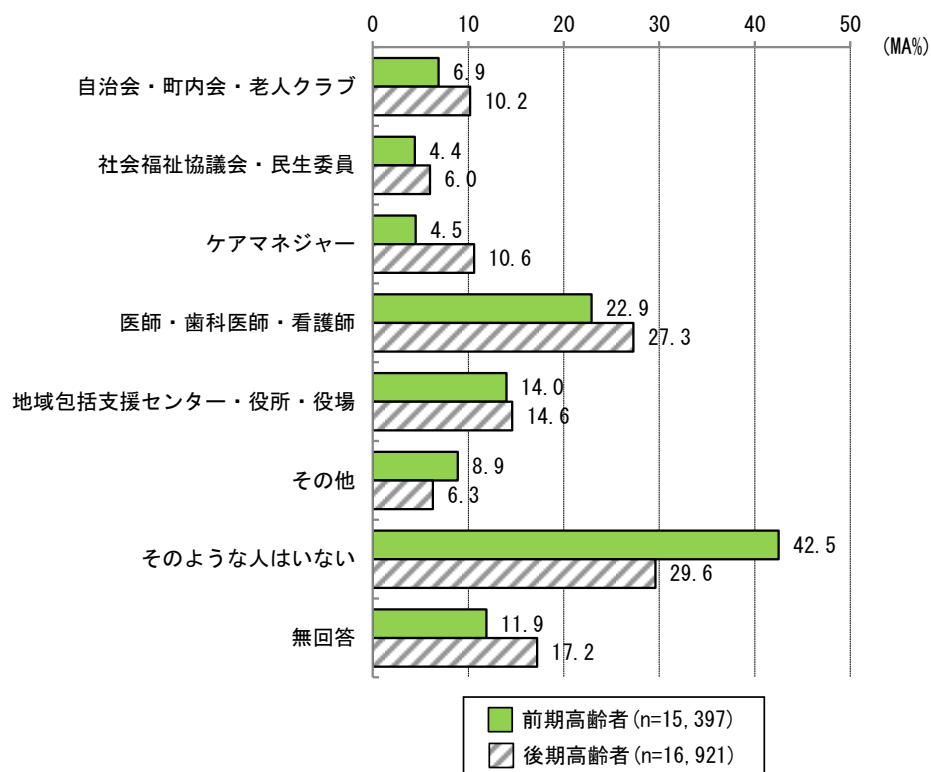
年齢別でみると、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」が前期高齢者では29.0%、後期高齢者では30.6%で最も多くなっている。

一方で、「そのような人はいない」と回答した人が前期高齢者では43.3%、後期高齢者では30.2%となっている。（図8-5-1）

【図8-5-1 年齢別 相談相手】



【図8-5-2 年齢別 相談相手（前回調査）】



(6) 友人・知人との交流状況

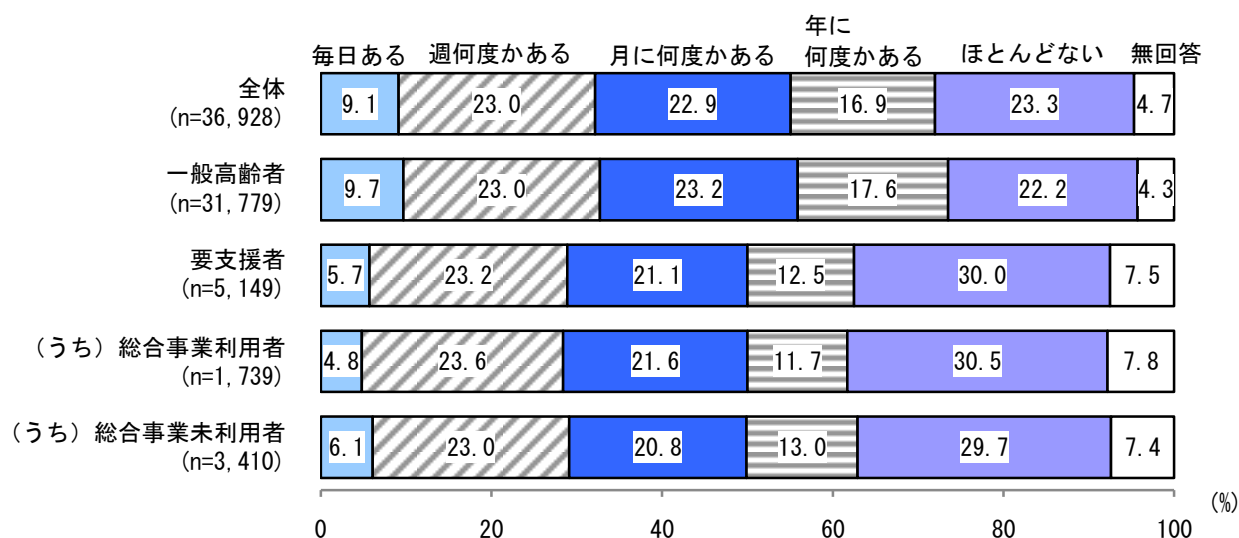
① 友人・知人と会う頻度

問 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○はひとつ)

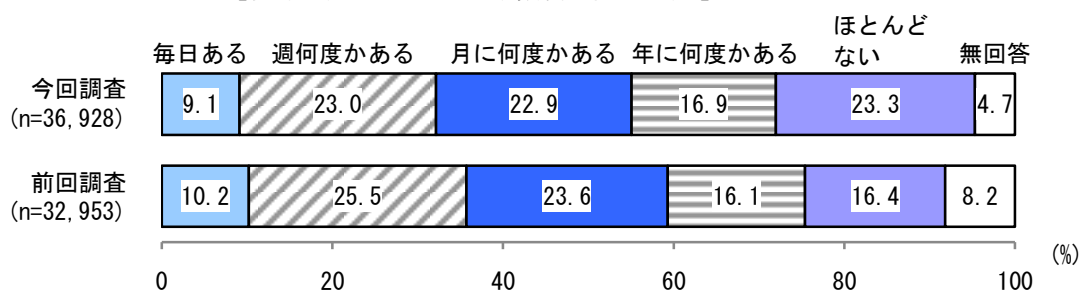
友人・知人と会う頻度については、「ほとんどない」が23.3%で最も多く、次いで「週何度かある」が23.0%、「月に何度かある」が22.9%となっている。一方、『年に何度か以下』（「年に何度かある」「ほとんどない」の合計）は4割台（40.2%）となっている。

認定状況別でみると、『年に何度か以下』の割合は要支援者で4割台（42.5%）となっている。(図8-6-1)

【図8-6-1 友人・知人と会う頻度】

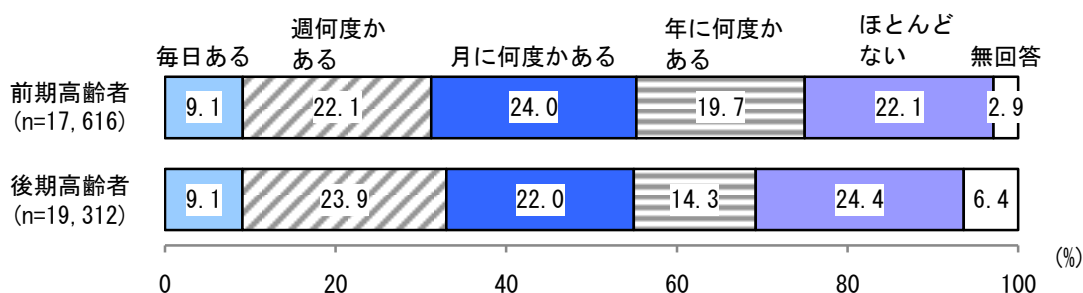


【参考 友人・知人と会う頻度（経年比較）】



年齢別でみると、前期高齢者は「月に何度かある」が24.0%で最も多く、後期高齢者は「ほとんどない」が24.4%で最も多くなっている。(図8-6-1-1)

【図8-6-1-1 年齢別 友人・知人と会う頻度】



② 1か月に会う友人・知人の人数

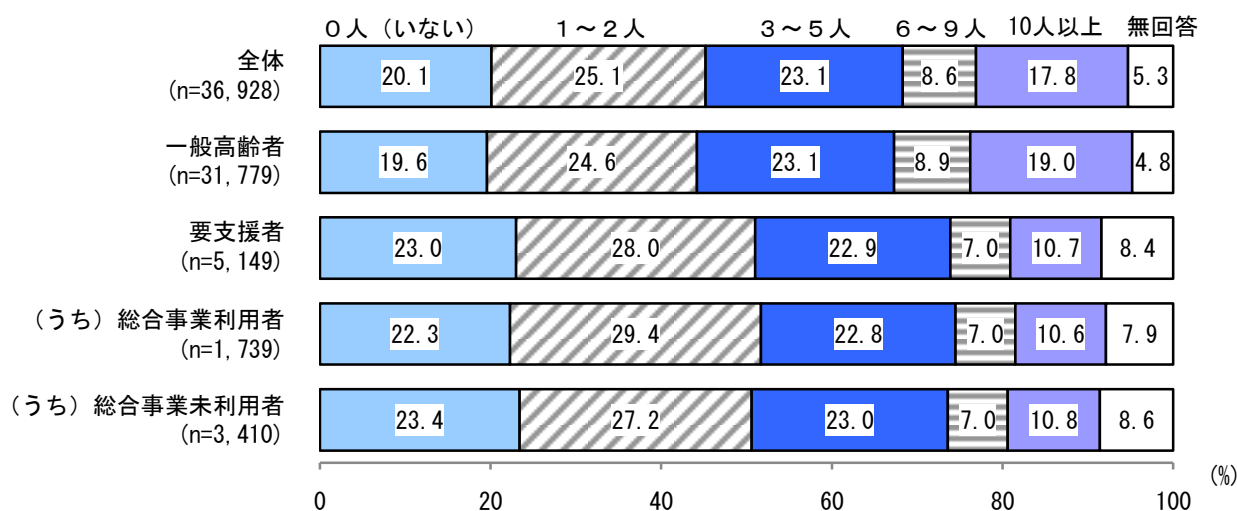
問 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(〇はひとつ)

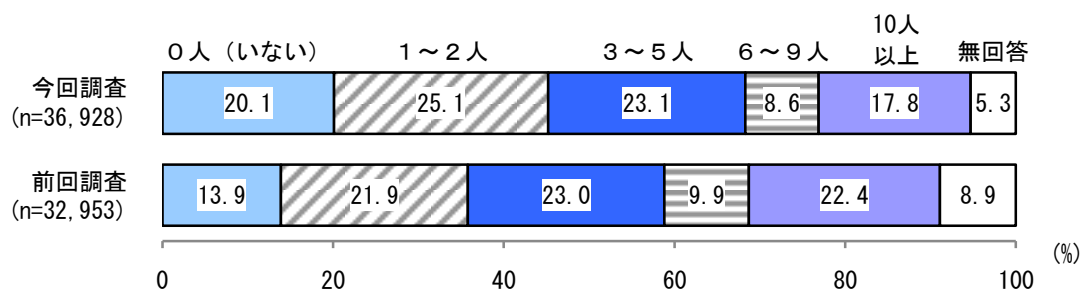
この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、「1～2人」が25.1%で最も多く、次いで「3～5人」が23.1%、「0人（いない）」が20.1%となっている。

認定状況別でみると、要支援者は「0人（いない）」が2割強（23.0%）となっている。
(図8-6-2)

【図8-6-2 1か月に会う友人・知人の人数】

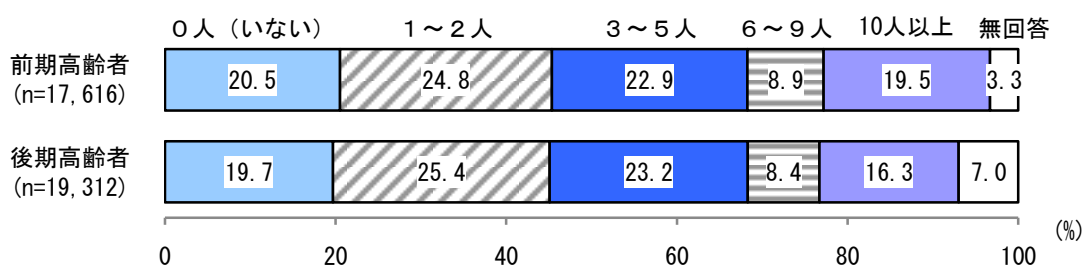


【参考 1か月に会う友人・知人の人数（経年比較）】



年齢別でも、大きな差はみられない。(図8-6-2-1)

【図8-6-2-1 年齢別 1か月に会う友人・知人の人数】



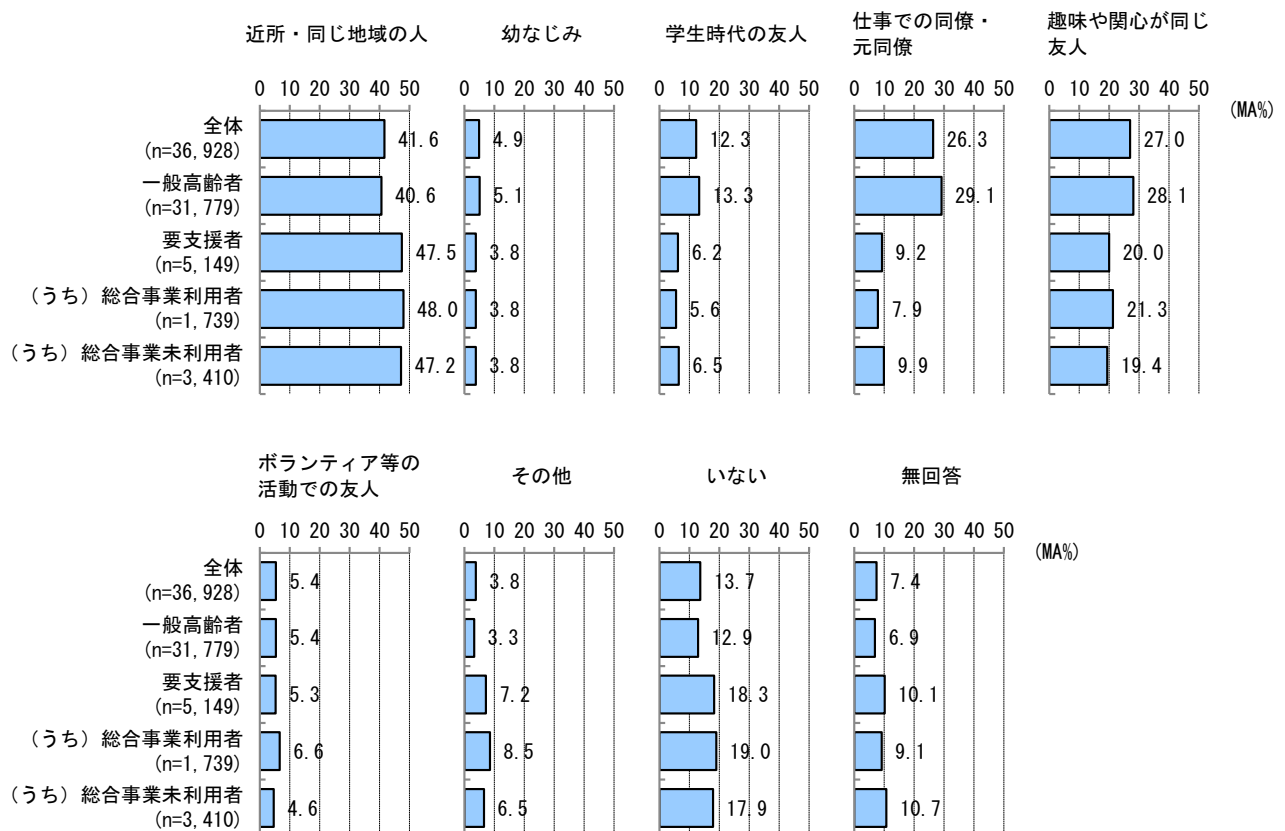
③ 友人・知人の関係

問 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(〇はいくつでも)

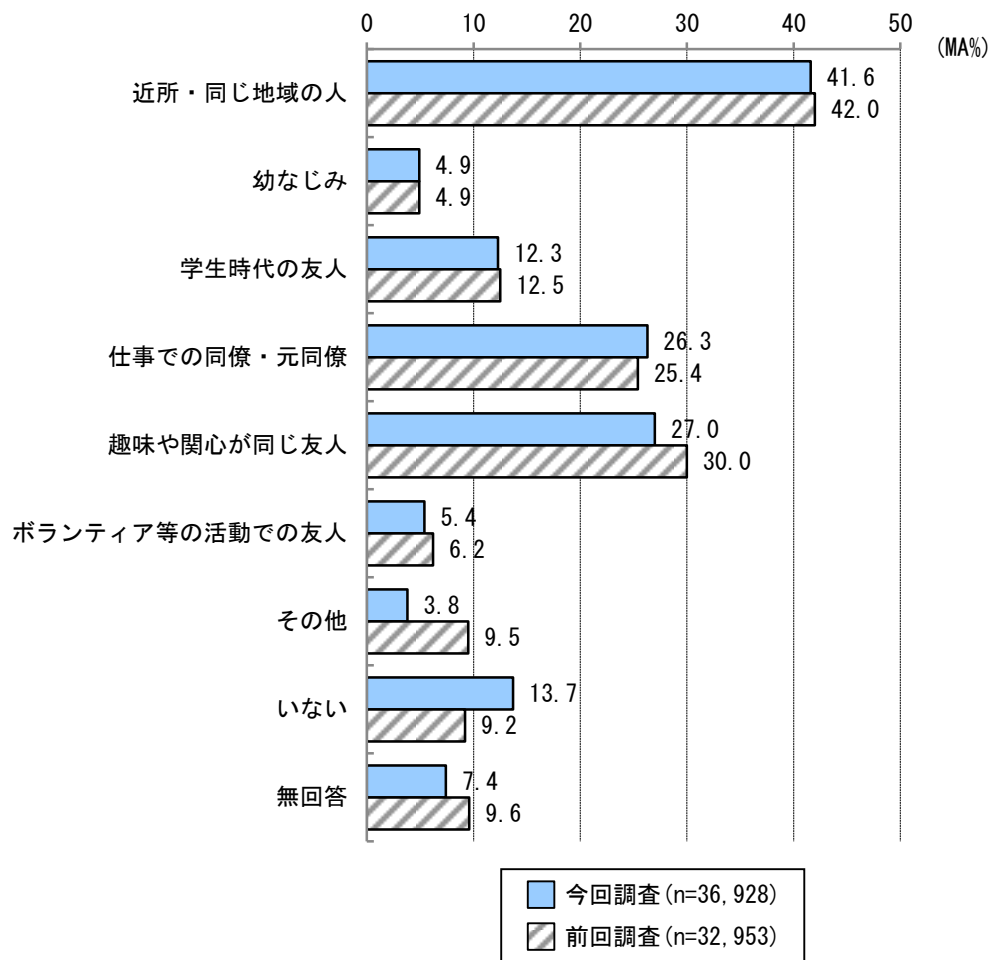
よく会う友人・知人の関係については、「近所・同じ地域の人」が41.6%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が27.0%、「仕事での同僚・元同僚」が26.3%となっている。

認定状況別でみると、「仕事での同僚・元同僚」は要支援者(9.2%)より一般高齢者(29.1%)のほうが19.9ポイント高くなっている。(図8-6-3)

【図8-6-3 友人・知人の関係】

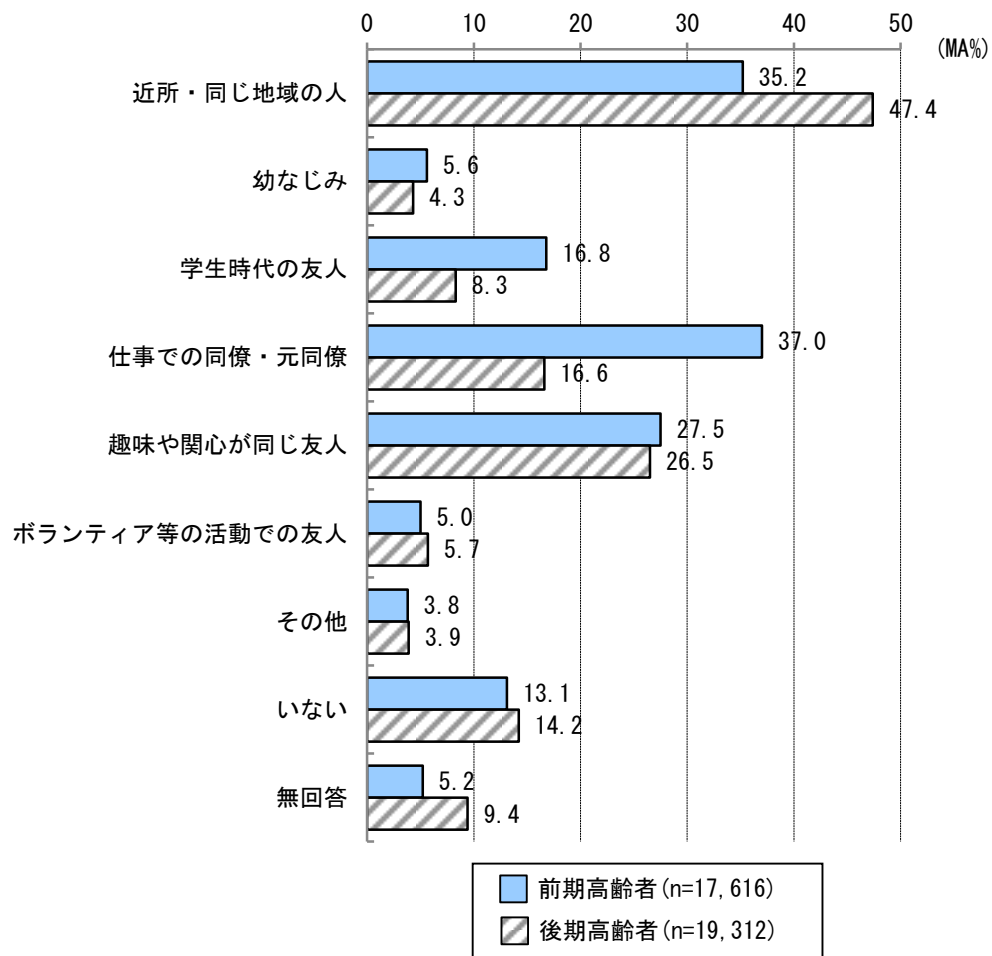


【参考 友人・知人の関係（経年比較）】



年齢別でみると、前期高齢者では「仕事での同僚・元同僚」(37.0%)が最も多いが、後期高齢者では「近所・同じ地域の人」(47.4%)が最も多くなっている。(図8-6-3-1)

【図8-6-3-1 年齢別 友人・知人の関係】



9 健康について

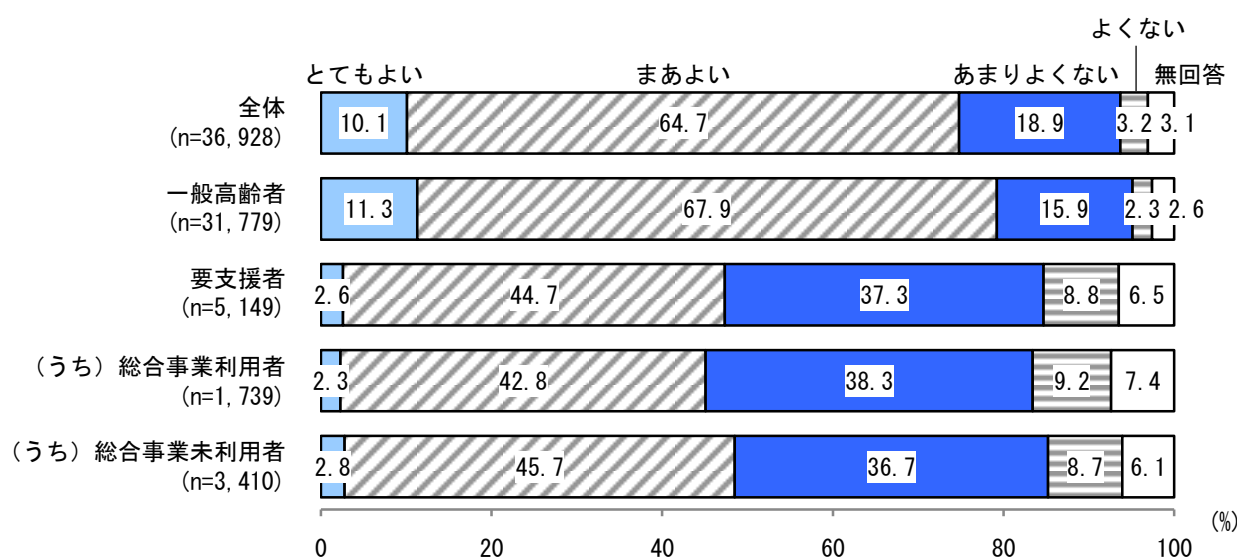
(1) 主観的健康観

問 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○はひとつ)

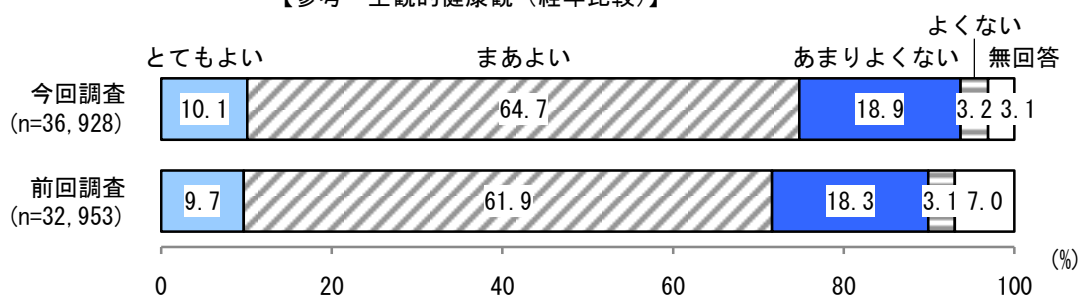
現在の健康状態は、「とてもよい」が10.1%、「まあよい」が64.7%で、健康状態はよいという人は合計7割(74.8%)となっている。

認定状況別でみると、健康状態はよいという人は、要支援では5割弱(47.3%)となっている。(図9-1)

【図9-1 主観的健康観】

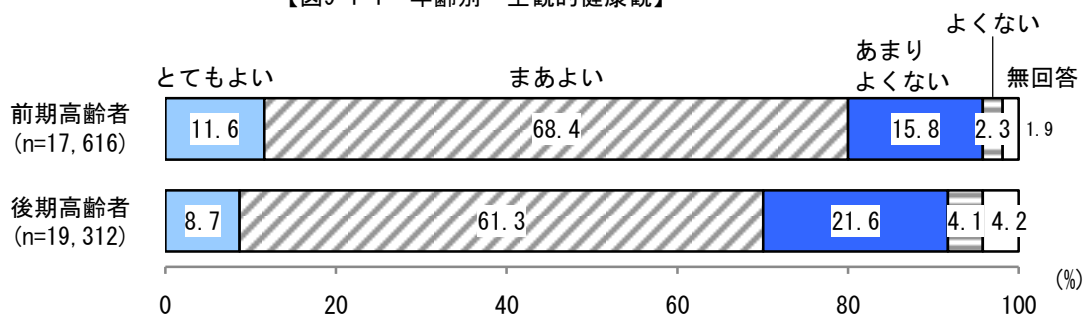


【参考 主観的健康観(経年比較)】



年齢別でみると、健康状態はよいという人は、後期高齢者(70.0%)より前期高齢者(80.0%)のほうが10ポイント高くなっている。(図9-1-1)

【図9-1-1 年齢別 主観的健康観】



(2) 主観的幸福観

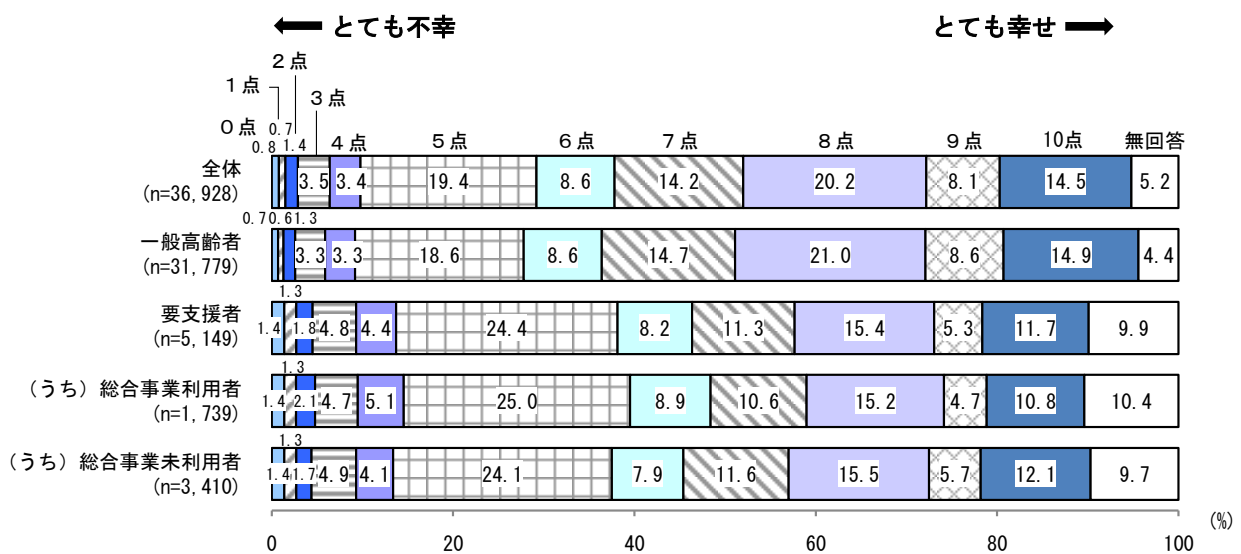
問 あなたは、現在どの程度幸せですか。(〇はひとつ)

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

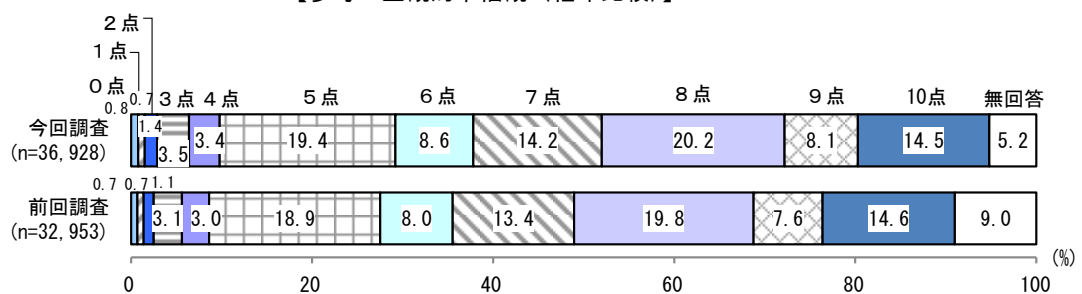
現在どの程度幸せかを10点満点でたずねたところ、「8点」が20.2%で最も多く、次いで「5点」が19.4%、「10点」が14.5%となっており、平均6.9点となっている。

認定状況別でみると、一般高齢者では「8点」が21.0%で最も多く、要支援者では「5点」が24.4%で最も多くなっている。(図9-2)

【図9-2 主観的幸福観】

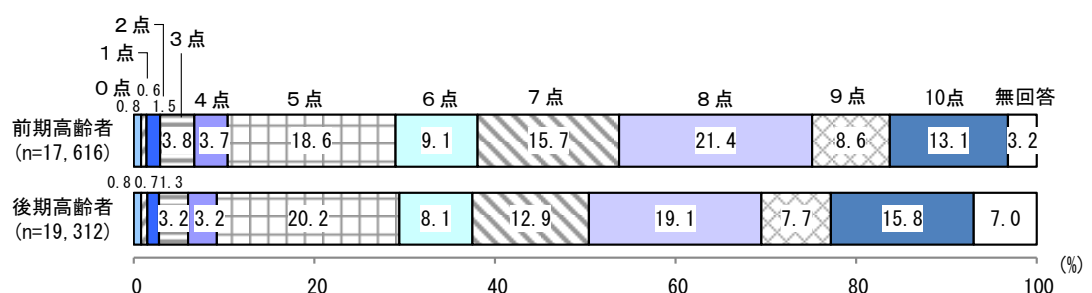


【参考 主観的幸福観 (経年比較)】



年齢別でみると、前期高齢者では「8点」が21.4%で最も多く、後期高齢者では「5点」が20.2%で最も多くなっている。(図9-2-1)

【図9-2-1 年齢別 主観的幸福観】

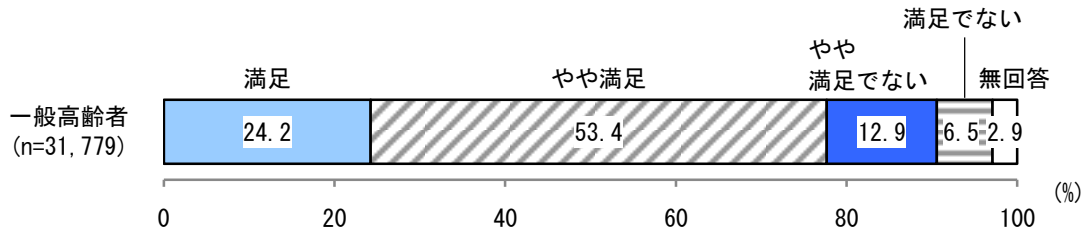


(3) 現在の生活の満足度

問 あなたの現在の生活の満足度は次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

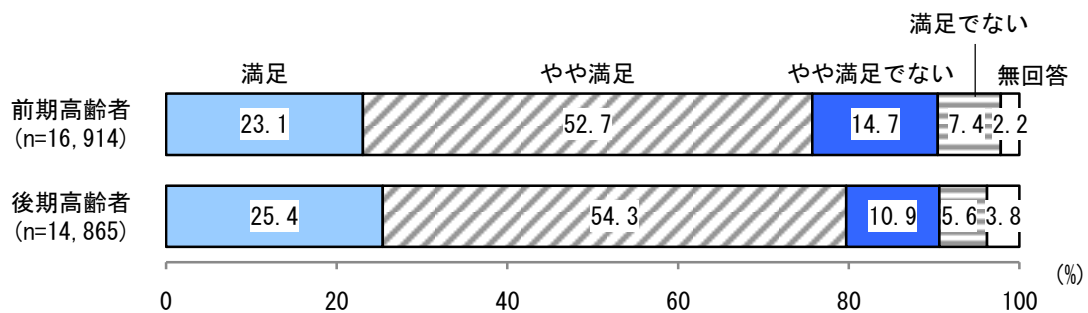
現在の生活の満足度については、「やや満足」が53.4%で最も多く、次いで「満足」が24.2%で、両者をあわせた満足している人の割合は77.6%となっている。(図9-3)

【図9-3 現在の生活の満足度】 ※一般高齢者のみ



年齢別でみると、満足している人の割合は前期高齢者(75.8%)より後期高齢者(79.7%)のほうがやや高くなっている。(図9-3-1)

【図9-3-1 年齢別 現在の生活の満足度】



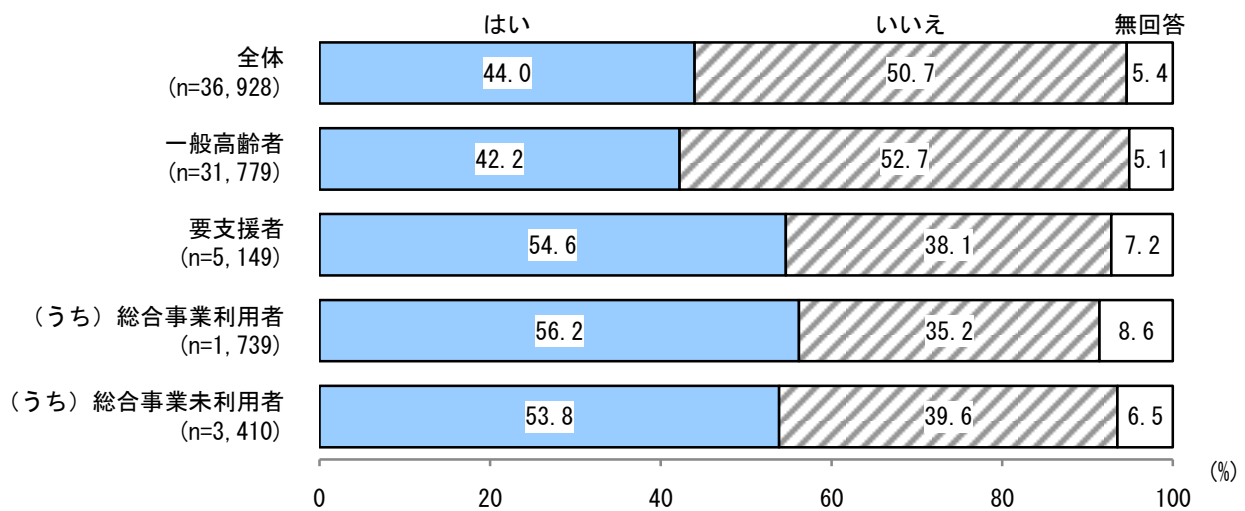
(4) ゆうつな気持ちになったりすること

問 この1か月間、気分が沈んだり、ゆうつな気持ちになったりすることがありましたか。
(○はひとつ)

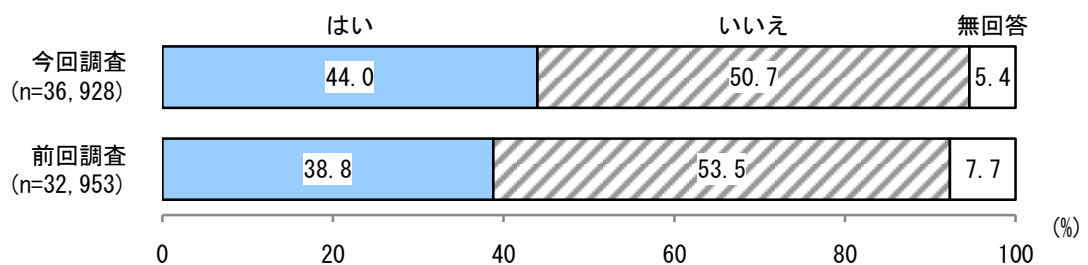
この1か月間、気分が沈んだり、ゆうつな気持ちになったりした(「はい」と回答している)人は4割強(44.0%)となっている。

認定状況別でみると、ゆうつな気持ちになったりした人は要支援者で5割強(54.6%)となっている。(図9-4)

【図9-4 ゆうつな気持ちになったりすること】

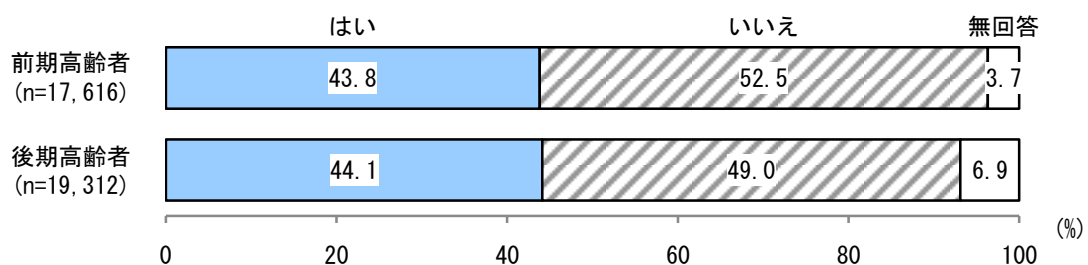


【参考 ゆうつな気持ちになったりすること (経年比較)】



年齢別でも、大きな差はみられない。(図9-4-1)

【図9-4-1 年齢別 ゆうつな気持ちになったりすること】



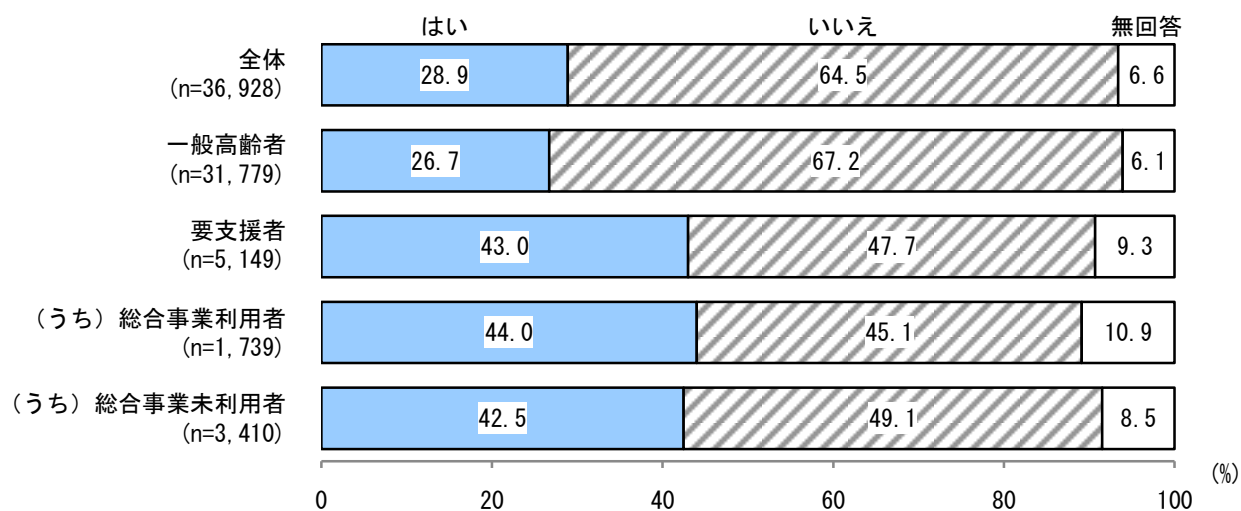
（５）ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感

問 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（○はひとつ）

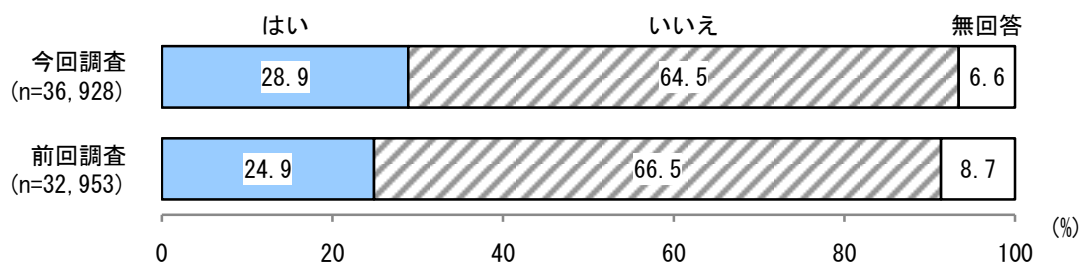
この1か月間に、物事に対して興味がわからない感じがよくあった（「はい」と回答している）人は3割弱（28.9％）となっている。

認定状況別でみると、物事に対して興味がわからない感じがよくあった人は要支援者で4割強（43.0％）となっている。（図9-5）

【図9-5 ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感】

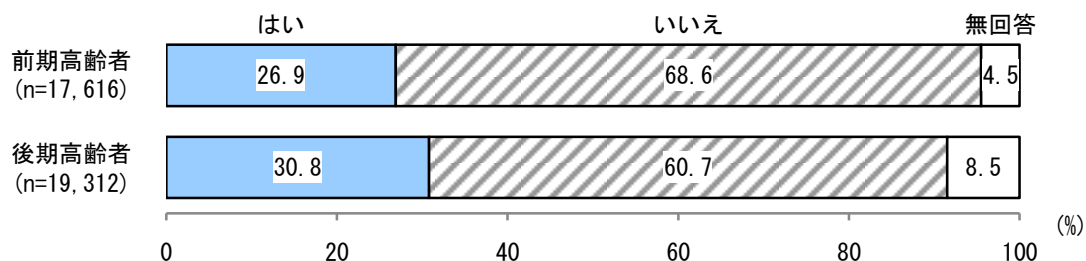


【参考 ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感（経年比較）】



年齢別でみると、物事に対して興味がわからない感じがよくあった人は、前期高齢者（26.9％）より後期高齢者（30.8％）のほうがやや高くなっている。（図9-5-1）

【図9-5-1 ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感】



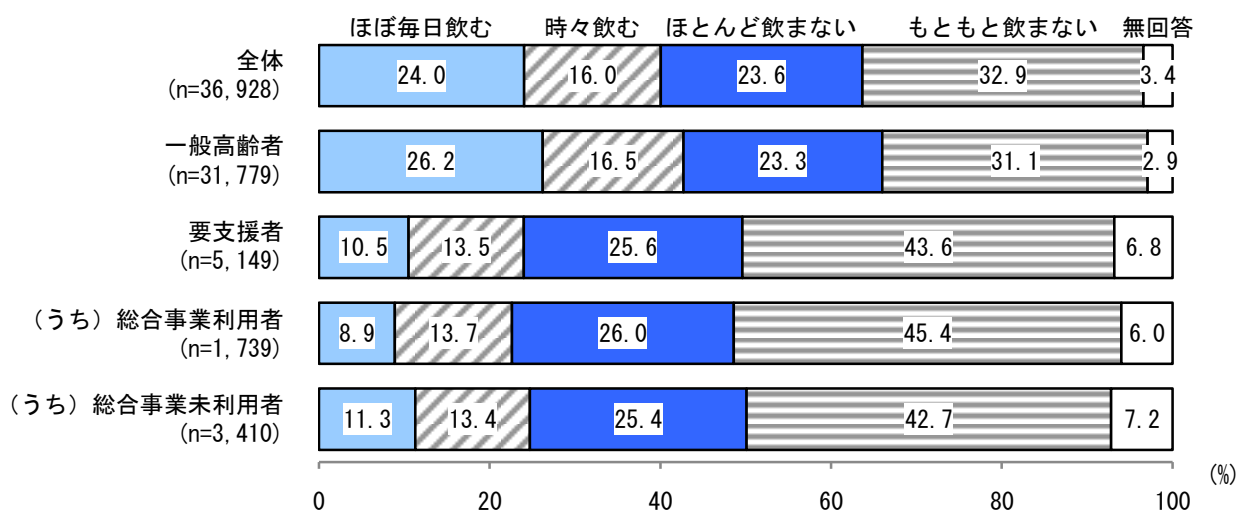
(6) 飲酒習慣

問 お酒は飲みますか。(○はひとつ)

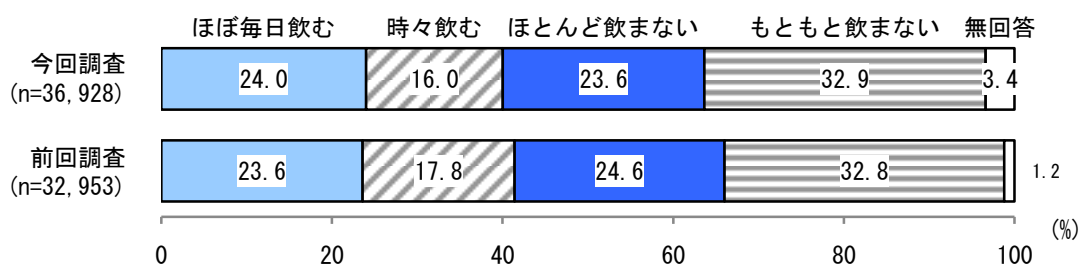
飲酒については、「もともと飲まない」が32.9%で最も多く、次いで「ほぼ毎日飲む」が24.0%となっている。飲酒習慣のある人（「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計）は4割（40.0%）となっている。

認定状況別でみると、飲酒習慣のある人は一般高齢者で4割強（42.7%）を占めている。（図9-6）

【図9-6 飲酒習慣】

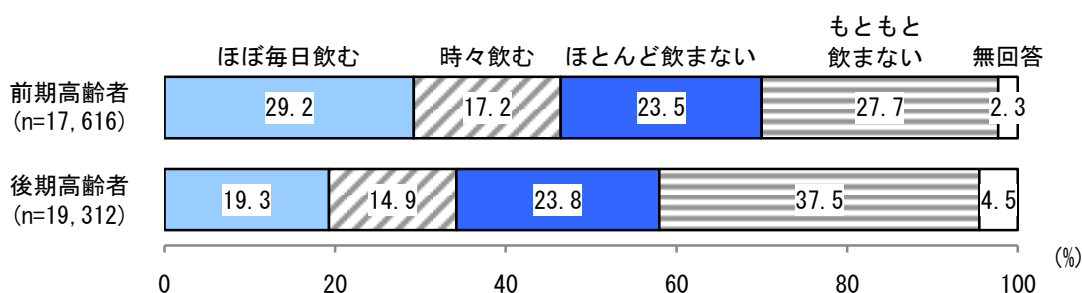


【参考 飲酒習慣（経年比較）】



年齢別でみると、飲酒習慣のある人の割合は前期高齢者（46.4%）のほうが高くなっている。（図9-6-1）

【図9-6-1 年齢別 飲酒習慣】



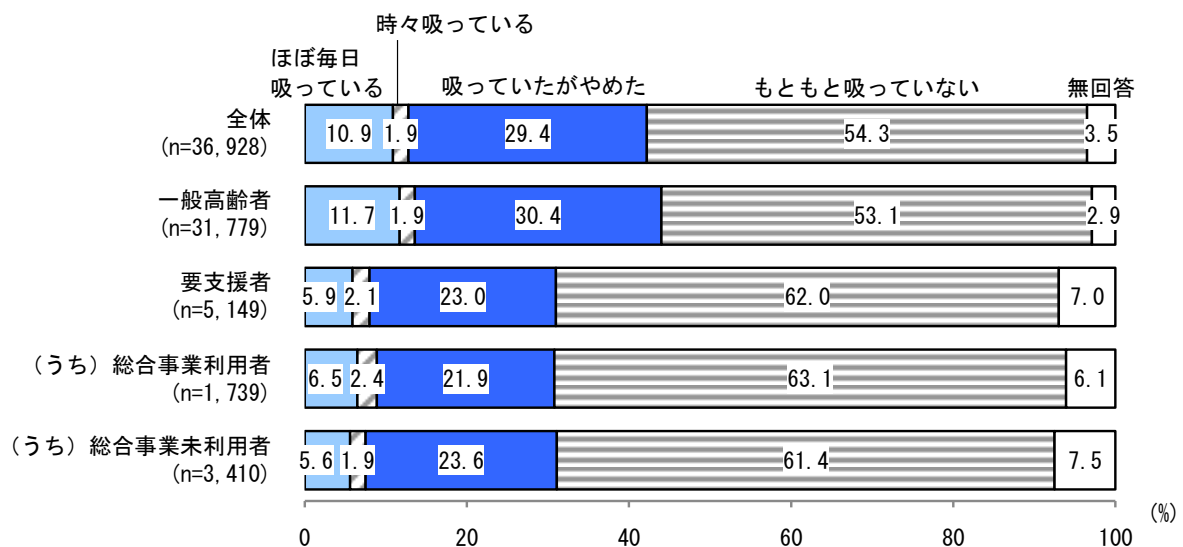
(7) 喫煙習慣

問 タバコは吸っていますか。(○はひとつ)

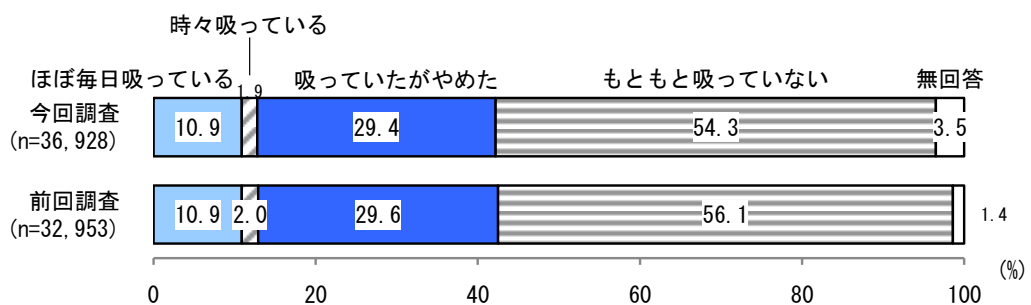
喫煙については、「もともと吸っていない」が54.3%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が29.4%となっている。喫煙習慣のある人（「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計）は12.8%となっている。

認定状況別でみると、喫煙習慣のある人は一般高齢者で1割強（13.6%）となっている。（図9-7）

【図9-7 喫煙習慣】

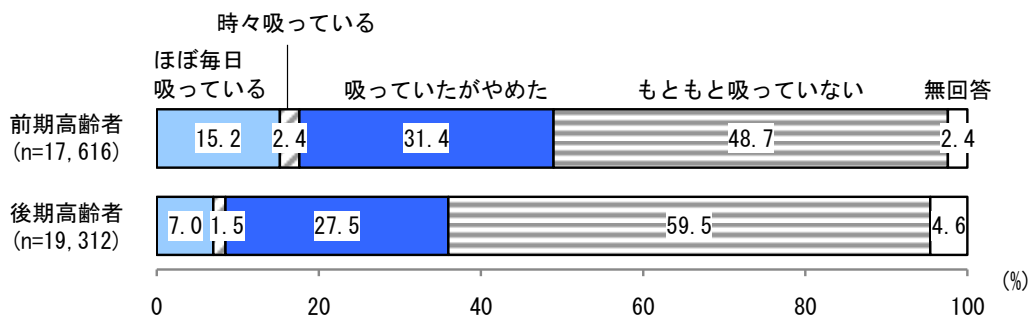


【参考 喫煙習慣（経年比較）】



年齢別でみると、喫煙習慣のある人は前期高齢者で2割弱（17.6%）となっている。（図9-7-1）

【図9-7-1 年齢別 喫煙習慣】



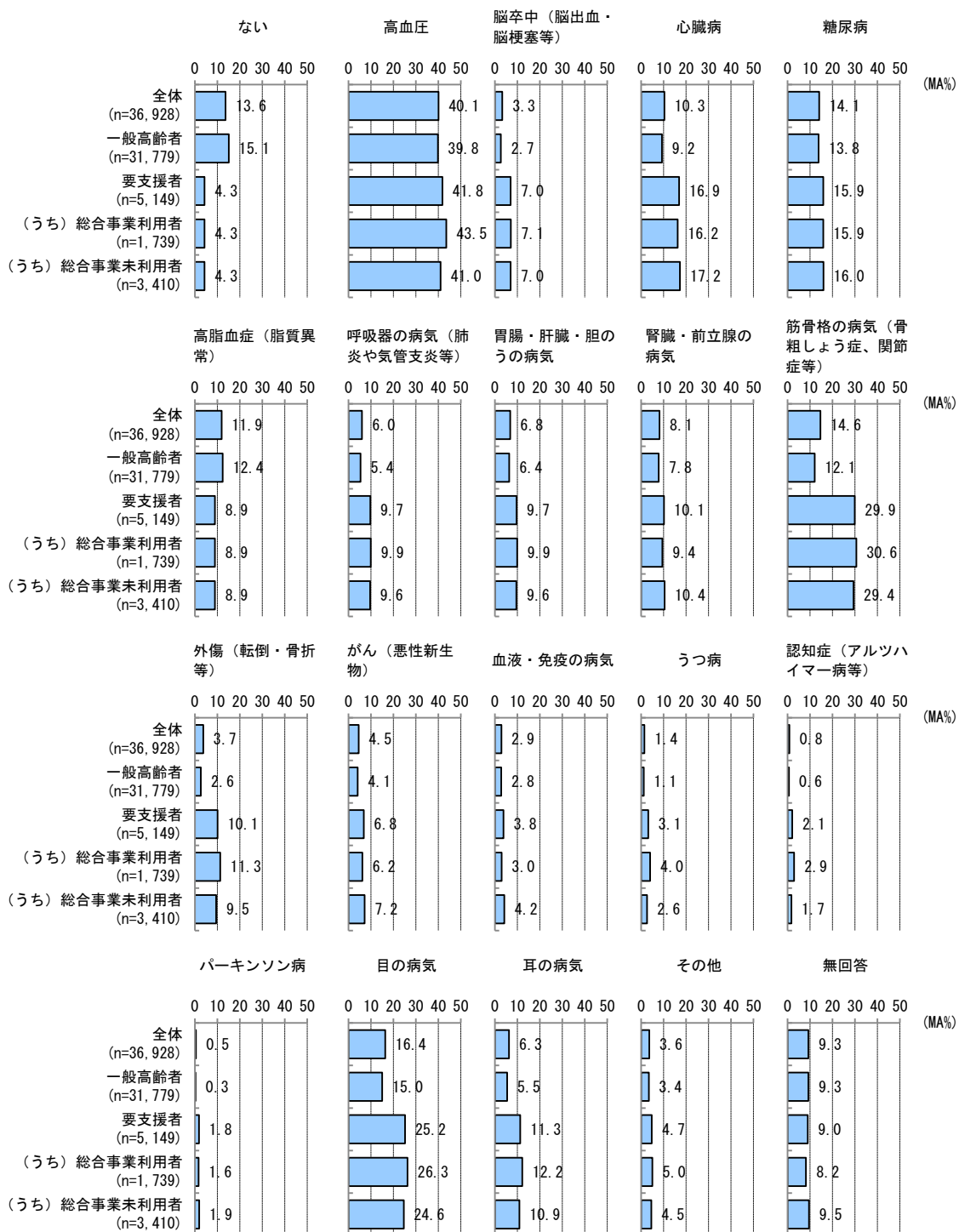
(8) 治療中や後遺症のある病気

問 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

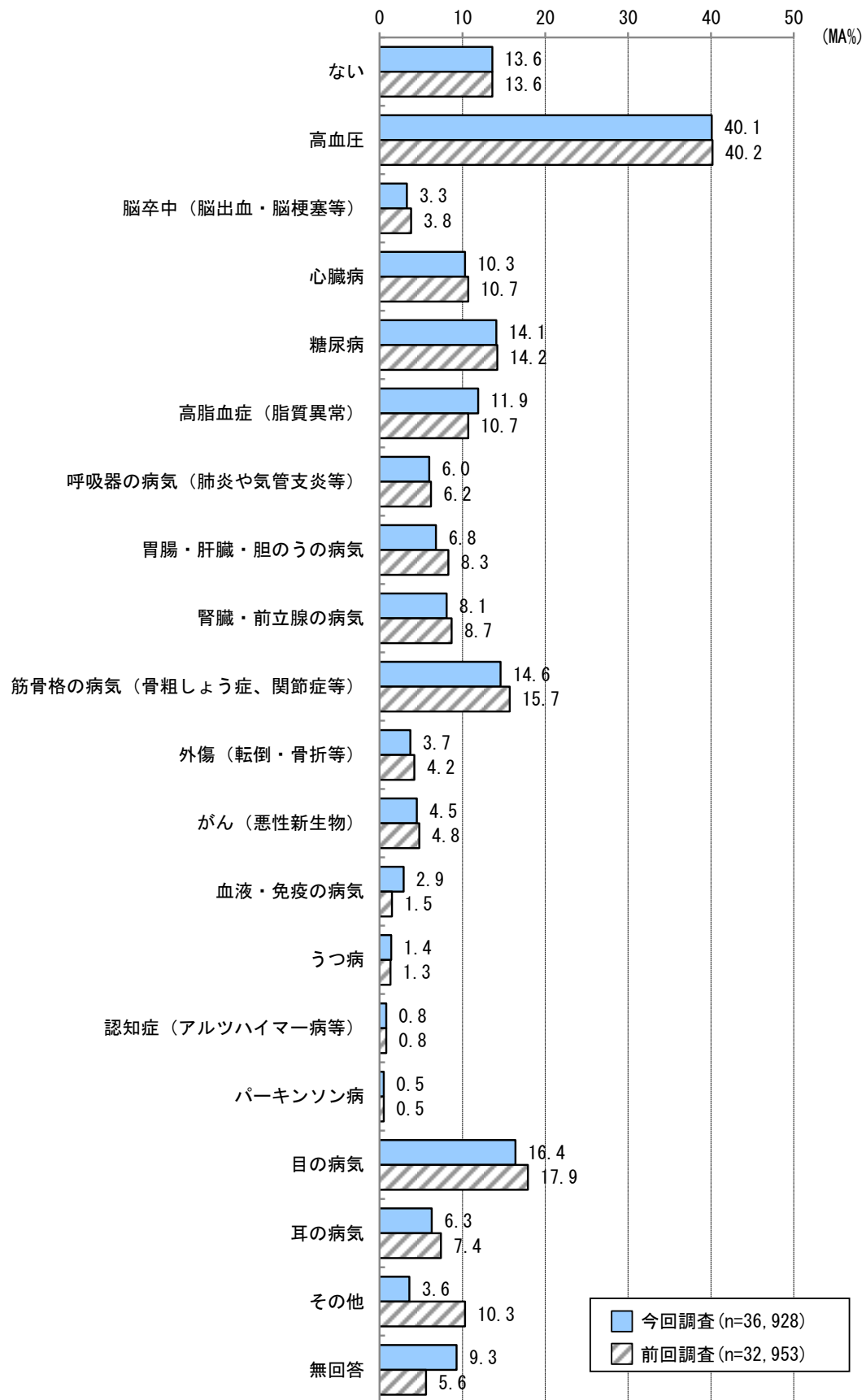
現在治療中または後遺症のある病気については、「高血圧」が40.1%で最も多く、次いで「目の病気」が16.4%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が14.6%となっている。一方で、「ない」は1割台（13.6%）みられる。

認定状況別でみると、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」は要支援者（29.9%）で高くなっている。（図9-8）

【図9-8 治療中や後遺症のある病気】

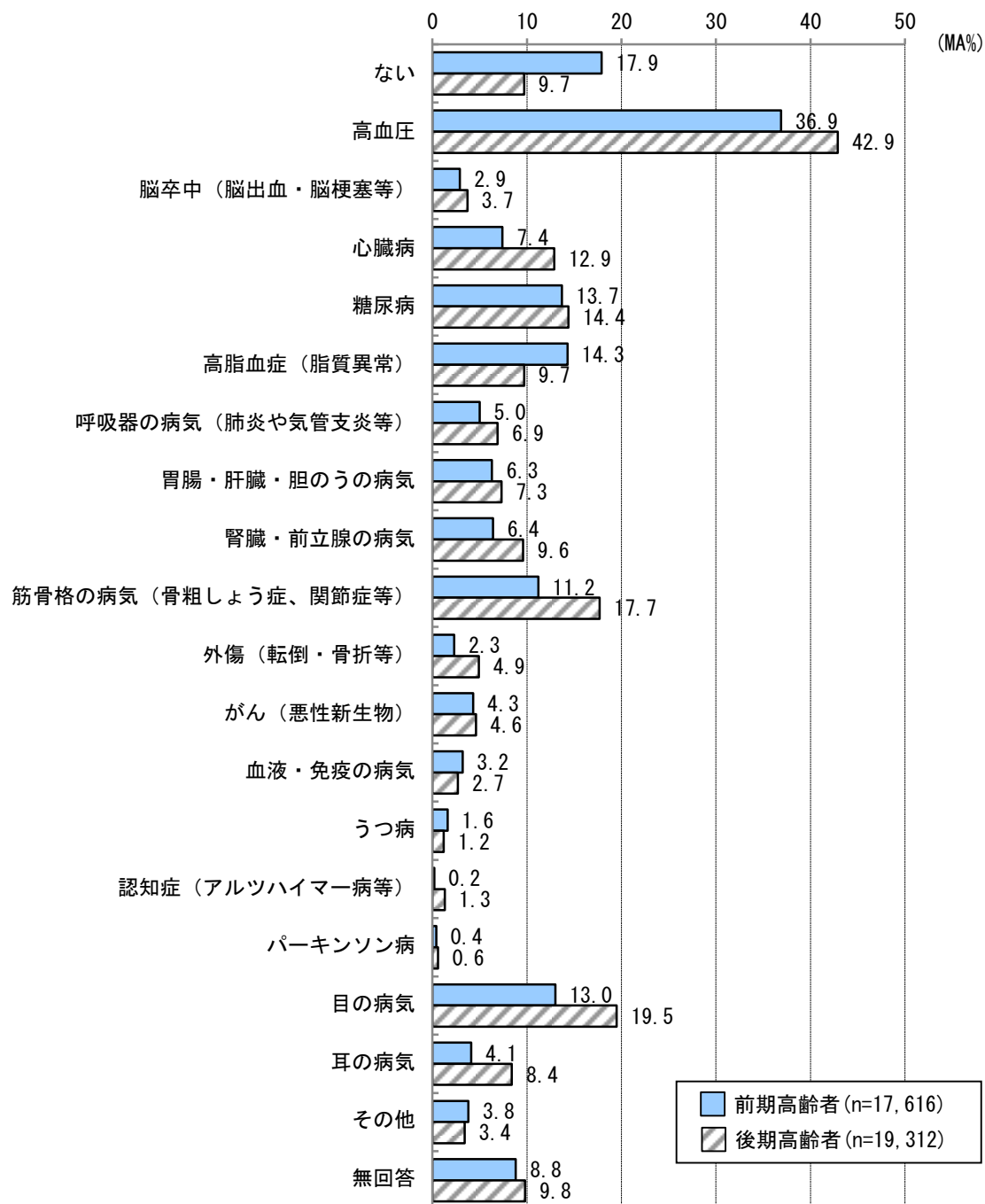


【参考 治療中や後遺症のある病気（経年比較）】



年齢別でみると、前期、後期高齢者とも「高血圧」が最も多く、後期高齢者（42.9％）のほうが6.0ポイント高くなっている。一方、「ない」は前期高齢者（17.9％）のほうが8.2ポイント高くなっている。（図9-8-1）

【図9-8-1 年齢別 治療中や後遺症のある病気】



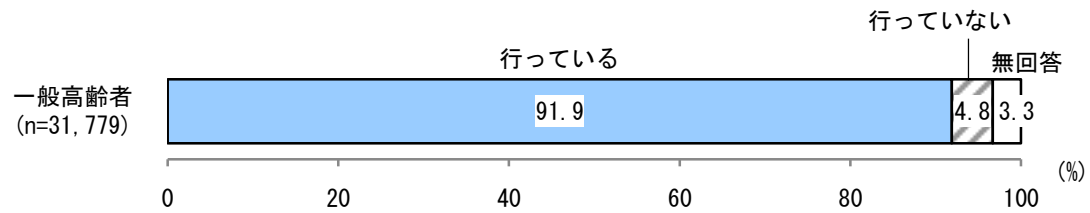
(9) 新型コロナウイルス感染症対策の実施

問 新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を行っていますか。(○はひとつ)

新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を行っている人は、91.9%となっている。
(図9-9)

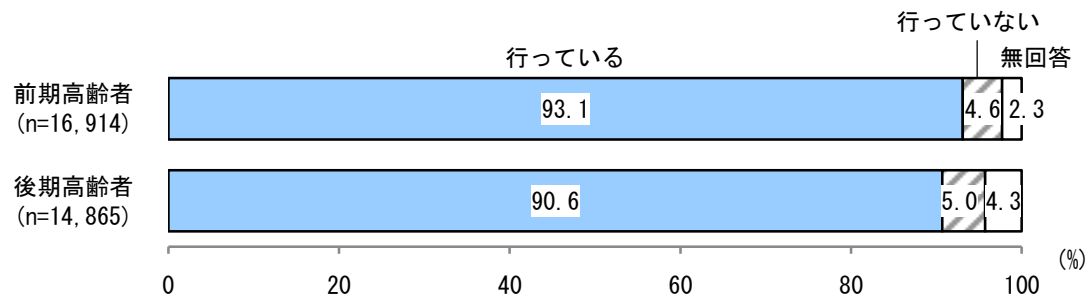
【図9-9 新型コロナウイルス感染症対策の実施】

※一般高齢者のみ



年齢別でも、大きな差はみられない。(図9-9-1)

【図9-9-1 年齢別 新型コロナウイルス感染症対策の実施】



(10) 行っている感染症対策

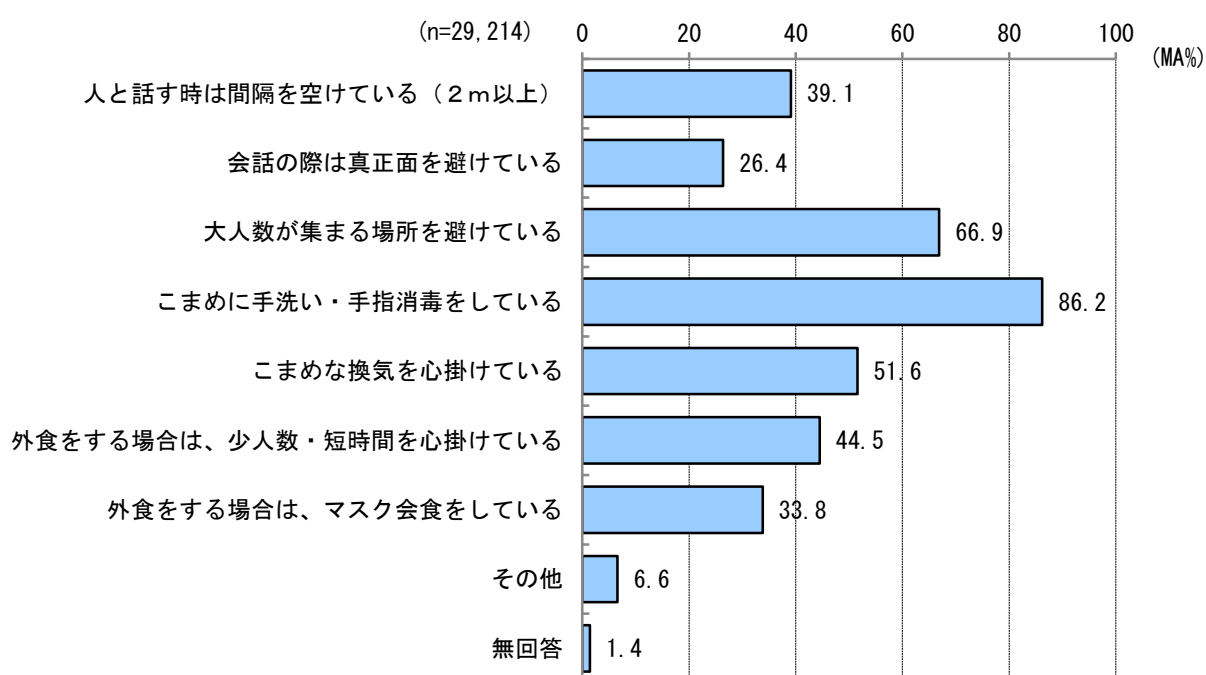
【「1 行っている」と回答された方におうかがいします】

問 あなたが行っている感染対策はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を行っていると回答した人に、その対策についてたずねると、「こまめに手洗い・手指消毒をしている」が86.2%で最も多く、次いで「大人数が集まる場所を避けている」が66.9%、「こまめな換気を心掛けている」が51.6%となっている。(図9-10)

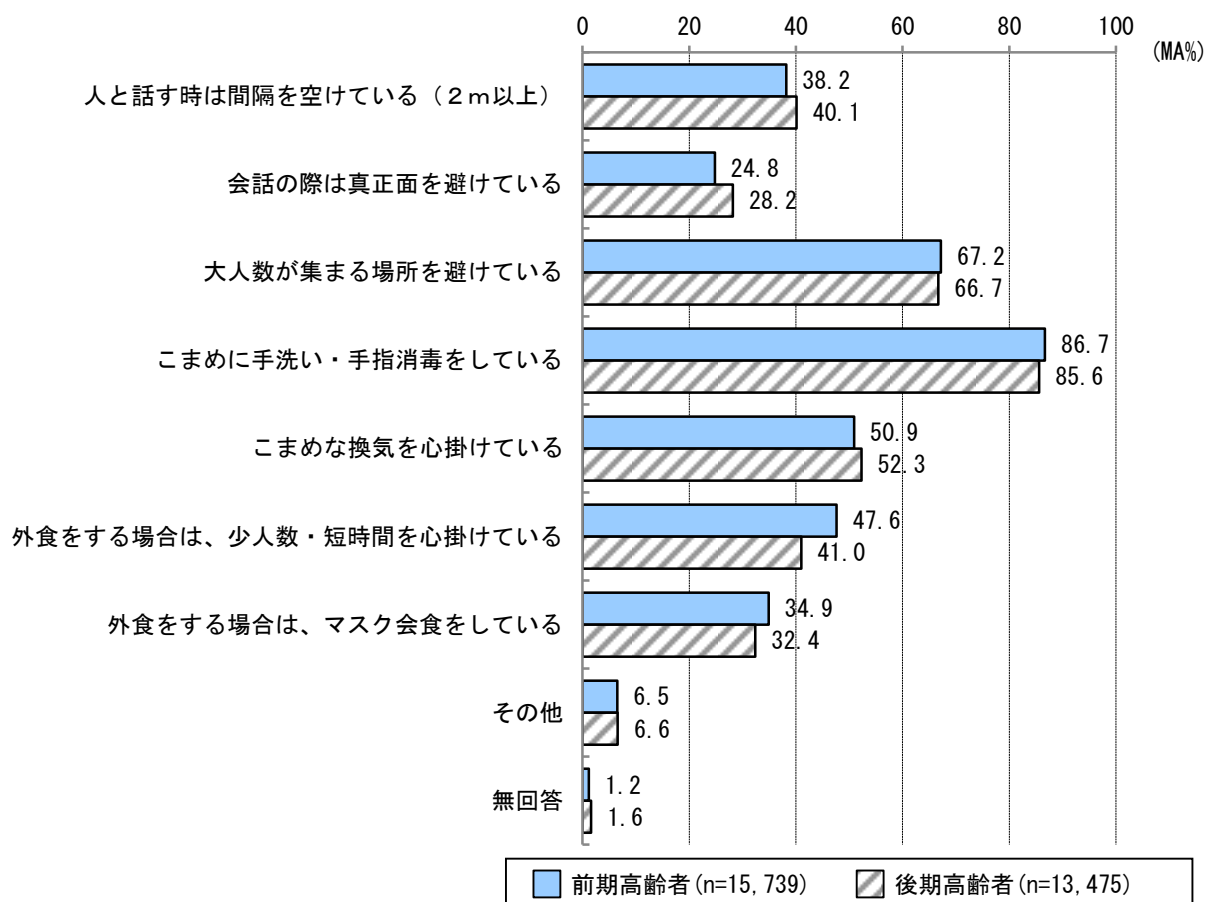
【図9-10 行っている感染症対策】

※一般高齢者のみ



年齢別でみると、「外食をする場合は、少人数・短時間を心掛けている」は前期高齢者（47.6％）のほうが6.6ポイント高くなっている。（図9-10-1）

【図9-10-1 年齢別 行っている感染症対策】

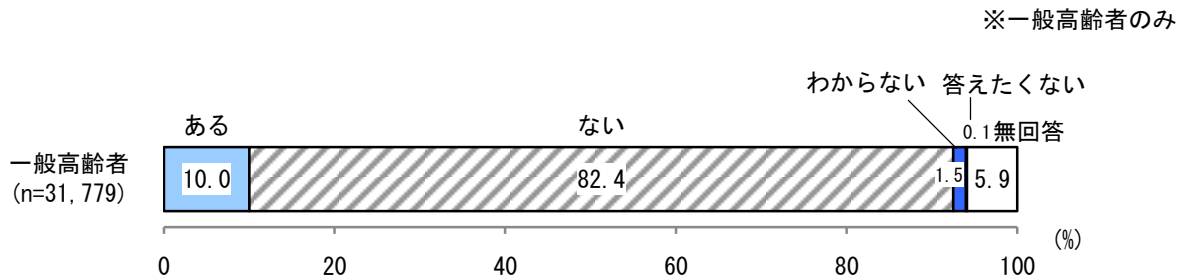


(11) 新型コロナウイルス感染症に感染した経験

問 あなたは、新型コロナウイルス感染症に感染した経験はありますか。
(本調査は個人を特定するものではありません)(○はひとつ)

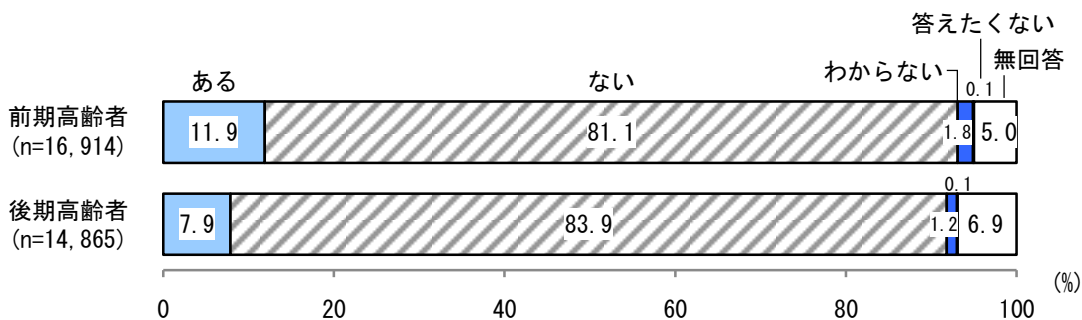
新型コロナウイルス感染症に感染した経験がある人は10.0%となっている。(図9-11)

【図9-11 新型コロナウイルス感染症に感染した経験】



年齢別でみると、感染した経験がある人は、前期高齢者(11.9%)のほうが4.0ポイント高くなっている。(図9-11-1)

【図9-11-1 年齢別 新型コロナウイルス感染症に感染した経験】

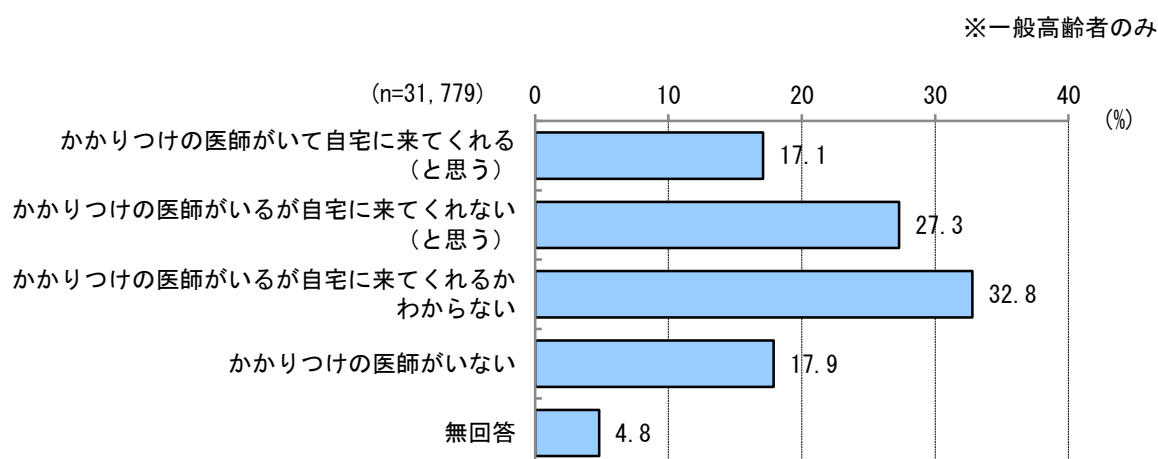


(12) かかりつけの医師の訪問診療の有無

問 かかりつけの医師はあなたが通院できなくなった時に自宅に来てくれますか。(○はひとつ)

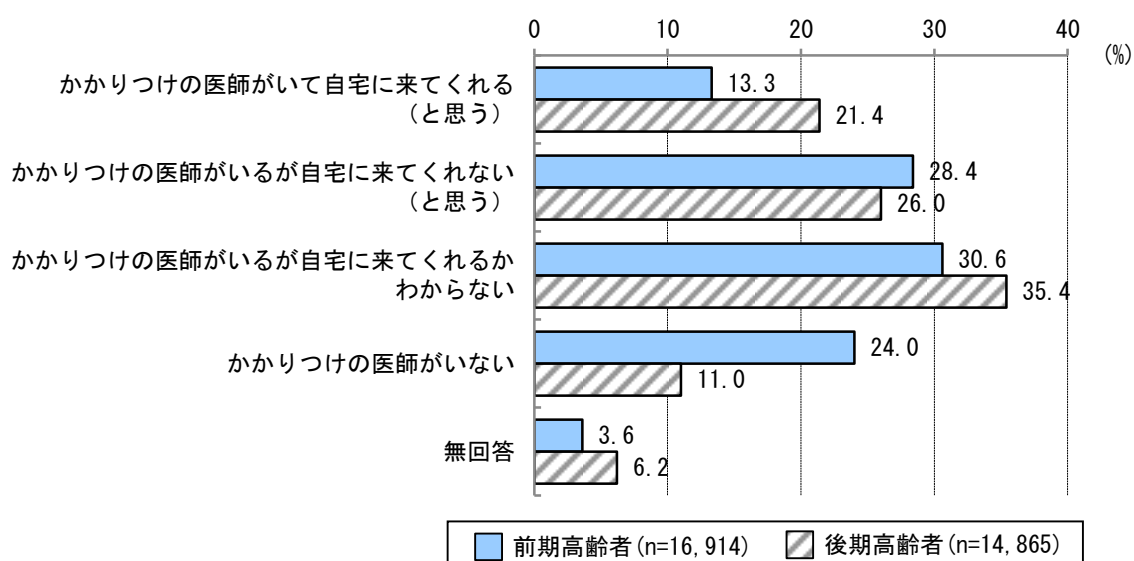
かかりつけの医師の訪問診療の有無については、「かかりつけの医師がいるが自宅に来てくれるかわからない」が32.8%で最も多く、次いで「かかりつけの医師がいるが自宅に来てくれない(と思う)」が27.3%、「かかりつけの医師がいない」が17.9%となっている。(図9-12)

【図9-12 かかりつけの医師の訪問診療の有無】



年齢別でみると、「かかりつけの医師がいて自宅に来てくれる(と思う)」は前期高齢者が13.3%、後期高齢者が21.4%となっている。また、「かかりつけの医師がいない」は前期高齢者(24.0%)のほうが13.0ポイント高くなっている。(図9-12-1)

【図9-12-1 年齢別 かかりつけの医師の訪問診療の有無】

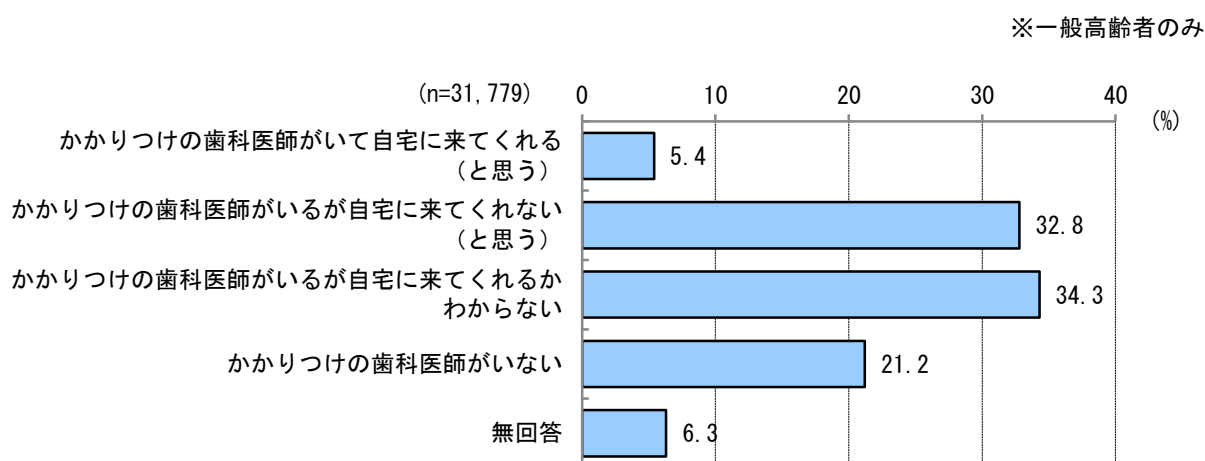


(13) かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無

問 かかりつけの歯科医師はあなたが通院できなくなった時に自宅に来てくれますか。(〇はひとつ)

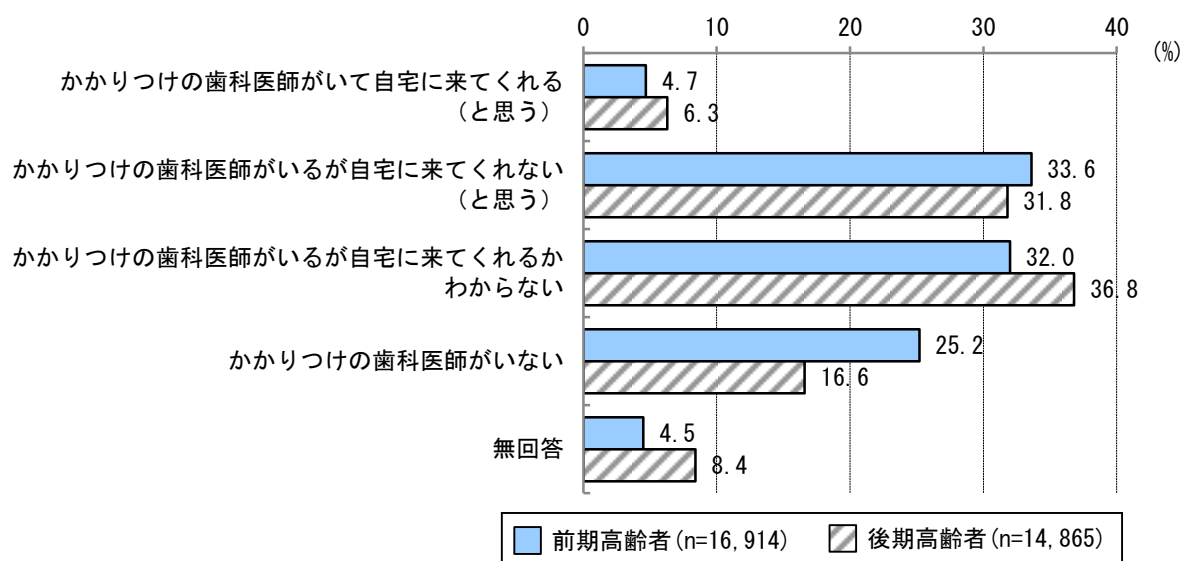
かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無については、「かかりつけの歯科医師がいるが自宅に来てくれるかわからない」が34.3%で最も多く、次いで「かかりつけの歯科医師がいるが自宅に来てくれない(と思う)」が32.8%、「かかりつけの歯科医師がいない」が21.2%となっている。(図9-13)

【図9-13 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無】



年齢別でみると、「かかりつけの歯科医師がいない」は前期高齢者(25.2%)のほうが8.6ポイント高くなっている。(図9-13-1)

【図9-13-1 年齢別 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無】

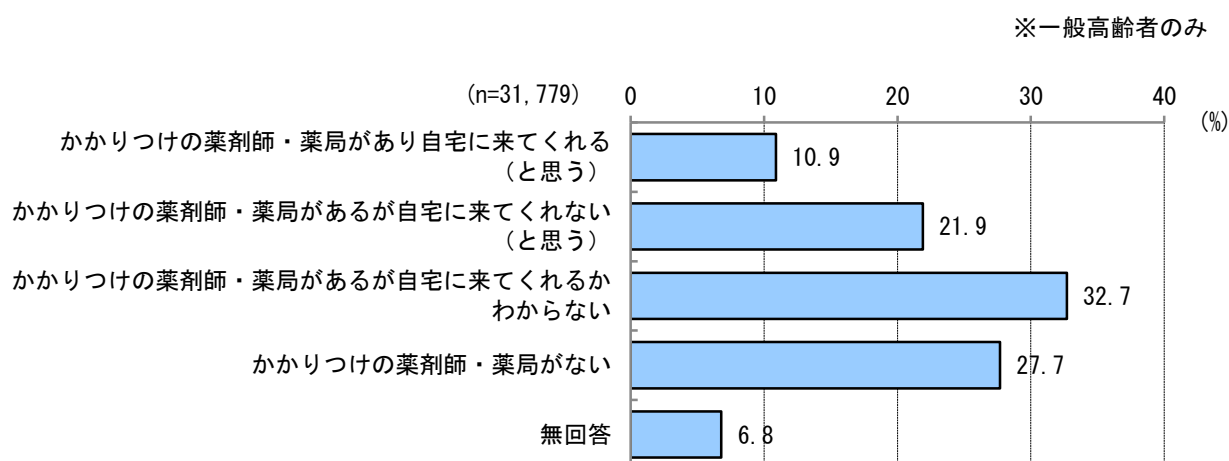


(14) かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無

問 かかりつけの薬剤師・薬局はあなたが通院できなくなった時に自宅に来てくれますか。
(○はひとつ)

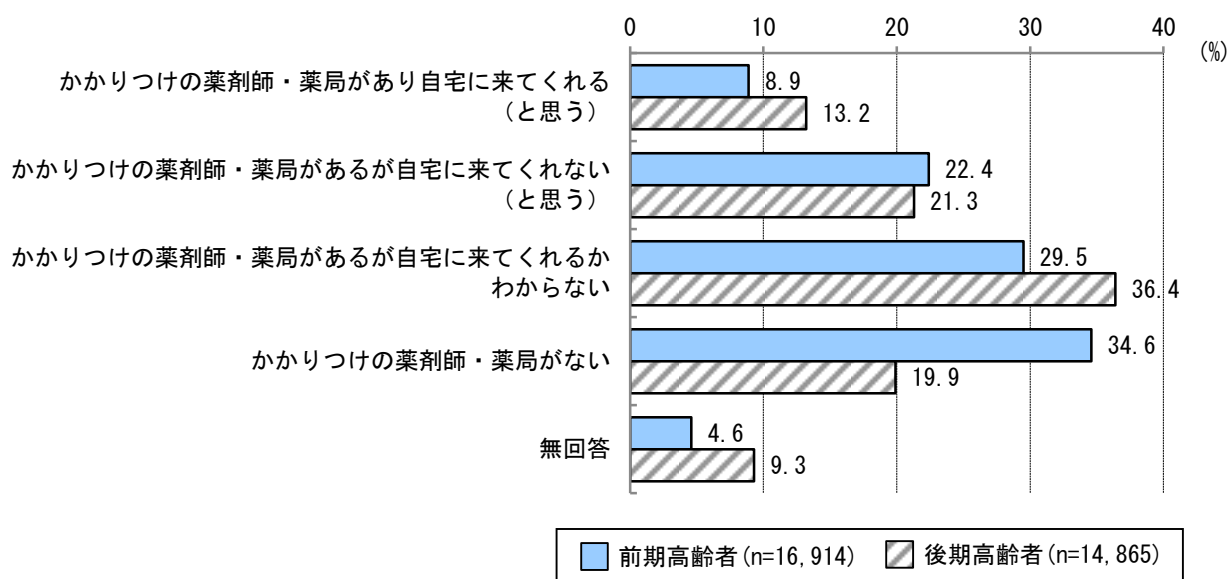
かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無については、「かかりつけの薬剤師・薬局があるが自宅に来てくれるかわからない」が32.7%で最も多く、次いで「かかりつけの薬剤師・薬局がない」が27.7%、「かかりつけの薬剤師・薬局があるが自宅に来てくれない(と思う)」が21.9%となっている。(図9-14)

【図9-14 かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無】



年齢別でみると、「かかりつけの薬剤師・薬局がない」は前期高齢者(34.6%)のほうが14.7ポイント高くなっている。(図9-14-1)

【図9-14-1 年齢別 かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無】



10 認知症にかかる相談窓口の把握について

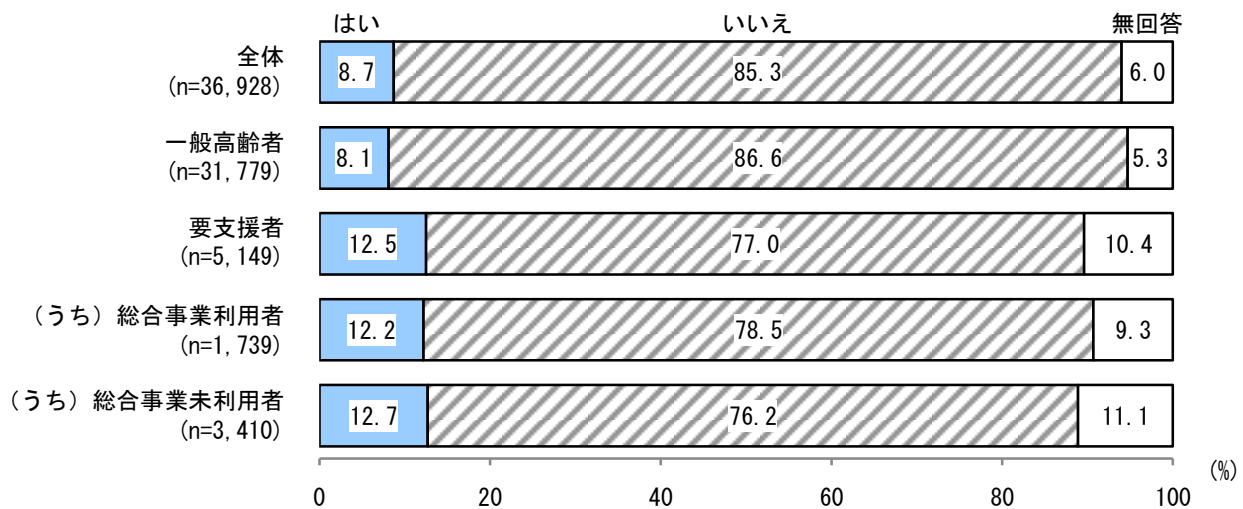
(1) 認知症の症状の有無

問 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(○はひとつ)

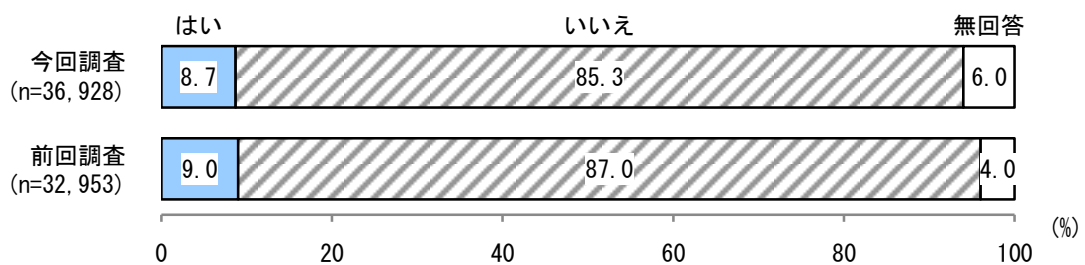
自身または家族に認知症の症状がある(「はい」と回答している)人は約1割(8.7%)となっている。

認定状況別でみると、自身または家族に認知症の症状がある人は要支援者で1割(12.5%)を超えている。(図10-1)

【図10-1 認知症の症状の有無】

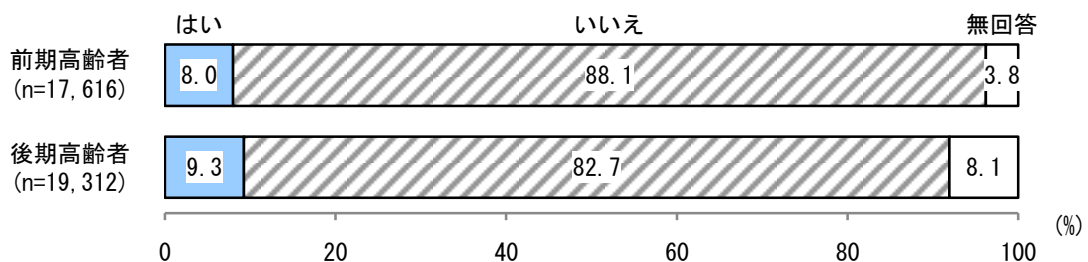


【参考 認知症の症状の有無(経年比較)】



年齢別でも、大きな差はみられない。(図10-1-1)

【図10-1-1 年齢別 認知症の症状の有無】

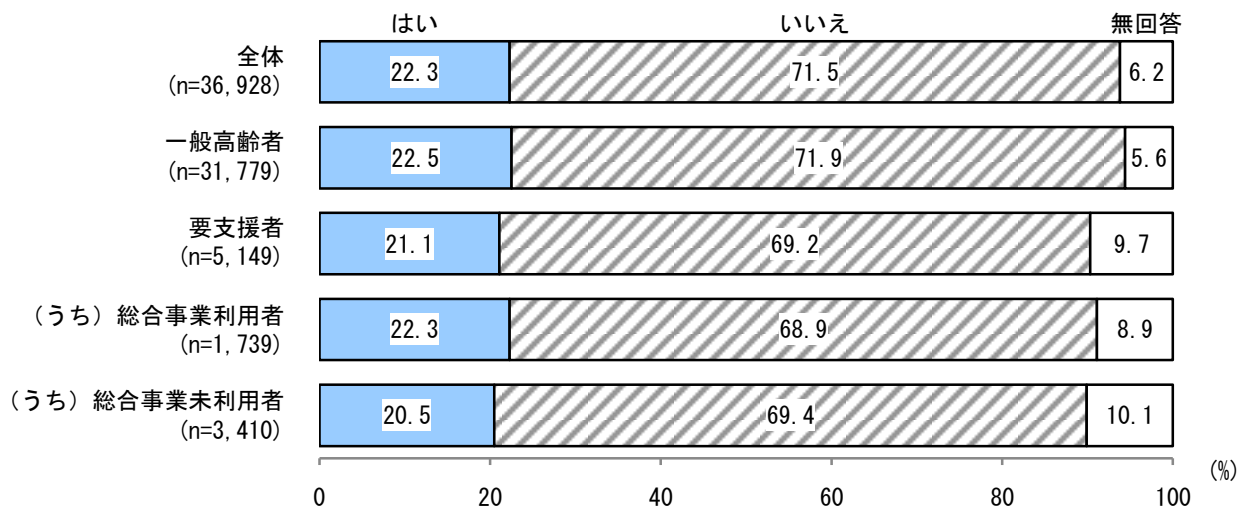


(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

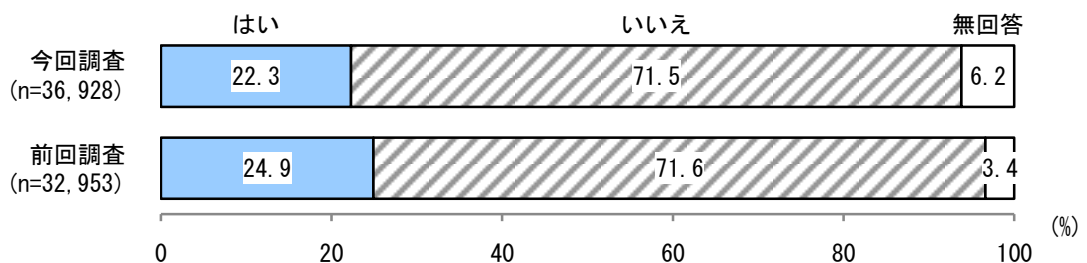
問 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(〇はひとつ)

認知症に関する相談窓口を知っている(「はい」と回答している)人は2割台(22.3%)となっている。(図10-2)

【図10-2 認知症に関する相談窓口の認知度】

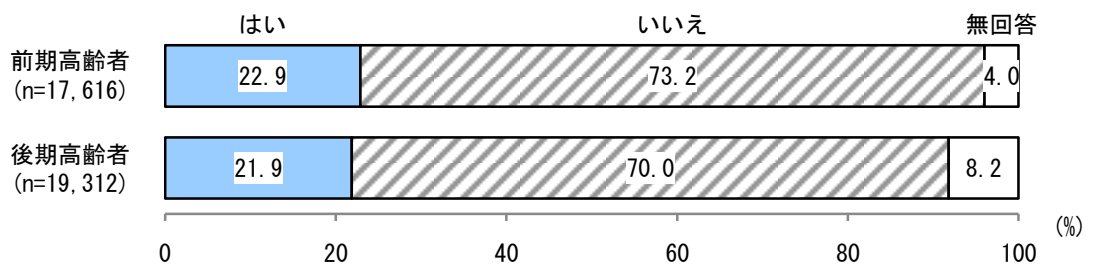


【参考 認知症に関する相談窓口の認知度(経年比較)】



年齢別でも、大きな差はみられない。(図10-2-1)

【図10-2-1 年齢別 認知症に関する相談窓口の認知度】



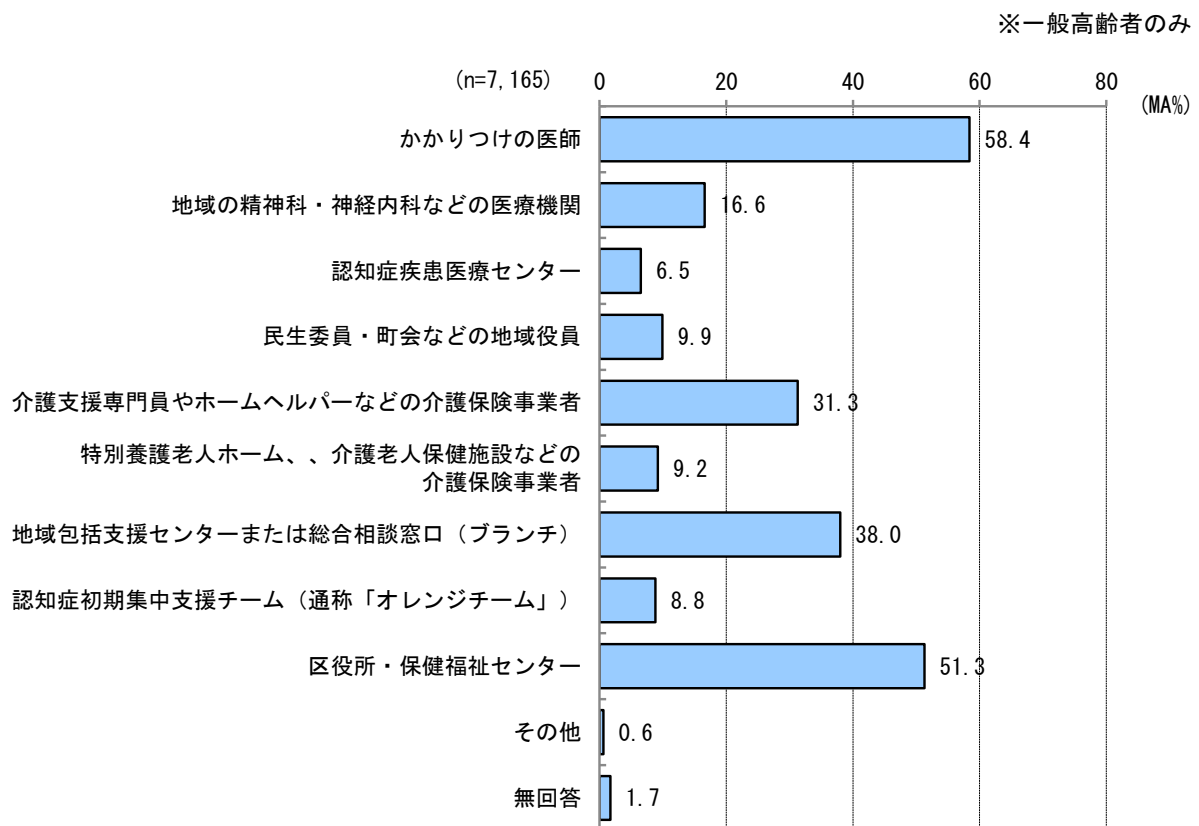
(3) 知っている認知症に関する相談窓口

【「1 はい」と回答された方におうかがいします】

問 あなたが認知症に関する相談窓口として知っているところはどこですか。(〇はいくつでも)

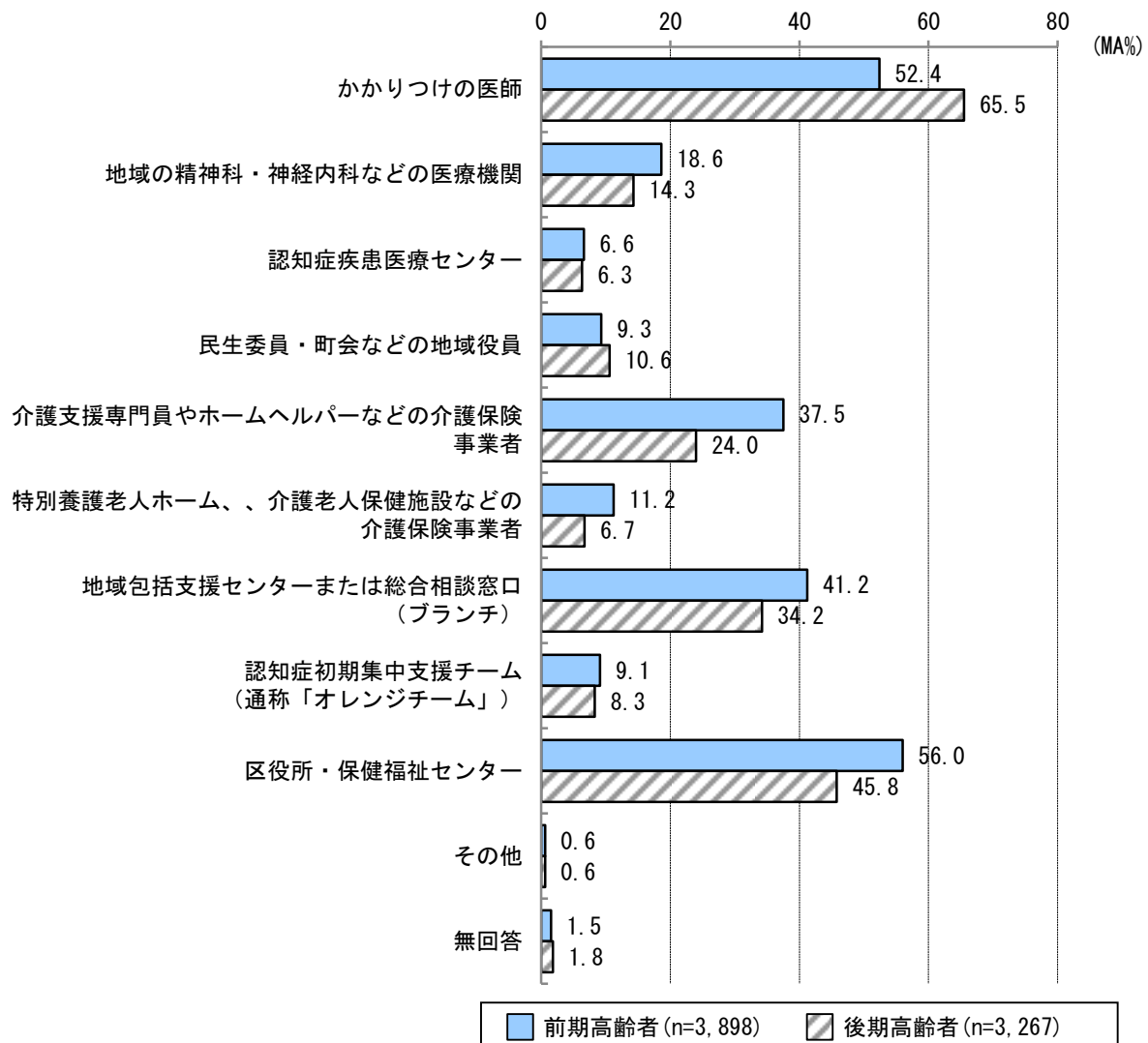
認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人に、知っている相談窓口についてたずねると、「かかりつけの医師」が58.4%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」が51.3%、「地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）」が38.0%となっている。（図10-3）

【図10-3 知っている認知症に関する相談窓口】



年齢別でみると、前期高齢者は「区役所・保健福祉センター」(56.0%)が最も多く、後期高齢者では「かかりつけの医師」(65.5%)が最も多くなっている。(図10-3-1)

【図10-3-1 年齢別 知っている認知症に関する相談窓口】

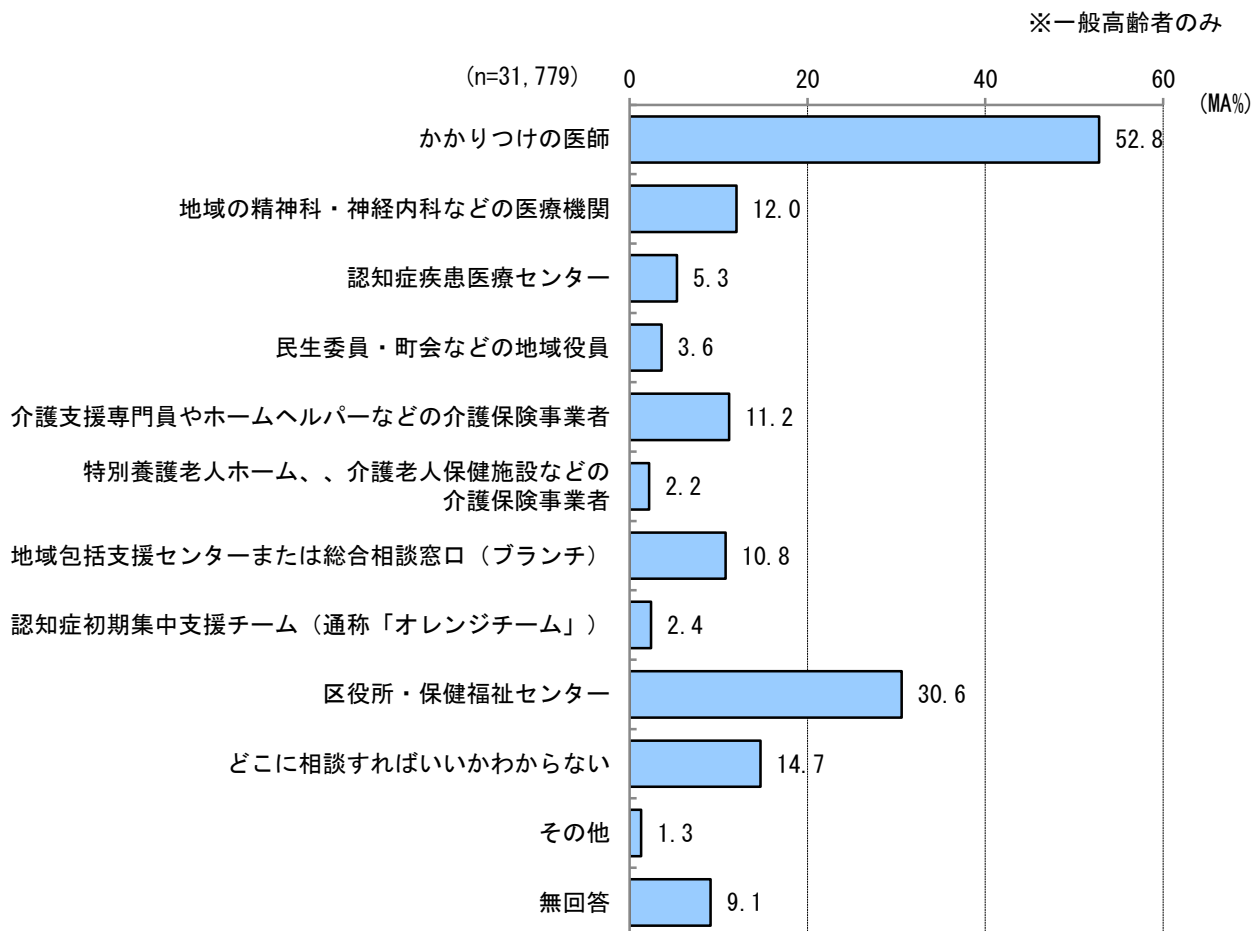


(4) 認知症について不安に感じるときの相談相手

問 あなたは、あなた又はあなたのご家族が認知症について不安に感じるときは、どちらに相談されますか。(〇はいくつでも)

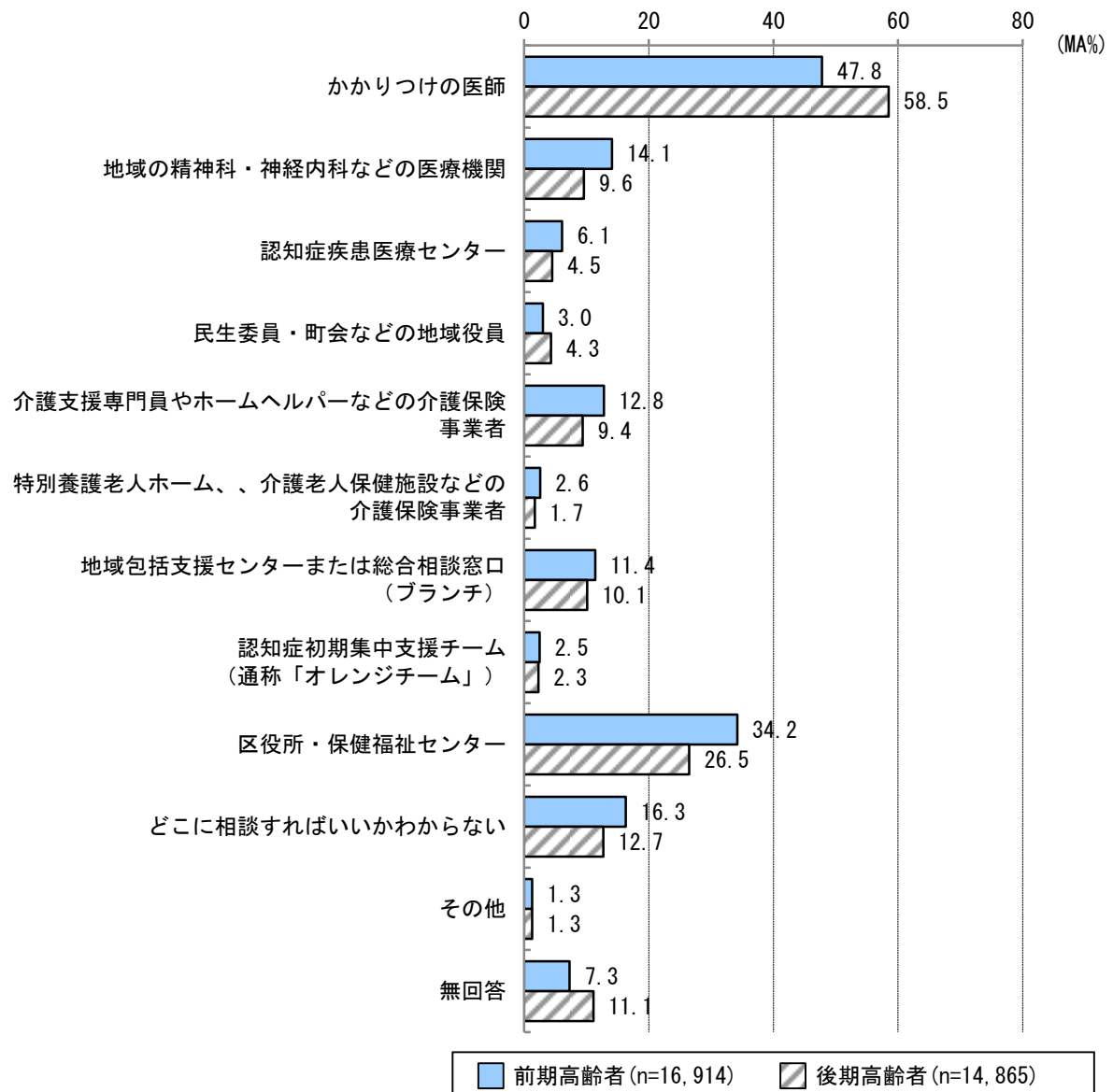
認知症について不安に感じるときの相談相手については、「かかりつけの医師」が52.8%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」が30.6%、「どこに相談すればいいかわからない」が14.7%、「地域の精神科・神経内科などの医療機関」が12.0%となっている。(図10-4)

【図10-4 認知症について不安に感じるときの相談相手】



年齢別でみると、前期、後期高齢者とも「かかりつけの医師」が最も多く、前期高齢者（47.8%）より後期高齢者（58.5%）のほうが10.7ポイント高くなっている。（図10-4-1）

【図10-4-1 年齢別 認知症について不安に感じるときの相談相手】



11 介護サービスの利用前後の健康状態について

(1) 介護サービスの利用前後の健康状態

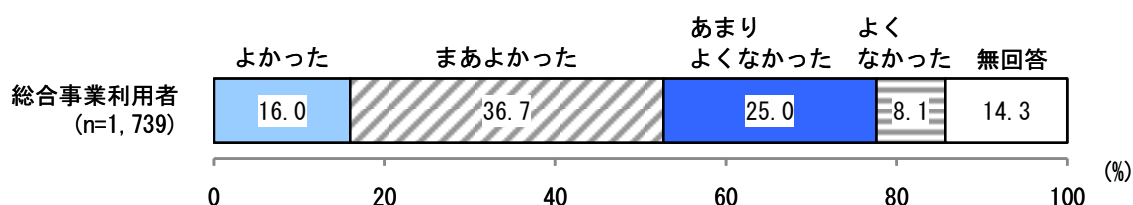
① 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態

問 あなたが訪問（家に来てもらう）介護サービスや通所（介護施設に通う）介護サービスを利用する前の健康状態はいかがでしたか。（○はひとつ）

訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態については、「まあよかった」が36.7%で最も多く、次いで「あまりよくなかった」が25.0%で、「よかった」（16.0%）と「まあよかった」をあわせた健康状態がよかった人は52.7%となっている。（図11-1-1）

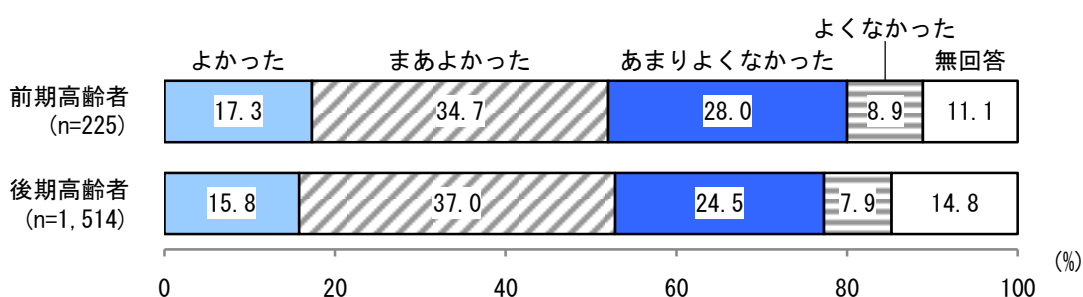
【図11-1-1 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態】

※総合事業利用者のみ



年齢別でみると、「あまりよくなかった」の割合は前期高齢者（28.0%）のほうが3.5ポイント高くなっている。（図11-1-1-1）

【図11-1-1-1 年齢別 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態】



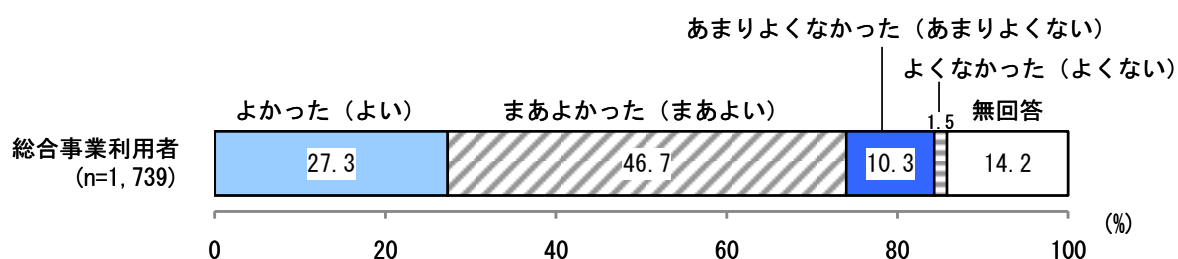
② 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態

問 あなたが訪問（家に来てもらう）介護サービスや通所（介護施設に通う）介護サービスを利用した後（現在も利用中であれば現在の状態）の健康状態はいかがでしたか。（○はひとつ）

訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態については、「まあよかった（まあよい）」が46.7%で最も多く、次いで「よかった（よい）」が27.3%で、両者をあわせた利用した後の健康状態がよい人は74.0%となっている。（図11-1-2）

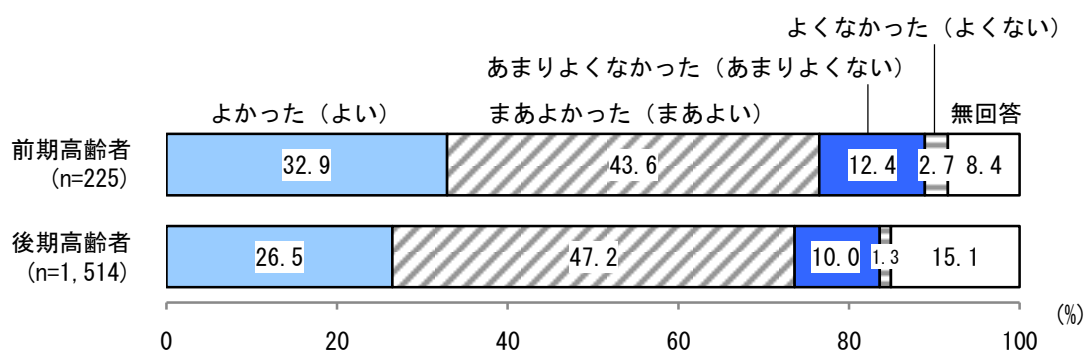
【図11-1-2 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態】

※総合事業利用者のみ



年齢別でみると、利用した後の健康状態がよい人は前期高齢者（76.5%）のほうが2.8ポイント高くなっている。（図11-1-2-1）

【図11-1-2-1 年齢別 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態】



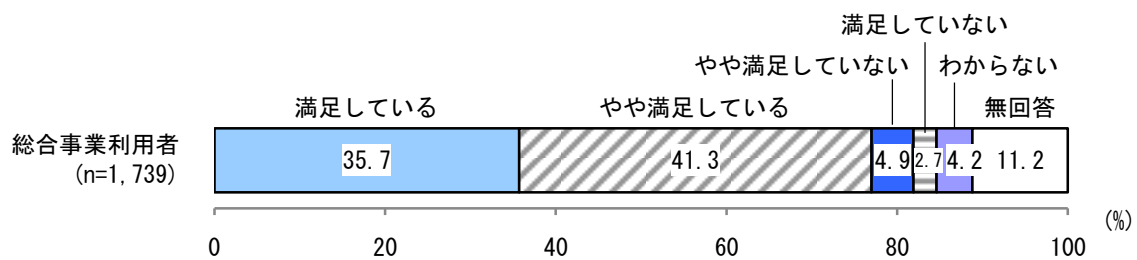
(2) 訪問介護サービスや通所介護サービスの満足度

問 あなたは、訪問（家に来てもらう）介護サービスや通所（介護施設に通う）介護サービスを利用して満足されましたか。（○はひとつ）

訪問介護サービスや通所介護サービスの満足度については、「やや満足している」が41.3%で最も多く、次いで「満足している」が35.7%で、両者をあわせた満足している人は77.0%となっている。（図11-2）

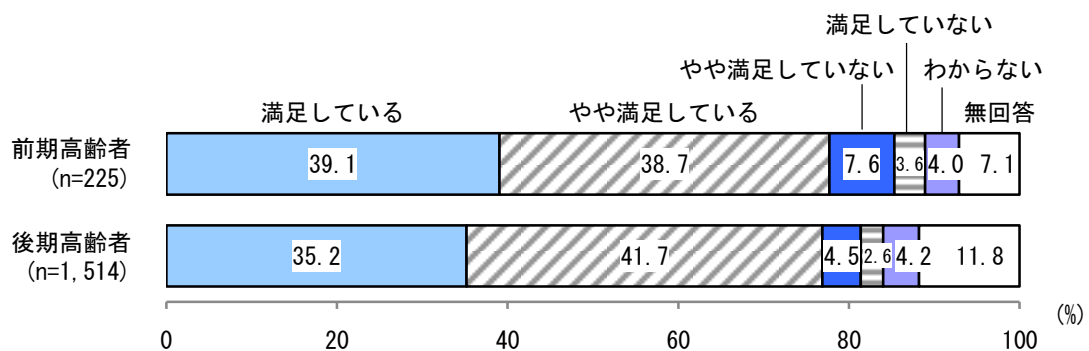
【図11-2 訪問介護サービスや通所介護サービスの満足度】

※総合事業利用者のみ



年齢別でも、満足している人の割合では大きな差はみられない。（図11-2-1）

【図11-2-1 訪問介護サービスや通所介護サービスの満足度】



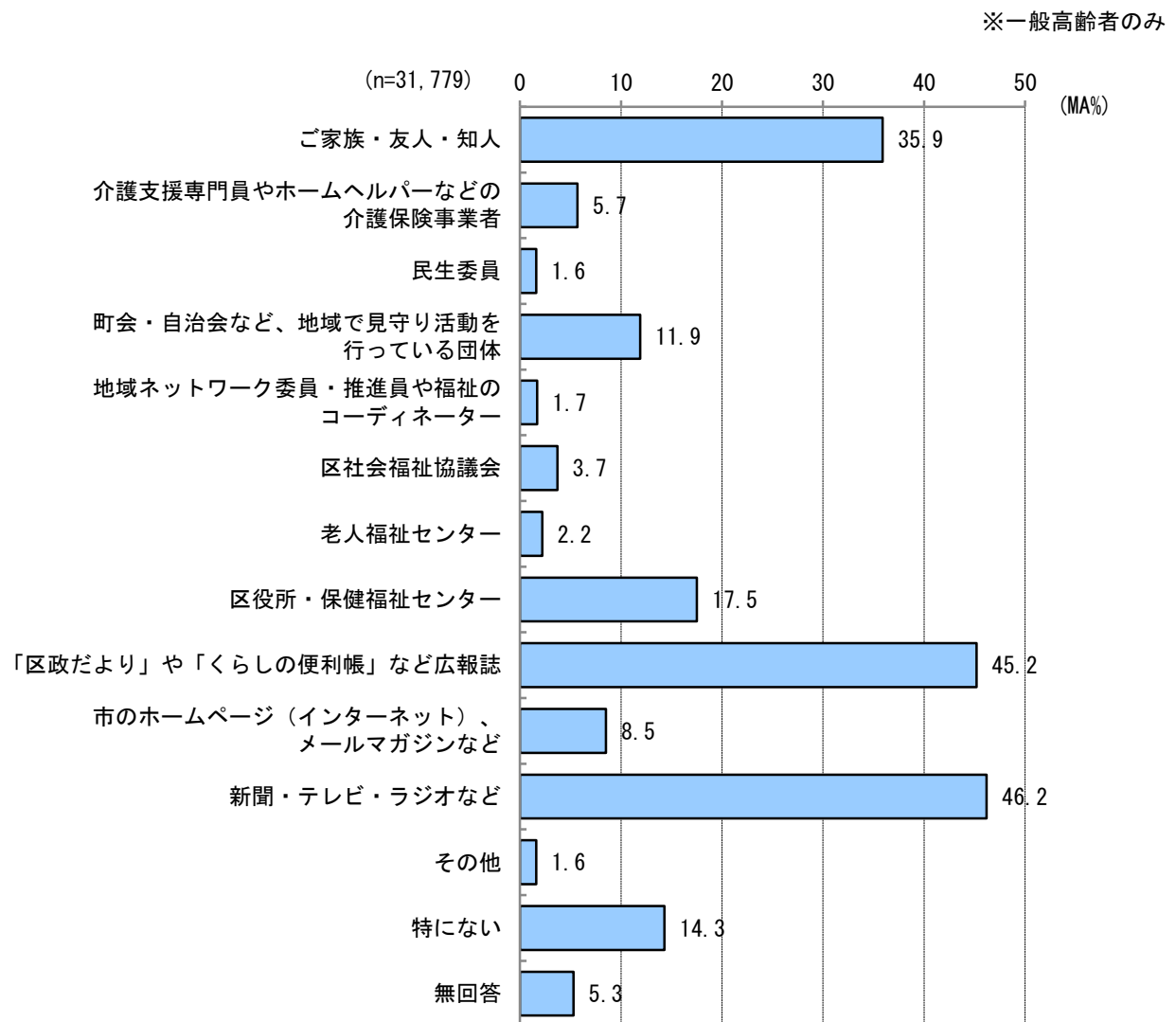
12 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先について

(1) 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先

問 あなたは、高齢者向けのお知らせや健康・介護予防に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

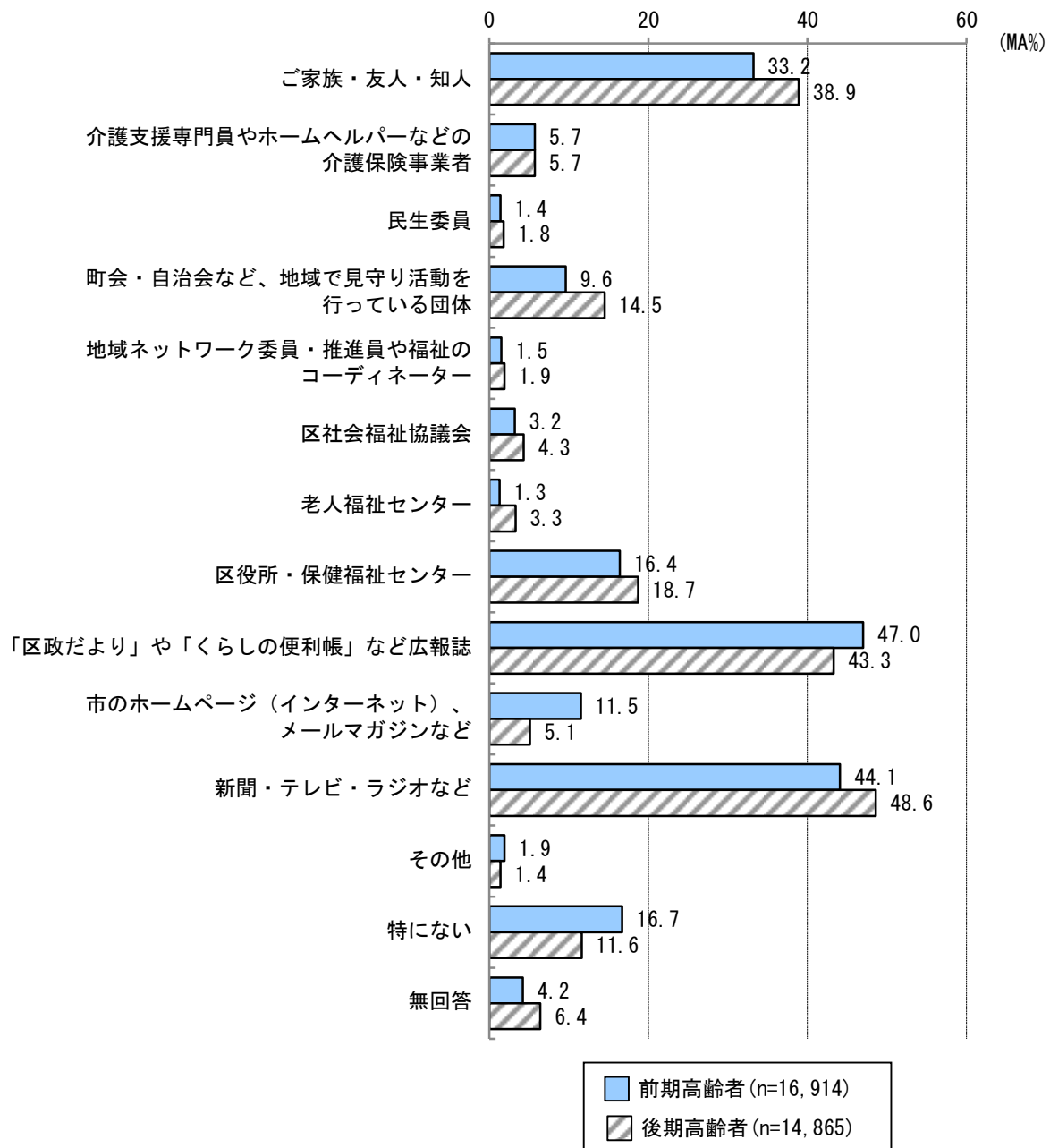
高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先については、「新聞・テレビ・ラジオなど」が46.2%で最も多く、次いで「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌が45.2%、「ご家族・友人・知人」が35.9%となっている。(図12-1)

【図12-1 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先】



年齢別でみると、前期高齢者は「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌（47.0%）が最も多く、後期高齢者は「新聞・テレビ・ラジオなど」（48.6%）が最も多くなっている。（図12-1-1）

【図12-1-1 年齢別 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先】



2 生活機能評価等に関する分析

1 生活機能評価

(1) 運動器の機能低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定している。

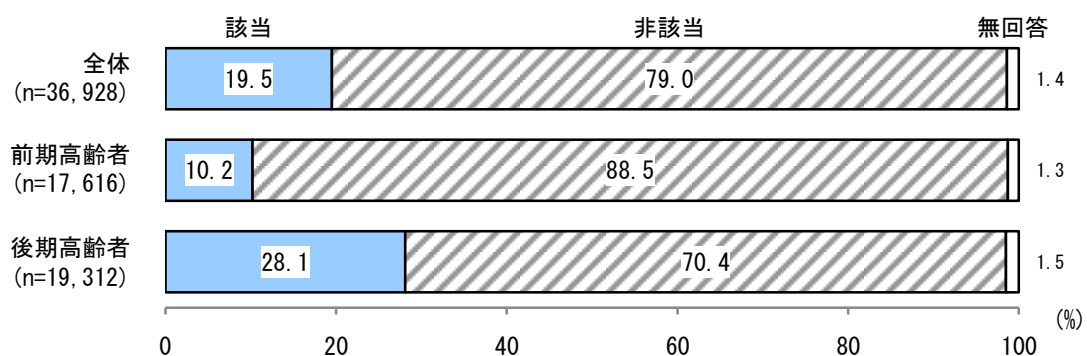
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
	(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
	(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
	(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

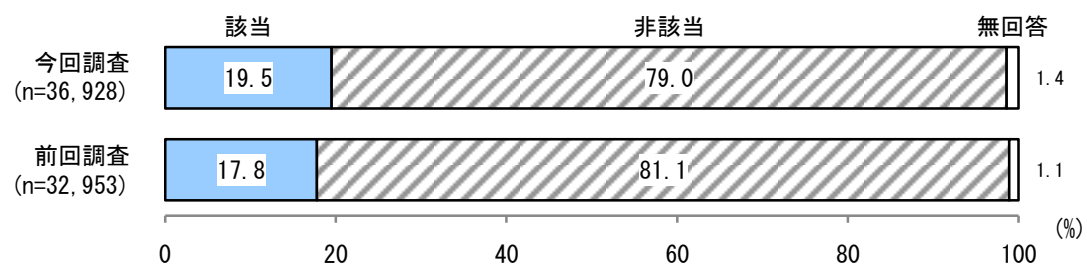
【リスク該当状況】 ※無回答により判定・評価困難な場合は、調査数（n数）から除外して集計している。（以下、同様）

国の手引きに基づく『運動器の機能低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は2割弱（19.5%）となっている。

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は前期高齢者で10.2%、後期高齢者で28.1%となっている。

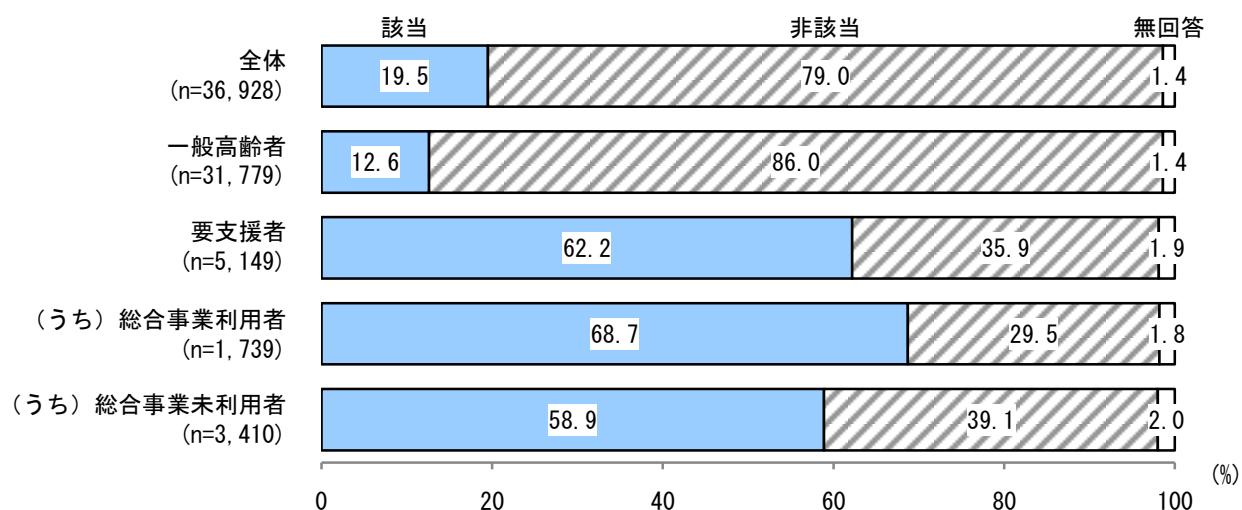


【参考 経年比較】



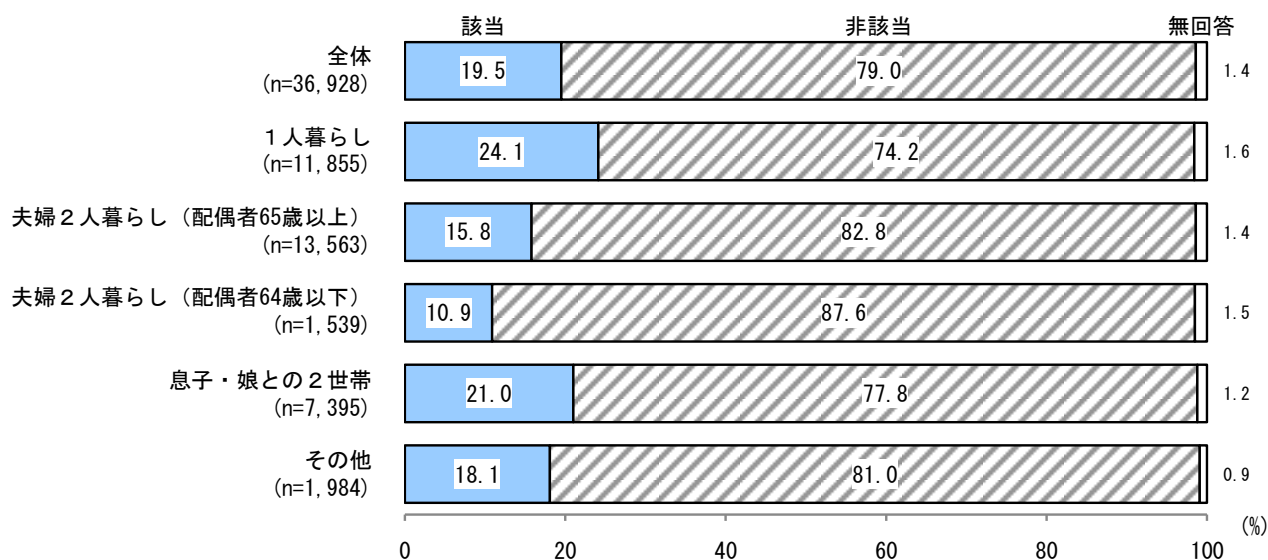
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者（認定を受けていない）で12.6%、要支援者で62.2%、要支援者のうち総合事業利用者が68.7%、総合事業未利用者が58.9%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、該当者（リスクあり）は1人暮らしで24.1%、息子・娘との2世帯で21.0%とやや多くなっている。



(2) 閉じこもり傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を『閉じこもり傾向』のリスク該当者と判定している。

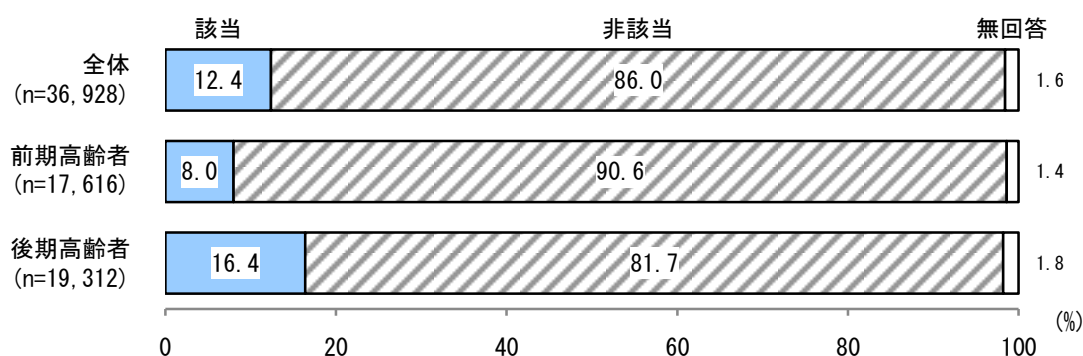
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 2	(6) 週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回
	(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている

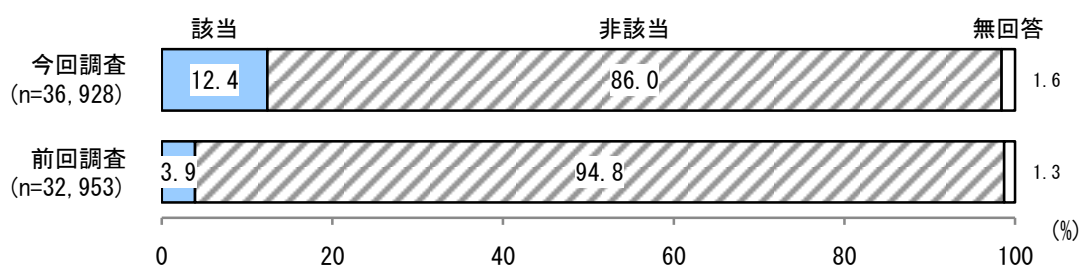
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく『閉じこもり傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は1割強（12.4%）となっている。

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は前期高齢者で8.0%、後期高齢者で16.4%となっている。

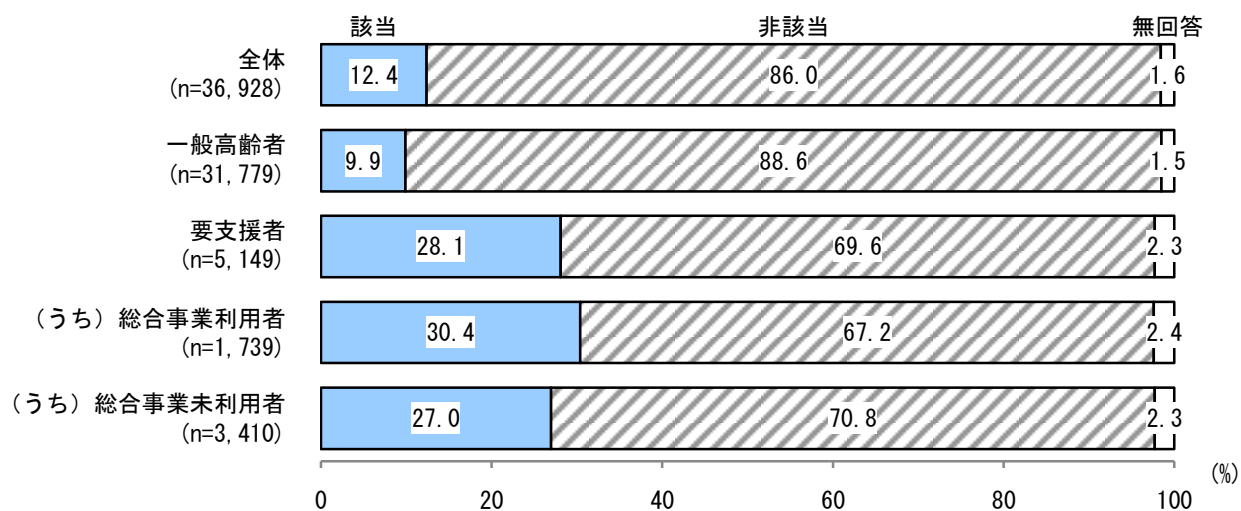


【参考 経年比較】



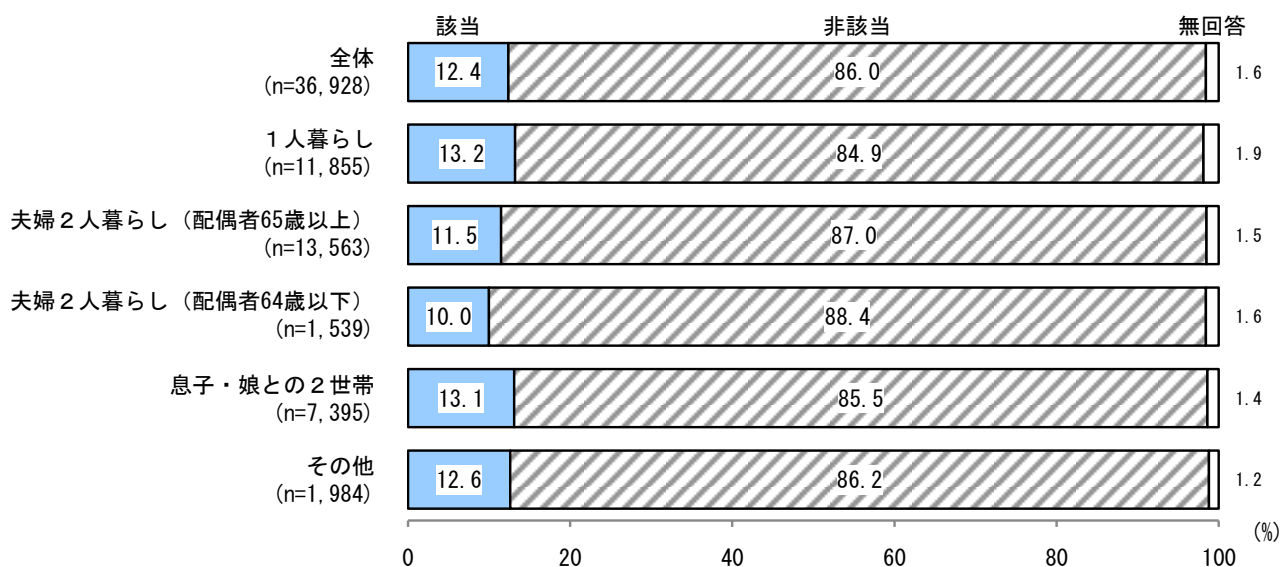
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者（認定を受けていない）で9.9%、要支援者で28.1%、要支援者のうち総合事業利用者が30.4%、総合事業未利用者が27.0%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられないが、該当者（リスクあり）は1人暮らしで13.2%とやや多くなっている。



(3) 低栄養の傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を『低栄養の傾向』のリスク該当者と判定している。

【判定設問】

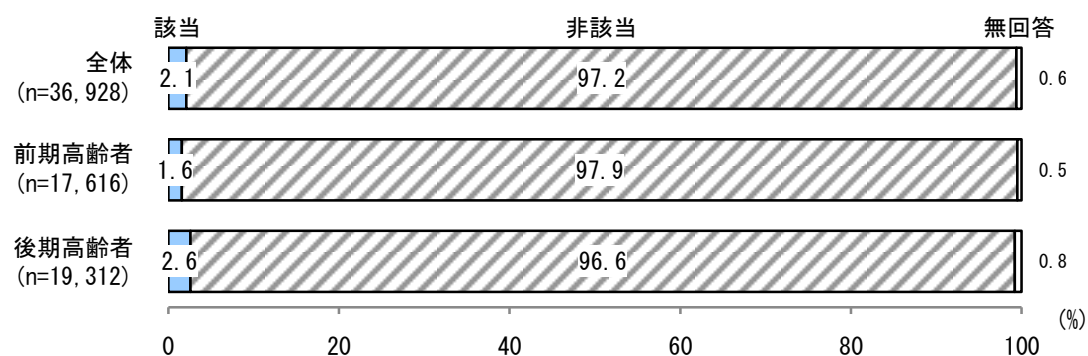
問番号	設問	該当する選択肢
問3	(1) 身長・体重を記入ください	BMI 18.5 未満
	(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい
	(7)	

※問番号の上段は一般高齢者、下段は要支援者

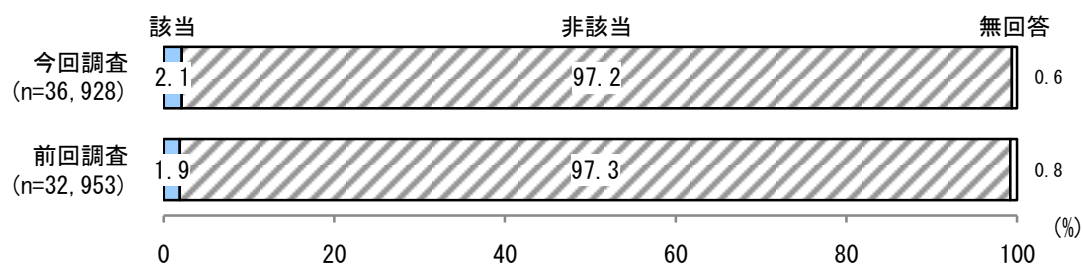
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく『低栄養の傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は2.1%となっている。

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は前期高齢者で1.6%、後期高齢者で2.6%となっている。

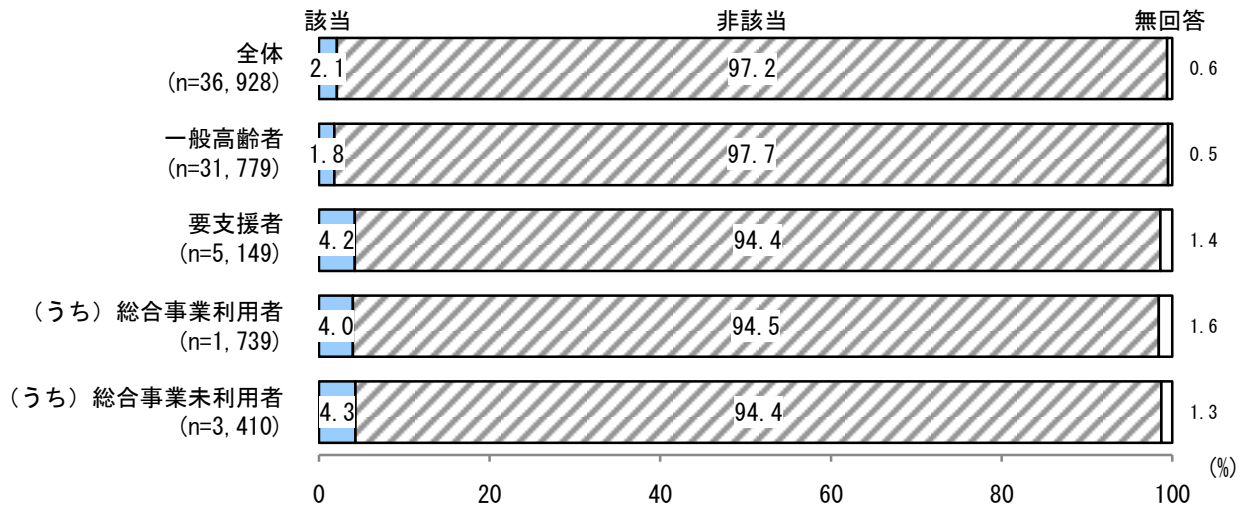


【参考 経年比較】



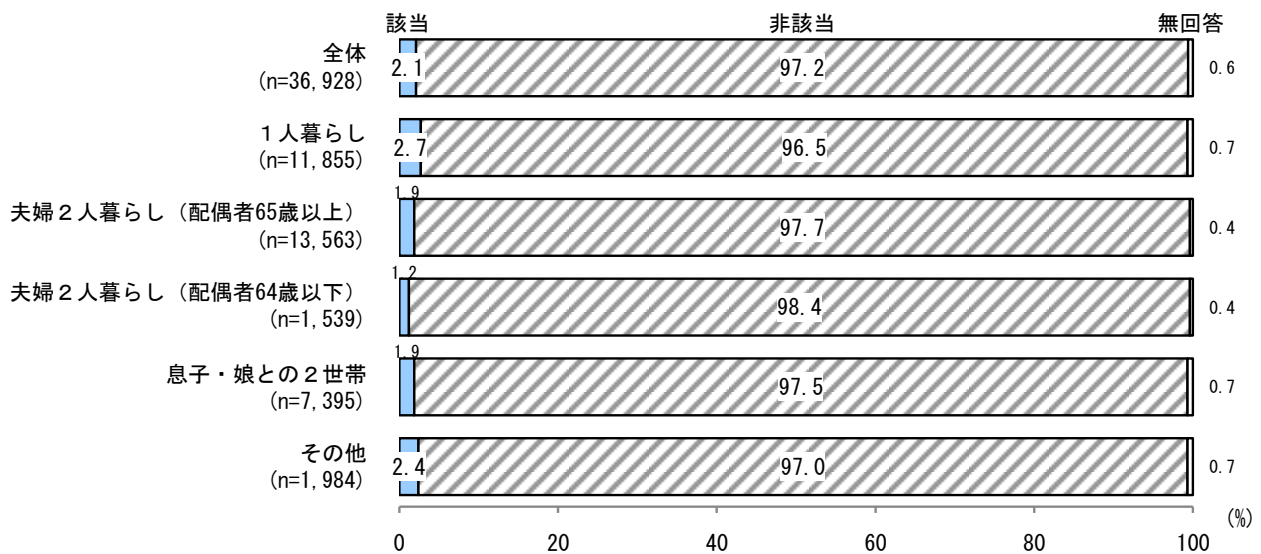
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者（認定を受けていない）で1.8%、要支援者で4.2%、要支援者のうち総合事業利用者が4.0%、総合事業未利用者が4.3%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられないが、該当者（リスクあり）は1人暮らしで2.7%とやや多くなっている。



(4) 口腔機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を『口腔機能の低下』のリスク該当者と判定している。

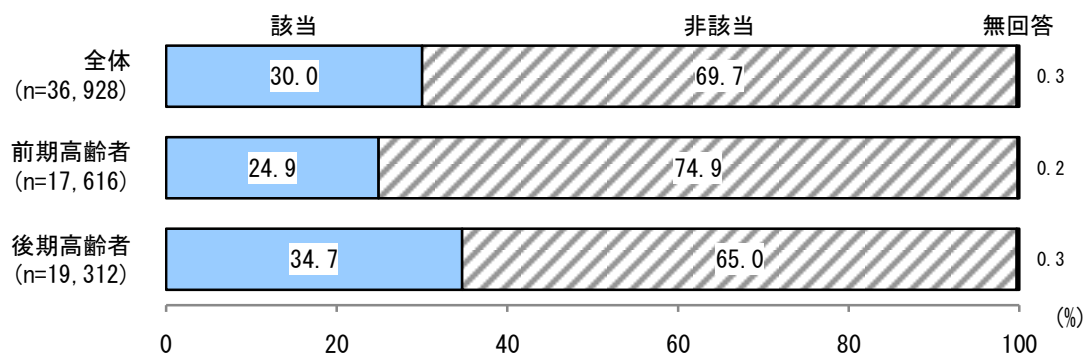
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3	(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
	(3) お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
	(4) 口の渇きが気になりますか	1. はい

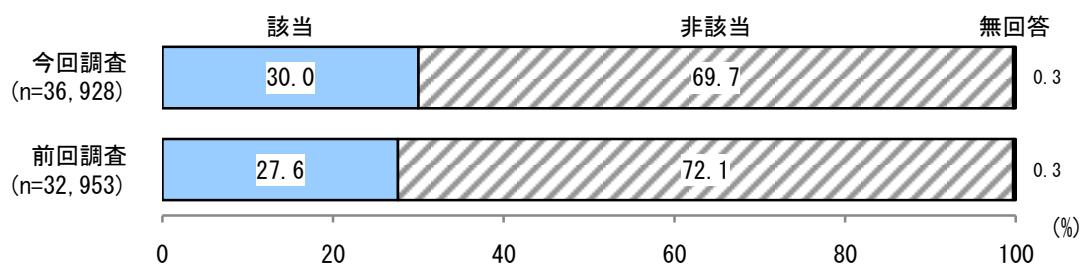
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく『口腔機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は3割（30.0%）となっている。

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は前期高齢者で24.9%、後期高齢者で34.7%となっている。

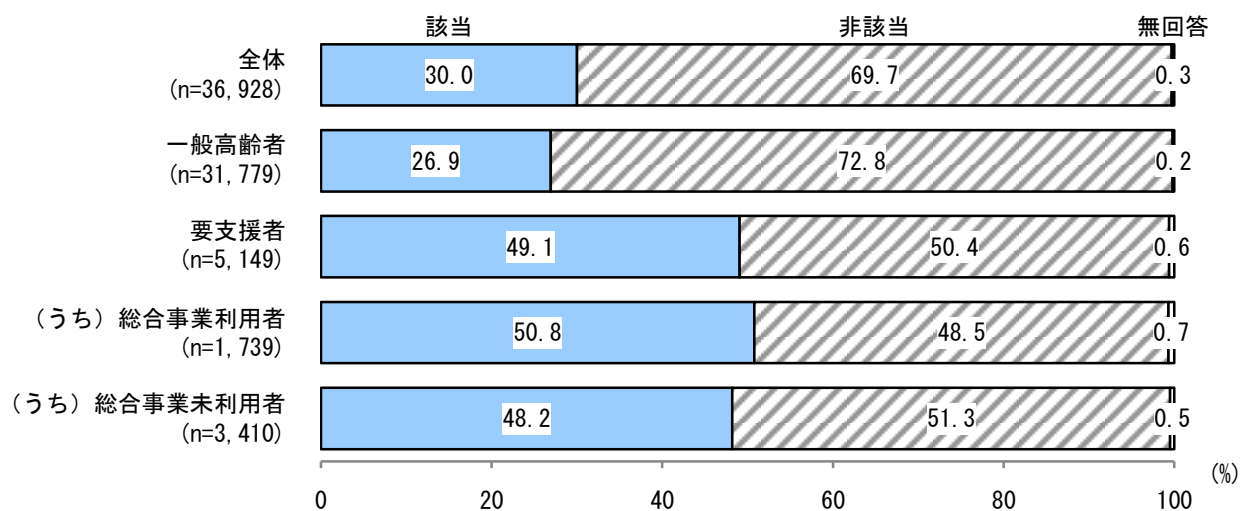


【参考 経年比較】



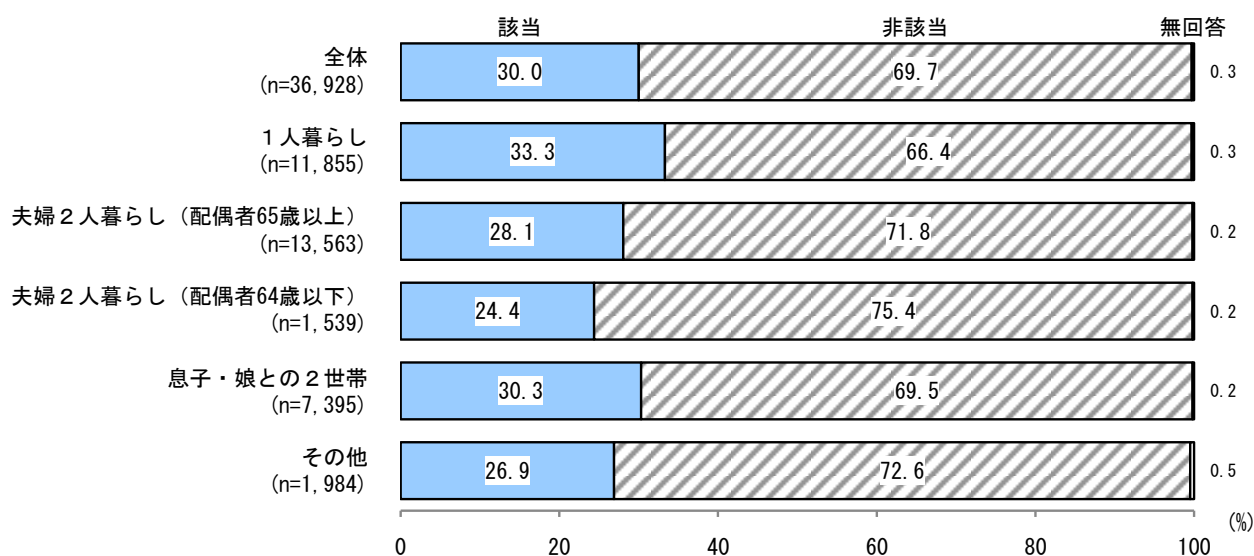
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者（認定を受けていない）で26.9%、要支援者で49.1%、要支援者のうち総合事業利用者が50.8%、総合事業未利用者が48.2%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられないが、該当者（リスクあり）は1人暮らしで33.3%、息子・娘との2世帯で30.3%とやや多くなっている。



(5) 認知機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち1項目以上に該当する人を『認知機能の低下』のリスク該当者と判定している。

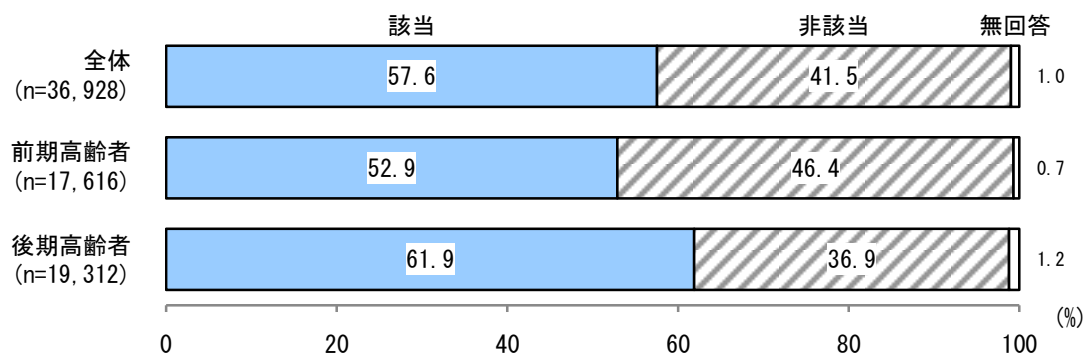
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(1) 物忘れが多いと感じますか	1. はい
	(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
	(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい

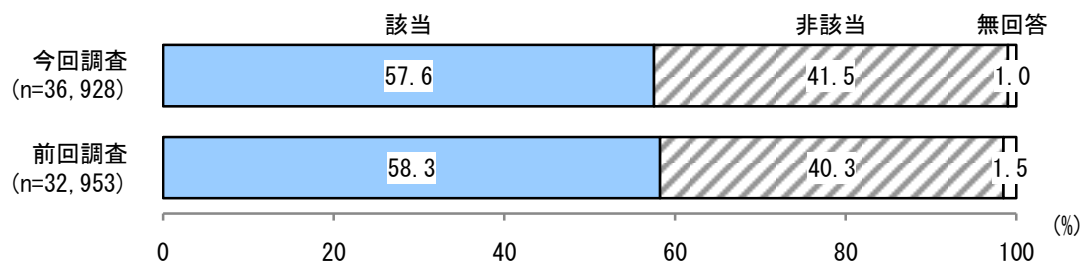
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく『認知機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は6割弱（57.6%）となっている。

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は前期高齢者で52.9%、後期高齢者で61.9%となっている。

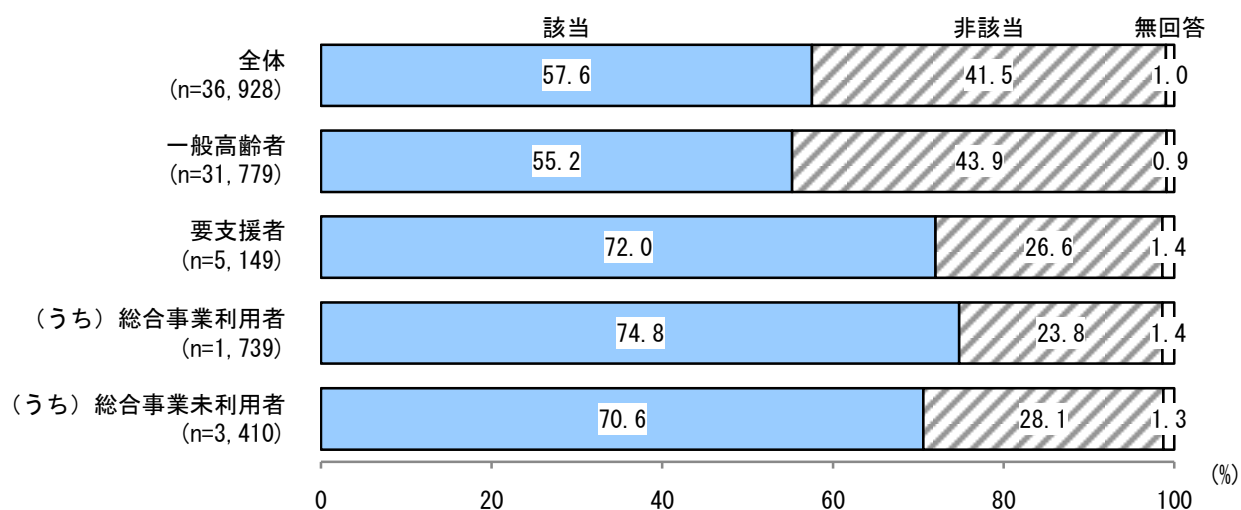


【参考 経年比較】



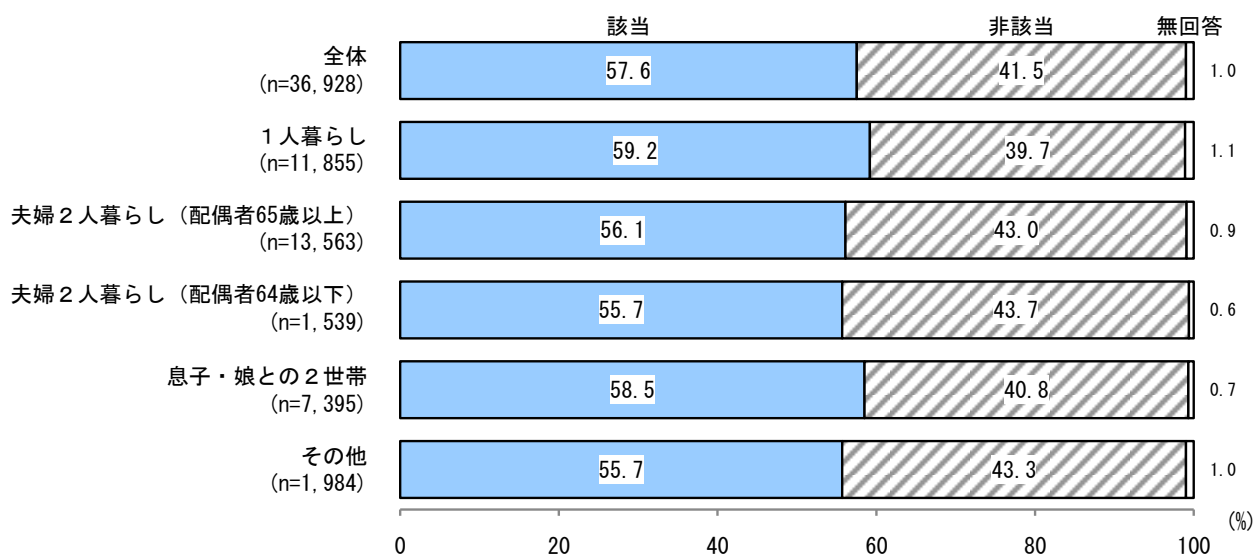
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者（認定を受けていない）で55.2%、要支援者で72.0%、要支援者のうち総合事業利用者が74.8%、総合事業未利用者が70.6%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられないが、該当者（リスクあり）は1人暮らしで59.2%、息子・娘との2世帯で58.5%とやや多くなっている。



(6) うつ傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のいずれかに該当する人を『うつ傾向』のリスク該当者と判定している。

【判定設問】

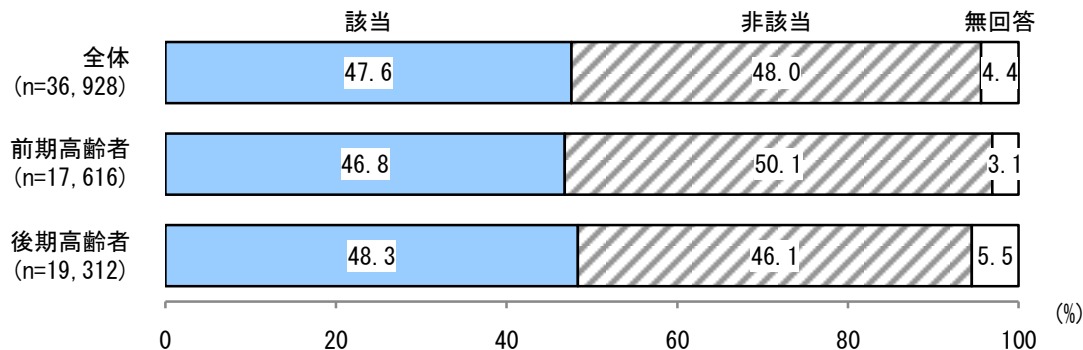
問番号	設問	該当する選択肢
問8 問7	(4) (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問8 問7	(5) (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

※問番号の上段は一般高齢者、下段は要支援者

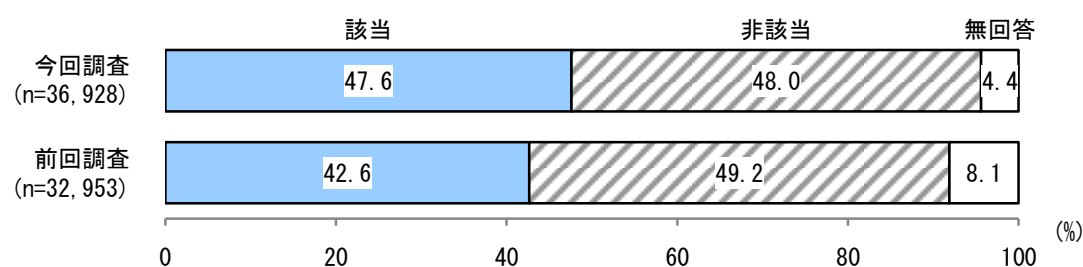
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく『うつ傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は4割台（47.6%）となっている。

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は前期高齢者で46.8%、後期高齢者で48.3%と、差はみられない。

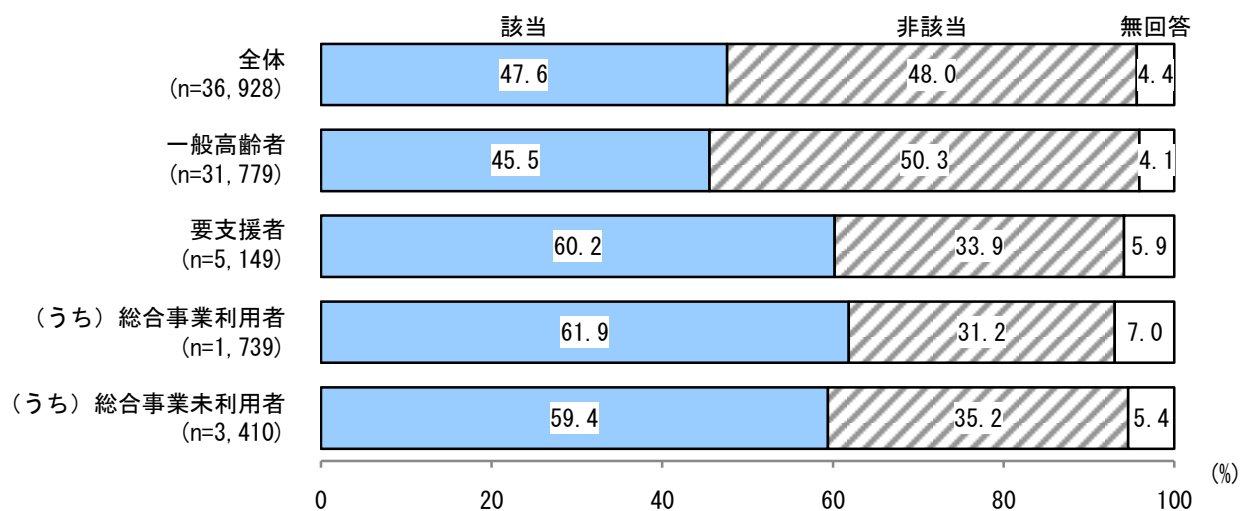


【参考 経年比較】



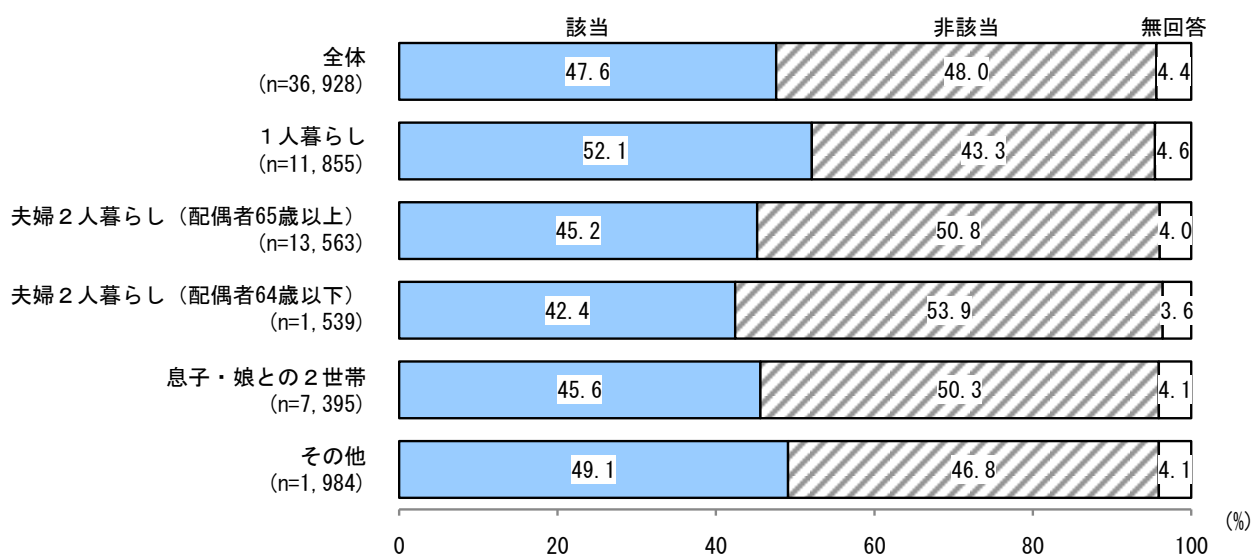
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者（認定を受けていない）で45.5%、要支援者で60.2%、要支援者のうち総合事業利用者が61.9%、総合事業未利用者が59.4%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられないが、該当者（リスクあり）は1人暮らしで52.1%とやや多くなっている。



2 日常生活評価

(1) 手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問（5項目）に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL）が低下している人の状況を把握する。

評価は、調査票の以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を“1点”として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」（※4点以下を低下者）と評価している。

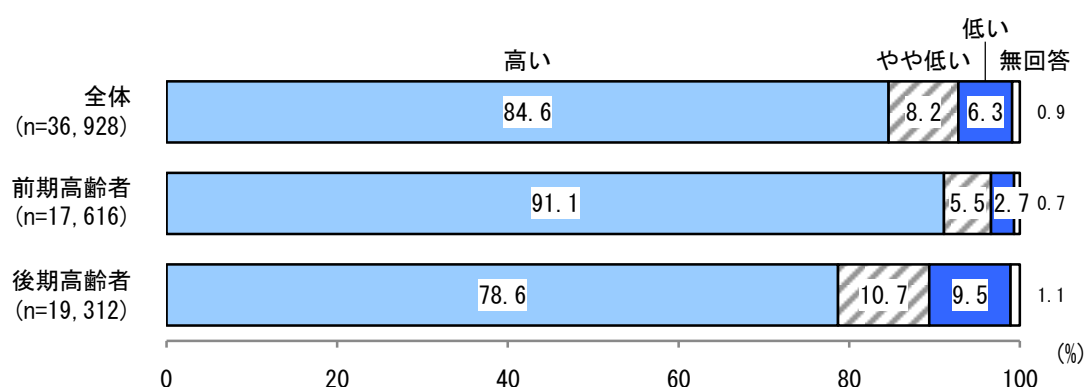
【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 4	(4) バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(6) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）

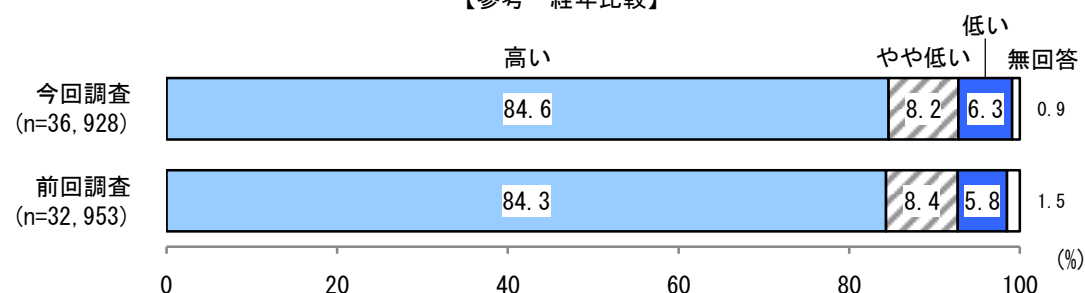
【該当状況】

老研式活動能力指標に基づく『手段的自立度 (IADL)』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は1割台（14.5%）となっている。

年齢別にみると、低下者は前期高齢者で8.2%、後期高齢者で20.2%となっている。

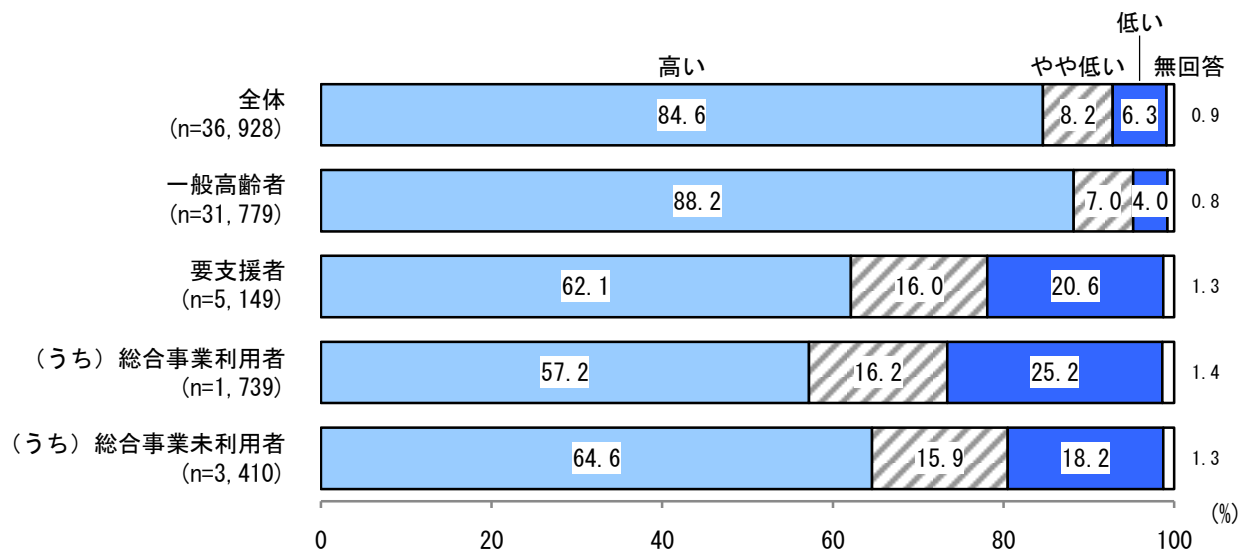


【参考 経年比較】



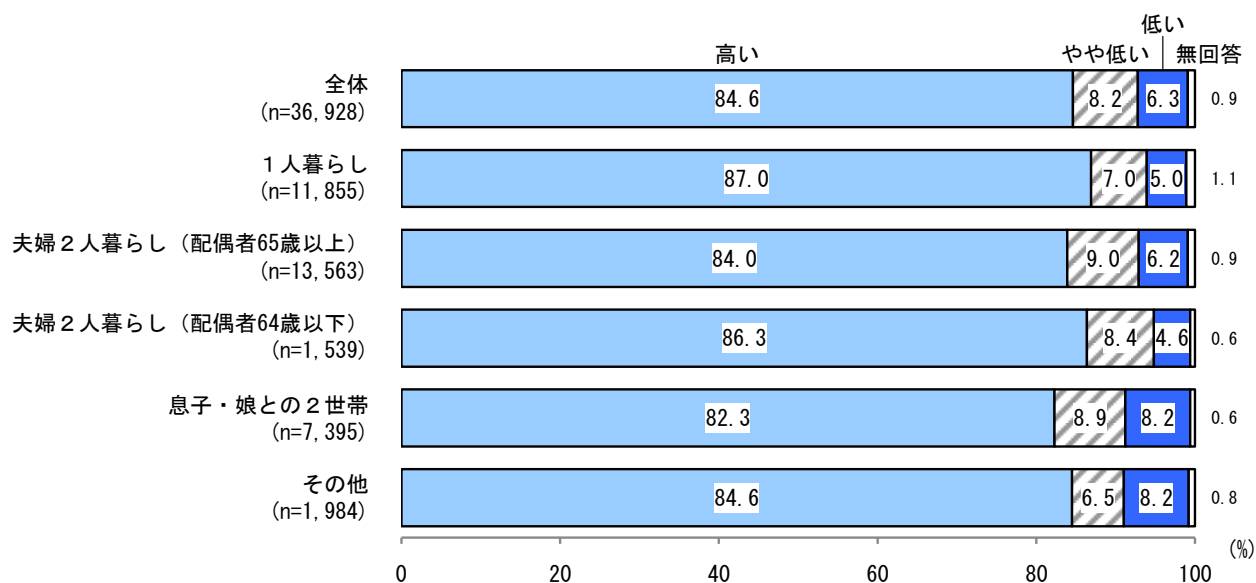
【認定状況別】

認定状況別にみると、低下者は一般高齢者（認定を受けていない）で11.0%、要支援者で36.6%、要支援者のうち総合事業利用者が41.4%、総合事業未利用者が34.1%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられないが、低下者は息子・娘との2世帯で17.1%とやや多くなっている。



3 社会参加評価

(1) 知的能動性

老研式活動能力には、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力に関する設問が4問あり、『知的能動性』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握する。

評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」（※3点以下を低下者）と評価している。

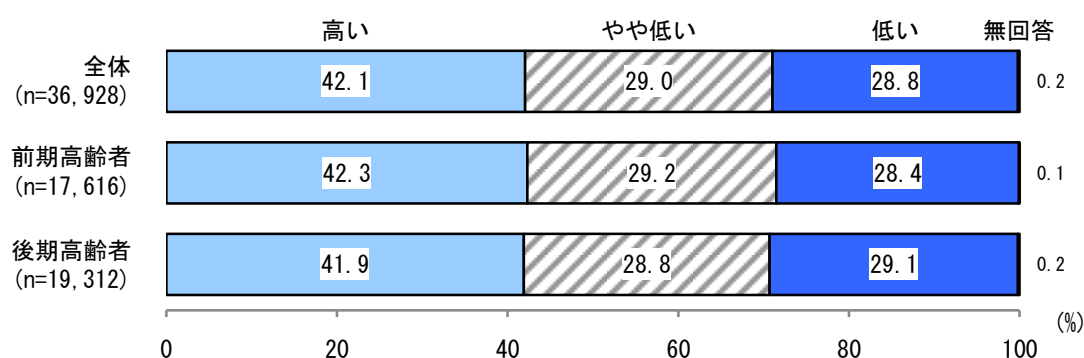
【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 4	(9) 年金などの書類が書けますか	1. はい（1点）
	(10) 新聞を読んでいますか	1. はい（1点）
	(11) 本や雑誌を読んでいますか	1. はい（1点）
	(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい（1点）

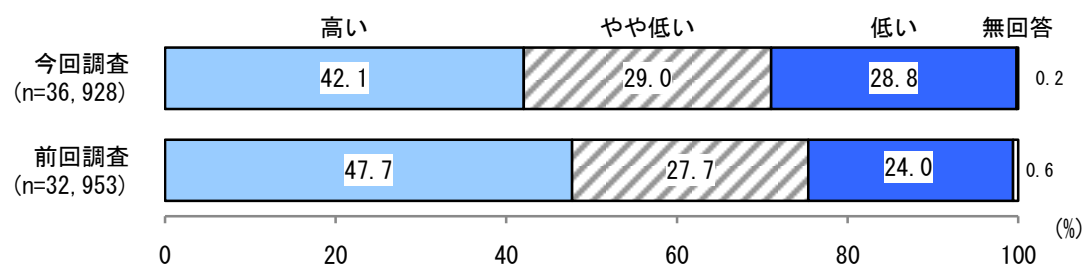
【該当状況】

老研式活動能力指標に基づく『知的能動性』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は約6割（57.8%）となっている。

年齢別にみると、低下者は前期高齢者で57.6%、後期高齢者で57.9%と、ほとんど差はみられない。

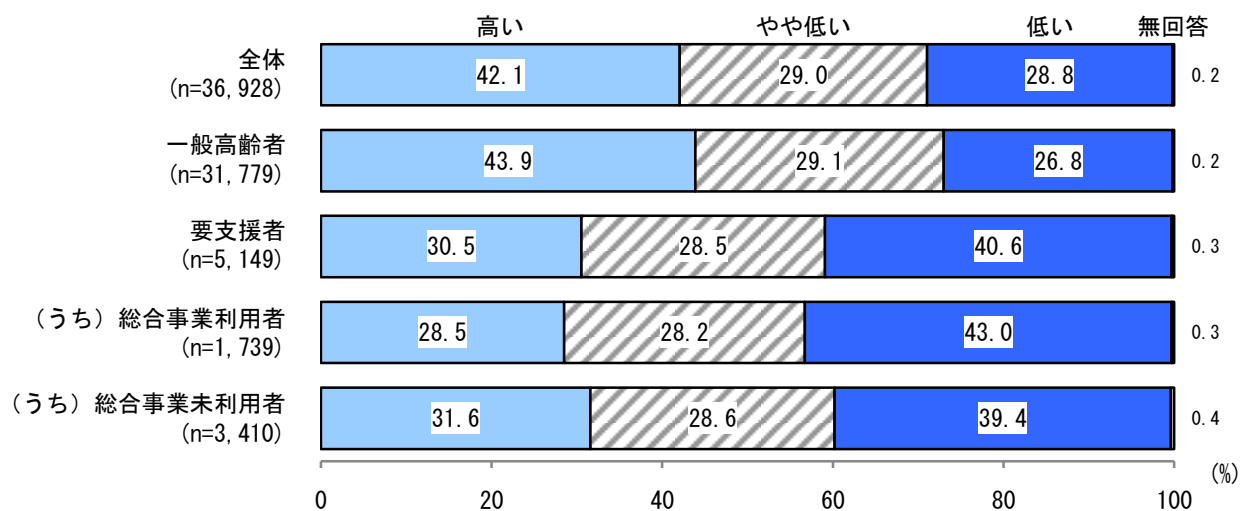


【参考 経年比較】



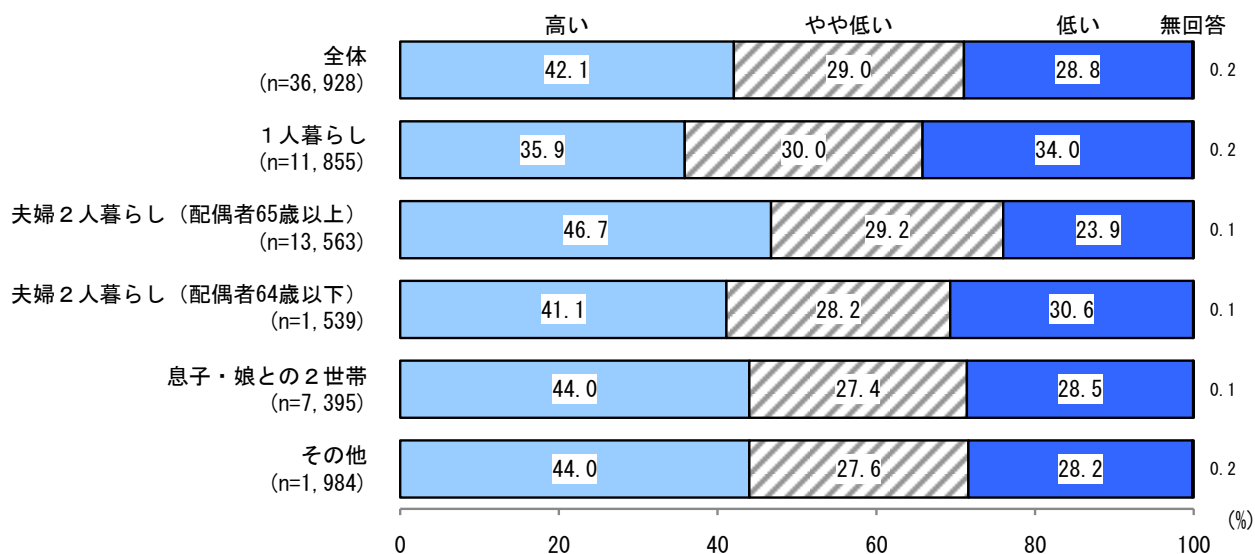
【認定状況別】

認定状況別にみると、低下者は一般高齢者（認定を受けていない）で55.9%、要支援者で69.1%、要支援者のうち総合事業利用者が71.2%、総合事業未利用者が68.0%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、低下者は1人暮らしが64.0%で最も高く、次いで夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が58.8%となっている。



(2) 社会的役割

老研式活動能力には、地域で社会的な役割を果たす能力に関する設問が4問あり、『社会的役割』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握する。

評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」(※3点以下を低下者)と評価している。

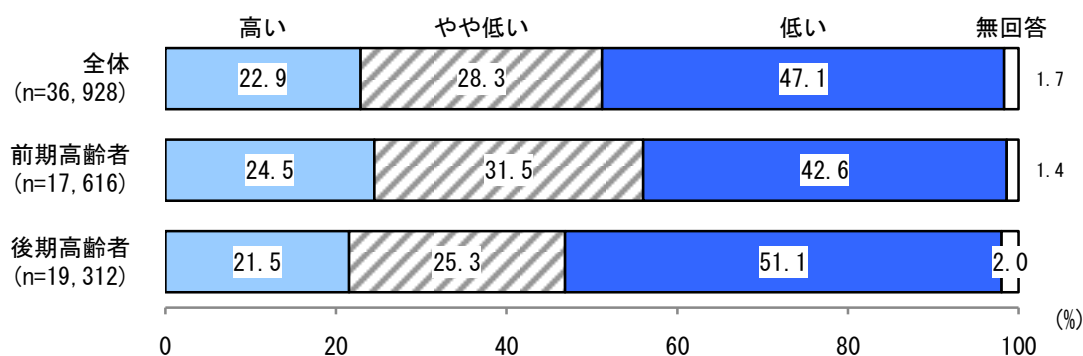
【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 4	(13) 友人の家を訪ねていますか	1. はい (1点)
	(14) 家族や友人の相談にのっていますか	1. はい (1点)
	(15) 病人を見舞うことができますか	1. はい (1点)
	(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい (1点)

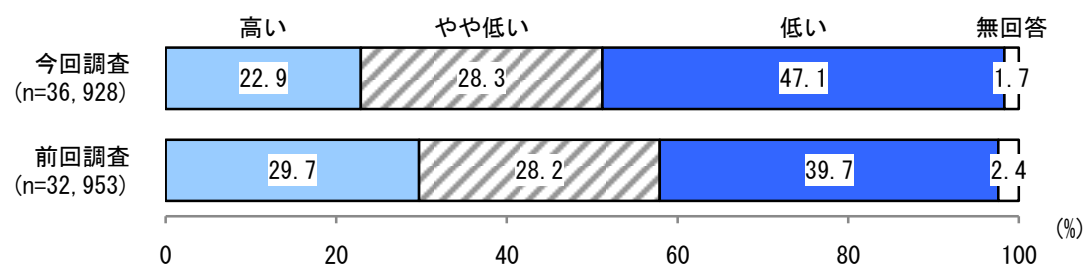
【該当状況】

老研式活動能力指標に基づく『社会的役割』の評価結果をみると、低下者(「やや低い」「低い」の計)は7割強(75.4%)となっている。

年齢別にみると、低下者は前期高齢者で74.1%、後期高齢者で76.4%となっている。

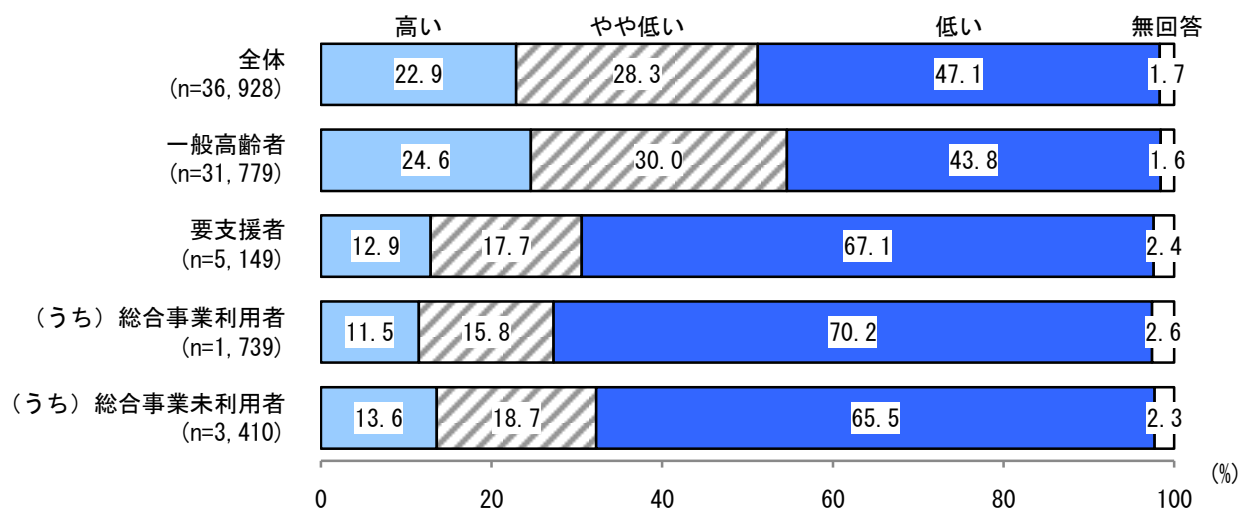


【参考 経年比較】



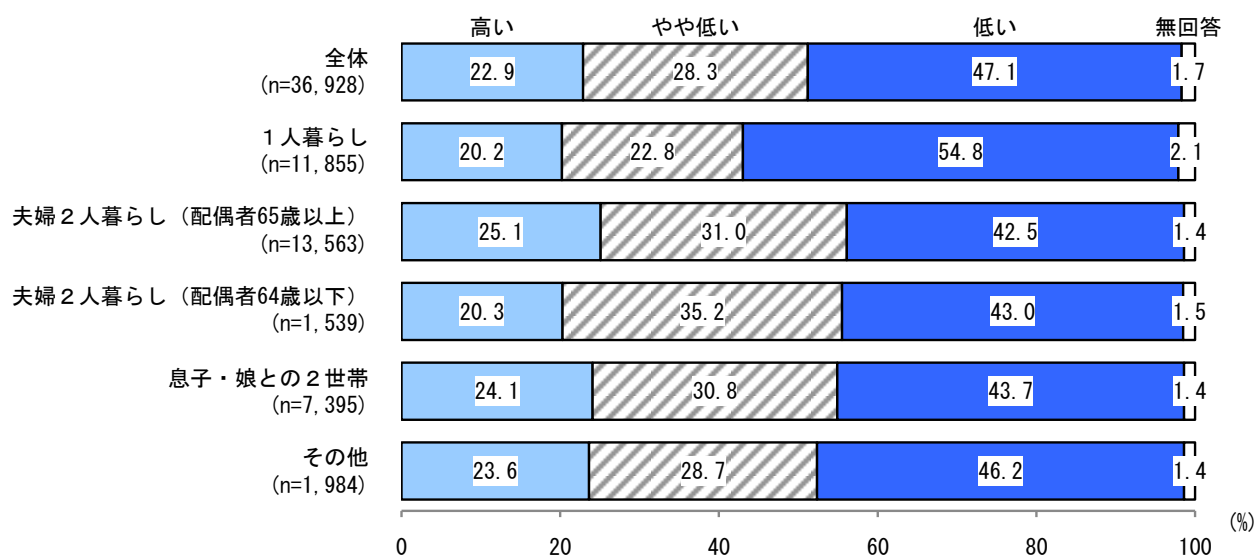
【認定状況別】

認定状況別にみると、低下者は一般高齢者（認定を受けていない）で73.8%、要支援者で84.8%、要支援者のうち総合事業利用者が86.0%、総合事業未利用者が84.2%となっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられないが、低下者は1人暮らしで77.6%、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で78.2%とやや多くなっている。



3 圈域別調査結果

1 日常生活圏域

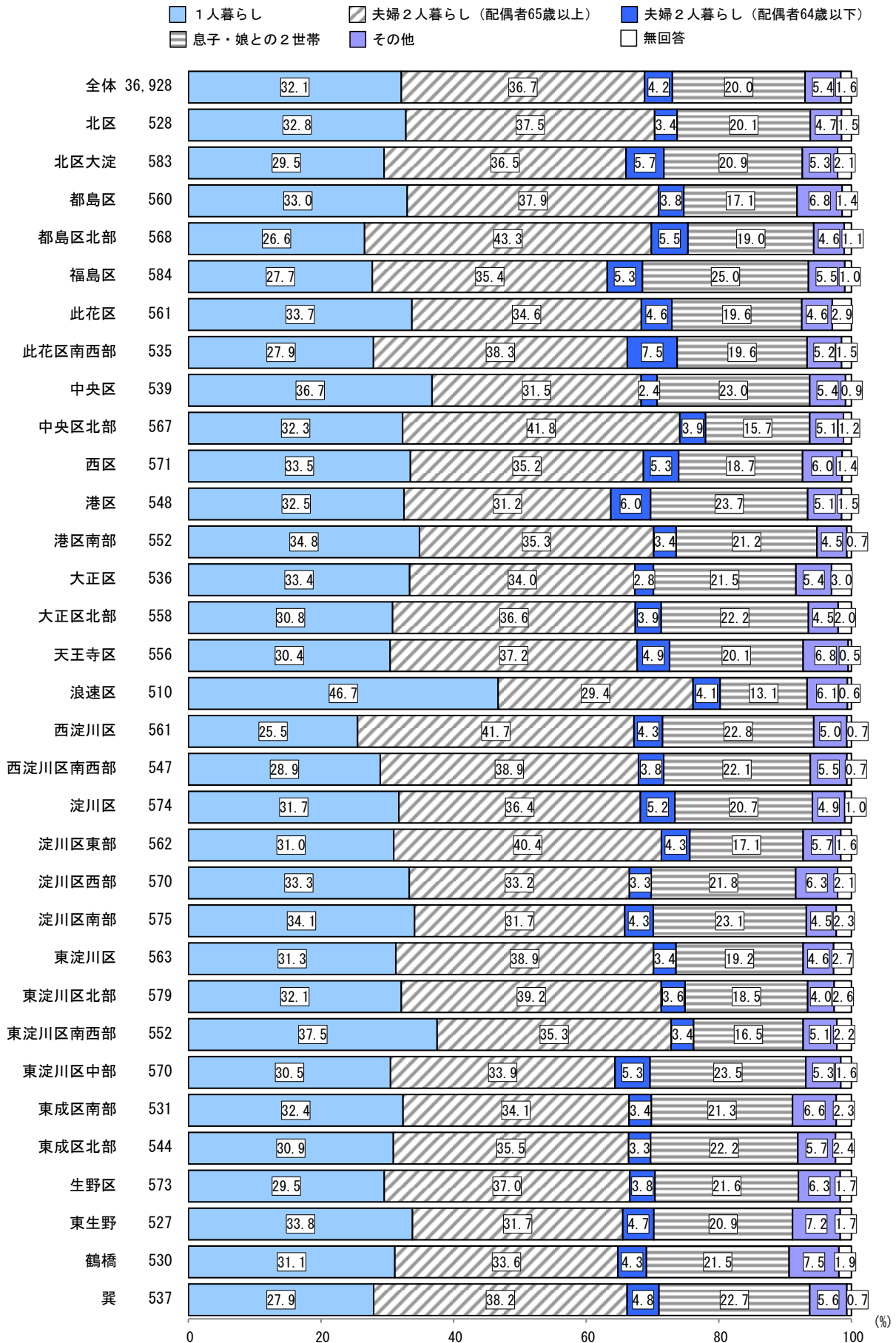
本市の日常生活圏域については、以下の66圏域となっている。

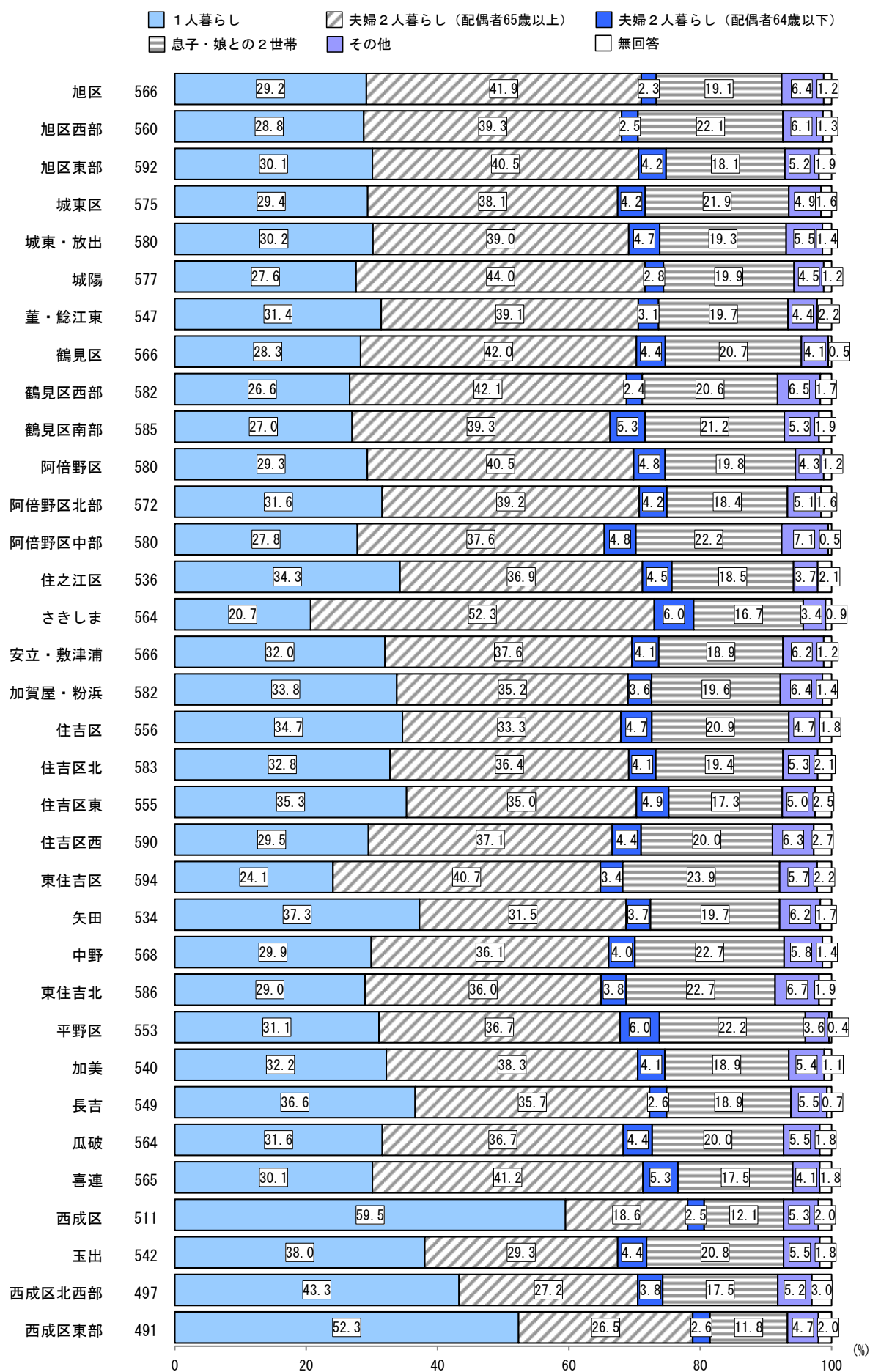
No.	区	日常圏域名称	担当地域	
			単位	地域名
1	北区	北区	連合	滝川、堀川、西天満、菅南、梅田東、北天満、済美、菅北、曾根崎、北野、堂島、中之島
2	北区	北区大淀	連合	豊仁、豊崎東、本庄、豊崎、中津、大淀東、大淀西
3	都島区	都島区	小学校区	桜宮、東都島、都島、中野
4	都島区	都島区北部	小学校区	高倉、内代、淀川、大東、友渕
5	福島区	福島区	—	区全域
6	此花区	此花区	小学校区	高見、伝法、西島
7	此花区	此花区南西部	小学校区	西九条、梅香、春日出、四貫島、島屋
8	中央区	中央区	連合	桃園、桃谷、東平、金甌、渥美、芦池、御津、大宝、道仁、高津、精華、河原
9	中央区	中央区北部	連合	愛日、船場、久宝、集英、汎愛、浪華、北大江、中大江東、中大江西、南大江東、南大江西、城南、玉造
10	西区	西区	—	区全域
11	港区	港区	小学校区	市岡、磯路、弁天、波除、南市岡、田中
12	港区	港区南部	小学校区	三先、池島、八幡屋、港晴、築港
13	大正区	大正区	小学校区	小林、平尾、南恩加島、鶴町
14	大正区	大正区北部	小学校区	三軒家西、三軒家東、泉尾北、中泉尾、北恩加島、泉尾東
15	天王寺区	天王寺区	—	区全域
16	浪速区	浪速区	—	区全域
17	西淀川区	西淀川区	連合	柏里、野里、歌島、香簀、竹島、佃、千舟
18	西淀川区	西淀川区南西部	連合	大和田、姫里、姫島、福、大野百島、川北、出来島
19	淀川区	淀川区	小学校区	新高、三国、西三国、東三国、新東三国
20	淀川区	淀川区東部	小学校区	西中島、木川、木川南、北中島、宮原
21	淀川区	淀川区西部	小学校区	三津屋、加島
22	淀川区	淀川区南部	町会	十三、野中、神津、新北野、田川、塚本
23	東淀川区	東淀川区	連合	大桐、大道南、豊里、豊里南、豊新
24	東淀川区	東淀川区北部	連合	東井高野、井高野、大隈西、大隈東、小松
25	東淀川区	東淀川区南西部	連合	東淡路、淡路、西淡路、啓発
26	東淀川区	東淀川区中部	連合	下新庄、新庄、菅原
27	東成区	東成区南部	小学校区	東小橋、中道、北中道、中本、東中本、宝栄
28	東成区	東成区北部	小学校区	大成、今里、神路、深江、片江
29	生野区	生野区	小学校区	舍利寺、勝山、東桃谷、生野、西生野、林寺
30	生野区	東生野	小学校区	東中川、小路、東小路
31	生野区	鶴橋	小学校区	御幸森、中川、北鶴橋、鶴橋
32	生野区	巽	小学校区	生野南、田島、巽、北巽、巽南、巽東

No.	区	日常圏域名称	担当地域	
			単位	地域名
33	旭区	旭区	連合	大宮、高殿、高殿南
34	旭区	旭区西部	連合	中宮、生江、城北
35	旭区	旭区東部	連合	清水、新森、古市、太子橋
36	城東区	城東区	小学校区	榎並、成育、聖賢、鯉江
37	城東区	城東・放出	小学校区	今福、放出、東中浜、諏訪
38	城東区	城陽	小学校区	嶋野、中浜、森之宮、城東
39	城東区	藁・鯉江東	小学校区	藁、関目、関目東、鯉江東
40	鶴見区	鶴見区	連合	茨田南、茨田、茨田東、茨田北、焼野
41	鶴見区	鶴見区西部	連合	緑、鶴見北、鶴見、茨田西、横堤
42	鶴見区	鶴見区南部	連合	榎本、今津
43	阿倍野区	阿倍野区	連合	長池、晴明丘、阪南
44	阿倍野区	阿倍野区北部	連合	高松、常盤、金塚、文の里
45	阿倍野区	阿倍野区中部	連合	王子、丸山、阿倍野
46	住之江区	住之江区	小学校区	新北島、平林、住吉川、住之江、清江
47	住之江区	さきしま	小学校区	南港光、南港さくら、南港みなみ
48	住之江区	安立・敷津浦	小学校区	安立、敷津浦
49	住之江区	加賀屋・粉浜	小学校区	粉浜、北粉浜、加賀屋、加賀屋東
50	住吉区	住吉区	小学校区	遠里小野、山之内、依羅、苅田南
51	住吉区	住吉区北	小学校区	東粉浜、住吉、大領
52	住吉区	住吉区東	小学校区	長居、苅田、苅田北
53	住吉区	住吉区西	小学校区	墨絵、清水丘、大空、南住吉
54	東住吉区	東住吉区	小学校区	北田辺、田辺、南田辺、今川
55	東住吉区	矢田	小学校区	矢田、矢田東、矢田北、矢田西
56	東住吉区	中野	小学校区	東田辺、南百済、鷹合、湯里
57	東住吉区	東住吉北	小学校区	桑津、育和
58	平野区	平野区	—	平野南、平野西、新平野西、平野
59	平野区	加美	—	加美北、加美、加美南部、加美東
60	平野区	長吉	—	長吉出戸、長吉、川辺、長原、長吉南、長吉六反、長吉東
61	平野区	瓜破	—	瓜破、瓜破東、瓜破北、瓜破西
62	平野区	喜連	—	喜連西、喜連、喜連北、喜連東
63	西成区	西成区	連合	弘治、萩之茶屋、橘、岸里
64	西成区	玉出	連合	玉出、千本、南津守
65	西成区	西成区北西部	連合	長橋、松之宮、梅南、津守、北津守
66	西成区	西成区東部	連合	今宮、山王、飛田、天下茶屋

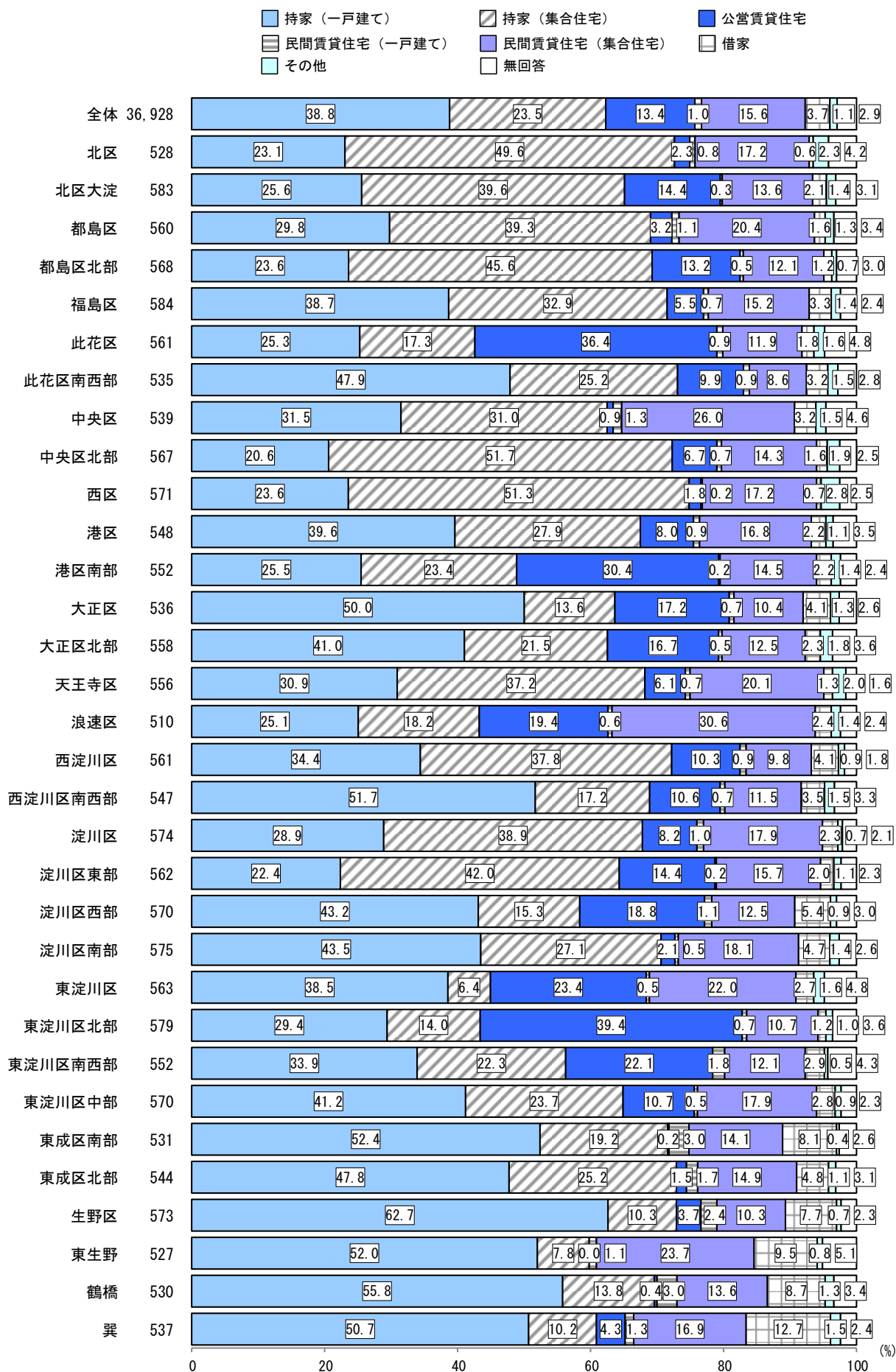
2 全圏域比較

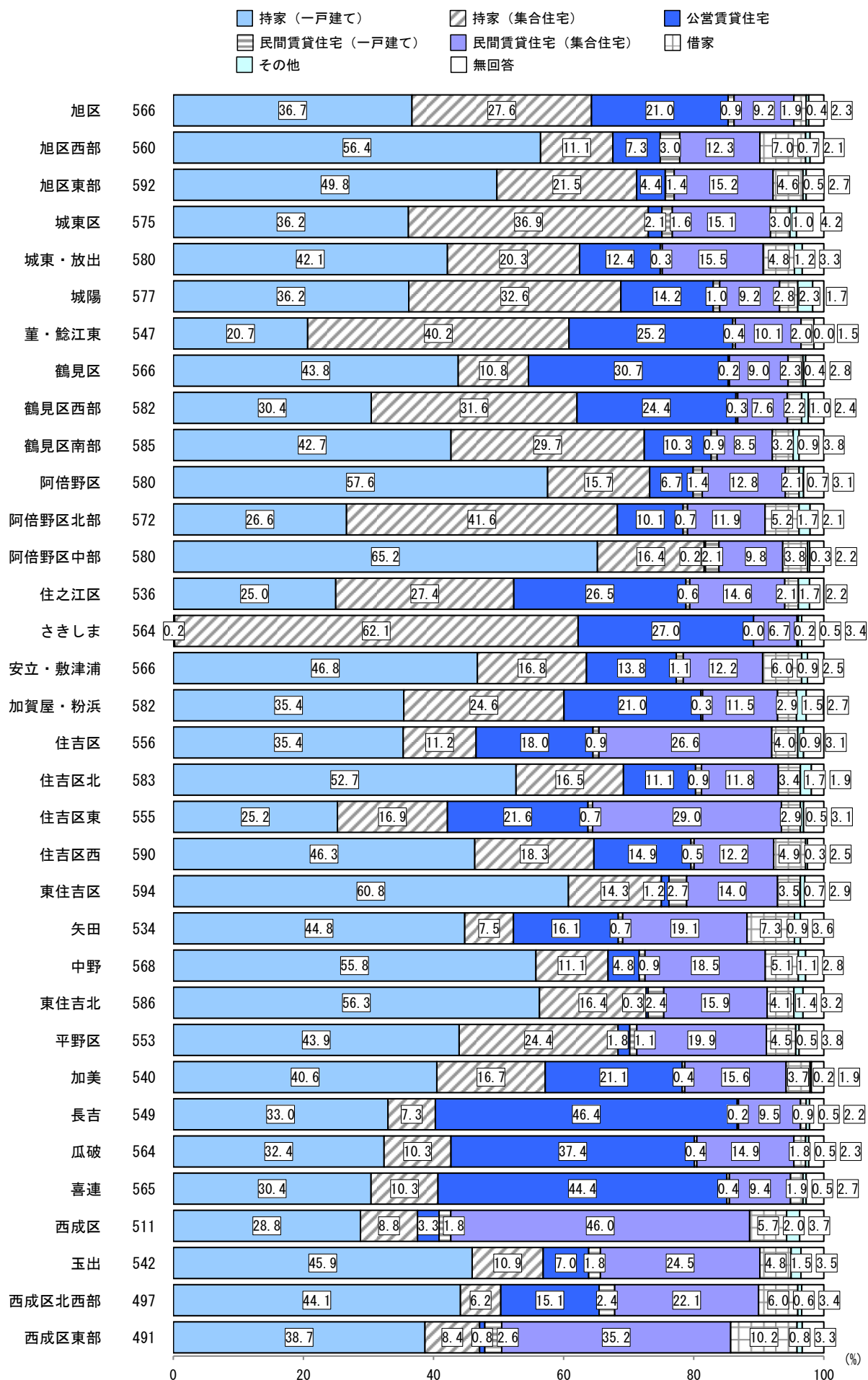
(1) 家族構成





(2) 住居形態





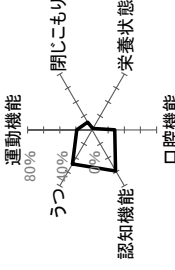
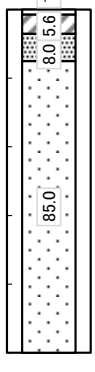
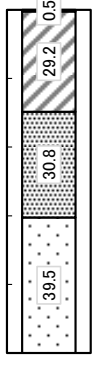
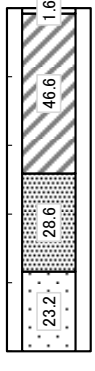
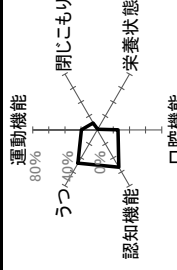
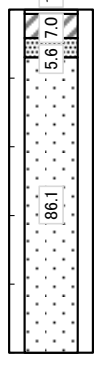
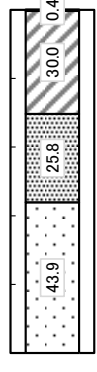
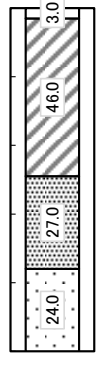
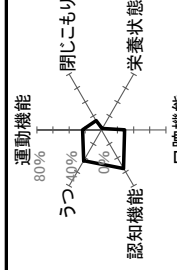
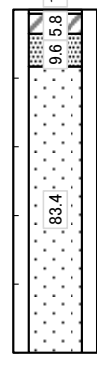
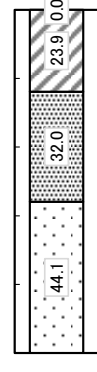
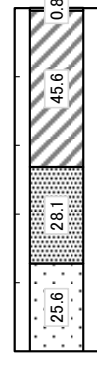
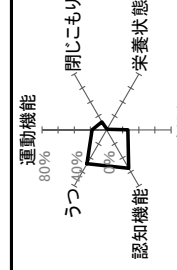
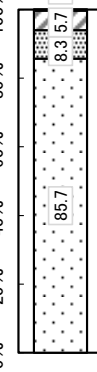
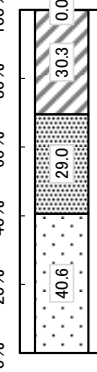
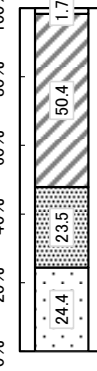
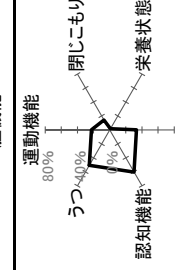
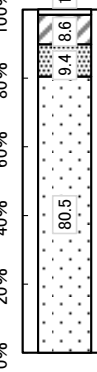
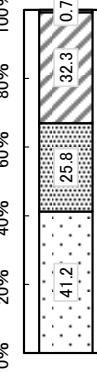
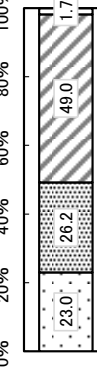
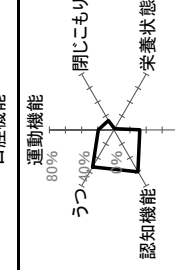
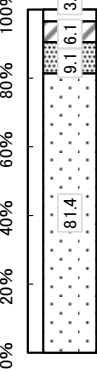
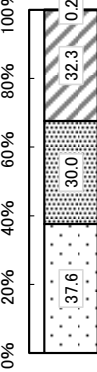
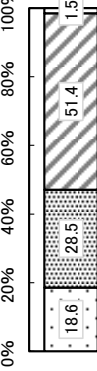
(3) 生活機能評価、手段の自立度、知的能動性、社会的役割

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段の自立度	知的能動性	社会的役割
北区				
北区 大淀				
都島区				
都島区 北部				
福島区				
此花区				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
此花区 南西部				
中央区				
中央区 北部				
西区				
港区				
港区 南部				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
大正区				
大正区 北部				
天王寺区				
浪速区				
西淀川区				
西淀川区 南西部				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
淀川区				
淀川区 東部				
淀川区 西部				
淀川区 南部				
東淀川区				
東淀川区 北部				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
東淀川区 南西部				
東淀川区 中部				
東成区 南部				
東成区 北部				
生野区				
東生野				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
鶴橋				
巽				
旭区				
旭区西部				
旭区東部				
城東区				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
城東・放出				
城陽				
葦・ 鯉江東				
鶴見区				
鶴見区 西部				
鶴見区 南部				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
阿倍野区				
阿倍野区 北部				
阿倍野区 中部				
住之江区				
ささしま				
安立・ 敷津浦				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
加賀屋 ・粉浜				
住吉区				
住吉区北				
住吉区東				
住吉区西				
東住吉区				

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
矢田	運動機能 0% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能 0%	高い 82.8 やや低い 8.8 低い 7.9 無回答 0.6	高い 35.6 やや低い 30.9 低い 33.1 無回答 0.4	高い 26.0 やや低い 24.0 低い 47.2 無回答 2.8
中野	運動機能 0% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能 0%	高い 85.4 やや低い 8.6 低い 5.6 無回答 0.4	高い 47.2 やや低い 27.6 低い 25.0 無回答 0.2	高い 24.3 やや低い 28.7 低い 45.4 無回答 1.6
東住吉北	運動機能 0% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能 0%	高い 84.3 やや低い 7.5 低い 7.5 無回答 0.7	高い 46.1 やや低い 25.1 低い 28.8 無回答 0.0	高い 25.1 やや低い 25.1 低い 47.6 無回答 2.2
平野区	運動機能 0% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能 0%	高い 87.3 やや低い 7.1 低い 5.4 無回答 0.2	高い 43.8 やや低い 30.9 低い 25.3 無回答 0.0	高い 21.3 やや低い 28.6 低い 48.8 無回答 1.3
加美	運動機能 0% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能 0%	高い 81.9 やや低い 9.6 低い 7.8 無回答 0.7	高い 38.3 やや低い 25.6 低い 36.1 無回答 0.0	高い 25.9 やや低い 25.4 低い 46.7 無回答 2.0
長吉	運動機能 0% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能 0%	高い 82.3 やや低い 10.7 低い 6.2 無回答 0.7	高い 37.2 やや低い 28.2 低い 34.4 無回答 0.2	高い 22.8 やや低い 25.3 低い 50.8 無回答 1.1

圏域	生活機能評価(リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
瓜破				
喜連				
西成区				
玉出				
西成区 北西部				
西成区 東部				

調査結果からみえてきた 現状と課題

1 介護予防に関する課題

(1) 介護予防の意識や取組み状況

- ・介護予防を意識していると回答した高齢者の割合は、前期高齢者・後期高齢者とも約7割を占めている[P75図7-1-1]。
- ・介護予防に取り組んでいる高齢者の割合は、前期高齢者・後期高齢者とも9割以上を占めており、前期高齢者・後期高齢者とも、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」や「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口のなかの健康を保つ」「栄養バランスの取れた食事をとる」などは6～7割が行っている[P77図7-2-1-1]。また、今後取り組みたい介護予防は、前期高齢者では「体操や運動により体力を維持する」が最も多くなっているが、後期高齢者では「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が最も多く、次いで多いのが前期高齢者・後期高齢者とも「栄養バランスの取れた食事をとる」となっている[P79図7-2-2-1]。
- ・介護予防に取り組んでいない、または取り組んでみたいと思わない理由で最も多いものは、前期高齢者・後期高齢者とも、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」で、その割合は後期高齢者が前期高齢者と比べて5.7ポイント低くなっている[P81図7-3-1]。今後、高齢者自身が日常生活の中でフレイル予防や介護予防に取り組むよう促していく必要がある。

(2) 相談・情報収集の状況にみる課題

①認知症に関する相談

- ・認知症に関する相談窓口を「知っている」割合は、一般高齢者が22.5%、要支援者が21.1%となっている[P116図10-2]。「知っている」割合は、年齢で見ても前期高齢者・後期高齢者とも2割強で大きな差が見られない[P116図10-2-1]。具体的に認知されている窓口は、前期高齢者で「区役所・保健福祉センター」が最も多く、次いで「かかりつけの医師」となっており、後期高齢者では逆に「かかりつけの医師」が最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」となっている[P118図10-3-1]。
- ・認知症について不安に感じたときに相談意向のある窓口は、前期高齢者・後期高齢者とも、「かかりつけの医師」が最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」となっている[P120図10-4-1]。また、認知症に関する相談窓口を知らないとする割合も7割と高く、相談窓口の周知が引き続き重要である[P116図10-2]。

②高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先

- ・高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先については、前期高齢者で「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌が最も多く、後期高齢者では「新聞・テレビ・ラジオなど」が最も多くなっている[P125図12-1-1]。一方、「市のホームページ(インターネット)、メールマガジンなど」は、前期高齢者で11.5%、後期高齢者で5.1%と、現状では依然として年齢が高いほど低くなる状況にあること[P125図12-1-1]から、情報が行き届きにくい後期高齢者にも必要な情報が届くよう配慮が求められる。ホームページやメールマガジン、SNSなどによる情報発信などデジタル化のみを進めるのではなく、新聞広告や各種広報誌などのアナログ媒体に加え、友人・知人からの口コミや民生委員、町会・自治会、

地域の見守り活動を行う団体、事業者等、様々な媒体や方法を利活用し連携を進めていくことで、情報提供の拡大に努めることが重要である。

2 地域活動における課題

(1) 地域活動の参加状況

- ・地域の会・グループ等への参加状況をたずねたところ、ボランティアのグループをはじめ「参加していない」一般高齢者が5割から7割台を占める項目がほとんどであり、しかも、前回のポイントから上昇している [P64～P72]。
- ・年代別では、老人クラブに「参加していない」前期高齢者が81.1%と非常に高くなっている [P70図6-1-6-1]。
- ・コロナ禍の影響もあろうが、前回調査から不参加の回答割合が高まっている傾向をうけ、対面でない非接触型の参加機会の創出など、参加率を高める工夫が求められる。

(2) 地域活動の参加意向

- ・地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行い、いきいきした地域づくりを進める活動への参加意向をたずねたところ、「是非参加したい」が6.4%、「参加してもよい」が44.2%、「既に参加している」が3.1%と、参加意向のある人の合計は過半数（53.7%）となっている [P73図6-2-1]。
- ・属性別にみると、参加意向のある割合は、一般高齢者（55.3%）より、要支援者（43.7%）のほうが10ポイント強低くなっている。うち、総合事業利用者（45.9%）よりも総合事業未利用者（42.6%）のほうが若干低くなっている [P73図6-2-1]。また年代別では前期高齢者55.6%に対し、後期高齢者52.1%が若干低い [P73図6-2-1-1]。
- ・参加者としての参加意向のない人が全体で37.6%であり、高齢者の健康づくりと介護予防につながる地域活動の活性化を鑑みて、各活動の訴求とあわせた参加意欲の醸成が課題となる [P73図6-2-1]。
- ・上記の活動において、企画・運営としての参加については、「是非参加したい」が2.6%、「参加してもよい」が29.7%、「既に参加している」が2.4%と、参加意向のある人は34.7%となっている [P74図6-2-2]。属性別では、参加者としての参加と概ね同様の傾向にある。 [P73図6-2-1、図6-2-1-1]
- ・地域活動には、参加者としてよりも、企画・運営者としての参加意向は低くなるが、高齢者のこれまでの経歴を活かしたり、また第2ステージとしての新たな場で活躍したりと、活動が充実するようなリーダー的人材などの発掘や牽引役、先導役を創出できるような高齢者に向けた能力活用の基盤づくりが必要となる。

3 たすけあいに関する課題

(1) 心配事や愚痴について

- ・ 心配事や愚痴を聞いてくれる人については、全体結果で「配偶者」43.6%、「友人」38.5%、「別居の子ども」33.5%などとなっている[P82図8-1]。認定状況別にみると、「配偶者」との回答は一般高齢者で47.4%に対し、要支援者で19.8%となっており、年齢別では、「配偶者」との回答が前期高齢者50.1%に対し、後期高齢者37.6%と、ポイント差がみられる[P82図8-1、P83図8-1-1]。
- ・ 「配偶者」との回答割合は、高齢になるほど死別・離別や一方が施設等に入所するなどの背景が想定される。また、「別居の子ども」のポイントは前期高齢者より後期高齢者のほうが高くなっているものの、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(前期30.2%、後期25.9%)や、「友人」(前期44.2%、後期33.4%)は後期高齢者が低く、加齢とともに親族・友人等に頼れる状況が低下していく傾向となっている[P83図8-1-1]。
- ・ 後期高齢者等の心配事や愚痴を話せる対象や場についての支援が望まれる。
- ・ 心配事や愚痴を聞いてあげる人についても概ね同様の傾向がみられることから、高齢になるほどに助ける側になる機会が減っていくとも言え、たすけあいによる交流機会の創出など、「役に立つ存在」としての充足感につながる活動機会の拡充と関連した取り組みが課題となる[P84図8-2、P85図8-2-1]。

(2) 看病や世話について

- ・ 看病や世話をしてくれる人については、配偶者46.8%、別居の子ども31.8%、同居の子ども19.4%などとなっている[P86図8-3]。
- ・ 看病や世話をしてあげる人については、配偶者48.1%、別居の子ども21.8%、兄弟姉妹・親戚・親・孫19.0%などとなっている[P88図8-4]。
- ・ 心配事や愚痴と同様の傾向がみられ、配偶者の存在が大きい高齢者にとって、将来的に近親者等が不在となっていく実情を見据えた支援が課題となる。

(3) 相談相手について

- ・ 家族や知人以外で、何かあったときに相談する相手は「医師・歯科医師・看護師」29.8%、「地域包括支援センター・役所・役場」14.1%、「ケアマネジャー」10.6%であり、ケアマネジャーについては前期高齢者5.2%に対して後期高齢者15.5%と差がみられ、後期高齢者は前回調査で10.6%であったことから、高齢化の進行とともにケアマネジャーの存在意義が高まっていると考えられる[P90図8-5、P92図8-5-1、P92図8-5-2]。
- ・ 「医師・歯科医師・看護師」との前期高齢者の回答が、前回調査で22.9%から29.0%に上昇していることから、医療・介護・福祉の連携が高まっている効果とも考えられる[P92図8-5-1、P92図8-5-2]。
- ・ 今後も身近な人から、福祉・介護サービス提供側まで、相談先の充実及び体制整備が求められる。

